



NetSupport Manager

マニュアル

Version 14.00



マニュアルの著作権 ©2023 NetSupport Ltd. 無断転載を禁ず。

この文章に書かれている情報は、予告なく変更されることがあります。NetSupport Ltd.（以下、当社という）は、この文章を改訂したり随時内容を変更する権利を持ち、そうした改訂や変更をお客様に通知する責務を負いません。

この文章に記載されているソフトウェアは、国際著作権条約で保護されており、ライセンス契約の下に提供されます。このソフトウェアはライセンス契約書に記載されている方法でのみ使用でき、バックアップを目的とする場合に限ってコピーを作成できます。

どのような暗黙的な保証（商業的あるいは特定の目的に適合することの保証も含む）も、ライセンス契約書に明示的に記載されている保証条項に制限されます。

プログラムの著作権 ©1991 – 2023 NetSupport Ltd. 無断転載を禁ず。

商標について

NetSupport は、NetSupport Ltd.社の登録商標です。

Windows, Windows 2003/2008/XP/Vista, Windows 7, Windows 8, Windows 8.1, Windows 10 および Windows 11 は、米国 Microsoft 社の登録商標です。

IBM は、International Business Machines 社の登録商標です。

NetWare は、Novell Inc. 社の登録商標です。

その他の製品名、商標、登録商標は、それらを所有する各社に帰属します。

ソフトウェアライセンス使用許諾

NetSupport ソフトウェアを使用する前に本契約をお読みください。これは、お客様と NetSupport Ltd との間で締結される法的な契約です。本ライセンス契約の条項に同意されない場合は、本ソフトウェアを起動、アクティブ化または使用することはできません。

期間： 下記の解除条項における解除をしない限り、本ライセンスは永続的なものとします。

ライセンス許諾： 該当するライセンス料の支払い、本契約の条項および条件によるお客様の順守を条件に、NetSupport Ltd は、ここにお客様が取得したソフトウェアの指定されたバージョンを使用する通常実施権、譲渡禁止の権利を許諾します。

使用： 本ソフトウェアは、該当する注文確認、製品請求書、ライセンス証明書または製品パッケージに指定された数量の使用条件に基づきライセンスされています。条件で指定された数だけデバイスにソフトウェアの追加を作成、インストールして使用することができます。お客様は、本ソフトウェアがインストールされたデバイス数がお客様の取得したライセンス数を超えないための合理的なメカニズムを設ける必要があります。

サーバでの使用： 該当する注文確認、製品請求書、製品パッケージまたはライセンス証明書が定めた範囲内において、お客様はデバイスやマルチユーザーまたはネットワーク環境（「サーバでの使用」という）内のサーバ上のソフトウェアを使用することができます。そのようなデバイスまたは座席がソフトウェアに同時に接続している、または実際に使用するときに関係なく、ソフトウェアに随時接続する各デバイスまたは「座席」には個別のライセンスが必要になります。接続して直接または同時（例えば「マルチプレキシング」または「ブーリング」ソフトウェアまたはハードウェア）にソフトウェアを使用するデバイスや座席数を減少させるソフトウェアまたはハードウェアの使用は必要なライセンス数を減らすことはありません。具体的には、マルチプレキシングまたはブーリングのソフトウェアまたはハードウェア（「フロントエンド」）に対し個別の接続数と同じ数のライセンス数を所持する必要があります。ソフトウェアに接続できるデバイスまたは座席数が取得したライセンス数を超える場合、お客様はソフトウェアの使用が取得したライセンスに指定された使用限度を超えないための合理的なメカニズムを設ける必要があります。

著作権： 本ソフトウェアは、国際著作権法により保護されています。お客様はバックアップの目的以外にそれを複製することはできません。本ソフトウェアは、お客様に使用を許可したものであり、お客様に販売されたものではありません。

制限事項： すべてのコピーを保持しないことを条件に、オリジナルのコピーを販売または無償で譲渡する場合を除き、お客様ならびに販売店は、本ライセンスを賃貸、リース、販売、または本ソフトウェアを使用する権利を第三者に譲渡することはできません。NetSupport Ltd の書面による事前の承諾がある場合を除き、ソフトウェアを変更、逆アSEMBルまたはリバースエンジニアリングすることはできません。

限定保証： NetSupport Ltd は、購入日から 90 日の期間に対しソフトウェアが付属のマニュアルに従って実質的に動作することを保証します。NetSupport の全責任およびお客様の救済手段は、a) 欠陥のあるソフトウェアの交換、または b) 支払った価格の返金のいずれかとする。本救済手段は NetSupport の判断、許可された発行元からの購入証明書を条件とします。

特定の目的に対する品質または適合性のいかなる保証を含むすべての黙示的な保証は、明示的な保証の条件に制限されています。いかなる場合においても、NetSupport Ltd は、これらの保証の不履行、またはそのような損害の可能性について助言されているにも関わらずソフトウェアの使用に起因するあらゆる種類の利益、データまたは情報の損失、または特別な、偶発的、必然的、間接的またはその他の同様の損害について責任を負いません。一部の国では、偶発的または間接的な損害の制限または免責を許可しないため、上記の制限または免責がお客様に適用されない場合もあります。本保証は、お客様の法的権利には影響しません。そして国ごとに異なるその他の権利が認められる場合があります。いかなる場合においても、NetSupport の最大の責任はエンドユーザー/ライセンシーが支払った価格を上限とします。

契約の解除： お客様は、いつでもプログラムと付属の書類そしてすべての形式のコピーを破棄することにより本ライセンスおよび本契約書を解除することができます。

お客様が本ライセンスのいずれかの条項の重大な違反を犯した場合、(改善される違反の場合) NetSupport Ltd からの書面による要求の受領後 30 日以内にこれを怠った場合、NetSupport はお客様に書面で通知することにより本ライセンスを直ちに解除することができます。違反(そのような要求には NetSupport の解除意思の警告を意味しています)を解決するために、これを実行いたします。解除に際し、本ソフトウェアのオリジナルとすべての複製を破棄または NetSupport Ltd に返却し、これが実行されたことを宛ての書面にて確認します。

サポート： 本ソフトウェアのインストールで問題がある場合は、まず販売店に連絡してください。機能強化やアップグレードの提供を含むサポートとメンテナンスを別途購入することができます。

準拠法： 本契約は、英国法に準拠するものとします。

目次

NetSupportへようこそ	11
表記について.....	12
本マニュアルで使用している専門用語	12
NetSupportについて	13
特徴	14
インストール	19
システム条件	20
インストールを計画する.....	22
インストールを開始する.....	23
セットアップタイプの選択	24
カスタムセットアップ.....	25
インストールの完了	27
既にインストールされています.....	28
NetSupportをアンインストールする	29
拡張インストール.....	30
配布用コピーを作成する（ネットワークインストール）	31
サイレント/無人インストール	32
設定オプションダイアログをインストールする	33
NetSupport デプロイ - NetSupports リモートインストールツール	35
デプロイツールをインストールする	36
Windows XP に配布する	38
NetSupportデプロイを開始する	39
配布ルーチンを準備する.....	40
NetSupport パッケージを配布する	41
クライアント設定を配布する	45
NetSupport ライセンスファイルを配布する	46
リモートアンインストール	47
あらかじめ配布用の設定を用意する	49
ログファイル	50
MacベースのシステムにNetSupport Managerをインストールする	51
Google Chrome OSデバイスに NetSupport Managerのインストールと設定 ..	52
NetSupport Manager Androidクライアントのインストールと設定	54
iOSおよびAndroid用NetSupport Manager コントロール.....	56
コントロールを使用する	57
NetSupport コントロールを起動する	58
コントロールウィンドウ	59
コントロールウィンドウ - ツリービュー	62

コントロールウィンドウ - リストビュー	65
クイックアクセス バー	67
ステータスバー	68
クライアントを検索する	69
クライアントに接続する	72
PIN接続を使用してクライアントに接続する	73
クイック接続	75
異なるプロトコルのクライアントに接続する	76
サブネットを検索できるように NetSupport コントロールを設定する	77
NetSupport ゲートウェイでクライアント/コントロールを接続する	81
負荷分散接続サーバーを設定する	98
二要素認証の設定と使用	100
ファイアウォールやプロキシサーバを経由して接続する	103
ターミナルサーバ環境下でNetSupportを使用する	105
Intel vPro サポート	106
クライアントを検索する	108
クライアントを切断する	109
すべてのクライアントを切断する	109
クライアントに自動ログイン	110
クライアントの自動アップデート	111
電源管理 - 電源オン/電源オフ	112
クライアント電源オン	112
クライアントの電源オフ	113
クライアントを再起動またはログアウトする	114
Ctrl+Alt+Deleteを送信する	115
クライアントの画面を表示する	116
ビューウィンドウ	116
クライアントの画面を表示する	118
画面受信モード	119
全画面表示で表示する	119
複数のクライアント画面を同時に表示する	120
クライアントの画面を表示中は、クライアントのモニタを黒抜けにする	120
クライアントの画面受信の設定を表示する	121
クライアントの画面を巡回する	122
クライアントの画面を1台ごとに巡回する	122
複数のクライアントの画面を巡回する	122
画面キャプチャー	123
巡回ウィンドウ	124
縮小画面表示/モニタモード	127
リストビューのクライアントを管理する	129

アプリケーションを起動する	130
ユーザー設定ツール	134
コントロールの画面をクライアントに表示する	135
クライアント画面を複数のクライアントに表示する	139
アプリケーションの表示	140
サウンド	141
アナウンス	142
マイクとスピーカーの音量を調整する	143
ビデオプレイヤー	144
ビデオプレイヤーコントロールパネル	146
リプレイファイル	148
ローカルの操作を記録する	148
クライアント PC 側のリプレイファイルを録画する	149
録画したリプレイファイルを見る	150
クライアントにリプレイファイルを見せる	151
ファイル転送	152
ファイル転送ウィンドウ	152
ファイルやフォルダをコピーする	155
ファイルとフォルダーの管理	156
ファイル転送リストを印刷する	159
フォルダを同期する	159
複数のファイル転送ウィンドウを配置する	160
リストビューのファイルにフィルタを適用する	160
ファイル転送ウィンドウの表示方法を変更する	161
ファイル転送ウィンドウの並び順を変更する	161
ファイル配布	163
ファイル配布ウィンドウ	163
ファイルを配布する	166
ファイル管理	168
ファイル管理ウィンドウ	168
コントロールのコンピュータのファイルを管理する	171
コントロール/クライアントチャットセッション	172
チャットを禁止する	175
クライアントにメッセージを送信する	176
ヘルプ要求に対応する	177
クライアントの印刷出力をキャプチャする	179
リモートクリップボード	181
エクスプローラとの統合	182
リモートコマンドプロンプト	183
PowerShell ウィンドウ	185

クライアントを使用する	188
クライアント情報ウィンドウ	189
コントロールから切断する	191
ヘルプを要請する	192
コントロールとチャットをする	192
コントロールのコンピュータからメッセージを受信する	193
クライアントを設定する	194
クライアントを設定する	195
クライアント設定ファイルを編集または作成する	197
基本クライアント設定	200
拡張クライアント設定	201
プロトコルオプション	203
TCP/IP 接続を設定する	203
IPX 接続を設定する	204
NetBIOS 接続を設定する	205
HTTP/HTTPS 接続を設定する	206
PINサーバ	208
ダイヤルインブリッジ設定	209
拡張設定	210
セキュリティオプション	212
一般設定	212
アクセス権限 (基本)	213
アクセス権限 (拡張)	215
ユーザ情報	218
ユーザー認証オプション	220
スマートカードのログオンを有効にする	223
接続オプション	224
切断オプション	226
クライアント設定を保護する	227
ファイル転送設定	229
リプレイファイル設定	230
イベントログ	231
リモートコントロールオプション	234
ビュー設定	234
ショー設定	237
サウンド設定	238
クライアントインターフェイスオプション	240
クライアント設定	240
ヘルプ要請設定	242
テキストのカスタマイズ	243

プロファイル設定	245
ターミナルサービス設定	246
詳細オプション	248
コントロールを設定する	249
コントロールを設定する	250
複数のコントロールプロファイル	252
コントロールセッションのクライアント設定を調整する	253
一般設定	254
プロトコルオプション	255
TCP/IP 接続設定	255
IPX接続設定	257
NetBIOS 接続設定	259
HTTP 接続設定	260
PINサーバ	261
リモートダイヤルアップ設定	262
拡張設定	264
セキュリティオプション	265
セキュリティ設定	265
イベントログ	267
リプレイファイル	268
ユーザー許可	269
リモートコントロール設定	270
ビュー設定	270
キーボード/マウス設定	273
印刷キャプチャ設定	275
サウンド設定	278
コントロールインターフェイス設定	279
インターフェイス設定	279
機能	282
ヘルプ要請設定	283
画面送信設定	285
ファイル転送設定	286
スタートアップ設定	289
コントロールの環境設定 - vPro	291
ファイルの場所設定	292
クライアントを管理及び構成する	294
新しいクライアントを追加する	295
クライアントを削除する	296
クライアントの名前を変更する	296

クライアントのプロパティの設定	298
新しいグループを作成する	299
グループにクライアントを追加/削除する.....	300
グループのプロパティを設定する.....	301
NetSupport スクリプト.....	302
NetSupport スクリプトの概要.....	303
スクリプトエディタを起動する.....	304
簡単なスクリプトを作成する.....	304
スクリプトをスケジュール化して実行する	305
テクニカルレファレンス	306
NetSupport クライアントを停止する.....	307
クライアントを再起動する.....	307
圧縮を効率よく使用する.....	308
キャッシュを効率よく使用する.....	308
リモートインベントリとシステム情報	310
選択したクライアントのインベントリを表\示する	310
システム構成ウィンドウ	311
タスクマネージャを実行する	313
タスクマネージャウィンドウ	314
レジストリ編集ウィンドウ.....	317
NetSupportのセキュリティ機能を効率よく使用する	320
IP アドレスを理解する.....	322
コマンドラインを使用する.....	324
Active Directoryとの統合	327
スマートカード対応	329
インターネット経由で NetSupport を使用する	330
読者のコメント.....	331

NetSupport へようこそ

NetSupport Manager は、最新のリモート PC サポートおよびデスクトップ管理機能を提供し続けています。デスクトップ、ノートパソコン、タブレットやスマートフォンからシングルアクションで複数のシステムを監視、手取り足取りのリモートサポート、協力、セッションの記録と再生。必 K 要なときに、ハードウェアとソフトウェアのインベントリを収集、サービスを監視、迅速に問題解決をするためにリモートでシステムの設定を確認。

LAN、WAN、またはインターネット上で安全に動作するように設計されており、ファイアウォールを設定する必 K 要はありません。NetSupport Manager は、サードパーティのサービスや継続的なサブスクリプション費用を必 K 要とせず、マルチプラットフォームコンピュータのリモート管理のための単一の高速ソリューションを提供します - IT チームにとって最適なツールです。

NetSupport Manager は、Windows、Mac、iOS および Android から Windows、Android、Mac、Linux (レガシー) および Google Chrome OS 搭載デバイスまで包摂的なマルチプラットフォームのサポートを提供します。

表記について

表記方法:

- 各章ごとにステップバイステップの説明により連続で操作する手順には番号が付いています。
- 複数の操作方法がある機能には `または` と表記しています。
- 追加のヒントや説明がある場合は、枠線に `注意` と題して説明を付け加えています。

本マニュアルで使用している専門用語

コントロール	「コントロール」はクライアントに表¥示したり、クライアントを表¥示したり、操作を引き継ぐワークステーションまたはデバイスです。
クライアント	「クライアント」は表¥示される、または引き継がれるワークステーションまたはデバイスです。
接続可能クライアント	クライアントがインストールされたPCはコントロールに接続可能なクライアントとなります。コントロールが接続をする前には必Kず接続可能クライアントでなくてはなりません。
クライアントリスト	クライアントマシンに接続すると、NetSupportはツリービューの すべてのコンピューター フォルダーにクライアントのリストを保û存します。
接続クライアント	全てのクライアントまたはクライアントグループは同時接続の選択ができます。コントロールは接続しているクライアントにのみリモートコントロールが可能です。
選択クライアント	接続クライアントが選択されると、“1対1”のセッションが確立されます。この段階でコントロールはビュー、ショー、メッセージ送信などを行うことができます。コントロールは選択したクライアント画面、マウス、キーボードを見たり操作したり共有したりもできます。複数のクライアント間を切替えることができます。、

NetSupport について

この章では ...

NetSupport Manager の特徴や導入効果をご紹介します。

特徴

NetSupport Manager はクライアントをトレーニング、サポート、モニタ、管理ための豊富な機能を搭載しています。

環境

- LAN、WAN またはインターネット経由ですべてのシステムを検索、特定、接続。
- TCP/IPまたはHTTPプロトコル(IPXおよびNetBIOSのレガシーサポート)を介し接続。
- LAN、WAN、インターネット、PSTN、ISDNまたは モバイル接続で通信。
- 64bitプロセッサのサポート。
- 付属のNetSupportインターネットゲートウェイコンポーネントを使用して異なるファイアウォール内側にあるすべてのシステム間でシームレスな通信。
- 完全に統合されたリモートデプロイユーティリティ:
 - コントロールのローカルマシンを素早く検出。
 - 電源が入っていないマシンにWake on LANコマンドを送信。

リモートコントロール

- 解像度、ネットワークプロトコル、オペレーティングシステムに関わらず、ワークステーションの画面、キーボードとマウスを観察、共有、制御。
- 低速回線ですべてのシステムを管理する際に、リモートコントロールの色数を最適化します。
- リアルタイムのサムネイルですべての接続システムの画面を監視。マウスを重ねると選択したPCを拡大表示。
- コントロールコンソールで複数数のワークステーションの画面を表示しながら複数数のシステムを巡回。
- リアルタイムの指導に自分の画面、選択したモニタまたは選択したアプリケーションを複数数の接続したコンピュータに表示。
- リモートコントロールまたは画面送信中に豊富な描画ツールで画面に注釈を挿入する。
- 2台または複数数のシステム間でテキスト およびオーディオチャット、メッセージ。
- リモートコントロール中にフルオーディオチャット。
- 参照用にセッション中のスクリーンショットをキャプチャします。
- トレーニング、セキュリティ目的で動画「リプレイファイル」に画面のアクティビティを記録します。

情報の移動

- コントロールとクライアントコンピュータ間のファイルを転送、フォルダを同期等。
- ファイル配布 - コントロールPCから複数数の接続しているシステムにシングルアクションでファイルをドラッグアンドドロップで移動。
- ファイル転送ツリービュー内のクライアントPCで現在使用されているフォルダを識別してアクセス。

- リモートコンピュータのアプリケーションをリモートで起動。
- リモートコンピュータの印刷キューをコントロールPCにキャプチャして転送。
- コントロールとクライアントPC間でクリップボードの内容をコピーします。

柔軟性

- PIN接続は中央PINサーバモジュールを経由して両者が一致するPINコードを入力することで技術者が瞬時に企業全体のどこでもユーザーを検索できる機能です。
- タスクを自動化するためのスクリプトやスケジュールスイート。
- オペレーティングシステム、位置情報、ケースタイプやクライアントのバージョンを含む基準に基づいて自動グループ化システム。
- ポートレート、背景表示モードを含むWindowsタブレットで使用するためのタッチ対応のユーザーインターフェイス。

サポートツール

- リモートサポートを補助するためにクライアントPCからハードウェアとソフトウェアのインベントリを取得。
- クライアントPCにインストールされているすべてのホットフィックスの詳細を取得。
- クライアントで動作しているアプリケーション、プロセスそしてサービスを表示し制御。
- リモートシステムのレジストリをリモートで編集。
- 自分のPCでリモートシステムからローカルのコマンドプロンプトを起動。
- クライアントPCをリモートで電源オン/オフ、ログオン/ログオフまたは再起動。
- ヘルプ依頼 - ユーザーはすべてまたは特定のコントロールシステムに直接送信されるヘルプ依頼を作成可能。
- Intel vProテクノロジーのサポートを標準で提供。
- リモートデバイスのおおよその位置を特定し、地域別に自動的にグループ化。

接続

NetSupport Managerは、デバイスがどこにあってもアクセスできる広範囲の接続方法を提供します。何よりもまず、NetSupport Managerは、接続したいデバイスに「クライアント」コンポーネントを、リモートコントロール接続を開始したいデバイスに「コントロール」コンポーネント/アプリを事前にインストールする必要がある。

ローカルまたはワイドエリアネットワーク

- TCP/IPもしくはHTTP (IPXとNetBIOSはレガシーサポート)を使ってLANまたはWAN上のコンピュータを検索し検出。
- 会社構成で検出したデバイスを保存、自動または手動でグループを定義しローカルまたは中央で保存。
- PC名、DNS名またはネットワークアドレスで接続したことがあるコンピュータを直接接続。

- 異なる環境下でリアルタイムで複数数のデバイスを検出して接続。
- 有線/無線接続のパフォーマンスを最適化。

インターネット回線の使用

異なる場所、異なるファイアウォールの内側のPC間でシームレスなリモートコントロールを実現したい場合は、NetSupport Managerの通信ゲートウェイモジュールは、コントロールとクライアントの両システムがしっかりとそれぞれのファイアウォールの内側に設置されているにも関わらず、HTTPを介してNetSupport対応システムが検索して通信するための安定かつ安全な方法を提供します。ゲートウェイモジュールは、コントロールとクライアントPC双方がアクセス可能で静的IPが割り当てられたPCにインストールする必要がある場合があります。ゲートウェイは、同じゲートウェイセキュリティキーを使用しているコンピュータからの接続だけしか許可せず、外出しているスタッフがオフィスリソースにアクセスしたり、異なるサイト間のスタッフや顧客をサポートするために使用されます。ゲートウェイは、LAN/WANベースの通信を必要としません。

NetSupport Manager ゲートウェイモジュール:

- 負荷分散ゲートウェイを使用して、クライアントの重み/負荷を複数数のサーバーに分散。
- ゲートウェイを介して送信されるすべてのデータを確実に暗号化するために、SSL/TLS証明書を使用できます。
- 安全でファイアウォール化されたネットワークとコンピュータ間のシームレスで安全な遠隔サポート。
- 既存のネットワークやファイアウォールのセキュリティを変更する必要なし。
- セキュアな暗号化通信。
- ゲートウェイあたり6,000台のクライアント同時接続をサポート。
- セキュリティキーによるアクセス制御。
- ユーザー承認によるアクセス制御。
- 接続のシングルポイントの障害を取り除く複数ゲートウェイの冗長性。
- 完全なトランザクションログ。
- 外部サードパーティのサービスに依存関係はありません。

セキュリティ

すべてのモジュールは多機能なセキュリティを搭載。簡単なパスワードによる保護から NT セキュリティ、Active Directory との統合や256 bitAES 暗号化。査察目的にリモートコントロールの録画と再生。異なるセキュリティレベルや機能が使えるように個別にコントロールとクライアントをプロファイル化できます。

セキュリティの主な特長

- 時間ベースのOTP (TOTP)とDUOプッシュを使用した二要素認証(2FA)により、最大12時間オペレーターを認証します。
- SSL/TLS証明書。

- クライアント実行可能ファイルの名前が変更された場合、エクスプロイトやマルウェアとの戦いと保護を支援するために実行できなくなります。
- クライアントログファイルは、データ保護をさらにサポートするために、択した情報のみを表示するように編集できます。
- すべてのシステムをパスワードで保護。
- ユーザー確認(受信した各接続リクエストにユーザーが応答)。
- セキュリティキー(NetSupport Manager のライセンスを 企業独自にし、ソフトウェアの他のライセンスと互換性をなくします)。リモートコントロール中の操作履歴を保存するための録画と再生。
- ユーザーアカウントまたは IP アドレスによる接続制限(登録された場所からの接続だけを許可)。
- 重要な作業時は相手の画面をブラックアウト。
- 切断時はリモートシステムから自動ログアウト(ログオン状態のままを回避)。
- 接続タイムアウトのユーザー設定。
- ダイアルアップ接続のダイアルバックセキュリティ。
- 一箇所からセキュリティ構成設定を配信し管理。

セキュリティの統合

- 接続リクエストを許可する前にユーザー認証を既存のNT ユーザープロフィールと統合。
- ユーザー認証を Active Directory のプロフィールと統合。
- クライアント環境設定でシステムのコンプライアンスを実現するActive Directory のテンプレートを用意。
- プロファイル機能 - 認証された接続ユーザー別に異なる機能を適用。
- OS のイベントログと統合可能なイベントログと履歴。

PIN接続

最新バージョンでは、独自の新しいPIN接続機能が含まれています。本質的には、両者が一致する独自のPINコードを入力するだけで技術者は即座に企業全体のどこにいてもユーザーを見つけることができます。ユーザーのPCを見つけるために検索したり、PC名、アドレス詳細等を必K要とするよりも、PINは両者をシームレスに繋げることができます。新しいPINサーバモジュールは、単独またはゲートウェイモジュールと一緒に実行することができ、NetSupport Managerに標準で付属しています。(詳細については「バージョン12の新機能」のページを参照。)

Intel vPro 対応

NetSupportクライアントがインストールされていない場合であっても、様々なリモートタスクを実行できるインテル®vPro™機能搭載PCを検索して特定するようにNetSupport Managerを設定することができます。

時間外のメンテナンスを行う時に、リモートマシンの電源を入れる、切る、再起動する機能、BIOS情報の表示と再設定、そして必要に応じてリモートオペレーティングシステムのイメージから起動する機能が含まれています。

AC電源を挿すと、ノートブックのシステム上で上記が無線で実行されます。

インストール

この章では ...

Windows ベースのコンピュータに NetSupport Manager のコンポーネントのインストール方法を説明します。

システム条件

いくつかの NetSupport の機能は特定のファイル/アプリケーションに依存しています。

PC 動作環境:

Windows 11、Windows 10、Windows 8、8.1 (32bit および 64Bit)、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2012、Windows 7* (32bit および 64Bit)、Windows 2008 (32bit、64 bit および R2)、Vista (32bit および 64bit) 、Windows 2003.

* NetSupport Manager コントロールを Windows 7 で実行するには、Aero を有効にする必要があります。スタート>コントロールパネルを選択します。外観とカスタマイズセクションで、色のカスタマイズをクリックします。配色メニューからWindows Aeroを選択し、OKをクリックします。

TCP/IP、HTTP またはレガシー (IPX および NetBIOS)。

NetSupport Manager は、WYSE Technologies、Microsoft、HP、NComputing(X-series and L-series)、MiniFrame (SoftXpand) その他の MultiPoint、MultiSeat およびバーチャル環境との互換性だけでなく、シンおよびゼロクライアント環境とのフル統合を提供しています。

Mac 動作環境:

NetSupport Manager クライアントは macOS と互換性があります。また Mac 用のユニバーサル証明を同梱しています。

NetSupport Manager Mac コントロールおよびクライアントは、Intel プラットフォームの macOS バージョン 10.9 – 10.13 以降。

macOS 10.14 – 11 の最新バージョンをサポートするために特定の「クライアント」が利用可能です。

Android クライアント

Android 用 NetSupport Manager クライアントは、各 Android デバイス(5 以降)にインストールし、Windows コントロール(12.5 以降)から接続することができます。

Chrome OS クライアント:

既存または新規に NetSupport で管理されている環境で使用する場合、Chrome クライアント拡張用 NetSupport Manager は、Google Chrome OS が実行している各 Chromebook にインストールすることができます。コントロールから、各システムに接続できるようになり、画面を監視したり、素早く効果的に各 Chromebook と対話できるようになります。

Mobile Control

iOS および Android 用 NetSupport Manager コントロールは、既存の NetSupport Manager リモートユーザーのために iPad、iPhone、iPod、Android タブレットおよびスマートフォンまたは Kindle Fire からリモートでモバイルリモートコントロールを提供します。

NetSupport Manager Mobile App は、[Google Play](#)、アップルの [iTunes Store](#)、[Amazon](#) アプリストアからダウンロードすることができます。

レガシープラットフォーム対応

以下のプラットフォームのレガシー対応が提供されます：

Windows NT4、Windows 2000、Windows XP および Windows 2003 (Service Pack 1 以前)。

注意： これらのプラットフォームでは、以前のバージョンの NetSupport Manager が必要になる場合があります、
www.netsupportmanager.com/downloads.asp からダウンロードできます。

Linux 動作環境：

NetSupport は現時点では次の Linux 製品に対応しています：OpenSUSE 11.2 およびそれ以降、SUSE Enterprise 11、SUSE Enterprise Server 11、Ubuntu/Edubuntu 9.04 およびそれ以降、Debian 5 ～ 6、Red Hat Enterprise Linux 6、Linux Mint 9 およびそれ以降、そして Fedora 12 およびそれ以降。

デスクトップマネージャー：Gnome、KDE、Unity 2D、Ubuntu Classic (No Effects Only)、MATE そして Cinnamon。

Pocket PC：

OS：Pocket PC 2003 または Windows Mobile 2003 もしくはそれ以上
プロセッサ：Strong ARM プロセッサ
ActiveSync/WiFi ワイヤレス LAN 互換
デバイス RAM：32Mb (64Mb 推奨)
ハードディスク：最小 2Mb、フルインストールには 10Mb 必要

Windows CE

OS：Windows CE 4.2 またはそれ以上
プロセッサ：Strong ARM プロセッサ、X86 互換
ActiveSync 互換
デバイス RAM：32Mb (64Mb 推奨)
ハードディスク：5Mb 以上の空き容量

インストールを計画する

NetSupport のインストールは非常に簡単です。いくつかのシンプルなルールに従うだけで、短時間でインストールしてお使いいただけます。

どの機能をインストールするか決める

他の PC やデバイスを遠隔操作するワークステーションにはコントロールをインストールする必要があります。

引き継がれるまたは操作されるすべてのマシンまたはデバイスには、クライアントをインストールする必要があります。

スクリプトやデプロイを使用する、ゲートウェイとしてマシンを使用するなどの高度な NetSupport Manager の機能でインストールをカスタマイズする必要があるか決めます。

また NetSupport Manager には NetSupport School トレーニングツールが提供されています。個別、事前に定義されたグループまたはクラス全体として研修生と対話するだけでなく、指導や視覚的/聴覚的に監視する機能が指導者に用意されています。

どのネットワークプロトコルを使用するか決める

インストールするコンピュータで使用するネットワークプロトコルを決定します。

NetSupport Manager は TCP/IP と HTTP をサポートし、IPX と NetBIOS のレガシーサポートを提供します。

NetSupport はマルチプロトコルに対応しているため、同一のコントロールから異なるプロトコルのクライアントに接続できます。デフォルト設定を選択して、後で変更します。

注意: デフォルトでは、コントロールは TCP/IP を使用するよう設定されています。それ以外のプロトコルを使用する場合は、コントロールを初めて起動した直後に設定してください。

以上で NetSupport コントロールとクライアントのインストール準備が完了しました。

インストール方法の詳細については:

Mac マシンの場合は、Mac ベースのシステムに NetSupport Manager をインストールする

Google Chrome マシンの場合は、Google Chrome OS デバイスに NetSupport Manager のインストールと設定

Android マシンの場合は、NetSupport Manager Android クライアントのインストールと設定

注意: NetSupport Manager は、Intel EM64 と AMD64 プラットフォームの Windows 64 bit に対応しています。NetSupport Manager Windows インストーラーは NetSupport 64bit クライアントをインストールする際にお使いいただけます。詳しい情報は NetSupport Ltd 社のホームページ(英語)にてご確認ください。

インストールを開始する

また、www.netsupportmanager.com/downloads.asp から NetSupport Manager をダウンロードすることができます。

メニューより該当する言語をクリックし、NetSupport Manager をインストールするためのオプションを選択します。

使用するインストーラを setup.exe または MSI ファイルのどちらか選択します。Active Directory にデプロイを実行する必要がある場合は、MSI ファイルを使ってインストールしてください。

NetSupport Manager インストーラーはよろこ画面を表示し始めます。続けるには [次へ] をクリックします。

注意:

- お使いの Windows オペレーティングシステムをアップグレードする場合は、アップグレード前に NetSupport Manager を必ずアンインストールしてください。オペレーティングシステムのアップグレードが完了後に NetSupport Manager を再インストールすることができます。
 - インストールの際は、必ず管理者アカウントでログインしてください。
-

NetSupport ライセンス使用許諾書

NetSupport ライセンス使用許諾書が表示されます。ライセンス使用許諾書をよくお読みください。続行するには [次へ] をクリックします。

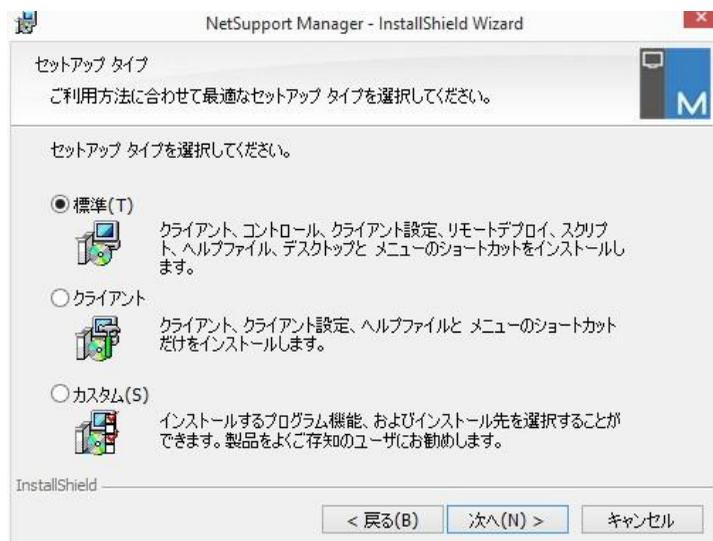
使用許諾契約書に同意しない場合は、[ライセンス使用許諾書に同意しない] を選択し、[キャンセル] をクリックしてください。NetSupport Manger はインストールされず、画面の指示に従いインストールプログラムを終了してください。

ライセンス情報

登録を選択し、提供された NetSupport Manager のライセンス詳細を入力します。

NetSupport の体験版の場合は、30 日体験版を選択し、[次へ] をクリックします。

セットアップタイプの選択



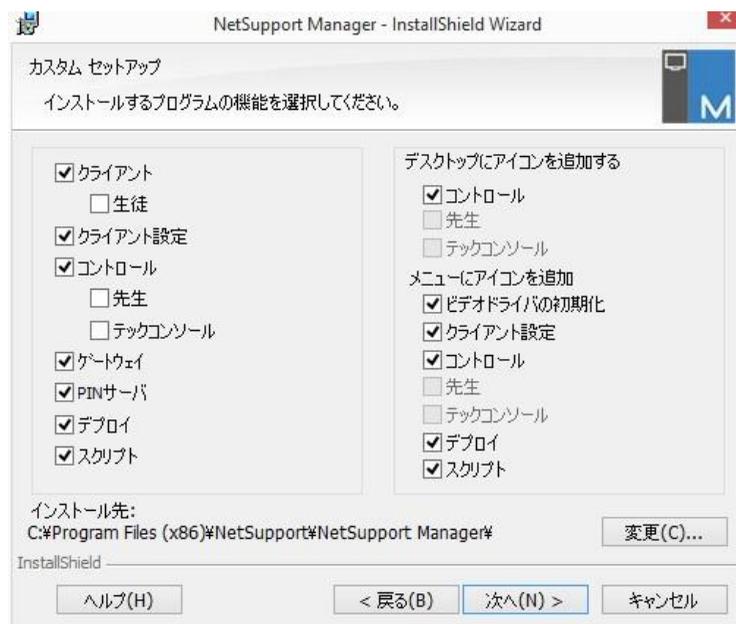
ワークステーションにインストールするセットアップの種類を選択します。

- **標準**
コントロールユーザーが、一般的に必要なコンポーネントをすべてインストールします。ゲートウェイは除外されます。NetSupport Manager の各コンポーネントの説明は下記を参照してください。
- **クライアント**
クライアントソフトウェアをインストールします。この機能は遠隔操作されるワークステーションにインストールする必要があります。
- **カスタム**
コンピュータに合ったコンポーネントの組み合わせを個々に選択できます。

続行するには、[次へ] をクリックします。

カスタムセットアップ

カスタムセットアップを選択すると、各コンピュータに合ったコンポーネントを選択できるようになります。



クライアント

リモートコントロールしたいコンピュータにこのコンポーネントをインストールします。

スクール 生徒

トレーニング向けツールの NetSupport School の生徒用コンポーネント をインストールします。

クライアント設定

クライアント設定を使ってクライアントの設定とセキュリティを確立します。インストール処理の最後に基本設定に移行できます。高度な設定をしたい場合は、クライアント設定コンポーネントをインストールしてください。

コントロール

クライアントのコンピュータを操作するコンピュータにこのコンポーネントをインストールします。ショーなどの機能をフル使用するには、クライアントコンポーネントも一緒にインストールすることを推奨します。

スクール 先生

トレーニング向けツールの NetSupport School の先生用コンポーネントをインストールします。

テックコンソール

テックコンソールをインストールします。コンピュータ教室の担当技術者やネットワーク管理者が主な NetSupport School の機能を使用できるようになります。

ゲートウェイ

NetSupport Manager ゲートウェイはインターネットを介してクライアントとコントロールを接続する方法を提供しています。既存のファイアウォール構成を修正せずにウェブベースのリモートコントロールを行なえます。クライアントとコントロール間にはダイレクト接続はありません、全データはゲートウェイを経由して通過します。そのためゲートウェイコンポーネントはコントロールとクライアントとは独立してインストールすることができます。ゲートウェイコンポーネントを選択した場合、ゲートウェイ設定ダイアログ がインストール終了 後に表示されます。

注意: NetSupport DNA ローカル(サーバー)ゲートウェイがインストールされているマシンには、ゲートウェイをインストールできません。

PIN サーバ

NetSupport Manager の PIN サーバをインストールします。PIN サーバは PIN 接続機能を使用時に固有の PIN コードを生成するセントラルポイントを提供します。

デプロイユーティリティ (XP またはそれ以上の)

デプロイにより複数の NetSupport Manager のインストール作業をそれぞれ のコンピュータに訪れずに行なうことが可能です。

スクリプト

NetSupport Manager スクリプトとスケジューラのスイートをインストールします。手動作業を自動化するためのスクリプトを作成し、特定の時間に行うように予定します。夜間の更新などに向いています。

デスクトップアイコンをインストールする

デスクトップアイコンを作成するかどうかを選択します。例えば、NetSupport コントロール、NetSupport School 先生、NetSupport School テックコン ソール用のプログラムへの簡単なアクセスを可能にします。

スタートメニューアイコンをインストールする

インストールするコンポーネントのスタートメニューアイコンを作成するかどうかを選択します。

注意: NetSupport は、マルチメディアに対応しています。NetSupport ビデオプレイヤーにより一歩進んだトレーニングやデモにクライアントコンピュータ上でビデオファイルを実行することができます。これは、先生コンポーネントと一緒にデフォルトでインストールされます。

インストール先:

デフォルトでは、NetSupport Manager は C:\Program Files\NetSupport\NetSupport Manager フォルダにインストールされます。別のフォルダにインストールしたい場合は、[変更] をクリックします。

続行するには、[次へ] をクリックします。

プログラムのインストール

インストールを開始するには、[インストール] をクリックします。その前の選択を変更するには、[戻る] をクリックします。インストールを中止するには、[キャンセル] をクリックします。

注意: クライアントのインストールを選択した場合、Windows が初期化時にクライアントを起動するよう System.INI とレジストリに必要な変更をします。
NetSupport は、既存のドライバを置き換えることはありません。

インストールの完了

この最終画面はインストールが正常に完了したことを意味します。

クライアント設定を実行する

インストール処理の最後に、クライアント設定を実行することができます。ここで基本的なクライアントの情報やセキュリティを設定できます。選択したコンポーネントの一つとしてクライアント設定がインストールされている場合、拡張クライアント設定オプションにアクセスできるようになります。

リモートデプロイを実行する

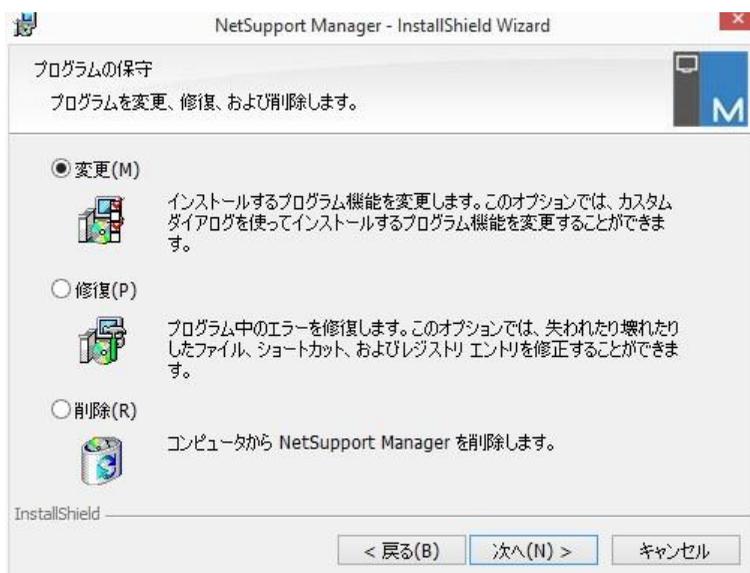
このオプションを選択するとインストール処理後に、NetSupport デプロイツールを起動します。複数のコンピュータに NetSupport をリモートでインストール、設定できます

セットアッププログラムを終了するには、[完了] をクリックします。

注意: ゲートウェイコンポーネントのインストールを選択した場合は、ゲートウェイ設定 ダイアログが表示されます。ゲートウェイ用のセキュリティを作成します。

既にインストールされています

既に NetSupport がインストールされている場合、この画面が表示されます。



- **変更**
インストール済みのプログラムを変更します。
- **修復**
プログラム内のインストールエラーを修復します。
- **削除**
コンピュータから NetSupport Manager を削除します。

オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

NetSupport をアンインストールする

NetSupport をアンインストールする一般的な方法はコントロールパネル内の [プログラムの追加と削除] で NetSupport Manager を選択する方法です。

Windows XP およびそれ以降のワークステーションには、NetSupport Manager デプロイが、離れた場所から複数のアンインストールを実行するために使用されます。

評価用体験版

NetSupport Manager の評価版キットは販売店のホームページからダウンロード可能です。子購入前に NetSupport をお試しください。評価版ソフトウェアは次の制限事項を除き全機能をお使いいただけます：

最大 10 クライアントがネットワーク上で同時にお使いいただけます。

評価期限が過ぎるとコントロールおよびクライアントプログラムは起動しません。

購入時にシリアル番号を発行して制限を解除することができます。これにより評価版キットをライセンス製品にアップグレードすることが可能です。

体験版をライセンス製品版にアップグレードするには

1. キャプションバーのヘルプ  をクリックし、バージョン情報を選択します。
2. ライセンスタブを選択します。
3. ライセンスの更新をクリックします。

または

プログラムグループフォルダ [NetSupport] をインストールしたディレクトリ内の PCILIC.EXE ファイルを開きます。

NetSupport Manager ライセンスダイアログが表示されます。ライセンスの詳細を入力してください。半角全角大文字小文字に注意して入力してください。

正しいライセンス情報を入力したら、[生成] をクリックします。これで NetSupport Manager は製品版になります。

拡張インストール

この章では.....

サイレント ネットワーク インストールの準備と開始方法

NetSupport デプロイツールを使った複数のインストール

Mac ベースのシステムに NetSupport Manager をインストールする

Google Chrome OS デバイスに NetSupport Manager のインストールと設定

NetSupport Manager Android クライアントのインストールと設定

iOS および Android 用 NetSupport Manager コントロール

などを紹介します。

配布用コピーを作成する（ネットワークインストール）

NetSupport Manager の管理 インストール(配布用コピー) は、インストールメディアやライセンス詳細が容易に利用できないネットワーク PC への NetSupport のインストールや一度もしくは期間で数回のインストール作業を支援するようにデザインされています。

このタイプのインストールはあらかじめ特定のオプションを備えた NetSupport Manager のセットアップを設定することもできます。そのため、確実に同一の設定で全てのインストールを行なえます。

作成したら、標準インストール、サイレントインストール、または NetSupport Manager デプロイルーチンのイブとして実行時に配布用コピーを使用することができます。

サーバ上に NetSupport 配布用コピーを設定するには

1. インストールを予定しているすべての PC がアクセスできるネットワーク上にフォルダを作成します。
2. オリジナルメディア(CD または ダウンロード)から SETUP.EXE ファイルをコピーします。
3. 有効な NSM.LIC ファイルを作成し、このフォルダにコピーします。インストール時にライセンスファイルがフォルダに存在しない場合は、NetSupport は体験版のライセンスを使ってインストールします。
4. CLIENT32U.INI ファイルを作成し、このフォルダにコピーします。

注意: 許可のないユーザーによる設定の変更を回避するため、ネットワークフォルダを [読み取り専用] にしてください。

サーバから各コンピュータにインストールするには

1. インストールするコンピュータで NetSupport Manager のセットアップファイルが存在するネットワークフォルダを指定します。
2. Setup.exe を実行します。
3. 「インストールの開始」の説明に従ってください。

サイレント/無人インストール

サイレントインストールとは、ユーザーの入力を一切必要とせずに行うインストール方法です。

サイレントインストールを行なうには

1. 必要なインストールファイルのある NetSupport の配布用コピー を作成します。
2. インストール用プロパティを実行するに、NetSupport プログラムフォルダから INSTCFG.EXE を実行します。インストールコンフィグ設定オプション ダイアログが表示されます。選択したプロパティがパラメータファイルに保存されます。デフォルトファイル名は NSM.ini です。
3. {ファイル}{保存}を選択して NSM.ini' ファイルを NetSupport 配布用コピーのあるフォルダーに保存します。
4. 対象の PC でサイレントインストールを行うには配布コピーのあるファイルから以下を実行してください：

```
msiexec /i "NetSupport Manager.msi" /qn (MSI インストーラー)  
setup /S /v/qn (setup.exe インストーラー)
```

注意： NetSupport Manager がアクティブデレクトリ経由でインストールされます。ソフトウェアインストールグループポリシーオブジェクト(GPO)がユーザーではなくむしろコンピューターアカウントを含むオーガナイゼーションユニットに適用されなくてはなりません。ソフトウェアのインストールをすぐに有効にするためには、ソフトウェアのインストール対象のコンピューターを制御する Computer Configuration| Administrative Templates| System| Logon| leaf of the group policy 内の「Always wait for the network at computer startup and logon」パラメーターを有効にする必要があるのでご注意ください。この変更は、適用した Windows XP のログイン時間に影響します。この変更がない場合、ログオフ/ログオンサイクルの追加がインストールに影響するために必要になります。

設定オプションダイアログをインストールする

サイレントインストールを行うときや NetSupport デプロイを使ってインストールを行うときに、インストール先の個別の必要条件に合わせてインストール方法をカスタマイズできます。このダイアログボックスは NetSupport のプログラムフォルダ内の INSTCFG.EXE を起動すると表示され、サイレントインストール時や NetSupport デプロイを使ってインストールするときに必要な変数を一般タブのインストールプロパティで設定できます。設定した情報は、NSM.ini というパラメータファイルに保存されます。

クライアントマシンにインストールする NetSupport コンポーネントのボックスをチェックします。コントロール、School 先生およびテックコンソール用のデスクトップアイコン、そしてインストールするコンポーネント用のスタートメニューアイコンを作成するかどうか選択します。

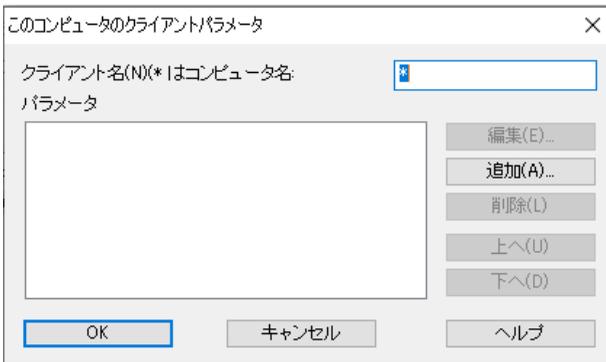
クライアントパラメータ (オプション)

インストール後に使用するための特定のクライアント設定ファイルを作成している場合は、ここにパスとファイル名を指定します。ファイルの場所によっては、ファイルにアクセスするクライアントに名前とパスワードの要求のユーザー確認を行なう必要があります。正しいフォーマットでパラメータを指定するには、NetSupport クライアント設定でそれらを作成し、このフィールドにコピーしてください。

配布用コピーからインストールする場合または NetSupport セットアップ用パッケージ付属のデフォルトの設定ファイルを使用したい場合は、フィールドを空欄のままにしてください。

クライアントのパラメータを指定するには

1. {スタート}{プログラム}{NetSupport}{クライアント設定}を選択し、NetSupport Manager のプログラムフォルダを開きます。
2. [拡張] を選択します。
3. クライアント設定のメニューから{プロファイル}{クライアントのパラメータ}を選択します。
4. [クライアントパラメータ] ダイアログが表示されます。



5. パラメータを指定するには [追加] をクリックします。

注意:

- ユーザー確認が必要な場合、コンフィグ設定ファイル名を優先させます
 - 各パラメータのセットは別けて追加してください。
6. ユーザ確認を入力します。(ユーザー名とパスワード)。OK をクリックします。ダイアログに該当するストリングが表示されます。
 7. クライアント設定ファイルの場所を指定するには、[追加] をクリックします。[OK] をクリックします。
 8. クライアントパラメータダイアログが必要なストリングを含んでいる場合、それぞれインストールオプションダイアログにコピーします。(コピーと貼り付けを使用します)

インストール先ディレクトリ

NetSupport Manager をインストールするディレクトリを指定します。デフォルトのディレクトリ ¥ Program Files ¥ Netsupport Manager にインストールするには、空欄のままにします。

NetSupport デプロイ - NetSupports リモートインストールツール

NetSupport デプロイツールはネットワーク管理者がそれぞれの PC に出向かずに複数の PC に NetSupport のインストールと設定ができる機能です。ネットワークを参照してデプロイ先 PC を選択できます。

NetSupport Manager のデプロイユーティリティ内で、IP アドレス範囲(指定した IP 範囲、コントロールにローカル IP 範囲があるコンピュータ)、Windows ドメインを使用してデプロイする機能があります。またはネットワークの表示が提供されます。これらの方法は、デプロイ先のコンピュータを選択できます。

NetSupport Manager デプロイユーティリティは以下のオペレーティングシステムが動作しているコンピュータに配信するために使用されます：

- Windows XP
- Windows 2003
- Windows Vista
- Windows Server 2008\2008r2
- Windows 7
- Windows 8/8.1
- Windows Server 2012
- Windows 10
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

注意： Windows XP Home、Windows Vista Home Premium もしくは Windows 7 Starter/Home edition をお使いの場合は、NetSupport Manager デプロイユーティリティはオペレーティングシステムの仕様上動作いたしません。

NetSupport デプロイで可能なこと：

- 同時に複数の PC に NetSupport パッケージをリモートインストールします。
- 複数のクライアントに特定のクライアント設定を作成/ダウンロードできます
- 複数の NetSupport ライセンスの詳細をリモートアップデートします。
- 同時に複数のクライアントから NetSupport パッケージをリモートアンインストールします。

注意:

- ドメインに参加している Windows Vista 搭載コンピュータに対してデプロイを実行する場合は、コンソールユーザーがドメインにログオンもしくは対象のコンピュータのローカルアドミニストレータ権のあるドメインアカウントがなくてはなりません。
 - デプロイプロンプトユーザーオプションは、Windows Vista 以降ではサポートされません。
-

デプロイツールをインストールする

NetSupport のインストール時に、デプロイツールを自動的にインストールするには、標準インストールを選択します。または、カスタムインストールの一部として選択することもできます。

プラン

NetSupport デプロイは、手軽な方法で複数のコンピュータに NetSupport のパッケージのインストールを可能にする強力なツールです。ソフトウェアの使用にあたり制限や非互換性の問題がないように確認の努力をしておりますが、他社製のリモートコントロールやセキュリティパッケージなど製品と競合がないかどうかを確認するためにも最小限のコンピュータの構成でデプロイをテストすることを推奨します。セキュリティと保護として、デプロイするコンピュータに対し適切なアドミニストレータ権限を持っていないとはなりません。

NetSupport Manager デプロイの仕組み

デプロイオプションが設定されたら、NetSupport Manager デプロイユーティリティは、ファイルとプリンタ共有を使用して対象のコンピュータに接続することで動作します。

この方法は、対象コンピュータの Admin\$ へのアクセスが必要でローカル管理者アクセス（ユーザーの詳細が要求される場合があります）を持つユーザーとして接続する必要があります。認証されると、NetSupport Manager のパッケージファイルが Admin\$ 共有への接続を使用してリモート PC の次のフォルダにコピーされます：

C:\Windows\pcirdist.tmp\

最後に、対象の PC にファイルが送信されると、リモートプロシージャコール (RPC) サービスを使用してインストーラファイルが実行されます。

必須条件

対象の PC へ NetSupport Manager コンポーネントを正常に配布するためには、以下の項目が必要です：

- ファイルとプリンタ共有が対象 PC で有効にする必要があります。

- ローカルアカウントポリシーの共有とセキュリティが対象 PC で{クラシック}に設定する必要があります。
- 対象 PC への接続に使用するユーザーアカウントは、対象 PC でローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ネットワーク検索は、Windows Vista/7 の対象 PC で有効にする必要があります。
- UAC リモート制限は、ワークグループ環境の Windows Vista および Windows 7 を実行している対象 PC を無効にする必要あがります。

Windows XP に配布する

Windows XP プロフェッショナルに NetSupport Manager をデプロイするには、デプロイするパッケージを転送するためにリモートコンピュータの Admin\$ share にアクセスしなくてはなりません。デフォルトでは Admin\$ share へのアクセス許可はありません。

ネットワークアクセスを有効にするには：

1. 管理ツール内のローカルセキュリティポリシーを選択します。
2. {セキュリティ設定} {ローカルポリシー} {セキュリティオプション}を選択します。
3. {ネットワークアクセス:}を選択します。
4. このポリシーを{クラシック - }に設定後、Admin\$ 共有が有効になり、通常通りデプロイが可能になります。

Microsoft Windows XP Service Pack 1 から Service Pack 2 にアップグレードしている場合、Windows のファイアウォールがデフォルトで NetSupport Manager によるネットワークアクティビティをすべてブロックしてしまいます。NetSupport が正しく動作させるために、NetSupport 社では、Windows ファイアウォールを設定するためのツールを提供しています。

Windows ファイアウォール設定で NetSupport Manager を有効にするには

1. ファイルをダウンロードします。
2. NetSupport Manager がインストールされているコンピュータで、次のコマンドを使ってこのツールを実行します。
ICFCONFIG -e NSM
3. NetSupport Manager が正常に動作するように、Windows ファイアウォール設定内に必要なすべてのエントリを作成します。

ICFCONFIG ツールは、Windows ファイアウォール設定から NetSupport 製品を削除する時にも使用します。詳しくは、NetSupport Ltd 社のホームページにてすべての ICFCONFIG コマンドラインオプションをご確認ください。

NetSupport デプロイを開始する

1. NetSupport プログラムグループから NetSupport デプロイを選択します
2. NetSupport デプロイのメインウィンドウ が表示されます。

NetSupport デプロイのメインウィンドウ



デプロイメインウィンドウは次のセクションから構成されています：

メニューバー

メニューバーは、デプロイ処理の色々なツールや設定ユーティリティを実行するためのドロップダウンメニューの集合体で構成されています。

左ウィンドウ

ネットワーク、ログファイル、セキュリティの 3 つのタブで構成されています。

ネットワーク/セキュリティタブ

ツリー表示部にデプロイ操作が選択できるネットワーク、ドメイン、グループの一覧を表示します。

ログファイルタブ

ツリー表示部に前回のデプロイ履歴の一覧を表示します

右ウィンドウ

ネットワークタブを選択すると、選択したネットワーク/ドメイン(マシン名、クライアントアドレス、MAC アドレス)にあるワークステーションに関する一般的な情報が提供されます。

[ログファイル] タブは、類別に分類した過去のデプロイ履歴を折りたたみ形式で表示します。

[セキュリティ] タブは、選択したネットワーク/ドメインに参加している各コンピュータの情報を一覧表示します。マシン名と IP アドレスに加えて、マシンで稼働しているプラットフォームを確認することができます。既に NetSupport クライアントがインストールされているか、どのバージョンが動作しているか、クライアントはパスワードで保護されているか、ユーザー認証が設定されているかどうかを確認できます。この情報をもとに、どのコンピュータを配布の対象もしくは対象外にするかを事前に決定できます。例えば、現行の NetSupport クライアントがインストールされているいくつかのコンピュータは対象外にする。

配布ルーチンを準備する

配布先を選択するには

1. メインウィンドウ からネットワークとセキュリティタブを選択します。
2. 左ウィンドウ内に利用可能なすべてのネットワーク、ドメイン、ワークグループの一覧が表示されます。[+] または[-] をクリックしてツリーを展開または縮小することができます。

注意: ツリーにアドレス範囲を追加して、特定の IP 範囲に配布することもできます。メニューバーから{ツール}{IPドメイン追加}を選択します。

3. 対象となるグループを選択します。
4. 右ウィンドウに選択したグループに参加しているコンピュータの名前が表示されます。メニューバーの{表示}を選択すると、リストの表示方法を変更することができます。
5. 配布の対象となるコンピュータを選択します。(Ctrl とクリック または Shift とクリックが使用できます)。対象または除外するコンピュータを決定する前に、コンピュータ名を右クリックしてプロパティを確認できます。

注意: Wake on LAN がオンになっていないマシンに送信され、確実にデプロイが必要なすべてのマシンに送信されます。必要なマシンを選択し、メニューバーから{ウェイク選択(WOL)} {表示}を選択します。

配布内容を選択します

選択できる項目:

- NetSupport パッケージ
- クライアント設定
- NetSupport ライセンスファイル
- NetSupport アンインストール

注意: すぐに配布できない場合でも、上記の各プロパティをあらかじめ設定しておくこともできます。事前にデプロイファイルを定義するを参照してください。

NetSupport パッケージを配布する

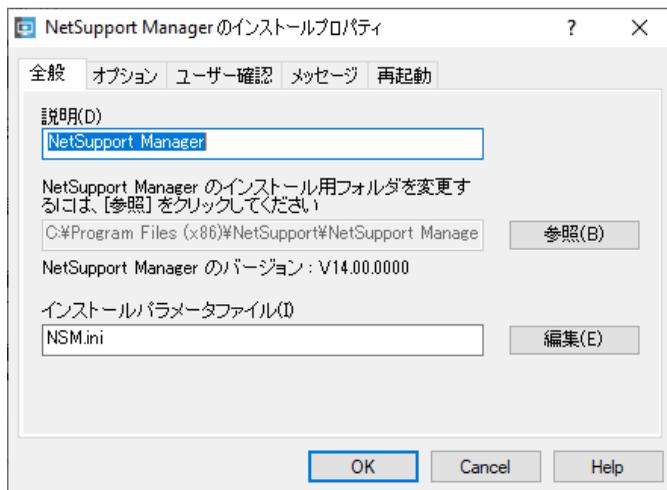
インストール時にデプロイコンポーネントを選択すると標準の NetSupport パッケージが作成されます。パッケージを配布するには、対象のコンピュータを選択します：

1. デプロイのメインウィンドウのメニューで{デプロイ}{NetSupport Manager パッケージ}を選択します。
または
選択したコンピュータを右クリックして [デプロイ - NetSupport Manager パッケージ] を選択します。
2. デプロイのまとめダイアログが表示されます。



このダイアログはデプロイに選択したオプションのまとめを表示します。デプロイの情報を編集するには、[プロパティ] をクリックします。

3. インストールのプロパティダイアログが表示されます。



4. デプロイのプロパティを編集するには、関連するタブを選択します。

【全般】タブ

配布する NetSupport パッケージとインストールするコンポーネントを指定します。

パッケージの説明は、NetSupport Manager に設定されています。

デフォルトでは、インストール用のパッケージの場所は NetSupport Manager パッケージが作成される Deploy フォルダに設定されています。

インストールするコンポーネントを指定するには、[編集] をクリックします。インストール設定オプションダイアログが表示されます。(このダイアログの詳しい説明は、本マニュアル「インストール設定オプションダイアログ」を参照してください。)

注意: NetSupport デプロイがクライアントの再起動を行なうため、[コンピュータの再起動] ボックスは、チェックを外したままにしてください。これは、インストールするオプションをインストール設定オプションダイアログを使ってサイレントインストールを実行する時にだけ関連があります。

このダイアログが完了したら、NetSupport の配布用コピーを格納するフォルダに NSM.ini ファイルを保存するように、{ファイル}{保存}を選択します。

インストールプロパティダイアログに戻るには、{ファイル}{終了}を選択します。

[オプション] タブ

[ネットワークとセキュリティ] タブの情報を元に、NetSupport が既にインストールされているコンピュータを確認します。そして次のどれかを選択します：

- [NetSupport が動作しているコンピュータは無視する] にチェックをして、それらは無視します。
- [システムを現在のバージョンに更新する] にチェックをして、最新のバージョンにコンピュータを更新します。
- [再起動後にクライアントを動作を確認する] にチェックをして、パッケージの配布後に、クライアントの動作を確認します。配布後にコンピュータが自動的に再起動されることを確認してください。[再起動] タブを参照してください。

[ユーザー確認] タブ

デプロイ開始時にコンピュータが使用中である場合があるかもしれません。次のどれかを選択します：

- NetSupport を今すぐインストールする。配布先のコンピュータにはプロンプト画面が何も表示されません。
- NetSupport のインストール前にユーザーに通知する。プロンプト画面を表示し、インストールを開始するには、[OK] をクリックします。ユーザーはこれをキャンセルすることはできません。
- NetSupport のインストールをユーザーが選択する。ユーザーがインストールを延期できる回数を指定します。ユーザーが延期を選択した場合は、1時間ごとに、または次回コンピュータを起動するとプロンプト画面が再表示されます。

[メッセージ] タブ

インストール処理中に各コンピュータに、配布を通知するメッセージを指定します。

[再起動] タブ

このオプションは、インストールの完了に対象のコンピュータの再起動が必要な場合だけ適用します。

- コンピュータの再起動を案内する。配布完了時に、ユーザーの都合でコンピュータを再起動するように依頼するメッセージが表示されます。上記の注意事項が適用されている場合は、選択しないでください。
- コンピュータの再起動を指示する。コンピュータを再起動してインストールを完了するようにユーザーに指示するメッセージが表示されます。
- 自動的に再起動する。配布完了時にコンピュータを再起動するメッセージを表示します。再起動開始までの残り秒数を案内するタイムバーが表示されます。

- ログオンしていない場合は自動的に再起動する。配布先のコンピュータに誰もログオンしていない場合は、自動的に再起動を開始します。
5. デプロイのまとめダイアログに戻るには、[OK] をクリックします。
 6. インストールを開始するには、[デプロイ]をクリックします。進行状況ダイアログが表示され、各コンピュータでの配布状況を確認できます。



ダイアログには2つのタブがあります。

[ログ] タブは、各コンピュータの配布状況を確認できます。

[ステータス] タブは、各コンピュータでの配布段階の一覧を表示します。例: コンピュータ 'A' のインストールは完了、コンピュータ 'B' は進行中。

7. インストールが完了し、デプロイのメインウィンドウに戻るには、[閉じる] をクリックします。

クライアント設定を配布する

NetSupport デプロイを使えば、特定のクライアント設定をしたクライアント設定ファイルをリモートで配布することができます。

1. 対象となるコンピュータを選択します。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{デプロイ}{クライアント設定}を選択します。
または
選択したコンピュータを右クリックして、[デプロイ - クライアント設定] を選択します。
3. デプロイのまとめダイアログが表示されます。
4. デプロイ用の詳細を入力するには、[プロパティ] をクリックします。
5. 配布するクライアント設定ファイルが収納されているフォルダを参照するには、[参照] をクリックします。初期設定の設定ファイル名は、CLIENT32U.INI で、NetSupport インストールディレクトリに保存されています。

注意: v12.50 以前のクライアントのデフォルト構成ファイルは、CLIENT32.INI といえます。

6. 設定ファイルを変更するための拡張クライアント設定を開くには、[編集] をクリックします。
7. 必要に応じて追加クライアントパラメータを追加指定することができます。例えば、特定のユーザー確認(名前とパスワード)を追加したい追加設定ファイルの場所。
8. 初期状態では、新しい設定がすぐに有効になるように、配布後クライアントサービスを自動的に再起動します。必要としない場合は、[NetSupport クライアントサービスを再起動する] のチェックを外してください。
9. まとめダイアログに戻るには、[OK] をクリックします。ファイル名をクリックすると設定ファイルの内容を確認することができます。
10. [デプロイ] をクリックします。進行状況ダイアログが表示され、配布状況を確認できます。
11. 完了したら、[終了] をクリックします。

NetSupport ライセンスファイルを配布する

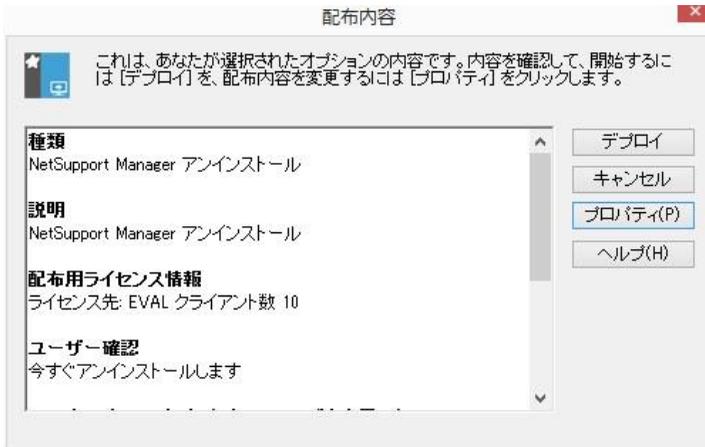
NetSupport パッケージをインストールすると、ライセンスファイルが各コンピュータに送信されますが、ライセンスファイルの更新が必要な場合もあります。例えば、追加ライセンスを購入して、これを反映させるにはライセンスファイルの更新が必要です。NetSupport デプロイを使えば、ユーザーのコンピュータのファイルをリモートで更新できます。

1. 対象となるコンピュータを選択します。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{デプロイ}{NetSupport Manager ライセンスファイル}を選択します。
または
選択したコンピュータを右クリックして、[デプロイ - NetSupport Manager ライセンスファイル]を選択します。
3. デプロイのまとめダイアログが表示されます。
4. デプロイの詳細を入力するには、[プロパティ]をクリックします。
5. 配布するライセンスファイルが収録されているフォルダを指定するには、[プロパティ]をクリックします。初期設定のファイル名は、NSM.LIC です。
6. 初期設定では、新しい設定をすぐに有効にするために配布後クライアントサービスを自動的に再起動します。必要としない場合は、[NetSupport クライアントサービスを再起動する]のチェックを外してください。
7. まとめダイアログに戻るには、[OK]をクリックします。ファイル名をクリックするとライセンスファイルの内容を確認することができます。
8. [デプロイ]をクリックします。進行状況ダイアログが表示され、配布状況を確認できます。
9. 完了したら、[終了]をクリックします。

リモートアンインストール

NetSupport デプロイを使えば、NetSupport パッケージをリモートでアンインストールできます。

1. 対象となるコンピュータを選択します。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{デプロイ}{NetSupport Manager アンインストール}を選択します。
または
選択したコンピュータを右クリックして、[デプロイ - NetSupport Manager アンインストール] を選択します。
3. デプロイのまとめダイアログが表示されます。
4. デプロイの詳細を入力するには、[プロパティ] をクリックします。NetSupport アンインストールダイアログが表示されます。



5. 順番に 4 つのタブを選択して、デプロイ用のプロパティを入力します。

[全般] タブ

アンインストールするパッケージの内容を表示します。

[ユーザー確認] タブ

配布開始時にコンピュータが使用中の場合を考慮して次のどれかを選択します：

- NetSupport を今すぐにアンインストール。配布先のコンピュータには何もプロンプト画面が表示されません。
- NetSupport アンインストールをユーザーに通知する。プロンプト画面を表示し、アンインストールを開始するには、[OK] をクリックする必要があります。ユーザーはこれをキャンセルすることはできません。

- NetSupport アンインストール処理をユーザーが選択する。ユーザーがアンインストールを延期できる回数を指定します。ユーザーが延期を選択した場合、次回コンピュータの起動時にプロンプト画面が再表示されます。

【メッセージ】 タブ

アンインストールの進行中に各コンピュータに表示するメッセージを指定します。

【再起動】 タブ

すべての NetSupport ファイルを完全に削除するには、コンピュータを再起動する必要があります。

- コンピュータの再起動を指示する。処理が完了するためにコンピュータを再起動するようにユーザーに指示するメッセージを表示します。
 - 自動的に再起動する。配布完了時に、コンピュータを再起動するメッセージを表示します。再起動開始までの残り秒数を案内するタイムバーが表示されます。
 - ログオンしていない場合は自動的に再起動する。配布先のコンピュータに誰もログオンしていない場合は、自動的に再起動を開始します。
6. 4つのタブすべての設定が完了し、デプロイのまとめダイアログに戻るには、[OK] をクリックします。必要ならば、選択内容を表示し編集することもできます。
 7. アンインストールを開始するには、[デプロイ] をクリックします。進行状況ダイアログが表示され、各コンピュータでのアンインストール状況を確認できます。
 8. 完了したら、[終了] をクリックします。

あらかじめ配布用の設定を用意する

都合の良い時間までデプロイを延期したい場合があるかもしれません。NetSupport デプロイでは、あらかじめ設定を準備し、配布実行時に選択することができます。

注意: 配布の実行準備が完了したら、配布先のコンピュータを指定してください。

配布用の設定を用意するには

1. デプロイのメインウィンドウ のメニューから{デプロイ}{設定}を選択します。
2. 配布一覧ダイアログが表示されます。配布オプションを選択します。(パッケージ、クライアント設定、ライセンスファイルまたはアンインストール)
3. プロパティをクリックし、必要な設定を入力します。
4. すべての設定を入力してデプロイのメインウィンドウに戻るには、[閉じる] をクリックします。

配布を実行するには

1. 配布先のコンピュータを選択します。「デプロイを準備する」を参照してください。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{デプロイ}を選択します。
または
選択したコンピュータを右クリックして、[デプロイ] を選択します。
3. 必要な配布オプションを選択します。
4. デプロイのまとめダイアログが表示され、あらかじめ設定しておいた選択項目が表示されます。必要ならば、編集することができます。
5. 配布を開始するには、[デプロイ] をクリックします。

ログファイル

NetSupport デプロイを使用すると、パッケージのインストール、ライセンスの更新、設定のダウンロードまたはアンインストールの各配布に関する情報を記録します。このツールを使うたびに前回何を配布したか確認できます。情報はログファイルに保存されます。

ログファイルを表示するには

1. NetSupport デプロイのメインウィンドウ から [ログファイル] タブを選択します。



2. メインウィンドウの左ウィンドウ内のツリーを展開または縮小して各配布の種類、配布日時、配布先を表示します。
3. 左ウィンドウで選択した項目の配布情報が右ウィンドウ内に表示されます。

ログファイルを印刷する

1. ツリー内で印刷したいログファイルを選択します。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{ログ}{印刷}を選択します。

ログファイルを削除する

1. ツリー内で削除したいログファイルを選択します。
2. デプロイのメインウィンドウのメニューから{ログ}{削除}を選択します。

Mac ベースのシステムに NetSupport Manager をインストールする

Mac から他のワークステーション/デバイスを遠隔操作したり、コントロールがリモートユーザーに接続し画面を表示し、様々な遠隔操作タスクを実行できる NetSupport Manager コントロールとクライアントを Mac システムにインストールすることができます。

注意:

- NetSupport Manager Mac クライアントは macOS 10.5 またはそれ以降のバージョンに対応しています。また、新しい Intel ベースのシステムの対応を含む Mac ユニバーサルバイナリを提供しています。
 - macOS 10.14 - 11 の最新バージョンをサポートするために特定の「クライアント」が利用可能です。
-

NetSupport Manager Mac クライアントをインストールする

1. NetSupport Manager は、標準の macOS .pkg ファイルとして提供されます。
www.netsupportmanager.com/downloads.aspにてダウンロードが可能です。(インストール方法の解説もそこでダウンロード可能です。)
2. .pkg ファイルをダウンロードし、ダブルクリックしてパッケージを実行します。
3. インストーラは自動的に実行されるので、画面の指示に従ってください。

現在対応している機能は、NetSupport Ltd 社のホームページで確認することができます。

Google Chrome OS デバイスに NetSupport Manager のインストールと設定

NetSupport Manager は、Google Chrome OS デバイス用のリモートコントロール機能を提供します。

Google Chrome 拡張用 NetSupport Manager クライアントが Google Chrome OS が実行されている各クライアントマシンにインストールされます。技術者のデスクトップから、素早く効率的に各クライアントを監視し対話することができるように各システムに接続できます。

インストールを計画する

NetSupport Manager コントロールが Chrome OS デバイスと接続し対話できるようにするには、NetSupport 接続サーバが Windows サーバにインストールされている必要があります。NetSupport Manager コントロール (Windows、Mac またはモバイル) が技術者のコンピュータにインストールされている必要があります。NetSupport Manager Chrome クライアント拡張が各 Chrome デバイスにインストールする必要があります。

Chrome OS 用 NetSupport Manager クライアントには既存の既に購入した NetSupport ライセンスが使用されます (十分な未使用のライセンスをお持ちの場合に限り)。または追加 Chrome OS クライアントだけを NetSupport 販売店から購入することができます。

Google Chrome 拡張用 NetSupport Manager クライアントのインストールと設定

1. Google Chrome 拡張用 NetSupport Manager を[Google Chrome](#)ストアからダウンロードします。
2. 「拡張」設定ページにアクセスするための URL `chrome://settings/extensions` を入力します。
3. Google Chrome 拡張用 NetSupport Manager クライアントの場所を開き、オプションをクリックします。
4. ゲートウェイのアドレスとのポート番号を入力します。
5. 必要に応じて、このクライアントを識別する名前を入力します。
6. 保存をクリックします。

Chrome インコグニートモード:

クライアントのフル制御を維持するには、Chrome OS ユーザー設定でインコグニートモードを「許可しない」ことを推奨します。これは、Google 管理コンソール経由でセントラルで実行できます。

Chrome OS「クライアント」システムに接続時の主な機能:

環境

- NetSupport Manager コントロールは、HTTP 経由で Chrome 用 NetSupport Manager クライアントが実行している Google Chrome OS デバイスと通信します。希望のコンポーネントのインストールや設定のヘルプは下記ドキュメントを参照してください。

リモートコントロール

- 各 Chrome OS クライアント画面の鮮明なサムネイルが単一ビューでコントロールに表示することができます。
- クライアントの画面を気づかれずに監視（観察モード）やリアルタイムでリモートコントロール（共有モード）することができます。
- リアルタイムの指導やデモに、Chrome OS クライアントをコントロール（Windows または Mac）画面にブラウザタブか全画面表示モードで表示することができます。
- クライアントにコントロールのデスクトップのアプリケーションを表示させることができます。
- マルチモニタのサポート - マルチモニタを実行している Chrome OS デバイスを監視。
- クライアントのマウスとキーボードをリモートで「ロック」することができます。
- Chrome OS クライアントはコントロールが開始するテキスト「チャット」に参加できます。
- Chrome OS クライアントはコントロールが送信したメッセージを受信することができます。

サポートツール

- リモートクリップボード - 画面受信中にクライアントのクリップボードの内容をリモートでコントロールが取得することができます。コントロールのクリップボードのコピーをクライアントに送信することもできます。
- ヘルプ依頼ファシリティ - クライアントはコントロールにヘルプの依頼を送信することができます。

柔軟性

- PIN 接続 - 中央の PIN サーバモジュールを介して双方が一致する PIN コードを入力することでクライアントはコントロールと即時に接続を開始することができます。

セキュリティ

- ユーザー承認 - クライアントは受信した各接続要求を承認することができます。

NetSupport Manager Android クライアントのインストールと設定

NetSupport Manager Android クライアントアプリは、既存の NetSupport Manager コントロールユーザーに企業全体で使用されている Android タブレットやスマートフォンに接続する機能を提供し、リアルタイムの対話とサポートを可能にします。

NetSupport Manager クライアントアプリは Android タブレットで動作し、[Google Play](#)ストアから無料で入手可能です。

NetSupport Manager Android クライアントのセットアップと設定

NetSupport Manager クライアントアプリを起動し、 を押し設定を選択します。

全般

デバイスの名前を表示します。あなたが選んだ名前にカスタマイズすることができます。

セキュリティ

セキュリティキー

同じセキュリティキーが設定されているコントロールだけしか接続できないようになります。この項目はオプションです。ここにセキュリティキーを設定しない場合、コントロールで設定したセキュリティキーに関係なく、どのコントロールも接続できます。

TCP/IP

デフォルトポート

NetSupport Manager 用のデフォルト登録されているポートは 5405 です。

マルチキャストアドレス

これは、クライアントが受信する IP マルチキャストアドレスです。

HTTP

ゲートウェイを使用する

起動時にクライアントの現在の IP アドレスが指定された「ゲートウェイ/ネームサーバー」に登録したい場合は、このオプションを有効にします。一致するセキュリティキーと一緒にゲートウェイの IP アドレスを入力します。

PIN Server

クライアントが PIN 接続を使用して接続できるように、PIN サーバーがインストールされているワークステーションの IP アドレスを入力します。

構成設定を保存するには、 を選択します。

Android タブレットやスマートフォンに接続する際の主な機能:

- **PIN 接続:** NetSupport Manager の PIN 接続機能は、一致するコードを共有することにより、クライアントデバイスとコントロール間のシームレスで安全な接続を可能にします。(NetSupport の PIN サーバモジュールは、NetSupport Manager に標準付属しており、Windows PC にインストールする必要があります)。
- **メッセージ:** クライアントデバイスは、コントロールユーザーが送信したテキストメッセージを受信することができます。
- **チャット:** クライアントとコントロールの双方は、1 対 1 のテキストチャットを開始することができます。クライアントは、コントロールが開始されたグループディスカッションに参加することもできます。
- **ファイル転送:** コントロールユーザーは、柔軟性と作業性を向上するためにクライアントデバイスとファイルを転送することができます。
- **画面キャプチャ:** リモートコントロール中に、コントロールは、問題解決を支援するためのクライアントデバイスのスクリーンショットをキャプチャすることができます。
- **WiFi/バッテリー表示:** 現在の無線ネットワークの状態を確認し、接続している各デバイスバッテリー残量を表示します。

さらにサポートされるデバイスのために:**

- コントロールは、接続されている Android デバイスのサムネイルを表示することができます。
- 拡大して、選択したクライアントデバイスの大きなサムネイルを拡大表示します。
- コントロールは、慎重に画面を表示(観察モード)または接続しているクライアントデバイスの画面をリモートコントロール(共有モード)することができます。

**サポートされているデバイスは、デバイスの画面監視に必要な追加のアクセス権を提供しているベンダーからのものです。

iOS および Android 用 NetSupport Manager コントロール

iOS および Android 用 NetSupport Manager コントロールは、既存の NetSupport Manager リモートユーザーのために iPad、iPhone、iPod、Android タブレットおよびスマートフォンまたは Kindle Fire からリモートでモバイルリモートコントロールを提供します。

新しいモバイルコントロールは、ユーザーが IP アドレスまたは PC 名のいずれかでローカル検索し接続することができ、または無料の NetSupport Manager インターネットゲートウェイコンポーネントを利用してリモートコンピューターを検索、接続そして表示することができます。

The NetSupport Manager コントロール既存の NetSupport Manager クライアントを実行しているリモート PC のフルリモートコントロール、チャットそしてメッセージ機能を提供します (version 11.04 またはそれ以降)。

NetSupport Manager Mobile App は、[Google Play](#)、アップルの [iTunes Store](#)、[Amazon](#) アプリストアからダウンロードすることができます。

コントロールを使用する

この章では ...

コントロールユーザが使用できる様々な機能をご紹介します。リモートコントロールセッションの開始方法からエンドユーザーのデスクトップの操作の管理方法まで説明します。

NetSupport コントロールを起動する

NetSupport Manager コントロールプログラムを起動するには

1. NetSupport プログラムグループの NetSupport コントロールのアイコンをダブルクリックします。
または
NetSupport Manager コントロールのデスクトップアイコンをクリックします (コントロールのデスクトップアイコンをインストールした場合)。
または
オペレーティングシステムから {スタート} {NetSupport} {NetSupport コントロール} を選択します。

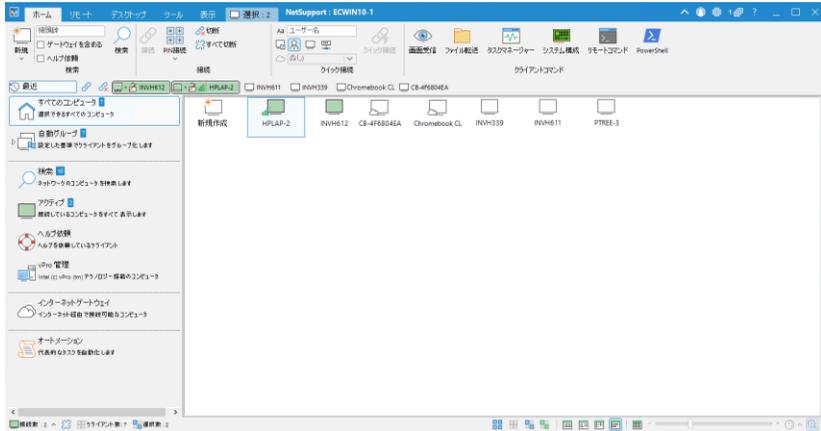
NetSupport Manager が初期化すると、画面中央に NetSupport のロゴとバージョン情報が表示されます。NetSupport Manager の読み込み中に数秒間だけ表示されます。その後、コントロールウィンドウが表示され、ようこそウィザードが表示されます。ここから、使用するネットワークプロトコルを設定したい、スタートガイドを表示したり、このバージョンの NetSupport Manager の新機能を確認することができます。コントロールプログラムをただ起動するには、開始をクリックします。

注意: デフォルトではコントロールは TCP/IP プロトコルを使用するように設定されています。同時に複数のプロトコルにも対応しています。コントロールの起動時にプロトコル エラー メッセージが表示された場合、または異なるプロトコルで動作するクライアントをサポートするようにコントロールを構成したい場合は、ようこそウィザードで構成をクリックするか、コントロールウィンドウのキャプションバーにある **現在の構成の設定を変更する** アイコンをクリックして、接続セクションに移動します。

コントロールウィンドウ

コントロールウィンドウは: -

- コントロールの設定
- クライアントに接続
- クライアント情報の管理
- 作業をするクライアントの選択
- 実行するタスクの選択



キャプションバー

キャプションバーは、コントロールウィンドウにいることを示し、NetSupport Manager コントロールワークステーションの名前を表示します。次のオプションを使用できます:



リボンを表示または非表示にします。



NetSupport Manager を使用すると、異なるコントロールユーザーに対して複数のプロファイルを設定できます。ここで、プロファイルを作成および管理できる設定ダイアログにアクセスできます。



現在のコントロール構成 (プロファイル) の設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプや一般的なバージョン、ライセンスは、テクニカルサポートおよび圧縮情報にアクセスします。

リボン

リボンから、すべての機能、ツール、設定にアクセスできます。アイコンにカーソルを合わせると、その機能の簡単な説明が表示されます。リボンは次のタブで構成されています：

- **ホーム**

クライアントの閲覧、検索、および接続に必要なツールにすばやくアクセスできます。ここでは、よく使用されるいくつかのクライアントコマンドにもアクセスできます。

- **グループ**

NetSupport Manager 内のグループ機能へのアクセスを提供します。ここから、クライアントのグループに接続し、整理し、タスクを実行できます。

注意： このタブは、グループが選択されている場合にのみ表示されます。

- **リモート**

ここには、表示、ファイル転送、電源オン/オフ、巡回などのリモートおよび管理機能があります。チャット、メッセージ、オーディオ機能を使用してクライアントと通信することもできます。

- **デスクトップ**

ここから、自分の画面やアプリケーションをクライアントに表示したり、リプレイファイルを記録および再生したり、メッセージやアナウンスをクライアントに送信したりできます。

- **ツール**

ファイルマネージャ、ファイル配布、ユーザー定義ツールなどの追加ツールへのアクセスを提供します。

- **表示**

リストビューとツリービューの外観をカスタマイズし、ツリービューでクライアントとオブジェクトを検索できます。

注意： クライアントを選択すると、タブがリボンに表示され、クライアント名が表示されます。ここから、さまざまなツールにアクセスでき、クライアントマシンの詳細を表示および編集できます。複数のクライアントを選択すると、選択タブが表示され、選択したすべてのクライアントに対して機能を実行できます。

クイックアクセス バー

クイックアクセス バーは、最近接続したクライアント/グループを表¥示することができます。ここから、クライアントへの接続や画面表¥示などを含むよく使う機能を実行できます。

注意: 最近をクリックするとドロップダウンメニューが表¥示され、最近の接続と定義済みのグループを切り替えることができます。

ツリービュー

ツリービューでは、クライアントやグループなどの NetSupport オブジェクトを作成、表¥示、整理します。オブジェクトの各セットは独自のフォルダーに保¥存され、フォルダーを選択すると、その内容が隣接するリストビューに表¥示されます。

リストビュー

リストビューはツリービューで選択したフォルダの内容を表¥示します。大きいアイコン、小さいアイコン、一覧表¥示、詳細表¥示、またはサムネイル表¥示に表¥示モードを切り替えることができます。リストビューの情報¥は関連情報¥にカスタマイズして表¥示することもできます。

ステータスバー

コントロールウィンドウの下部¥にステータスバーが表¥示されます。ツリービューで選択したフォルダ内のアイテムの数と、接続されているクライアントの数が表¥示されます。また、操作するオブジェクト、リストビューでの表¥示方¥法を選択し、サムネイル設定にアクセスすることもできます。

コントロールウィンドウ – ツリービュー

ツリービューは色々な NetSupport オブジェクトに関する情報のアクセスポイントです。オブジェクトは個々のクライアント、グループ、もしくはクライアントが作成したヘルプ要請などになります。コントロールウィンドウのツリービューに表示できるように各オブジェクトはそれぞれフォルダに保存されます。



フォルダ内の個々のオブジェクトは、隣接するリストビュー内に表示されます。[アクティブ] フォルダを選択すると、リストビュー内に現在の接続しているすべてのクライアントを表示します。

ツリービューは、フォルダーの左側にある  アイコンをクリックすることで(必 K 要な詳細に応じて)拡大または縮小できます。

注意:

- 必 K 要に応じて、ツリービューのアイテムの高さを低くすることができます。リボンの表¥示タブを選択し、**コンパクトモードアイコン**をクリックします。
- ツリービューを非表¥示にして、リストビューでオブジェクトを操作するときにスペースを増やすことができます。リボンの表¥示タブを選択し、**ツリーの表¥示アイコン**をクリックします。

利用可能なフォルダ:

すべてのコンピュータ

今まで接続したことがある全てのクライアントの一覧です。このフォルダから簡単に素早く目的のクライアントに接続が可能です。最初の検索を実行したり、クライアントのネットワークアドレスを覚えておく必要がありません。

個々のクライアントをグループで管理することができます。グループにクライアントを所属させると、コンピュータごとに接続して選択する必要がなく、グループ全体として同時に接続や作業をすることができます。

すべてのコンピュータの横にある  アイコンをクリックすると、作成されたグループが表\示されます。

自動グループ

クライアントが使用しているオペレーティングシステム、NetSupport Manager クライアントバージョン、デバイスの種類およびクライアントの場所が一目でわかるように予め定義した基準でクライアントは自動的にグループ化されます。これらのグループは固定で修正することはできません。しかし企業組織図に反映するようにオリジナルのグループを作成することができます。

検索

現在のセッションで、検索を実行して見つかったクライアントの一覧です。このフォルダからクライアントに接続すると、今後使用できるようにすべてのコンピュータに保存されます。

アクティブ

現在、接続中のクライアントがこのフォルダに表示されます。

ヘルプ要求

NetSupport には、クライアントユーザーがヘルプの要請を送信できる機能がクライアント側に用意してあります。コントロールは、受信したクライアントからのヘルプ要請を様々な方法で通知を受けることができます。すべてのヘルプ要請メッセージを受信するようにコントロールが設定されている場合、ヘルプ要請フォルダが青色に切り替わりすぐにコントロールに通知されます。ビープサウンドで受信することもできます。ヘルプ要請を受信可能な状態である場合のコントロールへの通知方法を変更するには、コントロール設定のヘルプ要請タブで調整します。

vPro 管理

NetSupport Manager は、vPro 搭載コンピュータを検索し、様々な機能を実行することができます。すべての vPro 搭載コンピュータがリスト表示内に表示されます。

検索

ツリービューでクライアントとオブジェクトを検索すると、ここに結果が表\示されます。検索を実行したときだけ、このフォルダは表\示されます。

リモートネットワーク

ダイヤルアップで接続しなくてはならないクライアントを表示します。別のビルの LAN 内のクライアントやスタンドアローンのコンピュータの可能性もあります。どちらもリモートネットワークとして表示され、ダイヤルアップするための電話番号と接続の種類情報がこのフォルダ内に保存されます。

デフォルトでは、このフォルダは非表\示です。これを表\示するには、キャプションバーの**現在の構成の設定を更**  アイコンをクリックします。**コントロールインターフェイス** - 設定を選択し、**ダイヤルディレクトリを非表\示**チェックボックスをオフにします。

インターネットゲートウェイ

ゲートウェイの主な役割は異なるファイアウォール配下に存在する PC 同士をシームレスなリモートコントロールを実現させることです。ゲートウェイはウェブベースのリモートコントロールをファイアウォールの設定を変更せずに行えます。また http ベースのクライアント接続を安全で安定した接続方法を提供しています。

ゲートウェイのリストがここに表\示され、ゲートウェイを追加、編集、および参照できます。

オートメーション

NetSupport スクリプトエディタで作成したスクリプトをこのフォルダに追加することができます。リストビューは、各スクリプト名を表示、に新しいスクリプトを一覧に追加することができます。

注意: ツリービューに表\示する必 K 要のないフォルダーを非表\示にできます。キャプションバーの**現在の構成の設定を更**  アイコンをクリックします。**コントロールインターフェイス** - 設定を選択し、非表\示にするオプションを選択します。

コントロールウィンドウ - リストビュー

リストビューは、ツリービューのフォルダに対応した内容を表示します。例えば、[アクティブ] フォルダを選択すると、リストビューには、現在の接続中のクライアントの詳細が表示されます。同様に検索を実行した場合は、検索結果が表示されます。

ツリービューを非表示にすると、リストビューを展開して、作業スペースを増やすことができます。リボンの表\示タブを選択し、**ツリーの表\示**アイコンをクリックします。これをもう一度クリックすると、ツリービューが表示されます。

リボンの表\示タブを選択し、リストセクションの適切なアイコンをクリックするか、ステータスバーの適切なアイコンをクリックすることで、操作するオブジェクトとリストビューでの表示方法を簡単に選択できます。

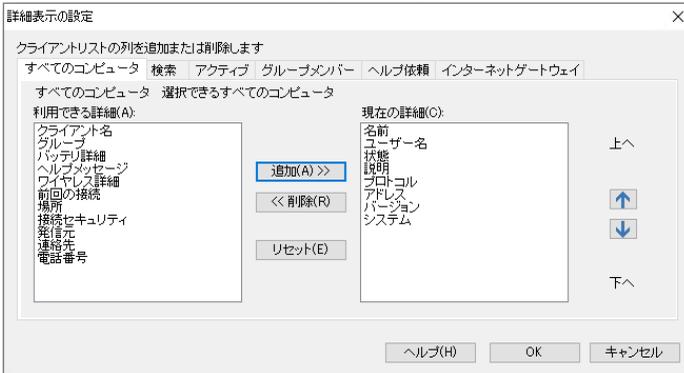
大きいアイコンで表示すると、オペレーティングシステム、WiFiとバッテリー表示と位置の旗(有効な場合)が表示されます。詳細表示はWiFiとバッテリー表示をクライアントアイコンの隣に表示します。詳細表示で表示カラムをカスタマイズするに詳細情報があります。

デフォルトでは、クライアントの場所のフラグが有効になっています。これらを無効にするには、キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**  アイコンをクリックします。**コントロールインターフェイス - 設定**を選択し、**クライアントの場所を表示**チェックボックスをオフにします。

注意: デフォルトでは、リストビューでクライアントをダブルクリックすると、画面表示ウィンドウが開きます。コントロール構成 - コントロールインターフェイス設定で実行されるアクションをカスタマイズできます。

リストビューをカスタマイズするには

1. リボンの表\示タブを選択し、**列**をクリックします。
または
リストビューの空白の領域を右クリックして、**列**を選択します。
2. 詳細表示の設定が表示されます。



トップに表示されているタブは NetSupport コントロールで利用できる各クライアントリストウィンドウに関連しています。

希望するタブを選択して、追加可能なコラムが左ウィンドウに表示されます、右ウィンドウには既に選択されているコラムが表示されます。単純に表示させたいコラム名を選択して [追加]、または [削除] をクリックします。

ウィンドウ右端の矢印は各カラムが表示される順番を調整するために使用します。高いリストは一覧表示の左からの位置を表示します。

注意: 詳細ビューで表示している場合、列見出しにフィルターを適用して、特定のクライアントを簡単に検索できます。リボンの表示タブを選択し、フィルターバーアイコンをクリックします。

クイックアクセス バー

ここから、クライアントの詳細の概要とクライアント接続や表示といった使用頻度の高い機能を実行できます。

最近をクリックするとドロップダウンメニューが表示され、クイックアクセスバーを最近の接続と事前定義されたグループの間で切り替えることができます。

クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLS または暗号化が有効かどうかを示します）が、クイックアクセスバーのクライアントの横に表示されます。表示内容をカスタマイズできます。クイックアクセスバーを右クリックして、クライアントのログオンユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意：ここでクライアントの表示オプションを変更すると、キャプションバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

 をクリックしてすべてのクライアントに接続し、 をクリックしてすべてのクライアントから切断します。

クイックアクセスバーを非表示にするには

クイックアクセスバーはデフォルトで表示されますが、必要に応じて非表示にできます。

1. リボンの表示タブを選択し、**クイックアクセス**をクリックします。

注意：もう一度クリックすると、クイックアクセスバーが表示されます。

ステータスバー

コントロールウィンドウの下部”にステータスバーが表示されます。ツリービューで選択したフォルダ内のアイテムの数と、接続されているクライアントの数が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているクライアントのリストが表示されます（ここからクライアントを切断することもできます）。デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスとバッテリーのインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLS または暗号化が有効かどうかを示す）が表示されます。表示内容をカスタマイズできます。**接続済み**を右クリックして、クライアントのログオンユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意：ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、キャプションバー、およびサムネイルの拡大時にも変更されます。

クライアントが切断されると、**接続アイコン**が赤に変わり、通知されます。リストを開くと、切断されたクライアントを確認でき、再接続するか、リストから削除するかを選択できます。

接続されているすべてのクライアントを切断するには、 をクリックします。

適切なアイコンをクリックすると、リストビューで操作する対象を簡単に選択できます：



- すべての対象を選択します。
- 接続されているすべてのクライアントを選択します。
- 現在の選択を逆にします。
- 選択した対象をクリアします。

リストビューに表示されるアイテムの外観は、適切なアイコンをクリックすることで、大アイコン、小アイコン、一覧、詳細、およびサムネイルの間で切り替えることができます：



- 詳細表示。
- 一覧表示。
- 小アイコン表示。
- 大アイコン表示。
- サムネイル表示。

サムネイル表示の場合、スライダーを使用してサムネイルのサイズを調整します。

 をクリックしてサムネイルの更新頻度を調整します。デフォルトでは、サムネイルにマウスを合わせると、クライアントの画面が拡大されます。 をクリックしてこれをオンまたはオフにします。

クライアントを検索する

ビューウィンドウを開いてリモートコントロールやファイル操作を行う前にまず最初にクライアントに接続しなくてはなりません。

あらかじめ、すべてのクライアント名とそのネットワークアドレスがわからなくても、NetSupport Manager は、自動的にクライアントを検出する検索機能を搭載しています。

ブラウズを実行すると、コントロール は設定した全てのプロトコル 上にメッセージを送信します。コンピュータ名とネットワークアドレス とプロトコルを“サインイン”するように全てのクライアントに要求します。

ツリービューの [検索] フォルダに回答したクライアントが追加され、リストビュー内にクライアントの詳細が表示されます。これらのクライアントに接続して一緒に操作することができますし、今後も使用できるようにグループで管理することもできます。

検索機能で見つかったクライアントに 1 度でも接続すると、その情報はツリービューの [すべてのコンピュータ] フォルダに自動的に保存されます。これらのクライアントはクライアントリストに追加され、最初に検索を実行しなくても接続することができます。

注意: NetSupport ゲートウェイ 機能を使ってクライアント接続を確立することもできます。この場合、検索時に [ゲートウェイクライアントを含む] を選択してください。他のネットワーククライアントと同じように [検索] フォルダに表示されますが、クライアントリストには保存されません。

ネットワーク上のクライアントを検索するには

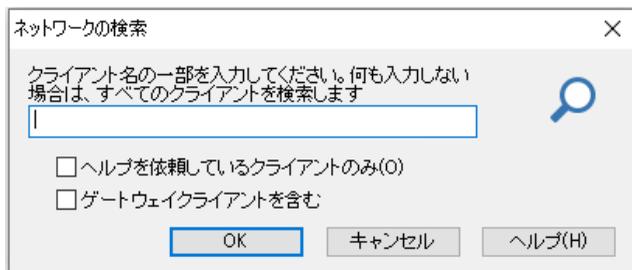
1. リボンのホームタブに移動します。
2. **先頭文字**フィールドにクライアント名を入力します (名前の一部”を入力、もしくはすべてのクライアントを参照するには、空白のままにします)。

注意: 以前のエントリのリストから選択するには、ドロップダウン矢印を選択します。

3. ヘルプ要求をしているクライアントのみ検索やゲートウェイクライアントを検索時に含むといったオプション条件を特定できます。
4. ブラウズをクリックします

または

1. ツリービュー のブラウズフォルダを反転させ、リストビューの「クライアント検索」アイコンをクリックします。
2. ブラウズダイアログが表示されます。



部分的なクライアント名を入力もしくは入力せずに全クライアントをブラウズする

ここにクライアント名の最初の部分を入力して検索範囲を絞ります。ネットワーク上にクライアントが多数存在する場合、特定の単語や文字で始まるクライアントに絞ることができます。ADMIN で始まるクライアントが存在する場合、入力すると ADMIN1、ADMIN_OFFICE、ADMINISTRATOR といったクライアントを検出します。接続可能な全クライアントを検索する場合は、このフィールドに何も入力しないでください

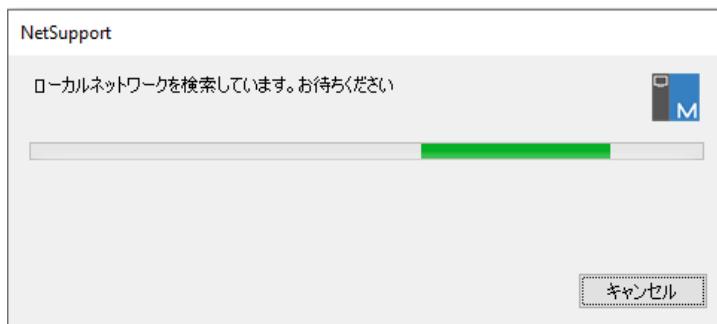
ヘルプ要請のクライアントだけ

ヘルプ要請のクライアントだけを検索する場合は、このボックスにチェックをします。

ゲートウェイクライアントを含む

検索時にゲートウェイクライアントも含む場合は、このボックスにチェックをします。

検索を開始するには [OK] をクリックします。インフォメーションボックスはコントロールがクライアントを検索中であることを通知します。



クライアント検索を中止するには、[キャンセル] を押します。[検索] フォルダ内に検索条件に一致するネットワーク上の接続可能なクライアントの一覧が表示されます。右クリックで個々のクライアントに接続、プロパティの表示、または操作を実行することができます。

NetSupport Manager は条件に一致する全クライアントをネットワーク検索します。希望するクライアントが見つからなかった場合、NetSupport Manager がそのネットワークを検索するように設定されていない可能性があります。詳細はサブネット検索用に NetSupport Manager コントロールを設定するを参照してください。

ゲートウェイクライアントのみを参照する場合は、ツリービューの**インターネット ゲートウェイ**フォルダーからゲートウェイを選択すると、リボンの参照セクションがゲートウェイクライアントのみを検索するように変換されます。または、リストビューで**ゲートウェイの参照**をダブルクリックします。この方法で参照されたクライアントは、参照フォルダには表示されません。

NetSupport Manager は、クライアントの詳細がわからなくてもクライアントを素早く特定し接続できる PIN 接続機能を提供します。PIN サーバは、コントロールとクライアントが接続を確立するために入力する固有の PIN コードを生成します。

注意: 表\示タブの検索セクションに検索条件を入力して、ツリービューで既存のクライアントを検索することもできます。

クライアントに接続する

クライアントをリモートコントロールする前に、必ずクライアントに接続してください。

クライアントに接続するには

1. **すべてのコンピューター**または**参照フォルダー**で、接続するクライアントを選択します。
2. リボンの[ホーム]タブを選択し、**接続**をクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックして[接続]を選択します。
または
クライアントアイコンをダブルクリックするとただちにビューを開始します。

クライアントプロファイルクライアントプロファイルで設定した同一のユーザーIDとパスワードでなくてはなりません。ルが有効な場合、ユーザーIDとパスワードを入力する必要があります。

PIN 接続を使用してクライアントに接続する

NetSupport Manager は、PC 名や IP アドレスがわからなくても素早く簡単にクライアントに接続する方法を提供します。PIN サーバは固有の PIN コードを生成します。クライアントとコントロールがこれを入力すると接続が確立されます。

注意: PIN サーバはこの機能を使用するクライアントとコントロール両方で設定する必要があります。

PIN サーバのインストールと設定

PIN サーバはスタンドアローンのコンポーネントとしてマシンにインストールまたは他の NetSupport Manager コンポーネントと一緒にインストールすることができます。

PIN サーバコンポーネントをインストールするには、NetSupport Manager インストールの種類を選択するときカスタムを選ぶ必要があります。

クライアント設定

1. 基本または高度のクライアント設定から {接続 - PIN サーバ} を選択します。
2. PIN サーバマシンの IP アドレスとポート (デフォルトは 443) を入力します。
3. PIN サーバ接続にプロキシサーバを使用している場合は、サーバのアドレスと適切なポートを入力します。

注意: このオプションは、Windows8 以前のマシンにのみ適用されます。
Windows 8.1 以降のマシンは、Windows の設定で設定された自動プロキシを使用します。

4. NetSupport ゲートウェイと同じ設定を使用するには、**コピー** をクリックします。
5. **OK** をクリックします。

コントロール設定

1. キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**  アイコンをクリックします。
または
設定を特定のプロファイルに適用するには、キャプション バーの**プロファイル**  アイコンをクリックします。
または
リボンの [ホーム] タブを選択し、**PIN接続** をクリックしてから、**PINサーバー設定** をクリックします (手順 2 は省略できます)。
2. **接続 - PINサーバー** を選択します。
3. PINサーバマシンの IPアドレスとポート (デフォルトは443)を入力します。
4. PINサーバ接続にプロキシサーバを使用している場合は、サーバのアドレスと適切なポートを入力します。

注意: このオプションは、Windows8 以前のマシンにのみ適用されます。
Windows 8.1 以降のマシンは、Windows の設定で設定された自動プロキシを使用します。

5. NetSupport Managerゲートウェイと同じ設定を使用することができます。必要なゲートウェイを選んでコピーをクリックします。
6. OK をクリックします。

コントロールから PIN を生成する

1. リボンのホームタブを選択し、**PIN 接続**をクリックします。
2. PIN を作成をクリックします。
3. PIN サーバが固有のコードを生成します。指示があったら、クライアントは PIN を入力し、接続を確立します。

注意: 適切なアイコンをクリックすると、PIN コードをクライアントに電子メールで送信するか、クリップボードにコピーすることができます。

クライアントから PIN を生成する

1. クライアントが PIN コードを通知します。
2. リボンのホームタブを選択し、**PIN 接続**をクリックします。
3. PIN を入力します。
4. キーパッドが表示されます。PIN コードを入力して接続をクリックします。

クライアントから PIN を生成する

1. システムトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックします。
2. クライアント情報ウィンドウが表示されます。
3. PIN を作成をクリックします。
4. PIN サーバが固有のコードを生成します。通知されたら、コントロールは PIN を入力し、接続を確立します。

注意: 適切なアイコンをクリックすると、PIN コードを制御に電子メールで送信するか、クリップボードにコピーすることができます。

クライアント側で PIN を入力する

1. コントロールはクライアントに PIN コードを通知します。
2. システムトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックします。
3. クライアント情報ウィンドウが表示されます。
4. PIN を入力します。
5. キーパッドが表示されます。PIN コードを入力して接続をクリックします。

クイック接続

クイック接続は、ネットワーク検索を実行してリストビューから接続したいクライアントを選択するという手間を省いて、**クライアント名**、**ログイン名**、もしくは**ネットワークアドレス**でクライアントリストのクライアントに直接接続できます。

NetSupport ゲートウェイ 経由の HTTP/HTTPS 接続が設定されているクライアントも選択することができます。

クライアントに直接接続するには

1. リボンのホームタブに移動します。
2. クイック接続セクションで、クライアントのマシン名、ログオンユーザー名、またはネットワークアドレスをテキストフィールドに入力し（ドロップダウン矢印をクリックして前のエントリのリストから選択します）、必要な**接続方法**アイコンを選択します。:



ログオンユーザー名で接続。

マシン名で接続。

IP アドレスで接続。

注意: ゲートウェイ経由の HTTP/HTTPS 接続が設定されているクライアントは、名前またはユーザ名の他に該当するゲートウェイ名を一覧から選択する必要があります。

3. **クイック接続**をクリックします。
4. 指定したクライアントに NetSupport が接続を試みているダイアログが表示されます。

接続が成功すると、[アクティブ] フォルダが開き、クライアントの詳細がクライアントの状態に表示されます。ビュー画面を表示、1 対 1 またはグループ作業ができるようになります。

注意 ユーザ名で接続する場合、この条件に該当するクライアントのコンピュータが複数存在すると、選択できるようにクライアントの一覧が表示されます。

異なるプロトコルのクライアントに接続する

NetSupport は複数の通信プロトコルでクライアントに接続ができます。サポートされているトランスポートは、IPX および NetBIOS のレガシーサポートを備えた TCP/IP および HTTP です (NetBIOS 内には、8 つの論理アダプターがあります)。

クライアントのトランスポートは、基本または上級クライアント設定の接続セクション内で構成およびテストできます。

コントロールが検索を実行すると、設定したすべての通信プロトコルを検索します。クライアントが見つかったら、それらを強調表示し、リボンのホームタブで接続をクリックして接続できます。

異なるプロトコルのクライアント接続でもコントロールは共存できます。ファイル配布、ショー そして 巡回 などの操作は異なるプロトコル上で動作します。

クライアントが特定のプロトコルのみを使用している場合は、そのプロトコルだけを設定しておけば、コントロールの初期化にかかる時間を若干短縮することができます。

サブネットを検索できるように NetSupport コントロールを設定する

ほとんどの企業ネットワークはエンドユーザがネットワークリソースにアクセスできるように小規模ネットワークの集合体となっています。NetSupport Manager はあるネットワーク上の NetSupport Manager のインストールが別の内部接続しているネットワーク上のコンピューターをリモードで管理できるような特徴を取り入れています。WAN によってリモート LAN への接続が提供されている場合、デフォルト設定の NetSupport Manager では、リモート LAN 上のコンピューターを管理することができます。

しかし、NetSupport Manager コントロールがリモート LAN 上のクライアントを検索できるようにするには設定をいくつか変更する必要があります。必要な設定変更は NetSupport Manager で使用するネットワークプロトコルによります。WAN でよく使用される一般的な通信プロトコルは TCP/IP と IPX です。

IP サブネットを検索できるように NetSupport Manager コントロールを設定する

リモート IP サブネットを検索するように設定する前に、IP アドレスがどのように成り立っているのか理解し、特にブロードキャストアドレスとは何かを理解すると大変役に立ちます。検索したいサブネットごとに IP ブロードキャストアドレスを計算する必要があります。コントロールがインストールされているローカルサブネットアドレスもブロードキャストアドレスも含まれます。詳細に関してはテクニカルレファレンスの「**IP アドレスを理解する**」を参照してください。

IP サブネットを検索するように NetSupport コントロールを設定するには

1. キャプションバーの**現在の構成の設定を変更** アイコンをクリックします。
または
設定ファイルを編み集めるには、キャプションバーの**プロファイル** アイコンをクリックします。ファイルを選択してプロトコルとスタートアップ設定をクリックします。
2. [プロトコル - TCP/IP] を選択します。検索の設定を選択します。
3. TCP/IP クライアント検索設定ダイアログが表示されます。
4. [追加] をクリックし、検索したいネットワークのブロードキャストアドレスを入力します。

または

NetSupport がブロードキャストアドレスを計算できるようにするには、[拡張] をクリックしてターゲット IP アドレスとサブネットマスクを入力、もしくはアドレス範囲を入力します。

IP 検索アドレスを入力してください (詳細) ×

サブネット
ターゲット IP アドレス:
サブネットマスク:

アドレス範囲
IP アドレスから:
IP アドレスまで:

ターミナル サービス
IP アドレス:
ポート範囲: >>

マルチキャスト
マルチキャストIPアドレス:

5. [OK] をクリックします。

注意:

- リモートサブネットのアドレスを追加する時は、ローカルサブネットのブロードキャストアドレスも表記されていることを必ず確認してください。そうしないと、検索実行時にローカルのクライアントが検出されません。
 - お使いのネットワークルータによっては、WAN 接続で受信されているブロードキャストパケットを隠します。その場合は、コントロールが正しく設定されていても、リモートサブネットを検索できません。
-

NetSupport 接続サーバ

リモートサポートソリューションの成功のカギは、デバイスがどこにあっても場所を特定し接続できる能力です。NetSupport Manager 豊富な接続方法を標準で提供します。

NetSupport 接続サーバは、インターネット上のすべての NetSupport 接続を管理するセントラルハブです。コンソールから、どの NetSupport 接続コンポーネントがインストール済みで使用中か確認できます。

NetSupport 接続サーバコンソール

NetSupport Manager 接続サーバを開くには、システムトレイ内の NetSupport Manager 接続サーバアイコンを右クリックして開くを選ぶかアイコンをダブルクリックします。

現在接続しているクライアント数の概要が表\示されます。

The screenshot shows the 'NetSupport 接続サーバコンソール' window. At the top, it displays '2 クライアントが接続中 (0 ウェブクライアント)' and '0 台のエージェントが接続しています'. Below this is a table with columns: クライアント, IP アドレス, MAC アドレス, チャンネル, 外部 IP, セキュリティキ..., and サーバ. Two clients are listed: ECWIN10-1 and HPLAP-2.

クライアント	IP アドレス	MAC アドレス	チャンネル	外部 IP	セキュリティキ...	サーバ
<input type="checkbox"/> ECWIN10-1	>10.0.4.158	00155D048...		10.0.4.158	Connectivt...	ECWIN10-1
<input type="checkbox"/> HPLAP-2	>10.0.4.80	68942392C...		10.0.4.80	Connectivt...	ECWIN10-1

詳細情報 ñ はそれぞれのタブで確認できます：

- **特長**

NetSupport Manager 接続サーバのコンポーネントがインストールされているか表\示します。

- **クライアント**

この NetSupport 接続サーバーに現在接続されているすべての NetSupport クライアントと、このサーバーが認識している接続サーバーのリストを表\示します。クライアントの詳細は、接続されている NetSupport 接続サーバーとともに表\示されます。

注意: クライアントが安全な SSL/TLS 接続で実行されている場合、クライアントの横に安全インジケータ  が表\示されます。

- **アクティブセッション**

接続が開始した日付 t と時間と一緒に、NetSupport Manager コントロールと NetSupport Manager クライアント間の現在の接続の一覧を表\示します。

注意: この NetSupport 接続サーバー上のセッションのみが表\示されます。

- **サービス (ネームサーバのみに適用)**

部”屋モードでアクティブ状態の NetSupport School 先生の一覧を表\示します。ネームサーバを通して NetSupport School クライアントが部”屋に接続することができます。

- **サーバー**

この NetSupport 接続サーバーが認識しているサーバーのリストを表\示します。ここから、状態、接続されているクライアントの数、アクティブなセッションなど、サーバーの詳細を確認できます。

注意: クライアント、アクティブセッション、サービスタブのコンテンツをフィルター処理して、特定の条件を満たすアイテムのみを表\示することができます。必 K 要な列見出しの下の [フィルター] フィールドに検索語を入力すると、一致する項目が表\示されます。  をクリックしてフィルターをクリアします。

データのエクスポート

データは .CSV ファイルにエクスポートできるため、さらに分*析できます。データをエクスポートするタブを選択し、ドロップダウンメニューバーから [ファイル][エクスポート] を選択します。

NetSupport 接続サーバの設定を設定するには、ドロップダウンメニューから [ファイル] [接続サーバを設定] を選択します。

NetSupport ゲートウェイでクライアント/コントロールを接続する

NetSupport ゲートウェイの主な役割はファイアウォール配下の PC 間のリモートコントロールを実現することです。HTTP により安定した安全な方法でクライアント/コントロール接続が可能です。既存のファイアウォール設定を変更せずに Web ベースのリモートコントロールが可能です。

特定のポートを開放されていれば接続は可能ですが、大部分の企業はファイアウォールによってインターナルネットワークを守っていると思います。ファイアウォールによって通常の TCP/IP 以外の他の外部接続は制限されてしまいます。そのため NetSupport のコントロール/クライアント接続はブロックされてしまいます。

HTTP/HTTPS プロトコルを使用しコントロールとクライアントの中継をすることで NetSupport ゲートウェイではこの問題を解決しています。

注意:

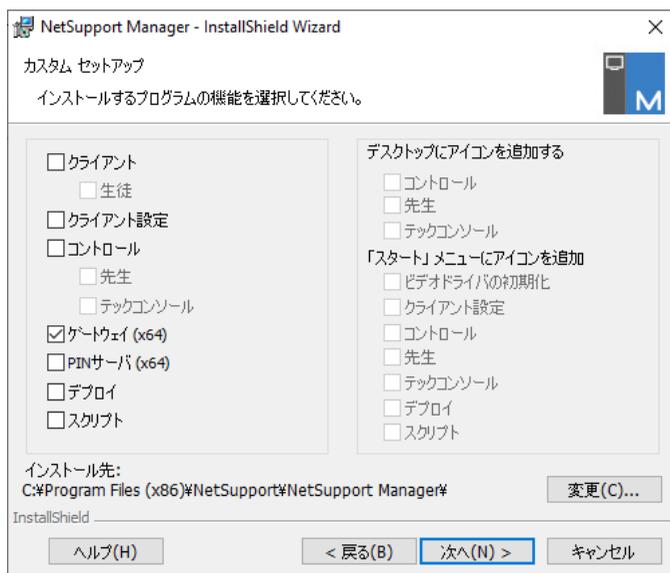
- クライアントとコントロール設定は TCP/IP と HTTP/HTTPS 共に有効にできます。そのためローカル接続は依然として有効です。
 - バージョン 9.10 では、HTTP 通信のデフォルトとしてポート 443 が導入されました。それ以前は 3085 が使用されていました。NetSupport 接続サーバー設定は、今後アップグレード予定の既存のお客様のために保 持され、引き続き 3085 を使用できるようにになっていますがアップグレードしたコントロールとクライアントの操作性を確保 するために、HTTP ポートを手動で再構成が必 要になる場合があります。
-

ゲートウェイのインストール

ゲートウェイはクライアントとコントロールの両方がアクセスできるコンピュータで動作するように設計されています。そのため、固定または静的な IP アドレスを必要とします。

ゲートウェイは、専用のコンポーネントとしてコンピュータにインストール、もしくは他の NetSupport のコンポーネントと一緒にインストールすることもできます。

ゲートウェイコンポーネントをインストールするには、実行する NetSupport Manager インストールのタイプを選択するときに**カスタム**を選択し、ゲートウェイコンポーネントが選択されていることを確認する必 K があります。



ゲートウェイの構成

インストールの最後に、NetSupport 接続サーバー設定ユーティリティが表示され、ゲートウェイのプロパティを設定することができます。次のオプションが利用可能です：

● [全般] タブ

受信ポートとインターフェイス

すべての IP インターフェイスで受信する

NetSupport ゲートウェイは、初期設定では HTTPポート443を使用します。これは、環境に合わせて任意の開いている任意のポートに変更できます。

注意：

- 複数のポートを構成できます。「443,3085C」のように、ポートはコマで区切ります。
- ポート番号の末尾に大文字の「C」を追加すると、「クライアント専用」になります。クライアントマシンのみがこのポートを使用してレポートできます。

- コントロールおよび/またはクライアントがファイアウォールの背後にある場合、お使いのファイアウォールの構成でポート 443 または設定されたポートを有効にする必要があります。
 - バージョン 9.10 では、HTTP 通信のデフォルトとしてポート 443 が導入されました。それ以前は 3085 が使用されていました。NetSupport 接続サーバー設定は、今後アップグレード予定の既存のお客様のために保持され、引き続き 3085 を使用できるようになっていますがアップグレードしたコントロールとクライアントの操作性を確保するために、HTTP ポートを手動で再構成が必要になる場合があります。
-

指定した IP インターフェイスで受信する

複数の IP アドレスを追加、もしくは特定の IP アドレスを入力することができます。[追加] をクリックして IP アドレスを入力します。

Comms. Management Packet Interval

CMPI (秒):

ゲートウェイ接続を設定すると、クライアントはゲートウェイに一定間隔でポーリングして現在のセッション状況を報告します。初期設定では、ネットワークパケットが 60 秒ごとに送信されますが、必要に応じて変更することができます。

イベントログファイル

アクティブセッション中のゲートウェイの動作は、テキストファイルに記録されます。初期設定のファイル名は GW001.LOG です。どのクライアントとコントロールがゲートウェイを経由して接続しているのか確認することができます。

場所:

初期設定では、ログファイルは NetSupport Manager のプログラムフォルダ内に保存されます。例 c:\program files\common files\nsi\connectivity server\GW001.log のようになります。別のパスを指定するには、[参照] を選択します。

最大ファイルサイズ (KB):

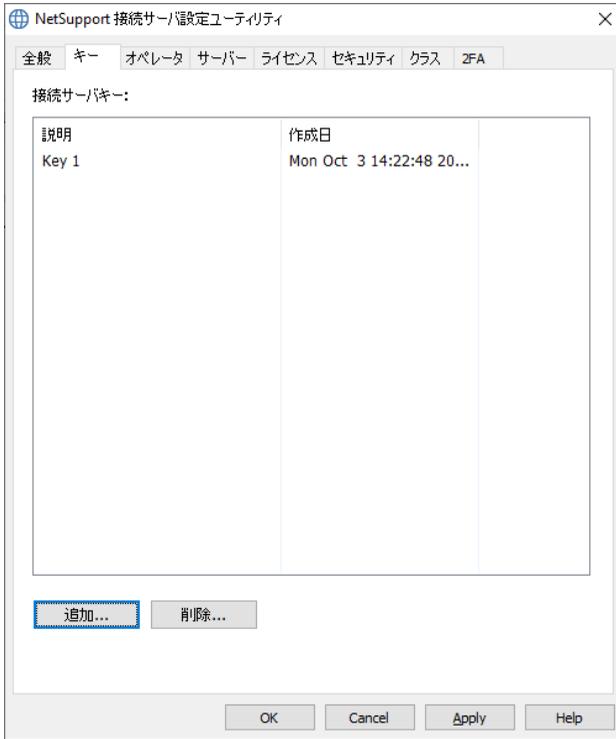
一定の期間を過ぎるとログファイルの容量が大きくなります。最大ファイルサイズを指定することで管理することができます。設定した上限に達した場合、ファイル内の既存の情報は、新しいレコードによって上書きされます。

注意: ログファイル設定の変更を有効にするには、Gateway32 サービスの再起動が必要です。

サービス異常停止後の自動復旧

デフォルトでは、異常なシャットダウンが発生した場合、ゲートウェイサービスは自動的に回復します。

• **[キー] タブ**



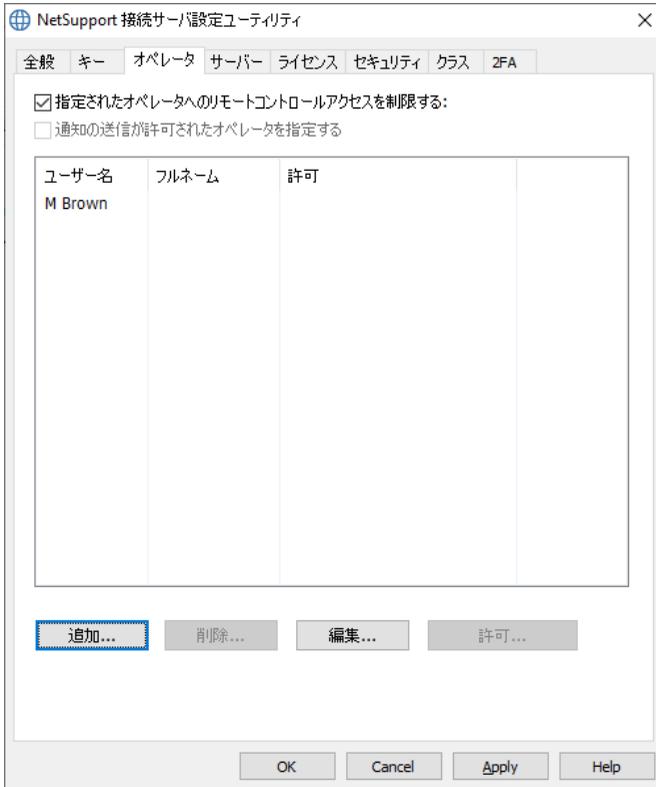
ゲートウェイキー

セキュリティキーと同じ役割をします。[ゲートウェイ キー] を指定しない限り、ゲートウェイはコントロールまたはクライアントからの接続を許可しません。またコントロールとクライアント側にも同一のキーを設定する必要があります。ゲートウェイは、複数のキーに対応していますが、最低でもキーを 1 つ指定してください。

ゲートウェイ キーのデータは、クライアント/コントロールとゲートウェイ間で暗号化されて送信されます。ゲートウェイに接続すると、クライアント/コントロールのセキュリティ、ユーザ名やセキュリティキー等の機能が動作します。

キーを指定するには、[追加] を選択します。キーは、8 文字以上で設定してください。

• [ユーザー] タブ



セキュリティを強化するために、指定したオペレーターへのリモートコントロールアクセスを制限し、ゲートウェイ上のクライアントに接続する前に、二要素認証を使用して自分^a自身を認証するようにオペレーターを設定することもできます。

次のユーザーへのリモートコントロールアクセスを制限する：

このオプションを選択して、指定したオペレーターへのアクセスを制限します。コントロール側でゲートウェイ検索とクライアントへの接続ができるようにユーザー名とパスワードを設定する必K必要があります。

オペレーターの詳細を入力してパスワードを設定するには、**追加**をクリックします。このオペレーターに二要素認証が必Kな場合は、**2FAを必K要とする**を選択します。Duo Pushを使用している場合は、このオペレーターを既存の登録済みDuoユーザー名にリンクできます。

注意:

- 二要素認証が機能するためには、オペレーターは1人のユーザーにのみ関連付けられている必要があります。
- **アカウント/QRコードのリセット**をクリックしてアカウントをリセットし、新しいQRコードをオペレーターに送信します。

● **サーバタブ**

NetSupport 接続サーバ設定ユーティリティ

全般 キー オペレータ **サーバ** ライセンス セキュリティ クラス 2FA

プライマリ接続サーバとして運用する
 クラスターメンバーサーバとして運用する
 負分散クラスターの一部として運用する

キー、オペレーター、およびほとんどの設定への変更は、プライマリサーバからクラスターメンバーサーバにコピーされます。

プライマリ接続サーバ: ポート: 比重:

セカンダリー接続サーバ: ポート:

負分散サーバ:

アドレス	ポート	比重	セカン...
<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 10.0.0.151	443	1000	セカン...
<input checked="" type="checkbox"/> 10.0.0.125	443	600	

追加... 削除... 編集...

OK Cancel Apply Help

デフォルトでは、この接続サーバはスタンドアロンのプライマリ接続サーバに設定されます。この接続サーバをスタンドアロンのセカンダリー接続として設定できます。このサーバは、プライマリ接続サーバが使用できない場合にバックアップとして機能します。負分散接続サーバは、複数数のサーバにクライアントの負荷を分散するように設定することもできます。

スタンドアロンのプライマリ接続サーバとして運用する

この接続サーバをスタンドアロンのプライマリ接続サーバとして運用させる場合は、このオプションを選択します（このオプションはデフォルトで有効になっています）。

注意: 負%荷分[°]散クラスターの一部”として運用するが選択されている場合、このオプションはプライマリー接続サーバーとして運用するに変わります。

スタンドアロンのセカンダリー接続サーバー(バックアップ)として運用する

この接続サーバーをセカンダリーNetSupport接続サーバーとして使用する場合は、このオプションを選択します。

注意: セカンダリー接続サーバーも負%荷分[°]散接続サーバーとして構成することをお勧めしますこれにより、プライマリー接続サーバーで行われた構成変更^Δ更が自動的にセカンダリーに伝播され、クライアントの負%荷が共有されます。クライアントがプライマリーとセカンダリーの間で負%荷分[°]散することを望まない場合は、セカンダリー接続サーバーの容量を 0 に設定します。この推奨事項に従わない場合、構成の変更^Δ更はプライマリー接続サーバーとセカンダリー接続サーバーに個別^Éに行う必^K要があります。

プライマリー接続サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポート(デフォルトでは443が使用されます)を入力します。

注意: 負%荷分[°]散クラスターの一部”として運用するが選択されている場合、これはクラスターメンバーサーバーとして運用するに変わります。

負%荷分[°]散されたクラスターの一部”として運用する

負%荷分[°]散を使用している場合は、このオプションを選択します。

この接続サーバーをクラスタープライマリー接続サーバーにする場合は、**プライマリー接続サーバーとして運用する**を選択します。クライアントの比重容量を設定します。デフォルトでは、1000に設定されており、接続サーバーマシンのネットワーク接続速度に基づいています。

この接続サーバーを負%荷分[°]散サーバーにする場合は、**クラスターメンバーサーバーとして運用する**を選択し、プライマリー接続サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポートを入力します。

負%荷分[°]散サーバー

これは、接続サーバーがクラスタープライマリー接続サーバーである場合にのみ表示され、ここで負%荷分[°]散接続サーバーを追加、編集、または無効にします。

追加をクリックします。サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)、ポート、および比重を入力し、**OK**をクリックします。負%荷分[°]散接続サーバーをクラスターの

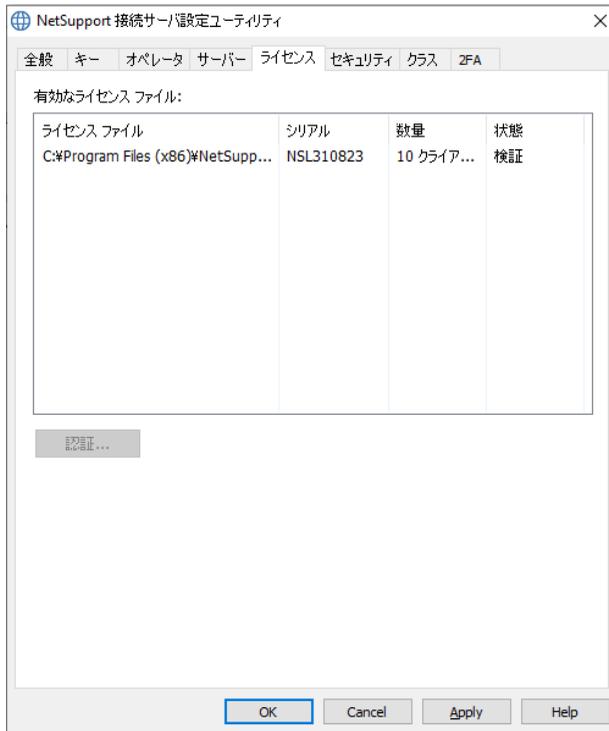
プライマリー接続サーバーのバックアップとしても機能させる場合は、**クラスターのセカンダリーサーバーとして運用する**をクリックします。

注意：

- 最大 20 台の負%o荷分°散接続サーバーをセットアップできます。
- ここで行った変 Ĩ 更には、ゲートウェイサービスを手動で再起動する必 K 要があります。

• **ゲートウェイ設定ユーティリティ - ライセンスタブ**

NetSupport Manager フォルダに保存されているすべてのライセンスを表示します。インターネット接続がない場合は、ここでお使いの NetSupport Manager ライセンスを手動で認証することができます。

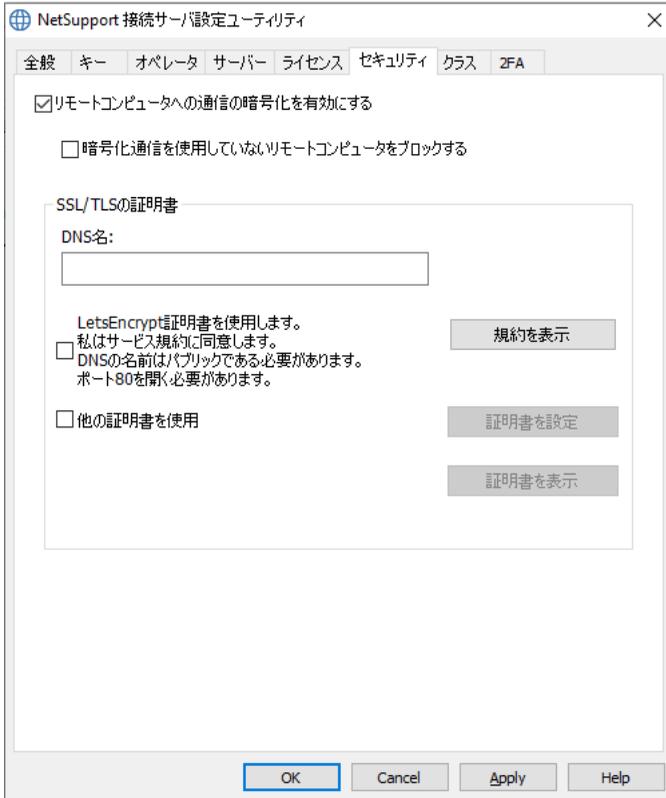


アクティベーションコードが必要です。NetSupport または販売元にご連絡ください。必要な認証をクリックしてコードを入力します。そしてネームサーバの再起動が必要になります。

注意： インターネット接続が利用できる場合は、自動的にライセンスは認証されネームサーバを再起動する必要はありません。

● **ゲートウェイ設定ユーティリティ - セキュリティタブ**

NetSupport Manager 11.00.005 ゲートウェイはリモートコンピュータからの通信を開始する時に使用する暗号化の強化レベルを提供します。



リモートコンピュータへの通信の暗号化を有効にする

有効にすると、接続プロセスのすべての通信は暗号化されます。

注意: リモートコンピュータ(コントロールとクライアント)はバージョン 11.00.005 またはそれ以降が動作している必要があります。

暗号化通信を使用していないリモートコンピュータを遮断する

以前のバージョンのコントロールとクライアントプログラムは暗号化の強化レベルをサポートしていません。このオプションを選択すると、これをサポートしていないバージョンのコントロールまたはクライアントが動作しているリモートコンピュータから通信を遮断します。

SSL/TLSの証明書

SSLまたはTLS証明書を使用して、ゲートウェイを介して送信されるすべてのデータを確実に暗号化できます。すでにSSL/TLS証明書をお持ちの場合は、ここに入力するか、ゲートウェイにLet'sEncrypt証明書の作成と使用を許可することができます。

注意: 有効な SSL/TLS 証明書がある場合にのみ、ゲートウェイに接続するようにクライアントを構成できます。クライアント構成で[**HTTPS が必要**]オプションを選択します。

DNS名

ゲートウェイのDNS名を入力します。

Let'sEncrypt証明書を使用する

Let's Encrypt証明書を使用するには、このオプションを選択します。ゲートウェイは自動的に90日間有効な証明書を作成し、60日ごとに更新します。

このオプションを選択すると、利用規約に同意したことになります。Let's Encrypt サブスクリイバー契約を読むには、[**規約の表示**]をクリックします。

注意:

- ゲートウェイには公開 DNS 名が必要です。
 - ポート 80 を開く必要があります。
-

他の証明書を使用する

SSL / TLS証明書を既にお持ちの場合は、ここに追加できます。[**証明書の設定**]をクリックして、証明書を参照します。

証明書を表示する

証明書が適用されると、ここで確認できます。

- **2FA(二要素認証)タブ**

二要素認証は、コントロールユーザーがゲートウェイ上のクライアントに接続するときにセキュリティの追加レイヤーを提供します。NetSupport Managerは、時間ベースのワンタイムパスワード(TOTP)またはDuoPushをサポートしています。

注意: オペレータータブで、個々のオペレーターに対して二要素認証を有効にできます。

TOTP

Issuer

発行者名を入力します。これはデフォルトでライセンス名になり、認証アプリに表示されるアカウント名です。

Duo

API ホスト名

APIホスト名を入力します。

Auth API

統合キー

統合キーを入力します。

シークレットキー

シークレットキーを入力します。

Admin API

統合キー

統合キーを入力します。

シークレットキー

シークレットキーを入力します。

注意:

- この情報 ñ は、Duo 管理パネルダッシュボードからコピーできます。
 - Admin API 情報 ñ を取得するには、「所有者」レベルの Duo 管理者アカウントが必 K 要です。
 - ゲートウェイは、DuoPush にポート 443 を使用する必 K があります。
-

ユーザー名の接尾辞

オペレーターのユーザー名の接尾辞を入力できます(これにより、ユーザー名がゲートウェイに固有になります)。

タイムアウト

再認証が必K要になる前に検証が続く時間です(コントロールが再起動されない限り)。デフォルトでは、12時間に設定されています。必K要に応じて、ここに別の時間を入力します。

注意:

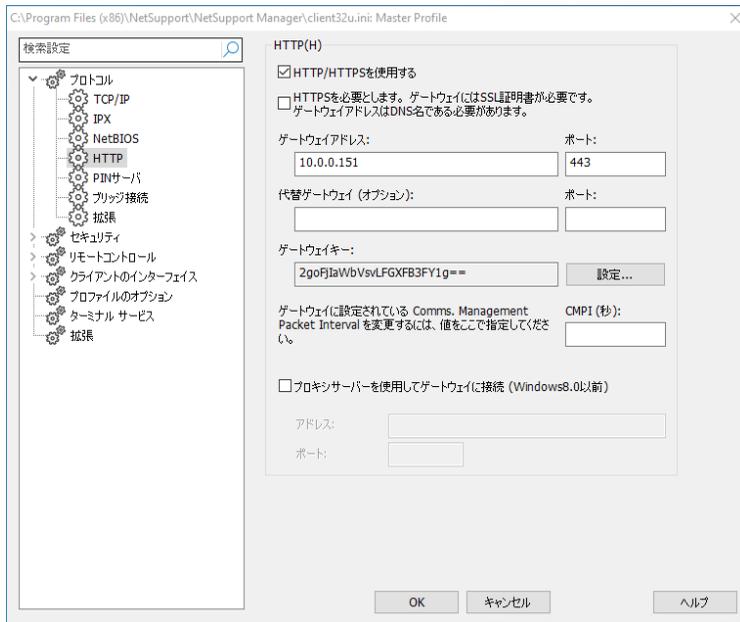
- プライマリーゲートウェイと認証アプリを実行するすべてのデバイスは、タイムゾーンに関係なく UTC と同期する必 K があります。
 - タイムアウトが 0 に設定されている場合、ゲートウェイデバイスへのすべての接続に二要素認証が必 K 要です。
-

システムトレイに **NetSupport 接続サーバー** のアイコンを表示するには、{スタート}{プログラム}{NetSupport Manager}{NetSupport Manager 接続サーバーコンソール} を選択します。このアイコンをダブルクリックすると、NetSupport 接続サーバーコンソールが表示され、インターネットを介した NetSupport 接続を管理できます。**NetSupport 接続サーバー** のアイコンを右クリックして接続サーバーの設定を選択することで、**NetSupport 接続サーバー設定ユーティリティ** にアクセスすることもできます。

注意: コントロールとクライアントのコンピュータを設定する際に、ゲートウェイコンピュータの IP アドレスが必要になるので控えておいてください。加えて、プロキシサーバを経由して通信する場合は、そのアドレスも必要になります。

クライアントの設定

クライアントのコンピュータは HTTP/HTTPS プロトコルを使用するように設定し、ゲートウェイのアクセス詳細が必要になります。



1. 基本または拡張クライアント設定から[プロトコル-HTTP]を選択します。
2. HTTP/HTTPSを使用する ボックスにチェックをします。ポート 443 がデフォルトで設定されています。
3. HTTPSを介した安全な接続を要求するには、**HTTPSを必K要とする**を選択します。

注意: SSL/TLS 証明書をゲートウェイに適用する必 K 要があります。

4. ゲートウェイマシンのIPアドレス(またはHTTPSを**必K要とする**を選択した場合は完全修飾ドメイン名(FQDN))を入力して、使用するゲートウェイを確認します。プライマリーゲートウェイが使用できない場合に引き継ぐセカンダリーゲートウェイの詳細を入力できます。
5. ゲートウェイPCで設定したゲートウェイキーを入力します。
6. ここに時間を入力するとゲートウェイ側で設定されているComms Management Packet Interval を上書きできます。
7. NetSupport はプロキシサーバを通る通信をルートするように設定できます。サーバーのアドレスとポートを入力します。推奨ポートは8080です。

注意: このオプションは、Windows 8 以前のマシンにのみ適用されます。
Windows 8.1 以降のマシンは、Windows の設定で設定された自動プロキシを使用します。

8. OK をクリックします。

コントロールの設定

クライアントと同様に、コントロール側も HTTP を有効にする必要があります。

1. 現在のプロファイルに適用するには、キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**  アイコンをクリックし、**接続 - HTTP**を選択します。
または
特定のプロファイルに設定を適用するには、キャプションバーの**プロファイル**  アイコンをクリックします。必K要なプロファイルを選択し、**接続とスタートアップの設定**をクリックして、**接続 - HTTP**を選択します。
2. [HTTPを使用する] にチェックをします。初期設定では、ポート 443 が設定されています。
3. [OK] をクリックします。

ゲートウェイを追加する

コントロールは、複数のゲートウェイと通信することが可能です。コントロール側でそれぞれの情報を追加する必要があります。

1. コントロールウィンドウのツリービューから、**インターネットゲートウェイフォルダー**を選択し、**ゲートウェイの追加**を選択します。
または
リボンのホームタブを選択し、**新規作成**をクリックして。
2. ゲートウェイ追加ウィザードが表示されます。

×

← M 新規作成

このゲートウェイの名前と説明を入力します

名前

説明

3. ゲートウェイ名と説明を入力して次へをクリックします。
4. ゲートウェイがインストールされているマシンのIPアドレス(またはHTTPS / TLSが必K要な場合は完全修飾ドメイン名(FQDN))を入力し、使用するポート番号を確認します。デフォルトでは443が指定されます。必K要に応じて、プライマリーゲートウェイが使用できない場合に使用するセカンダリーゲートウェイを入力します。
5. HTTPSを介した安全な接続を要求するには、**HTTPS/TLSを必K要とする**を選択します(SSL/TLS証明書をゲートウェイに適用する必K要があります)。このゲートウェイをプロキシサーバー(Windows 8.0以前)経由で通信する場合は、使用するIPアドレスとポートを入力します。
6. 次へをクリックします。
7. ゲートウェイキーを入力します。このキーはコントロール、クライアント、ゲートウェイで設定した同一キーでなくてはなりません。
8. ゲートウェイでオペレーターのユーザー名とパスワードが設定されている場合(これにより、リモートクライアントの参照とコントロールの使用が制限され、オペレーターに二要素認証が必K要かどうかが決まります)、ここに入力する必K要があります。**完了**をクリックします。
9. リストビューに新しいゲートウェイが追加されます。
10. 上記手順を繰り返してコントロールで使用する他のゲートウェイを追加します。

コントロール - ゲートウェイ - クライアントの接続

これで全ての要素が1つになり、ゲートウェイ経由での接続準備が完了しました。ゲートウェイには、3つの基本目的があります:

クライアント登録を受信し保存する

コントロールがクライアントに接続できるようにするにはクライアントはゲートウェイに接続してはなりません。クライアントは定期的にゲートウェイにポーリングし、接続状態を報告します。ゲートウェイは内部テーブルにクライアント詳細を保存します。

コントロールからの検索コマンドに応答する

コントロールがゲートウェイを追加すると、ゲートウェイを検索してクライアント検索することができます。ゲートウェイはリスト内の接続可能クライアントをスキャンして検索条件に該当するクライアントを返します。

注意: 今後も使用できるようにクライアント情報が保存されるような通常のネットワーク検索と異なり、ゲートウェイのクライアント情報はコントロールの終了時に失われます。これはゲートウェイ側で情報を更新するためです。クライアントは常時ゲートウェイと接続していますが、コントロールは違います。このため、その都度クライアントを見つけるにはゲートウェイを検索する必要があります。

1. コントロールウィンドウのゲートウェイフォルダからゲートウェイを選択してゲートウェイ検索をダブルクリックします。
または
ツリービューのゲートウェイ名を右クリックして開くを選択します。
2. ゲートウェイ検索ダイアログが表示されます。クライアント名の一部を入力するか全ての接続可能なクライアントを検索する場合は空欄のままにします。OKをクリックします。
3. 見つかったクライアントがリストビューに表示され、通常の方法で接続してリモートコントロールできるようになります。
4. 二要素認証を有効にしている場合は、モバイルデバイスの認証システムアプリを使用してQRコードをスキャンし（初回接続の場合）、ワンタイムパスワードコード（TOTP）を入力するか、DuoMobileアプリを使用してクライアント接続を確認します。（これは、最初に接続するクライアントにのみ必K要です）。

注意: ネットワークとゲートウェイの組み合わせの参照を要求できます。リボンのホームタブでクライアントを参照する場合は、**ゲートウェイを含めるオプション**を選択します。ツリービューの検索フォルダ内に検索された全てのクライアントが表示されます。ゲートウェイクライアントはゲートウェイフォルダには追加されません。

接続中のコントロールとクライアント間の全データを中継する

データは、ゲートウェイ経由で接続中のクライアントとコントロール間でシームレスに転送されますが、パフォーマンスに影響することはありません

負荷分散接続サーバーを設定する

NetSupport 接続サーバー(ゲートウェイ)を使用すると、負%荷分°散を使用して、クライアント接続を複数数のクラスターメンバーサーバーに自動的に分°散させることができます。接続が発生すると、プライマリ接続サーバーはそれらを受け入れるか、ラウンドロビン方式を使用して他の負%荷分°散接続サーバーの1つに自動的に割り当てます。各負%荷分°散接続サーバーが引き継ぐ「比重」を指定し、プライマリ接続サーバーがダウンした場合に引き継ぐセカンダリー接続サーバーを設定することもできます。

注意:

- 最大 20 台の負%荷分°散接続サーバーをセットアップできます。
- 負%荷分°散は、バージョン 14.00 クライアント以降でのみ使用できます。バージョン 14.00 より前のクライアントは引き続き接続サーバーに接続できますが、負%荷分°散接続サーバー間で分°散されることはありません。
- 接続サーバーが NetSupport Notify(日本未発売)の通知サーバーでもある場合、または ClassLink One Roster または Google Classroom で定義されたクラスがある場合(これは NetSupport School に適用されます)、負%荷分°散を有効にすることはできません。
- NetSupport School の生徒が、ローカル TCP/IP ネットワーク以外の場所から HTTP 接続を使用してアクセスできるようにすることは意図されていません。

手順 1 - クラスターのプライマリ接続サーバーを設定する

1. プライマリ接続サーバーとして使用するマシンでNetSupport接続サーバー設定ユーティリティを開きます。
2. サーバータブを選択します。
3. **プライマリ接続サーバーとして運用する**を選択します。
4. **負%荷分°散クラスターの一部**として運用するを選択します。
5. このサーバーが使用するクライアントの容量を設定します。

注意: デフォルトでは、これは 1000 に設定されており、接続サーバーマシンのネットワーク接続速度に基づいています。仲介接続のオーバーヘッドを考慮して、プライマリ接続サーバーを 90%に設定することをお勧めします。たとえば、プライマリ接続サーバーに 1Gb ネットワークがある場合は、比重容量を 900 に設定します。

6. **適用**をクリックします。

手順 2 - 負%荷分°散接続サーバーを設定する

1. 負%荷分°散接続サーバーとして使用するマシンでNetsupport接続サーバー設定ユーティリティを開きます。
2. サーバータブを選択します。
3. **負%荷分°散クラスターの一部**として運用するを選択します。
4. **クラスターメンバーサーバーとして運用する**を選択します。

5. プライマリ接続サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポート (デフォルトでは 443 を使用) を入力します。
6. **適用** をクリックします。

注意:

- ゲートウェイサービスは手動で再起動する必 K があります。
 - 接続サーバーが負%荷分^a散接続サーバーとして使用されている場合、NetSupport 接続サーバー設定ユーティリティのキー、オペレーター、ライセンス、クラス、および 2FA タブは無効になります。
-

手順 3 - プライマリ接続サーバーで負%荷分^a散接続サーバーを構成する

負%荷分^a散サーバーを設定したら、プライマリ接続サーバーでこれらを設定する必 K があります。

1. プライマリ接続サーバーマシンで NetSupport 接続サーバー設定ユーティリティを開きます。
2. サーバータブを選択します。
3. **追加** をクリックします。
4. 負%荷分^a散接続サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) とそれが使用するクライアントの容量を入力します。
5. この接続サーバーをセカンダリー接続サーバーとして使用する場合は、**クラスタのセカンダリーサーバーとして運用する** をクリックします。
6. **OK** をクリックします。
7. 負%荷分^a散接続サーバーがリストに表示されます。アイコンは、プライマリ接続サーバーが通信できるかどうかを示します。

注意: サーバー名の横にあるチェックボックスをオフにすると、負%荷分^a散接続サーバーを無効にできます。

8. さらに負%荷分^a散接続サーバーを追加し、完了したら、**適用** をクリックします。

注意: ゲートウェイサービスは手動で再起動する必 K があります。

負%荷分^a散サーバーのセットアップと構成の詳細については、[ここをクリック](#)してください。

二要素認証の設定と使用

二要素認証は、コントロールユーザーがゲートウェイ上のクライアントに接続するとき、セキュリティの追加レイヤーを提供します。ゲートウェイで最初のクライアント接続を確立する前に、コントロールユーザーを有効(検証)する必K要があります。この有効性(検証)は、12時間(カスタマイズ可能)またはコントロールが再起動されるまで続きます。NetSupport Managerは、時間ベースのワンタイムパスワード(TOTP)または DuoPushをサポートしています。

モバイルデバイスで必K要なパスワードコードを生成するには、認証システムアプリが必K要です。以下の認証アプリをサポートしています：

- Google Authenticator
- Microsoft Authenticator
- Duo Mobile

注意：プライマリーゲートウェイと認証アプリを実行するすべてのデバイスは、タイムゾーンに関係なく UTC と同期する必 K 要があります。

TOTPの設定

1. システムトレイの**NetSupport接続サーバー**アイコンを右クリックし、**接続サーバーの設定**を選択します。
2. 2FAタブに移動します。
3. **TOTP**を選択します。
4. 既存のオペレーターに設定を適用する場合は、**はい**をクリックします。

注意：オペレーターは 1 人のユーザーにのみ関連付けすることができます。

5. 発行者名を入力します。これはデフォルトでライセンス名になり、認証アプリに表示されるアカウント名です。
6. 新しいオペレーターを追加する必K要がある場合は、オペレータータブに移動します。
7. まだ有効にしていない場合は、**リモートコントロールへのアクセスを指定したオペレーターに制限する**を選択します。
8. 追加をクリックし、必K要な詳細を入力し、**2FAを必K要とする(TOTP)**が選択されていることを確認します。
9. **OK**をクリックします。
10. **適用**をクリックします。

TOTPを使用する

1. コントロールウィンドウのツリービューで**インターネットゲートウェイ**フォルダーを選択し、必K要なゲートウェイを選択します。
2. ゲートウェイクライアントを参照します。

3. クライアントに接続します。TOTPを使用して初めて接続すると、QRコードが表示されます。モバイルデバイスの認証アプリでこれをスキャンし、OKをクリックします。
4. ワンタイムパスワードコードを要求するダイアログが表示されます。
5. 認証アプリを開いて、このコードを生成します。
6. コードを入力してOKをクリックします。ゲートウェイは接続を検証して許可します。

注意:

- 最初のクライアント接続を検証するだけでよく、パスワードコードを入力すると、コントロールを再起動しない限り、それ以上のコードを入力する必要はありません。デフォルトでは、パスワードコードは12時間有効です(NetSupport接続サーバー設定ユーティリティ-2FAタブ)。
- オペレーターのアカウントをリセットして、次にクライアントに接続するときに新しいQRコードを送信できます。NetSupport接続サーバー設定ユーティリティ「オペレーター」タブで、必要なオペレーターを選択し、**編集**をクリックして**アカウント/QRコードのリセット**を選択します。

Duo Pushの設定

注意: Duo Pushを使用するには、有料のDuoサブスクリプションが必要 です。

1. システムトレイのNetSupport接続サーバーアイコンを右クリックし、**接続サーバーの設定**を選択します。
2. 2FAタブに移動します。
3. **Duo**を選択します。
4. 既存のオペレーターに設定を適用する場合は、**はい**をクリックします。

注意: オペレーターは1人のユーザーにのみ関連付けすることができます。

5. AuthAPIとAdminAPIの統合およびシークレットキーとともにAPIホスト名を入力します。

注意:

- この情報は、Duo管理パネルダッシュボードからコピーできます。
 - AdminAPI情報を取得するには、「所有者」レベルのDuo管理者アカウントが必要 です。
-
6. 新しいオペレーターを追加する必要がある場合は、オペレータータブに移動します。
 7. まだ有効にしていない場合は、**リモートコントロールへのアクセスを指定したオペレーターに制限する**を選択します。
 8. **追加**をクリックし、必要な詳細を入力して、**2FA(Duo)を必要とする**が選択されていることを確認します。このオペレーターを既存の登録済みDuoユーザー名とリンクする場合は、ここにユーザー名を入力します。
 9. **OK**をクリックします。
 10. **適用**をクリックします。

DuoPushを使用する

1. コントロールウィンドウのツリービューで**インターネットゲートウェイフォルダー**を選択し、必K要なゲートウェイを選択します。
2. ゲートウェイクライアントを参照します。
3. クライアントに接続します。Duoを使用して初めて接続すると、QRコードが表示されます。Duo Mobileアプリでこれをスキャンし、OKをクリックします。
4. プッシュ通知が受信され、Duo Mobileアプリでこれを承認する必K要があります。
5. 接続が確立されます。
6. ゲートウェイが接続を検証して許可します。

注意:

- 最初のクライアント接続を確認するだけでよく、Duoがこれを確認すると、コントロールを再起動しない限り、それ以上の確認は必K要ありません。デフォルトでは、Duoの検証は12時間続きます (NetSupport接続サーバー設定ユーティリティ-2FAタブでカスタマイズできます)。
 - オペレーターのアカウントをリセットして、次にクライアントに接続するときに新しいQRコードを送信できます。NetSupport接続サーバー設定ユーティリティ-「オペレーター」タブで、必K要なオペレーターを選択し、**編集**をクリックして**アカウント/QRコードのリセット**を選択します。
-

ファイアウォールやプロキシサーバを経由して接続する

ファイアウォール/プロキシサーバの内側で動作している NetSupport クライアント/コントロールは、ネットワークのセキュリティを損なうことなく、外部のコンピュータに接続することができます。ファイアウォール/プロキシサーバの外側で動作しているコントロールとクライアントのコンピュータへの接続も同様です。

注意: ファイアウォールで保護されている PC 同士でリモートコントロールが行えるようにデザインされています。ゲートウェイにより安全・安定したクライアント/コントロール接続を可能とします。既存のファイアウォール設定を変更せずに Web ベースのリモートコントロールを実現します。ゲートウェイ通信にはポート 443 で HTTP プロトコルを使用しています。お使いのファイアウォールでこのポートが開いているか確認してください。

ファイアウォールの内側のコントロールとクライアントに接続する

ファイアウォールの外側のネットワークにあるコントロールが、ファイアウォールの内側のネットワークにあるクライアントに接続するためには、何かしらのアドレス変換方法を有効にする必要があります。そうすることで、外側からは見えない内側のネットワークのコンピュータのアドレスが外側のネットワークからアクセスできるように変換されます。ファイアウォールによっては、内側のコンピュータにアクセスできる IP アドレスと解放するポートを指定できるものもあります。

NetSupport では TCP/IP ポートを使用 コントロールからクライアント

NetSupport コントロールは、TCP/IP ポート 5405 を使用してクライアントに IP リクエストを送信します。NetSupport クライアントはコントロールからのインカミングリクエストをポート 5405 で受信します。

クライアントからコントロール

NetSupport Manager 5.00 でクライアント接続機能を導入にあたり、2 種類の接続(コントロールからクライアントの呼出, クライアントからコントロールの呼出) が競合せずにそれぞれ独立して機能するために追加ポートを設けています。このためにポート 5421 を登録しています。

プロキシサーバの内側のコントロールやクライアントに接続する

アドレス変換の手段がないため、プロキシサーバでは接続できません。プロキシサーバの設計上、保護されたネットワークへの接続は許可しません。

ファイアウォールもしくは一バの内側から外側のクライアントに接続するには、次の条件を満たしている必要があります：

- ファイアウォールもしくはプロキシサーバで外部への接続するように、ポート 5405 が有効になっている。
- 外部のクライアントは同じポート番号で受信し、かつファイアウォール/プロキシサーバの内側のコントロールに見える状態である。

クライアントがコントロールを呼出す場合

1. ファイアウォールもしくはプロキシサーバがポート 5421 で外部への接続が可能かどうか確認します。
2. システムトレイの NetSupport Manager クライアント アイコンを右クリックし、**コントロール呼び出し**を選択します。
3. コントロールは、クライアントが接続しようとしている通知メッセージを受信します。接続を許可するか拒否するか選択できます。

注意： ポート 5421 は設定変更できません。

コントロールがクライアントを呼出す場合

1. リボンのホームタブに移動します。
2. クイック接続セクションで、クライアントのマシン名、ログオンユーザー名、またはネットワークアドレスをテキストフィールドに入力し、必要な**接続方法**アイコンを選択します。：



ログオンユーザー名で接続。

マシン名で接続。

IP アドレスで接続。

3. **クイック接続**をクリックします。

注意： NetSupport は SOCKS を経由して直接プロキシサーバと通信できません。TCP/IP によるダイレクト接続が可能な場合のみ機能します。

ターミナルサーバ環境下で NetSupport を使用する

NetSupport コントロールはターミナルサーバ環境下のクライアントに接続することができます。

NetSupport は、ターミナルサーバ環境で NetSupport Manager をインストールし使用するためにすばやく簡単な方法を用意しています。バージョン 11 からは、各ターミナルサーバセッションが開始すると、クライアントは、もうアプリケーションとして開始しません。代わりに、代わりに、マイクロソフトのターミナルサーバ上にインストールされた NetSupport クライアントサービスが、新しいターミナルサーバセッションの開始ごとに新しいクライアントプロセスを生成します。

注意: NetSupport Manager クライアント構成設定でクライアントターミナルサーバ設定を構成できます。

ターミナルサーバサポートの詳細については、[ナレッジベースにアクセスし](#)、製品記事「[Setting Up NetSupport Manager to run in a Microsoft Terminal Server Environment](#)」を参照してください。

Intel vPro サポート

NetSupport Manager は Intel® vPro™ テクノロジー搭載コンピュータに接続することができます。NetSupport は vPro 搭載コンピュータを検索し、いろいろな機能を行うことができます。オペレーティングシステムが読み込まれる前に、コンピュータに接続することさえもできます。

Intel セットアップと構成設定サービス (SCS) は、vPro 搭載機を中央で設定し構成するためのツールを用意しています。SCS は vPro 用のサーバで供給サーバとも呼ばれています。

vPro 搭載機を構成するために使用する 2 種類のモードがあります：

ベーシック モード

IP アドレスの範囲を使用してお使いのネットワーク上の vPro 搭載機を検出します。ベーシックモードは、Digest authentication を使用します - 接続を確立するには、ユーザー名とパスワードが必要です。

アドバンス モード

SCS から vPro 搭載機を検索します。アドバンスモードは、Kerberos authentication を使用します - 接続を確立するには、証明証が必要です。

注意：

- Kerberos authentication を使用するには、コントロールは、Windows XP (service pack 3)、Windows 2003 (service pack 2) またはそれ以降が必要です。
 - コントロールの環境設定内でモード間を切り換えることができます。
-

vPro 搭載コンピュータを検索するには

1. ツリー表示内の vPro 管理フォルダを選択します。
2. [vPro 検索]アイコンをクリックします。
3. コントロールが '小規模ビジネスモード' で構成されている場合は、IP アドレス範囲の入力が必要です。
4. vPro 搭載コンピュータがリスト表示内に表示されます。
5. PC を選択して、リボンのホームタブで利用可能な機能にアクセスします。

注意： PC を右クリックして、使用可能な機能にアクセスすることもできます。

6. ベーシックモードで接続している場合は、ユーザー名とパスワードの入力を要求されます。アドバンスモードで接続している場合は、接続するための証明証の選択が必要です。

提供される機能:

- 電源オフ
- 電源オン
- リセット
- Bios の起動
- メディアから起動
- ウェブ表示 (ブラウザから vPro を使用してマシンを管理します)。

注意:

- NetSupport Manager クライアントはこれらの機能の実行は必要ありません。
 - 電源オフ、リセットそして BIOS の起動は、電源コードを引き抜くことに似ています、つまり開いているアプリケーションを閉じないので、データが失われる可能性があります。
-

クライアントを検索する

検索機能を使用して、ツリービューでクライアントと対象を簡単に検索できます。検索結果は、ツリービューの**検索**フォルダーに表\示されます(このフォルダーは、検索を実行した後にのみ表\示されます)。

1. リボンの表\示タブを選択し、**テキスト検索**フィールドに検索語を入力します。関連するアイコンをクリックして、ログオンしているユーザー名、PC名、またはIPアドレスでクライアントを検索できます。



ログオンしているユーザー名で検索します。

PC名で検索します。

IPアドレスで検索します。

2. デフォルトでは、クライアントのみが検索されます。ツリー内のすべての対象を検索するには、*****をクリックします。
3. 検索で大文字と小文字を区別するには、**Aa**をクリックします。
4. **検索**をクリックします。
5. 結果は、ツリービューの**検索**フォルダーに表\示されます。

注意: 検索を実行したら、リボンの**検索を閉じる**アイコンをクリックして、検索結果を削除できます(およびツリービューから**検索を閉じる**フォルダーを削除します)。

クライアントを切断する

接続したクライアントに対してリモートコントロールを終了したら、必ずセッションを切断して NetSupport を終了してください。

クライアントを切断するには

1. リストビューで切断したいクライアントを選択します。
2. リボンのホームタブを選択し、**切断**をクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックして切断を選択します。
または
ステータスバーの接続済みをクリックし、リストから必要なクライアントを選択して、をクリックします。

すべてのクライアントを切断する

クライアントを 1 台 1 台切断しなくても、1 回の操作で接続中のすべてのクライアントを切断できます。

複数のクライアントを切断するには

1. リボンのホームタブを選択し、**すべて切断**をクリックします。
または
ステータスバーの  をクリックします。

クライアントに自動ログイン

お使いのコンピュータに名前の規則性が使用されている場合、時間を節約するためにクライアントに自動的にログインできます。

クライアントのコンピュータに自動的にログインするには

1. ログインしたいクライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**ログイン**をクリックします。
または
リボンにクライアントの名前が表示されているタブ（または複数数のクライアントが選択されている場合は選択タブ）を選択し、ログインをクリックします。
または
右クリックして**ログイン**を選択します。
または
ツリービューから必要なグループを選択し、リボンのグループタブを選択（またはグループを右クリック）し、**ログイン**をクリックします。
3. 自動ログインダイアログが表示されます。

ログイン

ログインの詳細

ユーザー名(U): ログイン(L)

パスワード(P):

ドメイン(M):

状態

名前	ユーザー名	状態
✓ INVH612	j.neal	
✓ VIRT4SERVER2...		

表示(V)

閉じる ヘルプ

4. ユーザー名、パスワードとドメインを入力し、[ログイン] をクリックします。ログインに成功するとユーザー名が表示されます。
5. このダイアログからクライアント画面を表示することもできます。クライアントを選択して [ビュー] をクリックします。
6. 完了して終了するには、[完了] をクリックします。

クライアントの自動アップデート

コントロールは自動アップデート機能を使うことで、同一のバージョンにクライアントを更新することができます。クライアントにインストールされている NetSupport Manager コンポーネントが、現在のコントロールのバージョンに更新されます。

注意: Windows ベースのクライアントだけ対応しています。

クライアントを自動的にアップデートするには

1. 更新したいクライアントを選択します。
2. リボンでクライアントの名前が表示されているタブ（または複数のクライアントが選択されている場合は選択タブ）を選択し、**更新**をクリックします。
3. クライアントはコントロールと同一のバージョンに更新されます。

注意:

- アップデートを実行するには、クライアントは管理者権限でログインしている状態またはログオフ状態でなくてはなりません。
 - この機能を使用するには、コントロールのコンピュータにリモートデプロイツールがインストールされていなくてはなりません。
 - クライアント設定で [ファイル転送を禁止] と [リモート実行を禁止] が選択されている場合、クライアントをアップデートすることはできません。
-

電源管理 – 電源オン/電源オフ

コンピュータの消費電力が大きければ大きいほど、発熱量も多くなり、パフォーマンスの低下につながります。新しく高速なプロセッサほど、消費電力が大きく、冷却が重要な課題となります。省エネルギーに関する意識は 5 年前にはそれほど高くありませんでしたが、世界中で使われる何百万台ものコンピュータ、ひとつの会社が備える何百万台ものコンピュータを考えると、この問題が大きくクローズアップされてきます。

NetSupport の電源管理機能を活用し、ハードウェアとソフトウェアによるシステムの消費電力を最小限にすることができます。ハードウェアが全く使われていないか、ほとんど使われていないときは電源を落とし、必要なときにいつでも使える状態を保ちながら、不要な消費電力を削減できます。

クライアント電源オン

NetSupport クライアントの電源をオンにするには、そのコンピュータが Wake-on-LAN ネットワークアダプターを BIOS がそれに対応している必要があります。(詳しくはネットワークアダプターのドキュメントを参照してください。) 既知のクライアントである必要もあります。コントロールは Wake-on-LAN パケットをクライアントのネットワークアダプターに送信して電源オンの命令出します。

NetSupport クライアントの電源をオンにするには

1. 電源オンにしたいクライアントアイコンを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**電源オン**をクリックします。
または
リボンにクライアントの名前が表示されているタブ (または複数のクライアントが選択されている場合は選択タブ) を選択し、**電源オン**をクリックします。
または
右クリックして電源オンを選択します。
3. クライアントのコンピュータの電源がオンになります。

グループで電源をオンにするには

1. ツリービューの全てのコンピュータフォルダを開きグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、**電源オン** をクリックします。
または
グループを右クリックして電源オンを選択します。
3. クライアント PC の電源がオンになります。

クライアントの電源オフ

NetSupport はクライアントの電源オフを実行するために Windows オペレーティングシステムの Advanced Power Management (APM) 機能を使用しています。APM はクライアントコンピュータの ATX マザーボードと ATX 電源供給に依存しています。

NetSupport 電源管理機能を使えば、コントロールはリモートでクライアント PC の電源をオフにすることができます。

NetSupport クライアントの電源をオフにするには

1. クライアントで開いているアプリケーションが全て終了していることを確認します。
2. 電源をオフにしたいクライアントアイコンを選択します。
3. リボンにクライアントの名前が表^{*}示されているタブ（または複数数のクライアントが選択されている場合は選択タブ）を選択し、**電源オフ**をクリックします。
または
右クリックして電源オフを選択します。
4. クライアント PC の電源がオフになります。

グループの電源をオフにするには

1. クライアントで開いているアプリケーションが全て終了していることを確認します。
2. ツリービューの [すべてのコンピュータ] フォルダを開いて、対象のグループを選択します。
3. リボンのリモートタブを選択し、**電源オフ**をクリックします。
または
リボンのグループタブを選択し、**電源オフ**をクリックします。
または
グループを右クリックして電源オフを選択します。
4. クライアントのコンピュータの電源がオフになります。

クライアントを再起動またはログアウトする

コントロールは個々もしくはグループのクライアントをリモートで再起動/ログオフすることができます

クライアントを再起動もしくはログアウトするには

1. コントロールウィンドウのリストビューでクライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**再起動**または**ログアウト**をクリックします。
または
クライアントの名前が表示されているリボンのタブを選択し、**再起動**または**ログアウト**をクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックしリブート/ログアウトを選択します。
3. [はい] をクリックして、再起動/ログアウト送信の確認をします。
4. クライアントからただちに切断されます。

または

1. クライアントを表示しているときに、表示ウィンドウリボンのホームタブを選択し、**再起動**または**ログアウト**をクリックします。
2. [はい] をクリックして再起動/ログアウト送信の確認をします。
3. クライアントからただちに切断されます。

グループを再起動またはログアウトするには

1. ツリービューから必要なグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、**再起動**または**ログアウト**をクリックします。
または
グループを右クリックし、**再起動**または**ログアウト**を選択します。
3. [はい] をクリックしてグループへの再起動/ログアウト送信を確認します。
4. グループメンバーからただちに切断されます。

注意: この機能を使用する前にグループが有効で、かつ必ず誰も使用していないことを確認してください！

Ctrl+Alt+Delete を送信する

ビュー中または接続中のクライアントに対して Ctrl+Alt+Delete を送信することができます。

接続中のクライアントに Ctrl+Alt+Delete を送信するには

1. Ctrl+Alt+Esc キーを同時に押します。

または

1. リボンのリモートタブを選択し、**CAD を送信**をクリックします。
または
クライアントの名前が表示されているリボンのタブを選択し、**CAD を送信** をクリックします。
または
右クリックでCtrl+Alt+Deleteを選択します。
2. [はい]をクリックして、Ctrl+Alt+Delete 送信を確認します。

ビュー中のクライアントに Ctrl+Alt+Del を送信するには

1. Ctrl+Alt+Esc キーを同時に押します。

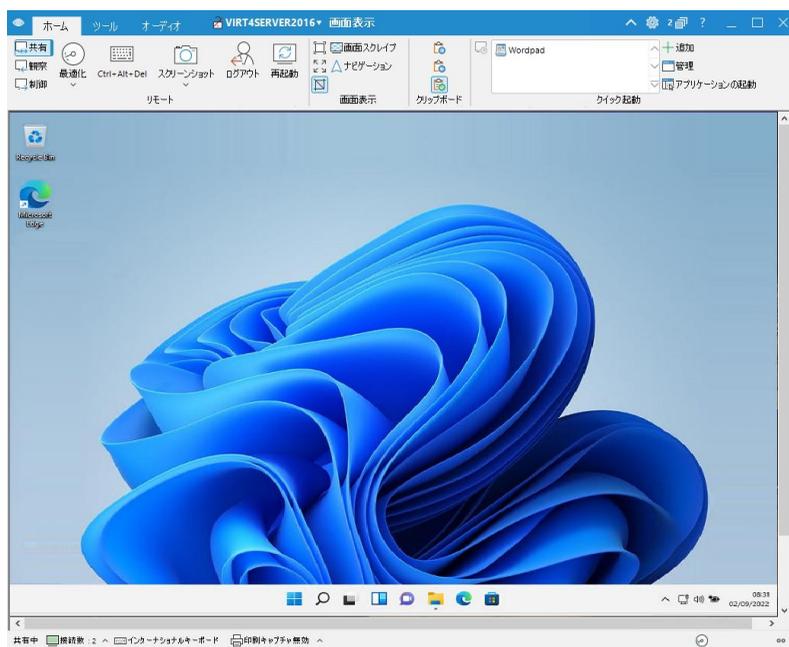
または

1. 表示ウィンドウ リボンのホームタブを選択し、**Ctrl+Alt+Delete** をクリックします。。
2. [はい] をクリックして、Ctrl+Alt+Delete 送信を確認します。

クライアントの画面を表示する

ビューウィンドウ

ビューウィンドウは、個々のクライアントとインタラクティブな作業をするためのメインインターフェイスです。それぞれのクライアントにはそれぞれビューウィンドウがあります。クライアントのビューウィンドウは、コントロールにクライアントの画面を表示する際に使用します。クライアントのビューウィンドウを複数開いて同時に表示させることもできます。



表示ウィンドウは、次のセクションに分かれています：

キャプションバー

キャプションバーには、現在表示しているクライアントの名前が表示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLS または暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意: ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

次のオプションを使用できます:



リボンを表すまたは非表示にします。



現在の構成の設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンは、現在表示しているクライアントで使用できるすべての機能、ツール、および設定へのアクセスを提供します。リボンは3つの主要なタブで構成されています:

1. ホーム

クライアントをリモートコントロールするモードの選択、表示ウィンドウの表示方法のカスタマイズ、クライアント上のアプリケーションとコントロールワークステーション間のカットアンドペースト、クライアント上でのアプリケーションの起動を可能にします。

2. ツール

現在表示しているクライアントで使用できるツールを選択できます。

3. オーディオ

コントロールとクライアント間のオーディオを有効にし、設定を構成できます。

注意: 複数のモニターでクライアントを表示すると、リボンにモニタータブが表示されます。ここから、モニター間で表示を切り替えるか、デスクトップ全体を表示するかを選択できます。

クライアント画面領域

クライアントのスクリーンを表示させます。

ステータスバー

ステータスバーには、現在の表示モード、接続されているクライアントの数、現在のキーボードレイアウト(デフォルトでは、これは国際キーボードに設定されています。)

リックして変 $\ddot{\text{I}}$ 更)、印刷キャプチャがオン(クリックして有効)の場合、および FPS カウンターが表 \forall 示されます。

接続済みをクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表 \forall 示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントの表 \forall 示ウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表 \forall 示方法を選択します。

クライアントの画面を表示する

クライアントに接続したら、リモートコントロールできます。この操作を画面受信と呼びます。コントロール PC にクライアント画面がウィンドウで表示されます。NetSupport では同時に複数のクライアントをウィンドウでそれぞれ表示することが可能です。

クライアントの画面を表示するには

1. リストから対象クライアントを選択します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**クライアントの表 \forall 示**をクリックします。
または
クライアントの名前が表 \forall 示されているリボンのタブを選択し、**クライアントの表 \forall 示**をクリックします。
または
リストビューのクライアントアイコンをダブルクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックして、**表 \forall 示**を選択します。
3. クライアント画面を表 \forall 示したビューウィンドウが表 \forall 示されます。クライアント画面のナビゲーションの目的は、クライアント画面をより簡単にスクロールさせるために画面のサムネイルイメージを表 \forall 示させます。特定の場所に表 \forall 示するサムネイルを単純にクリックしてドラッグするだけです。表 \forall 示ウィンドウのリボンから**ナビゲーション**を選択すると、ナビゲーションパネルを有効または無効にできます。

注意:

- ビュー中の最適なパフォーマンスを確保するため、クライアントのアクティブデスクトップをオフにしてください。
 - クライアントが複数のモニターを使用している場合、リボンのモニタータブをクリックしてデスクトップを切り替えることができます。
 - コントロール構成 - コントロールインターフェイス設定でリスト ビューでクライアントアイコンをダブルクリックしたときに実行されるアクションをカスタマイズできます(デフォルトでは、これにより画面表 \forall 示ウィンドウが開きます)。
-

コントロールウィンドウに戻るには

1. キャプションバーで、をクリックします。

注意: クライアント画面を表示中は、コントロールウィンドウのエクスプローラからファイルを直接クライアントのデスクトップにドラッグ & ドロップできます。

画面受信モード

3つのモードでクライアントの画面を表示できます:

共有

コントロール側とクライアント側にクライアントの画面が表示されます。コントロール側とクライアント側のユーザーがキーボード入力とマウス操作ができます。

観察

コントロール側とクライアント側にクライアントの画面が表示されます。クライアント側のユーザーだけがキーボード入力とマウス操作ができます。コントロール側のユーザーは完全にロックされます。

制御

コントロール側とクライアント側にクライアントの画面が表示されます。コントロール側のユーザーだけがキーボード入力とマウス操作ができます。クライアント側のユーザーは完全にロックされます。

画面受信モードを変更するには

1. クライアントの画面を表示しているときに、[画面表示]ウィンドウのリボンで[共有]、[監視]、または[制御]を選択します。

全画面表示で表示する

全画面モードでクライアントを表示すると、キャプションバーとリボンが削除され、画面表示ウィンドウが最大化されます。クライアント画面がそのままコントロール PC に表示されます。

フルスクリーンモードでクライアントをビューするには

1. クライアントの画面表示ウィンドウのリボンにある[全画面表示]アイコンをクリックします。
2. [全画面に切り替える]ダイアログが表示されます。
3. OKをクリックします。
4. 全画面モードではフローティングツールバーが表示され、よく使用する機能やツールにアクセスできます。  をクリックしてツールバーを展開し、すべてのツールにアクセスします。ウィンドウモードに戻るには、  をクリックします。

注意: ホットキー「Ctrl+左 Shift+右 Shift」を使用してウィンドウモードに戻ることができます。

複数のクライアント画面を同時に表示する

NetSupport は、複数のクライアントの画面をウィンドウごとに同時に表示させることができます。コントロールの画面サイズに合うようにビューウィンドウの大きさを合わせるすることができます。

複数のクライアントの画面を表示するには

1. 表示したい各クライアントをビューします。
2. コントロールウィンドウまたはクライアント画面表示ウィンドウのキャプションバーで、**ウィンドウメニュー**  をクリックし、**並べて表示** を選択して表示したい NetSupport Manager のウィンドウを選択します。

選択したウィンドウがコントロールの画面に並べて表示されます。クライアントの画面全体を見たい場合、各クライアントの画面表示ウィンドウのリボンにある**[サイズ合わせ]**アイコンをクリックします。

注意: 初期設定では、**[画面サイズ]**が実行されます。通常の解像度で画面を表示する場合は、画面サイズを無効にします。

クライアントの画面を表示中は、クライアントのモニタを黒抜けにする

セキュリティ上の理由から、リモートコントロールの間はクライアントのモニタに何も表示させない必要がある場合があります。

注意: この機能は、Windows 10 v2004 以降を実行しているクライアントでのみ使用できます (Windows 8 以前を実行しているクライアントにはレガシーサポートが提供されます)。

1. 表示ウィンドウのリボンでホームタブを選択し、**ブランク画面**アイコンをクリックします。
2. クライアントの画面がブランク状態になります。
3. 画面を復元するには、**ブランク画面**アイコンをもう一度クリックします。

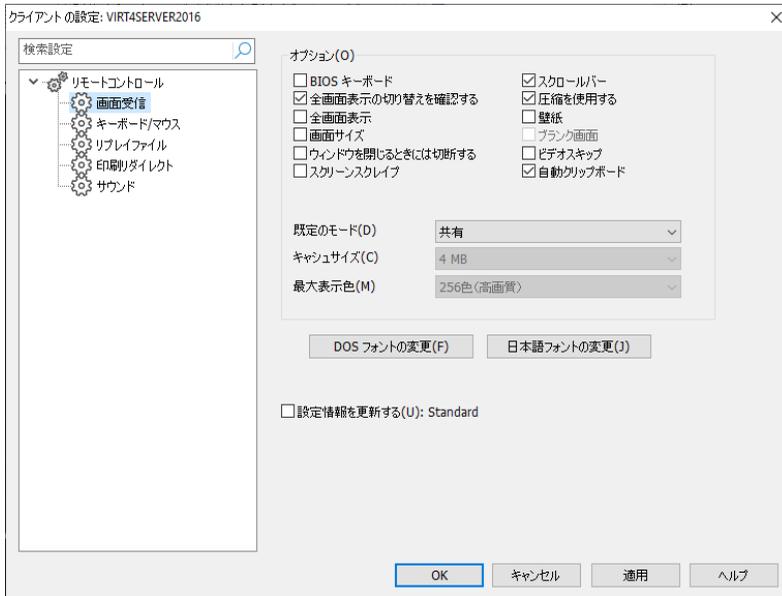
クライアントの画面受信の設定を表示する

複数のクライアントをリモートコントロール中に、コントロールは各クライアントの応答方法をクライアントに応じて変更できます。例えば、あるクライアントは接続に使用する回線が低速なので圧縮を使用し、別のクライアントでは圧縮を使用しないように設定できます。個別のクライアントに対するコントロールの設定情報を変更すると、使用中のコントロールのプロファイルの設定情報が一時的に修正されます

ビュー中にビュー設定を変更するには

1. ビューするクライアントを選択します。
2. 画面表示ウィンドウのキャプションバーにある  をクリックし。
3. 設定ダイアログが表示されます。
4. 画面受信の開始時に有効にするオプションを設定してください。(詳しくは、本マニュアルの「コントロールの設定 - リモートコントロール」を参照して利用可能なオプションを確認してください)

注意: クライアント設定を編集する場合は、変更は現在コントロール中のクライアントにだけ適用されます。変更した設定を今後も適用したい場合は、[設定情報を更新する] にチェックをします。



クライアントの画面を巡回する

巡回機能は順番に接続中のクライアントを巡回してコントロールにその画面を表示させます。ウィンドウのサイズに合わせて複数のクライアントをビューする方法もあります。その場合、画面が見づらくなることがあります。

複数のクライアント画面を巡回ウィンドウ内で巡回することもできます。

クライアントの画面を 1 台ごとに巡回する

1. リボンのリモートタブをクリックします。
2. 巡回に含まれるクライアントを選択します。
3. **1度**に1クライアントアイコンを選択します。
4. このスライダーコントロールを使用して、巡回が次のクライアントに進むまでの間隔を指定します。巡回 間隔は5秒^bから2分^aの範囲で設定できます。
5. **開始**をクリックします。
6. スキャンウィンドウが表[¥]示され順番に最初のクライアントから表[¥]示します。選択したクライアントを循環し、スキャンを終了するまでコントロールにそれらの画面を表[¥]示します。

複数のクライアントの画面を巡回する

巡回ウィンドウ 1 画面で複数のクライアントの画面を同時に巡回することができます。

注意: 1 度に 1 つの巡回ウィンドウに最大 16 クライアント画面を表示できます。

複数の画面を同時に巡回するには

1. リボンのリモートタブをクリックします。
2. 巡回に含まれるクライアントを選択します。
3. 関連するアイコンをクリックして、巡回ウィンドウに表[¥]示するクライアント画面の数を選択します:

- | | |
|---|----------------------|
|  | クライアントは 2x2 に配置されます。 |
|  | クライアントは 3x3 に配置されます。 |
|  | クライアントは 4x4 に配置されます。 |

4. つ以上のクライアントを巡回する場合は、スライダーを使用して巡回間隔を選択できます。巡回 間隔は5秒^bから2分^aの範囲で設定できます。
5. **開始**をクリックします。
6. スキャンウィンドウが表[¥]示されます。

巡回を終了するには

1. キャプションバーで、をクリックします。

画面キャプチャー

画面キャプチャーを使用すると、画面受信または巡回中に現在のクライアント画面のスナップショットを撮り、これをファイルに保存できます。保存時にクライアント名、日時が記録されます。

クライアントの画面をキャプチャーする

1. クライアントを画面受信または巡回している時は、リボンの[ホーム]タブを選択します。
2. **スクリーンショット**をクリックします。
3. 現在のクライアント画面がキャプチャーされ、.pngとしてローカルのピクチャフォルダーのNetSupportManager¥Snapshotsに自動的に保存されます。

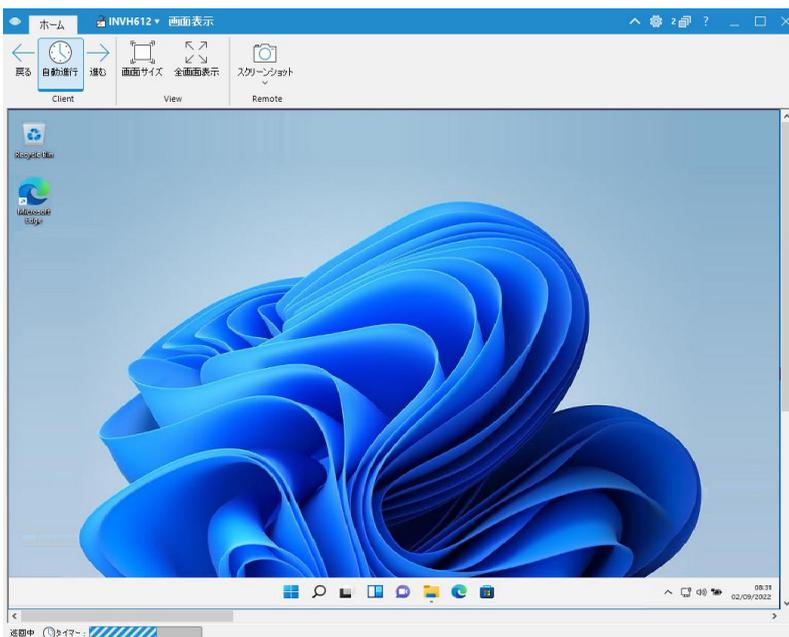
注意: 撮影されたスクリーンショットの数を示すインジケーターが**スクリーンショット**アイコンに表示されます。

4. **[スクリーンショット]**ドロップダウン矢印をクリックすると、最後に撮影した9つのスクリーンショットが一覧表示され(必要に応じてそれらを表示または削除できます)、画像が保存されているフォルダーを開くことができます。

注意: 複数のクライアントを巡回時に画面キャプチャーを使用できるようにするには、クライアント画面をアクティブ(ハイライト表示)にする必要があります。

巡回ウィンドウ

スキャンウィンドウは選択したクライアントの画面を設定したスキャン間隔で巡回する特別な種類のビューウィンドウです。



スキャンは、多くのコンピュータを監視して、何が起きているかだけを見るような場合に適しています。

キャプションバー

キャプションバーには、現在巡回しているクライアントの名前が表示されます（これは、複数のクライアントを同時に巡回する場合は表示されません）。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLSまたは暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意: ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

次のオプションを使用できます:



リボンを表示または非表示にします。



現在の構成の設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

次のアイコンは、1回のクライアントの巡回で使用できます:

- **前へ、オート、次へ ボタン**
自動タイミングをオンまたはオフにしたり、個々のクライアント間で前後に移動したりすることができます。前へボタンはその直前にスキャンしたクライアントの画面を表示します。次へボタンは次にスキャンするクライアント画面を表示します。
- **画面合わせ**
クライアントがコントロールよりも高い解像度の場合があります。このオプションを選択すると、画面のサイズが、表示されているウィンドウに合わせて変更されます。
- **フルスクリーン**
フルスクリーンモードで巡回できます。フローティングツールバーを使用して、操作を制御できます。
- **キャプチャ**
現在のクライアントウィンドウのスナップショットを撮ることができます。

次の追加のアイコンは、複数のクライアントの巡回で使用できます:

- **画面合わせ**
選択したクライアントのウィンドウを最大化します。クライアントウィンドウの右上隅にある  をクリックすることもできます。

- **最大化**
クライアントビューウィンドウを拡大します。クライアントビューウィンドウを選択しない限り、このボタンは使用できません。クライアントビューウィンドウを最大化するには、最大化ボタンをクリックするかビューウィンドウの上部”右上のボックスをクリックしてください。
- **ロック**
選択したクライアントのキーボードとマウスをロックします。
- **チャット**
クライアントとコントロール間でチャットセッションを開始します。
- **シェア**
シェアモードでクライアントをビューします。

クライアント画面エリア

巡回を実行時にクライアントの画面または複数数のクライアント画面を表¥示するために使用します。

ステータスバー

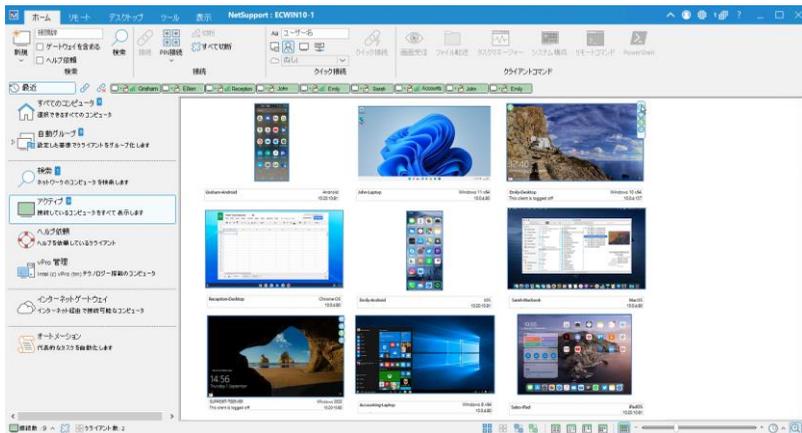
ステータスバーには巡回タイマーが表¥示され、巡回間隔の進行が示されます。

縮小画面表示/モニタモード

クライアントの行動を監視するための素早く簡単な方法を提供する縮小画面表示または監視モードは、コントロールがすべての接続クライアントワークステーションの縮小画面を同時に表示することができます。モニタモード中でもコントロールはビュー、チャット、ファイル転送などの NetSupport の機能を使用することができます。

縮小画面ビューに切り替えるには

1. コントロールウィンドウのツリーでフォルダを選択してクライアントリストを表示します。表示する縮小画面の数を接続中のクライアントだけに制限できます。
2. リボンの表¥スタブを選択し、サムネイルをクリックします。
または
ステータスバーのをクリックします。
または
リストビュー内の空いている場所で右クリックし、[縮小画面] を選択します。



リストビューに各クライアントの縮小画面が表示されます。サムネイルにマウスを合わせると、その画面にズームインできます(ステータスバーのをクリックするとオフにできます)。右クリックで様々な機能を選択できます。例えば、複数の縮小画面を選択してチャットに招待することもできます。

注意: コントロール設定 - コントロールインターフェース設定でクライアントをダブルクリックしたときの動作を変更できます。

各サムネイルの下にはコンピュータ名が表示され、サムネイルの幅が 144 ピクセル以上の場合、現在ログオンしているユーザー、オペレーティング システム、および IP アドレスも表示されます。デフォルトでは、バッテリーと Wi-Fi インジケータ (デバイスの種類に関連する場合) とセキュリティステータス (TLS または暗号化

が有効かどうかを示す) のアイコンがサムネイルに表示されます。リボンの表示タブを選択し、表示オプションのドロップダウンリストから必要なオプションを選択することで、サムネイルに表示されるアイコンをカスタマイズし、クライアントのログインユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

ステータスバーの  をクリックし、リストから必要な時間を選択することで、サムネイルが更新される頻度を調整できます。

クライアントが複数のモニターを実行している場合、サムネイルにアイコンが表示され、各モニターを切り替えたり、デスクトップ全体を表示したりできます。  をクリックするとデュアル モニターメニューにアクセスし、リストから表示するものを選択します。  をクリックすると、デスクトップ全体が表示されます。番号アイコン  をクリックすると、そのモニターを表示します。アイコンが緑色に変わり、選択されているオプションが表示されます。

注意: クライアント画面を拡大する場合、 をクリックしてシングルモニターとマルチモニターを切り替えることができます。

リストビューのクライアントを管理する

クライアントは、クライアントプラットフォーム、接続タイプなどのさまざまな基準を使用して、カテゴリに簡単にグループ化できます。

1. リボンの表示タブを選択し、**グループ化**をクリックします。
2. クライアントを管理したいカテゴリを選択します。
3. クライアントはカテゴリ別にグループ分けされてリストビューに表示されます。

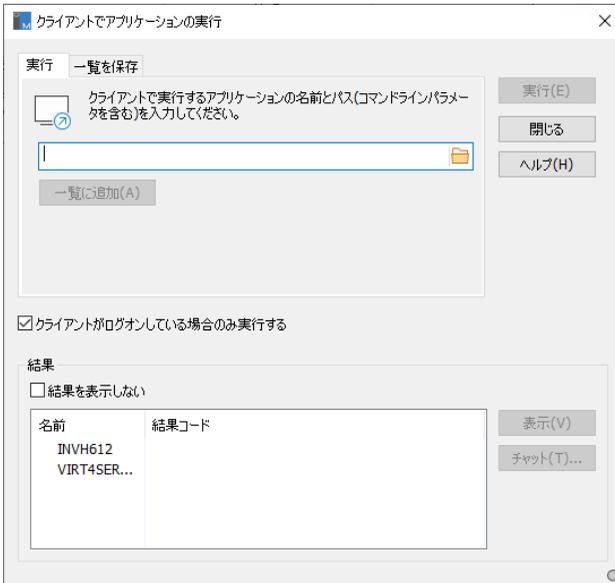
アプリケーションを起動する

個々のクライアントまたはグループのクライアントをリモートコントロールせずに、クライアントでアプリケーションを起動する(実行する)機能です。

注意: アプリケーションがクライアント側にインストールされているまたは利用できる状態ではなくてはなりません。

クライアントでアプリケーションを起動するには

1. 一覧表¥示で必K要なクライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、アプリケーションの起動をクリックします。
または
リストビューでクライアントを右クリックしてクライアントで実行を選択します。



3. 実行タブを選択します。
4. クライアントで実行するアプリケーション名とパスを入力します。
または
コントロールワークステーション上のアプリケーションを参照するには、📁 をクリックします。

注意: 実行を成功させるにはクライアントのアプリケーションがコントロールと同じ場所に保 Ū 存されているかどうかチェックしてください。

5. リストに追加ボックスにチェックをして保 Ū 存リストタブに今後使用できるように保 Ū 存します。

注意: アプリケーションは、リボンの**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストに追加されます。

6. ログオンされているクライアントにアプリケーションを実行したい場合は、[クライアントがログオンしている場合は実行する]を選択します。
7. 操作の結果を表¥示しない場合は、**結果不s要**をクリックします。
8. [実行]をクリックします。
9. 選択した全てのクライアントでアプリケーションが実行されます。操作結果が結果ボックス内に表¥示されます。

または

1. アプリケーションの一覧を保0存してある場合は、**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストから必K必要なアプリケーションを選択します。
2. ログオンしているクライアントでアプリケーションを起動するには、**クライアントはログオンが必K要**をクリックします。操作の結果を表¥示したくない場合は、**結果不s要**をクリックします。
3. クライアントでアプリケーションが起動され、クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表¥示され、結果が表¥示されます。

クライアント画面を表¥示中にアプリケーションをすばやく起動する

アプリケーションの一覧を[表¥示]ウィンドウに保0存して、クライアントですばやく起動できるようにすることができます。

1. [表¥示]ウィンドウのリボンで[ホーム]タブを選択します。
2. **追加**をクリックします。
3. クライアントで実行するアプリケーション名とパスを入力します。

または

コントロールワークステーション上のアプリケーションを参照するには、 をクリックします。

4. **OK**をクリックします。
5. アプリケーションが[クイック起動]ペインに一覧表¥示されます。



注意: 一覧にあるアプリケーションを編0集または削除するには、**管理**をクリックします。

6. クライアントでアプリケーションを起動できます。一覧からアプリケーションを選択し、**起動**をクリックするか、アプリケーションをダブルクリックします。

7. アプリケーションはクライアントで実行されます。

注意: 一覧にないアプリケーションをリモートで起動することもできます。**アプリケーションの起動**を選択し、アプリケーションの名前とパスを入力して、**実行**をクリックします。

クライアントのグループでアプリケーションを実行するには

1. ツリービューで全てのコンピュータフォルダを開きます。
2. 必K要なグループを選択し、リボンのグループタブに移動して、**アプリケーションの起動**をクリックします。
または
グループを右クリックしてクライアントで実行を選択します。
3. クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示されます。
4. 実行タブを選択します。
5. クライアントで実行するアプリケーション名とパスを入力します。
または
コントロールワークステーション上のアプリケーションを参照するには、 をクリックします。

注意: 実行を成功させるにはクライアントのアプリケーションがコントロールと同じ場所に保0存されているかどうかチェックしてください。

6. リストに追加ボックスにチェックをして保0存リストタブに今後使用できるように保0存します。

注意: アプリケーションは、リボンの**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストに追加されます。

7. ログオンされているクライアントにアプリケーションを実行したい場合は、[クライアントがログオンしている場合は実行する]を選択します。
8. 操作の結果を表示しない場合は、**結果不s要**をクリックします。
9. [実行]をクリックします。
10. 選択したグループ内の生徒でアプリケーションが起動します。操作の結果は結果ボックスに表示されます。

または

1. アプリケーションの一覧を保0存してある場合は、**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストから必K要なアプリケーションを選択します。
2. ログオンしているクライアントでアプリケーションを起動するには、**クライアントはログオンが必K要**をクリックします。操作の結果を表示したくない場合は、**結果不s要**をクリックします。
3. グループ内のクライアントでアプリケーションが起動され、クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示され、結果が表示されます。

今後でも使用できるように実行したアプリケーションの内容を保存するには

1. リボンのリモートタブを選択し、アプリケーションの起動をクリックします。
2. クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示されます。
3. **追加**をクリックします。
4. プログラム詳細の追加/編集ダイアログが表示されます。
5. 実行するアプリケーション名とパスを入力します。
6. **OK**をクリックします。
7. アプリケーションが[保存済みリスト]タブに表示されます。
8. **閉じる**をクリックします。

または

1. リボンのリモートタブを選択し、**アプリケーションの起動**ドロップダウン矢印をクリックします。
2. **アプリケーションの追加**をクリックします。
3. プログラム詳細の追加/編集ダイアログが表示されます。
4. 実行するアプリケーション名とパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。
6. **閉じる**をクリックします。

リボンの**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストからアプリケーションを使用できるようになります。

注意: 起動するアプリケーションの一覧は、表示ウィンドウに保存することもできません。

保存したアプリケーション実行を編集するには

1. リボンのリモートタブを選択し、アプリケーションの起動をクリックします。
2. クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示されます。
3. 編集するアプリケーションを選択します。
4. **編集**をクリックします。
5. プログラムの追加/編集ダイアログが表示されます。
6. 必要な変更を行います。
7. **OK**をクリックして終了します。

保存したアプリケーション実行を削除するには

1. リボンのリモートタブを選択し、アプリケーションの起動をクリックします。
2. クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示されます。
3. 削除するアプリケーションを選択します。
4. **削除**をクリックします。
5. **確認**ダイアログが表示されたらはいをクリックします。

ユーザー設定ツール

コントロールはクライアントのコンピュータでアプリケーションを起動できるだけでなく、ユーザー設定ツールを使ってコントロールのコンピュータでタスクを自動的に起動することもできます。ツールは、別のコントロールにコピーして使うこともできます。

ツールを追加するには

1. リボンのツールタブを選択し、**ユーザー定義**セクションで**追加**をクリックします。
2. ユーザー設定ツールダイアログが表示されます。



3. [タブを選択してプログラムまたはスクリプトツールの追加を選択します。
4. 必要な情報を入力します。
5. OKをクリックします。
6. ツールがリストに追加されます。
7. **閉じる**をクリックします。

ツールを実行するには

1. リボンのツールタブを選択し。
2. **ユーザー定義**ペインで実行するツールを選択し、**実行**をクリックします。
または
ユーザー定義ペインでツールをダブルクリックします。
3. ツールが自動的に実行されます。

他のコントロールパソコンにユーザー定義ツールの設定をコピーするには

1. 設定のコピー元のコントロールマシンで、キャプション バーの**現在の構成の設定を変更する**アイコンをクリックします。
2. **ファイルの場所**を選択します。
3. ツールファイルの項目で**変更ボタン**をクリックします。
4. ツールファイルの場所または名前を指定します。
5. このファイルを別のコントロールパソコンから利用できるようにします。
6. このコントロールマシンでコントロールの構成を開き、手順 2と3に従います。
7. 新しいツールファイルを選択して、**開く**をクリックします。
8. 新しいツールファイルが**実装**されます。

コントロールの画面をクライアントに表示する

クライアントをリモートコントロールできるだけでなく、NetSupport ではコントロール画面を次のクライアントに対して見せることができます。

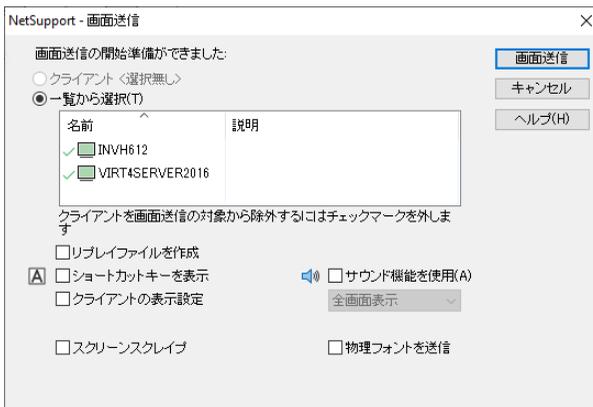
- 選択した各クライアント
- クライアントのグループ
- クライアントのアドホック選択

リプレイファイルをクライアントに見せることもできます。

注意: 多数のマシンに表示する際のパフォーマンスを向上させるために、NetSupport Manager のブロードキャスト画面送信機能がデフォルトで有効になっています。これにより、画面情報 n がすべてのマシンに同時に送信されるため、転送速度が向上します。この機能をオフにすると、画面情報 n が各クライアントマシンに順番に送信されます。NetSupport Manager によって全体のネットワークトラフィックを減らしますが、この機能によりネットワークにブロードキャストパケットが追加発生します。この機能を使用する前にネットワーク管理者に相談してください。画面送信は、マルチキャストを使用してクライアントに送信することができます。指定された IP のマルチキャストアドレスに含まれるマシンに一斉送信されます。

コントロールの画面を表示するには

1. リボンのデスクトップタブを選択し、**デスクトップの表示**をクリックします。
または
自分の画面をクライアントのグループに表示する場合は、ツリービューで必要なグループを選択し、リボンのグループタブで**デスクトップの表示**をクリックするか、グループを右クリックして**デスクトップの表示**を選択します。
2. 画面送信ダイアログが表示されます。



画面送信の対象とするクライアントを選択します。接続中のクライアントが一つだけの場合や、[画面送信] ダイアログボックスを表示する前にクライアントを選択していた場合は、そのクライアントだけが表示され、選択対象となります。それ以外の場合は、以下の手順で画面送信の対象とするクライアントを選択してください：

一覧から選択

接続中のすべてのクライアントとその説明が一覧に表示されます。接続中のクライアントが1台だけの場合は、一覧は無効となります。画面送信をするクライアントを選択して、[画面送信] をクリックします。クライアント名の横にある緑色のチェックマークをクリックすると、クライアントを画面送信から除外できます（赤い×字が表示されます）。

リプレイファイルを作成する

画面送信のセッションを録画しリプレイファイルに保存するとクライアントは、後日セッションを再生することができます。

ショートカットキーを表示する

コントロールが実行したすべての操作をクライアントが確認できるようにするには、[ショートカットキーを表示する] を有効にします。コントロールが使用するキーの組み合わせ（例えば Ctrl+V）は、コントロール画面とクライアント画面の両方に表示されます。

注意： Alt+V+T などの複数のキーの組み合わせを使用する場合、NetSupport は、1 度に 2 つの隣接するキーしか表示できません。

クライアントの表示モードの設定（ウィンドウまたは全画面表示）

このオプションでクライアントにウィンドウまたは全画面表示で画面送信を実行するかどうかを設定します。

サウンド機能を使用する

サウンド機能を有効にします。1 台のクライアントだけに画面送信を実行している場合は、コントロールとクライアントが会話することができます。複数のクライアントに画面送信を実行している場合は、コントロールはアナウンス機能を使用することができます。詳しくは本マニュアルの「サウンド機能を使用する」を参照してください。

スクリーンスクレイプ

NetSupport では効率的に画面情報をキャプチャする方法として、画面を表示させるコンピュータのビデオドライバにフッキングする技術を採用しています。画面データをキャプチャする技術。しかし、アプリケーションによってはドライバをバイパスしないものもあるのでこの方法が全く機能しない場合があります。このような状況では、画面のスナップショットを撮影して再生させる [スクリーンスクレイプ] モードを有効にします。このモードは、クライアントの画面を正確に再生させることはできますが、ネットワークに多大な負荷を与えることになります。

物理フォントを送信

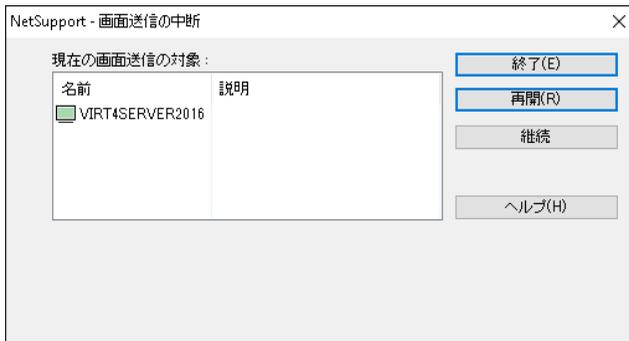
画面共有時のデータの送信量を減らすため、NetSupport では、参照用のフォント情報を送信します。対象のコンピュータは、内部のフォントマップを参照して送られてきたフォント情報に一致するフォントを見つけます。ほとんどの場合は、同じフォントを利用できますが、そうでない場合は完全なフォント情報を送信することができます。有効にするには、このボックスにチェックをしてください。

表示するモニタの選択:

コントロールがマルチモニタを使用している場合、NetSupport は認識します。ドロップダウンリストで表示させるモニタを選択できます。どちらが正しい画面かわからないときは、[識別] を選択します。

画面送信を終了するには

1. タスクトレイの画面送信 ボタンをクリックします。
2. 画面送信ダイアログが表示されます。



以下の目的のボタンがあります:

終了

画面送信を終了してクライアントの画面とキーボードを解放します。

再開

画面送信を再開します。

継続

コントロールが別の作業をしている間、クライアントの画面とキーボードは引き続きロックします。クライアントには、コントロールが何をしているのかわきません。効率よくショーを一時停止できます。

アプリケーションの表示

表示されているアプリケーションがクライアントに表示されます。アプリケーションを変更するには、コントロールのデスクトップ上で必要なアプリケーションまでアイコンをド

ラッグして放します。(デスクトップ上でマウスを動かすとピンク色の枠線が選択したアプリケーションの周りに表示されます。)

注意: このオプションは、アプリケーションを表示する場合にのみ表示されます。

または

1. タスクトレイの画面送信 アイコンを右クリックします。
2. [ショーの終了]をクリックします。

クライアント画面を複数のクライアントに表示する

NetSupport では、コントロールの画面を複数の接続中のクライアントに見せることができます。特定のクライアントの画面を複数の他のクライアントに表示させることもできます。この操作をディスプレイといいます。

例えばコンピュータ_1 のアプリケーションを経理部門に表示したい場合、コンピュータ_1 の画面をビューして、それを経理部門のメンバーにショーすることができます。これによりメンバーはコンピュータ_1 の画面を見ることができます。

クライアント画面を表示するには

1. 画面送信の対象となるクライアントと画面受信の対象となるクライアントに接続します。
2. 画面をショーするクライアントをビューします。
3. リボンのデスクトップタブを選択し、**画面送信**をクリックします。
4. 画面送信ダイアログが表示されます。
5. **これらのクライアントオプション**を選択します。
6. 名前の横にある緑色のチェックマークをクリックして、現在表示しているクライアントを画面送信から除外します (赤い×印に変わります)。そうしないと、クライアントを画面受信した際に、「このクライアントにショーを行えません」というエラーが表示されてしまいます。
7. 画面送信を開始するには、[画面送信] をクリックします。

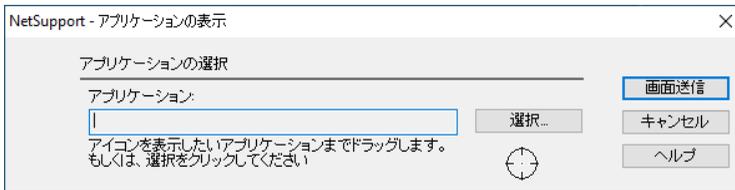
画面受信しているクライアントの画面が他のクライアントに画面送信されます。クライアントの画面对して画面サイズや全画面表示などの機能を使用することができます。

アプリケーションの表示

画面送信機能には、コントロールの画面をクライアントに表示できるだけでなく、コントロール側で開いているアプリケーションが複数ある場合、1つのアプリケーションだけを表示させることもできます。

アプリケーションを表示するには

1. 画面受信に含めるクライアントを選択します。
2. リボンのデスクトップタブを選択し、**アプリケーションの表示**をクリックします。
または
クライアントのグループにアプリケーションを表示する場合は、ツリービューで必要なグループを選択し、リボンのグループタブで**アプリケーションの表示**をクリックするか、グループを右クリックして**アプリケーションの表示**を選択します。
3. アプリケーション表示ダイアログが表示されます。



4. コントロールのデスクトップ上のアプリケーションまでアイコンをドラッグして離します。(マウスをデスクトップ上で移動させると、ピンク色の枠線が選択したアプリケーションの周囲に表示されます。)
または
[選択] をクリックして表示される一覧からアプリケーションを選択します。

注意: コントロールがマルチモニタを使用している場合h、NetSupport は、それを識別して、選択したアプリケーションがあるモニタかどうか確認するオプションがあります。正しいモニタかわからない場合は、[識別] をクリックします。モニタを 1 台しか検出しなかった場合は、[画面全体] を選択します。

5. [画面送信] をクリックします。

サウンド

NetSupport は、マイク、ヘッドホンやスピーカーを介して接続されているクライアントを音声会話することができます。コントロールは、マイク出力やバックグラウンドのサウンドを聴くこともできます。クライアントの画面を表示中、コントロールの画面をクライアントに表示中、またはリモートコントロール以外でもクライアントを選択してこの機能を使用することができます。コンピュータにサウンド機能がインストールされている場合だけ、NetSupport のサウンドは機能します。

サウンド機能を使用するには

1. リストビューでクライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**オーディオ**をクリックします。
または
クライアントを右クリックし、**オーディオ**を選択します。
3. 音声ツールバーが表示されます。次のことが可能です：



- 音声のオンまたはオフの切り替える
- コントロールまたはクライアントのみが話せるようにする
- クライアントが話す
- **設定**をクリックしてマイクの感度を設定し、音質を選択します。

サウンドツールバーを最小化するとサウンドセッションが無効化され、ツールバーをアクティブにすれば再開できます。複数のサウンドセッションを開始できますが、アクティブ状態にできるのは、1 度に 1 セッションだけです。

ビュー中にサウンドを使用するには

1. オーディオオプションは、[表示]ウィンドウリボンの[オーディオ]タブに表示されません。
2. サウンドツールバーと同様のオプションです。

注意:  をクリックして、オーディオ設定にアクセスします。マイクの感度を設定したり、音質を選択したりすることもできます。

ショー中に音声を使用するには

1. ショーダイアログボックスで [サウンド機能を使用する] にチェックをします。
2. コントロール設定の [サウンド] オプションで設定したサウンドの設定がセッション中に適用されます。

アナウンス

この機能は選択したすべてのクライアントのヘッドフォンまたはスピーカーにサウンドアナウンスを送信します。クライアントは、コントロールを聞くことはできますが、会話はできません。

アナウンスをするには

1. リボンのデスクトップタブを選択し、**アナウンス**をクリックします。
2. アナウンスダイアログボックスが表示されたら、対象のクライアント(対象は緑チェック、対象外は赤バツ)を選択して、[アナウンス] をクリックします。
3. アナウンスできるようにダイアログボックスが表示されます。
4. 話終えたら、[OK] をクリックします。

マイクとスピーカーの音量を調整する

NetSupport を使ってサウンド設定の調節ができます。サウンドクオリティを高くすると、送信データ量が大きくなるので注意してください。処理速度の遅いコンピュータの画面の更新パフォーマンスに影響します。

ボリュームコントロールにアクセスするには

1. タスクバーのスピーカーアイコンを右クリックします。

次の方法でサウンドクオリティなど他のオプションを変更します:-

一般的な設定 (すべてのクライアントの初期設定を変更します):

1. キャプションバーの現在の構成の設定を変更  アイコンをクリックします。
2. リモートコントロール-オーディオを選択します。

各クライアントを個別に設定する (ビュー中):

1. 表示ウィンドウリボン上のオーディオタブに移動し、オーディオ設定  をクリックします。

どちらの場合も、サウンド設定ダイアログが表示され、次のプロパティを設定できます:

ボリューム

しきい値	マイクの感度
マイク	マイク音量
スピーカー	スピーカーの音量

イネーブル

オン	サウンド機能を有効にします
オフ	サウンド機能を無効にします
話す	コントロールだけが話します
聞く	クライアントだけが話します

ビデオプレイヤー

NetSupport はフル音声、ビデオ、リモートコントロールなどのマルチメディアに対応しています。このセクションではビデオプレイヤーの使い方を説明します。

注意: NetSupport Video Player は、インストール中に NetSupport School 先
生コンポーネントをインストールする場合にのみ使用可能です。

ビデオプレイヤーを使って各コンピュータでビデオファイルを見るだけでなく、フル音声機能に対応した NetSupport リモートコントロール機能と組み合わせて、トレーニングやデモンストレーションを効果的に行なうことが可能です。ショー 実行してビデオプレイヤーを起動し全クライアントはそれぞれのコンピュータからフル音声機能でビデオファイルを見ることができます。

ビデオプレイヤーは avi や mpg などの標準ビデオファイルに対応しています。ビデオプレイヤーは各クライアントのローカルで実行でき、ローカルまたはネットワークドライブのビデオファイルにアクセスできます。ローカルにビデオファイルを保存してある場合、ビデオプレイヤーの操作と同期にネットワークトラフィック制限されるのでネットワークトラフィックは少なくなります。よって複数のコンピュータで同時にビデオを操作することが可能です。

ネットワークドライブにあるビデオファイルをクライアントが開く場合、ネットワークへの影響は大きくなります。ビデオプレイヤーは各コンピュータのローカルで実行されますが、ビデオファイルはネットワークを通してアクセスします。パフォーマンスを最大限に発揮するには、ファイル配布 を使って各コンピュータのローカルにビデオファイルを保存します。

その他の影響要素:

- ファイルにアクセスしているクライアント数
- ネットワークのスピード 例: 10/100 MB
- ビデオファイルのサイズ
- クライアントのコンピュータの搭載メモリや処理能力
- ネットワークで発生する他のトラフィック

注意

- クライアントのコンピュータが、サーバからファイルを開く必要がある場合、スムーズな操作を実現するために、クライアントが関連するドライブやファイルへのアクセス権があるかどうかを確認してください。
 - グラフィックボードや画面の解像度の設定により表示クオリティに影響します。
-

ビデオファイルを再生する

1. ビデオファイルを見せたいクライアントに対してショーを実行します。
2. ショーを実行中に、NetSupport のプログラムフォルダ内の [NetSupport ビデオプレイヤー] アイコンをダブルクリックして起動します。
3. ビデオプレイヤーコントロールパネルが表示されます。
4. ビデオプレイヤーのメニューから{ファイル}{開く}を選択して正しいビデオファイルを選択します。
5. ビデオプレイヤーのツールバーの下に選択したファイルのビデオ画面が表示されいつでも再生できます。

注意: NetSupport ビデオプレイヤーは、OS 上のオーディオソフトウェアやハードウェアを使用します。必要に応じてこれらを調整してください。

6. ビデオプレイヤーツールバーの [再生] ボタンをクリックします。
または
ビデオプレイヤーのメニューから {再生}{再生}を選択します。

ビデオファイルを一時停止または停止、再生中に最初に戻るには

1. ツールバーの[一時停止] または [停止] ボタンをクリックします。
または
ビデオプレイヤーのメニューから{再生}{停止/一時停止}を選択します。

注意: [停止] コマンドは、ビデオファイルを見せているクライアントのビデオ画面を黒抜けにします。

ビデオファイルを最初まで巻き戻すには

1. ビデオファイルの最初まで巻き戻すにはツールバーの [開始] ボタンをクリックします。
または
ビデオプレイヤーのメニューから {再生}{開始} を選択します。

ビデオファイルを最後に移動、または早送りするには

1. ツールバーの [終了] ボタンをクリックするとファイルの最後まで移動します。
または
ビデオプレイヤーのメニューから[再生]{終了}を選択します。

ビデオプレイヤーコントロールパネル

ビデオプレイヤーのコントロールパネルは、一般的なAV機器と同じように操作ができます。



ファイルメニュー

ファイルメニューには次のオプションがあります：

開く

ビデオファイルを選択して開きます。

閉じる

開いているビデオファイルを閉じます。

終了

ビデオプレイヤーを終了します。

表示メニュー

表示メニューには次のオプションがあります：

ツールバー

ビデオプレイヤーのツールバーの表示/非表示を切り替えます。

ステータスバー

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

ズーム

ビデオ画面のサイズを変更します。

再生メニュー

再生メニューには次のオプションがあります：

再生

ビデオファイルを再生します。

停止

再生したビデオファイルの最初に戻ります。

一時停止

クライアントのビデオ画面を黒抜けにしてコントロールのコンピュータのビデオファイルを一時停止します。

リピート

コントロールが停止するまで、ビデオファイルが繰り返されます。

開始

ビデオファイルの最初に巻き戻します。

終了

ビデオファイルの最後に早送りします。

ミュート

ビデオの再生中にクライアントがヘッドフォンを使用していない場合、各コンピュータから聞こえるサウンドを無効化することができます。このオプションはクライアントのコンピュータのサウンドをオフにしますがコントロールのサウンドはそのまま聞こえます。

ヘルプメニュー

ヘルプファイルとバージョン情報にアクセスできます。

リプレイファイル

リモートコントロール中のコントロール側またはクライアント側の画面、キーボード、マウスの操作を録画、保存、再生することができます。サウンド機能を使用するようにコンピュータが設定されている場合は、ナレーションも同時に収録することができます。

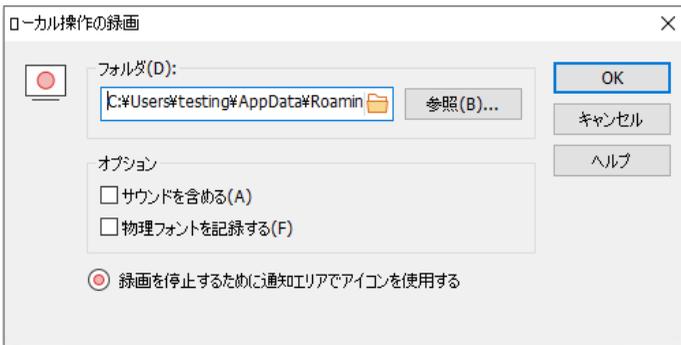
適切な設定オプションを有効にすることでコントロールは記録を行なうことが可能です。

- ローカルの記録
- 各クライアントまたはすべてのクライアント PC

ローカルの操作を記録する

ローカルコンピュータの操作を録画、再生することができます。リモートのクライアントにリプレイファイルを見せることもできます。

1. リボンのデスクトップタブを選択し、録画アイコンをクリックします。
2. ローカル操作の録画ダイアログが表示されます。



3. **フォルダ**
リプレイファイルの保存先を指定します。各ファイルを判別しやすいように'ローカル'と録画日時がファイル名の先頭に付きます。
4. **サウンドを含む**
画面、マウス、キーボード操作に加えてサウンド設定がされているコンピュータの場合は、ナレーションを収録することもできます。有効にするには、このボックスにチェックをします。
5. **物理フォントを記録**
画面共有時のデータの送信量を減らすため、NetSupport では、参照用のフォント情報を送信します。対象のコンピュータは、内部のフォントマップを参照して送られてきたフォント情報に一致するフォントを見つけます。ほとんどの場合は、同じフォントを利用できますが、そうでない場合は完全なフォント情報を送信することができます。有効にするには、このボックスにチェックをしてください。

6. 録画を開始するには [OK] をクリックします。[録画] アイコンがタスクバーに表示されます。
7. 録画を停止するには、[録画] アイコンをダブルクリックします。

クライアント PC 側のリプレイファイルを録画する

コントロールが、リプレイファイルを録画するように設定されているクライアントをビューすると、リモート PC の操作を録画します。各クライアントごと、もしくは全体としてオプションを有効にできます。

ビュー中のすべてのクライアントのリプレイファイルを録画する

この手順は、コントロールがクライアント PC をビューするたびにその都度リプレイファイルを作成します。この設定は、現在のコントロールの設定、または名前付き設定ファイルに適用できます。

1. 特定のコントロールプロファイルを更新するには、キャプションバーの**プロファイル**  アイコンをクリックし、必要なプロファイルを選択して**設定**をクリックします。
または
標準 W 準のコントロールプロファイルを更新する場合は、キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**  アイコンをクリックします。
2. 設定情報の設定ダイアログが表示されます。
3. [セキュリティ - リプレイファイル] を選択し、該当するオプションを有効にしてください。詳しくは、本マニュアルの「コントロールを設定する - セキュリティオプション - リプレイファイル」を参照してください。

クライアントごとにリプレイファイルを記録する

この手順は、クライアント設定で [リプレイファイルを録画する] が有効になっているコンピュータにリプレイファイルを作成します。

1. 対象となるクライアント PC にて、[拡張] クライアント設定を起動します。
2. 編集するプロファイルを選択します。
3. [セキュリティ - リプレイファイル] を選択し、該当するオプションを有効にしてください。詳しくは、本マニュアルの「コントロールを設定する - セキュリティオプション - リプレイファイル」を参照してください。

録画したリプレイファイルを見る

ファイルにアクセスできるコントロールは、リプレイファイルを見ることができます。またクライアントにリプレイファイルを見せることもできます。

NetSupport クライアントプログラムには、クライアントがローカルでファイルを再生するためのリプレイオプションがあります。

コントロール側で再生する場合

1. リボンのデスクトップタブを選択し、**再生**をクリックします。
2. 最新の 20 個のリプレイ ファイルのリストが表示されます。リストから必要なリプレイ ファイルを選択するか、**参照**をクリックして、リプレイファイルが保存されているフォルダを開きます。

注意:

- デフォルトでは、リストは空です。再生された新しい録画と再生ファイルは、自動的にリストに追加されます。リプレイファイルを再生せずにリストに追加するには、**参照**をクリックして必要なリプレイファイルを選択し、**今すぐ再生**オプションをオフにして**開く**をクリックします。
 - 必要なリプレイ ファイルを選択して**ファイルの削除**をクリックすると、リプレイファイルを削除できます。
-
3. リプレーウィンドウが表示されます。リプレーコントロールを使ってファイルを開始/停止します。

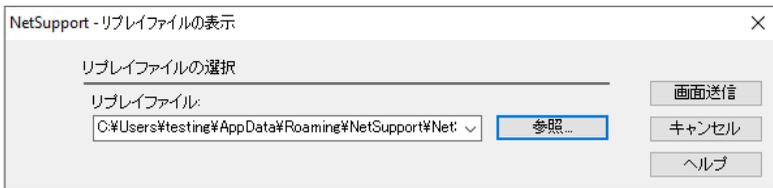
クライアント側で再生する場合

1. システムトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックします。
2. クライアント情報ウィンドウが表示されます。
3. リプレイアイコンをクリックします。
4. リプレイファイルの保存場所を指定します。
5. 再生するファイルを選択します。
6. **[開く]**をクリックします。リプレーウィンドウ が表示されます。リプレーコントロールを使ってファイルを開始/停止します。

クライアントにリプレイファイルを見せる

コントロールまたはクライアント個別にプレイファイルを見ることができます。コントロールには、特定のファイルを複数のクライアントに見せるオプションもあります。

1. リプレイファイルを表 \forall 示するクライアントを選択します。
2. リボンのデスクトップタブを選択し、**リプレイを表 \forall 示**をクリックします。
または
リプレイファイルをクライアントのグループに表 \forall 示する場合は、ツリービューで必
K 要なグループを選択し、リボンのグループタブで**リプレイの表 \forall 示**をクリックする
か、グループを右クリックして**リプレイの表 \forall 示**を選択します。
3. ショーリプレイダイアログが表示されます。

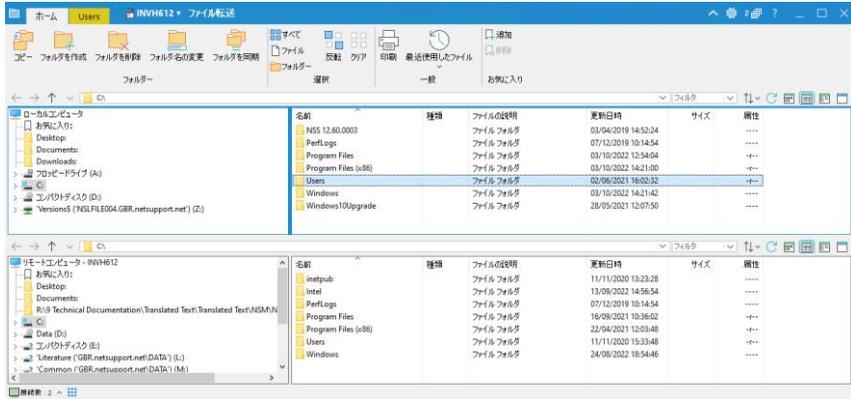


4. 参照をクリックしてリプレイファイルを選択します。
5. ショーをクリックします。
6. リプレーウィンドウがコントロール側で開き、選択したクライアントにリプレーファイルの再生を開始します。
7. リプレイウィンドウのキャプションバーの  をクリックして、再生を終了します。

ファイル転送

ファイル転送ウィンドウ

個別のクライアントに対してファイル転送を実行すると、ファイル転送ウィンドウが表示されます。ドラッグアンドドロップによる簡単な操作でローカルから別の場所にファイルを転送できます。



ファイル転送ウィンドウは、次のセクションに分かれています：

キャプションバー

キャプションバーには、このファイル転送ウィンドウが動作しているクライアントが表示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLSまたは暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意： ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

次のオプションを使用できます：



リボンを表示または非表示にします。



現在の構成のファイル転送設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプや一般的なバージョン、ライセンスは、テクニカルサポートおよび圧縮情報にアクセスします。

リボン

リボンを使用すると、選択したファイルまたはフォルダーで作業するときに、すべてのタスクとツールにアクセスできます。

リボンの[ホーム]タブには、次のセクションがあります：

- **フォルダー**
コピー、削除、名前の変更など、フォルダーを操作するためのオプションにアクセスできます。
- **ファイル**
コピー、削除、名前の変更など、個々のファイルを操作するためのオプションにアクセスできます。このセクションは、作業するファイルを選択した場合のみ表示されます。
- **選択**
転送するファイルとフォルダーをリストビューで選択できます。
- **全般**
選択したフォルダーまたはファイルリストのコンテンツを印刷し、最近のファイルのリストにアクセスしてクライアントに送信できます。
- **お気に入り**
現在選択されているフォルダをツリービューのお気に入りフォルダに追加または削除します。

ファイルまたはフォルダーを選択すると、そのプロパティを示す新しいタブが表示されます。次のセクションを使用できます：

- **属性**
選択したファイルまたはフォルダーの属性を表示および設定します。
- **情報**
選択したファイルまたはフォルダーの概要を提供します。

- **アクション**

ここから、開く、コピー、削除、名前の変更などのアクションを実行できます。

ローカルペイン

ローカルは左側にコントロールのフォルダツリー、右側にフォルダ内容のリストを表示します。

リモートペイン

リモートは左側にクライアントのフォルダツリー、右側にディレクトリ内容のリストを表示します。

ファイル情報エリア

ファイル情報エリアは、ローカルペインとリモートペインの両方の上部に表示されます。矢印を使用して、ツリービューの前、次、または親フォルダーに移動します。クリックして、以前に選択したフォルダーのリストから選択します。現在のフォルダーパスが表示されます。ここにパス名を入力するとフォルダーに直接移動できます。リストビューのコンテンツを表示する方法をフィルタ、並べ替え、選択にできます。ファイルやフォルダーを操作するときにスペースを増やすために、**ウィンドウ**をクリックしてローカルペインまたはリモートペインを最大化できます。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのファイル転送ウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

ファイルやフォルダをコピーする

NetSupport は、コントロールとクライアント間でファイルの転送が可能な洗練されたファイル転送機能を標準搭載しています。

注意:

- 少しでもパフォーマンスが向上するように、NetSupport Manager は、転送先にファイルが既に存在する場合、変更されたファイルの一部だけを転送するデルタファイル転送技術を採用しています。通信帯域が制限されている 2 つのロケーション間でデータベースファイルの更新する状況などで、その有用性が証明されることでしょう。
 - ファイル転送機能は、キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**アイコンをクリックし、**ファイル転送**を選択することで構成できます。
 - クライアント画面を表示中は、コントロールウィンドウのエクスプローラからファイルを直接クライアントのデスクトップにドラッグ & ドロップできます。
-

コントロールとクライアント間でファイルを転送するには

1. リストから対象クライアントを選択します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**ファイル転送**をクリックします。
または
クライアントを画面表示している場合は、表示ウィンドウのリボンでツールタブを選択し、**ファイル転送アイコン**をクリックします。
3. ファイル転送ウィンドウが開きます。
4. ローカルまたはリモートペインのツリービューから、アイテムのコピー先のドライブまたはフォルダを選択します。

注意: クライアントのデスクトップ上の 開いているフォルダ (Windows エクスプローラ) へのパス がクイック選択ができるようにファイル転送ウィンドウ上部に表\示されます。

5. ローカルまたはリモートのリストビューから、コピーするアイテムを選択します。
すべてのファイルを選択するには、リボンの**ファイルアイコン**をクリックします。すべてのフォルダを選択するには、**フォルダーアイコン**をクリックします。すべてのファイルとフォルダーを転送する場合は、**すべてアイコン**をクリックします。

注意: NetSupport Manager は、コントロールが最近使用したファイルのリストを提供し、クライアントに送信することができます。最近使用したファイル(最後の 20 個のファイルが表\示されます)をクリックして、リストからファイルを選択します。ファイルは、クライアントの現在のフォルダーにコピーされます。

6. ファイルコピーボタンをクリックします。

注意: 先生機 のビューリストから生徒機のビューリストのドライブやフォルダへファイルやフォルダをドラッグ & ドロップしてコピーすることもできます。

7. 確認ダイアログが表示されたら、はいをクリックします。
8. 進行を表示するコピー進行ダイアログが表示されます。ここから、完了までエラーメッセージや上書き確認を無視するかどうか選択できます。操作の終了時に、概要ウィンドウ内にこれらは表示されます。

注意: パフォーマンス向上のために、NetSupport Manager ではデルタファイル転送テクノロジーを採用しています。転送先フォルダに既に存在するファイルの変換箇所だけを転送する仕組みです。使用帯域や有効性のいずれかに問題がある2拠点間のデータベースファイルを更新する場合最も有効であると分かれます。

クライアント間でファイルの転送をするには

1. ファイル転送ウィンドウをそれぞれのクライアントで表示させます。
2. 両方のファイル転送ウィンドウが見えるように調整して、単にクライアント間でファイルやフォルダをドラッグアンドドロップします。

注意: リモートペインの上にあるウィンドウをクリックすると、クライアントのファイルとフォルダーの詳細を表示できます。

ファイルとフォルダーの管理

ファイル転送操作中に操作したいファイルとフォルダーを簡単に管理できます。

フォルダを作成する

1. ローカルまたはリモートのツリービューを選択します。
2. フォルダを表示させたいドライブやフォルダを選択します。
3. リボンの[フォルダーの作成]アイコンをクリックします。
4. フォルダ作成ダイアログが表示されます。
5. フォルダ名を入力してOKをクリックします。

お気に入りフォルダを追加する

定期的アクセスする必要があるフォルダーは、ツリービューのお気に入りフォルダーに追加できます。

1. ローカルまたはリモートペインで必要なフォルダーを選択します。
2. リボンの[追加]アイコンをクリックします。
3. ツリービューの[お気に入り]の下にフォルダーが表示されます。

ファイル名を変更する

1. ローカルペインまたはリモートペインのリストビューを選択します。
2. 名前を変更するファイルを選択します。
3. リボンの[ファイル名の変更]アイコンをクリックするか、F2キーを押します。

4. ファイルアイコン隣の黒い境界線に新しいファイル名を入力します。
5. **Enter**キーを押します。

ファイル属性を変更する

ファイルの属性を変更した場合があります。例えば読み取り専用などにする。

1. ビューまたは変更したいファイル属性を選択します。
2. リボンの[プロパティ]アイコンをクリックします。
または
右クリックし、プロパティを選択します。
または
リボン内のファイル名が表示されているタブを選択し、[変更]をクリックします。
3. ファイルプロパティダイアログが表示されます。
4. 設定する属性を確認またはクリアします。

リモートファイルの編集

コントロールマシン上でクライアントマシンのファイルを編集し、更新されたバージョンをクライアントに送り返すことができます。

注意: 必要なファイルを右クリックして**クイック編集**を選択すると、NetSupport Manager の内部テキスト エディタを使用してファイルをすばやく編集できます。

1. リモートペインで必要なファイルをダブルクリックします。
または
リモートペインで必要なファイルを選択します。リボンの**アイテムを開く**アイコンをクリックして、既定のアプリケーションを使用してファイルを開くか、ドロップダウン矢印をクリックして、ファイルを開くアプリケーションを選択します。

注意: **アイテムを開く**アイコンは、.exe、.cmd、.bat ファイルなどの特定のファイルの種類では使用できません。これらを開くアプリケーションを選択するには、ファイルを右クリックし、**プログラムから開く**を選択して、**アプリケーションを選択**をクリックします。

2. ファイルをアップロードして開くことを確認するダイアログが表示されます。**開く**をクリックします。

注意: このダイアログは、.bmp、.png、.jpg、.gif、.txt、.doc のファイルの種類では表示されません。ファイル転送設定で、安全なファイルの種類のリストを追加および編集できます (リストに .exe、.cmd、および .bat ファイルの種類が追加されている場合でも、これらを開くアプリケーションを選択する前にプロンプトが表示されます)。

3. ファイルに関連する変更を加え、保存して閉じます。

4. メッセージが表示されます。[はい]をクリックして、更新したファイルをクライアントに送信します。[名前を付けて保存]フィールドに新しい名前を入力すると、ファイルの名前を変更できます。[いいえ]をクリックすると、ファイルはクライアントにコピーされず、加えた変更は失われます。

注意: 編集中にファイルが変更された場合は通知されます。ファイルのコピーを別の名前で保存するか、クライアントでリモートファイルを上書きするか、キャンセルし何も変更しないかを選択できます。

ファイルやフォルダを削除する

コントロールまたはクライアントマシンからファイルとフォルダを削除できます。

ファイルを削除するには

1. 削除したいファイルを選択します。
2. リボンの[ファイルを削除]アイコンをクリックします。
3. 確認ダイアログが表示されたらはいをクリックします。

フォルダを削除するには

1. 削除したいフォルダを選びます。
2. リボンの[フォルダを削除]アイコンをクリックします。
3. 「フォルダの削除」ダイアログが表示されます。
4. [内容も含む]チェックボックスを選択します。
5. はいをクリックします。

注意:

- 1度に複数のフォルダを削除することはできません。「削除」操作を実行時に一覧表で複数のフォルダを選択した場合、最後に選んだフォルダだけが削除されます。
 - 既定では、ローカルペインから削除されたすべてのファイルは、ごみ箱へ送られます、これはファイル転送設定内で変更できます。
-

ファイル転送リストを印刷する

ファイル転送ウィンドウには、ローカルまたはリモートペインのファイルの一覧を印刷できるオプションがあります。ファイル転送作業の記録を残したい場合に、お役立てください。

フォルダのツリー階層、ファイルの一覧、または指定した範囲で印刷ができます。

フォルダやファイルのリストを印刷するには

1. ローカルもしくはリモートペインで印刷したいフォルダのツリー階層または各ファイルの一覧を選択します。
2. リボンの[印刷]アイコンを選択します。印刷オプションダイアログが表示されます。
3. フォルダのツリー階層またはファイルの一覧とそれらがすべてか指定した範囲かどうかを確認します。[画像を印刷する]にチェックをすると各ファイルに該当するアプリケーションのアイコンを含めることも選択できます。
4. 印刷するには、[OK]をクリックします。

フォルダを同期する

コントロールとクライアントで選択したフォルダの内容を同期できます。2つのフォルダを同期すると、いずれかのフォルダ内の新しいファイルまたは更新されたファイルが、もう一方のフォルダに自動的にコピーされます。

フォルダを同期するには

1. クライアントと同期するローカルペインのツリービューからフォルダを選択します。
2. コントロールと同期するリモートペインのツリービューからフォルダを選択します。
3. リボンの[フォルダを同期]アイコンをクリックします。
4. フォルダの同期ダイアログが表示されます。
5. 選択した2個のフォルダのパスを確認します。
6. [サブフォルダを含める]を選択して、サブフォルダを含めることを選択します。
7. 自動的に新しいファイルを上書きするには、**すべて上書き**を選択します。
8. [OK]を選択します。
9. 確認ダイアログが表示されたら、[はい]をクリックします。
10. 同期の進行状況ダイアログが表示されます。
11. 完了したら、フォルダの同期結果ダイアログに結果が表示されます。
12. 内容を確認して、[OK]をクリックします。

複数のファイル転送ウィンドウを配置する

1 度に複数のクライアントの画面を表示して、複数のファイル転送ウィンドウを開くことができます。これらのファイル転送ウィンドウは、[ウィンドウ]メニューを使用して簡単に配置できます。

複数のファイル転送ウィンドウを配置するには

1. ファイル転送ウィンドウとコントロールウィンドウがアクティブ状態であることを確認します。
2. キャプションバーでウィンドウメニュー  をクリックして、[並べて表示 - ファイル転送ウィンドウ]を選択します。
3. 開いているすべてのファイル転送ウィンドウがコントロールのコンピュータの画面内に収まるように配置されます。

注意

- 複数のファイル転送ウィンドウで作業する場合は、ファイル転送ウィンドウのキャプションバーを参照し、特定のファイル転送ウィンドウでどのクライアントが表示されているか確認してください。
 - [並べて表示] 機能を使用すれば、同様に、すべてのビューウィンドウとコントロールウィンドウを配置できます。
-

リストビューのファイルにフィルタを適用する

ローカルまたはリモートのリストビューのコンテンツにフィルターを適用して、特定の条件を満たすファイル名または特定のファイルタイプのみが表示されるようにすることができます。これを行うには、ファイル情報領域(両方のペインのリストビューの上にあります)の[フィルター]フィールドを使用します。

ローカルリストビューに適用されたフィルター設定は、リモートリストビューの表示に影響を与えません。その逆も同様です。

フィルタ設定は、リセットするか、[ファイル転送]ウィンドウを閉じるまで適用されたままになります。

リストビューのファイルにフィルタを適用するには

1. フィルタリングするリストビューのペインの上にある[フィルタ]フィールドをクリックします。
2. ファイル名でフィルタリングするには、検索語の後に**を入力します。例えば、MKTの文¶字列で始まるファイル名を表¥示hしたい場合は、フィルタボックス内にMKT*.*とタイプします。
または

ファイルの種類でフィルタリングするには、[フィルタ]フィールドにファイルの拡張子を入力するか(拡張子の種類の前に*を入力)、をクリックして現在のファイルの種類のリストから選択します。

3. フィルタを適用するには、Enter キーを押します。

リストビューのファイルフィルタをリセットするには

1. リセットするリストビューのペインの上にある[フィルター]  フィールドの十字をクリックします。

ファイル転送ウィンドウの表示方法を変更する

ローカルペインとリモートペインのリストビューのコンテンツは、異なる形式で表示できます。簡単に追跡できるようにリストビューの内容を並べ替えることもできます。

ファイル転送ウィンドウではリストビューの内容を 3 種類で表示方法で表示します：

アイコン表示 

ファイルとフォルダーをアイコンで表示します。

詳細表示 

ファイルやディレクトリ名と関連する詳細を隣のコラムに表示します。

注意： 列の項目をドラッグ & ドロップすることで、列の並び順が変更されません。

小さなアイコン表示 

ファイル名とフォルダ名のみを表示します。

デフォルトでは、リストビューの内容は詳細ビューに表示されます。ローカルペインまたはリモートペインの上にあるファイル情報の関連アイコンをクリックして、ビューを変更できます。

ファイル転送ウィンドウの並び順を変更する

ファイル転送ウィンドウのリストビューの内容は次のソート順に並べ替えができます：

名前順

ファイル名のアルファベット順に並べ替えます。

種類順

ファイルの拡張子のアルファベット順に並べ替えます。リストビューのドライブやディレクトリは対象となりません。

ファイルの説明

ファイルの説明に従ってコンテンツを並び替えます。

更新日時順

最後に更新した日付順に並べ替えます。

サイズ順

ファイルのサイズ順に並べ替えます。リストビューのドライブやディレクトリは対象となりません。

注意: 内容を昇順または降順に並び替えることもできます。

並び順を変更するには

1. 適切なペイン(ローカルまたはリモート)を選択します。
2. [並び替え]  をクリックし、リストから必要なオプションを選択します。

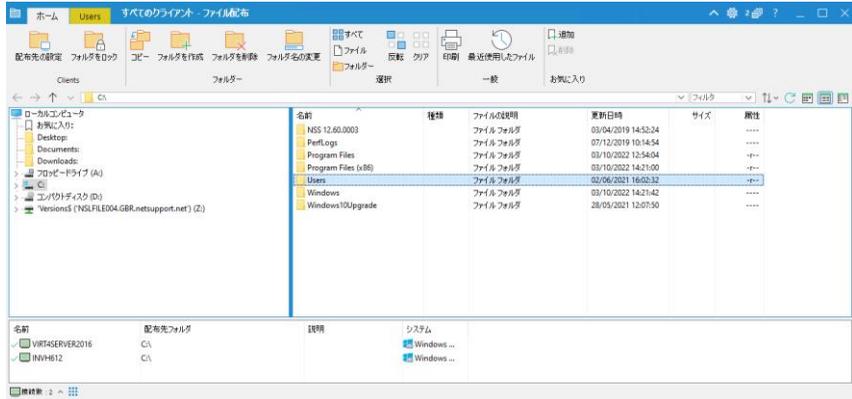
注意:

- リストビューを詳細表¥示しているときは、各列の項目名([名前]、[説明]など)をクリックすると、その項目に関して並び替わりします。列の見出しを2回クリックすると、順序の方向が切り替わります。現在の順序の方向は、列の見出しの上部にある小さな矢印で示されます。上向き矢印のときは昇順、下向き矢印のときは降順で並んでいます。
 - 列の項目をドラッグ&ドロップすることで、列の並び順が変更されます。
-

ファイル配布

ファイル配布ウィンドウ

ファイル配布ウィンドウは、複数のクライアントに同時にファイルを配布する時に使用します。



ファイル配布 z ウィンドウは、次のセクションに分かれています：

キャプションバー

キャプションバーには、この特定のファイル配布 z ウィンドウが機能しているクライアントのグループが表\示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表\示され、ここから、クライアントの詳細を表\示して、さまざまな機能を実行できます。

注意： デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（SSL / TLS または暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表\示されます。表\示内容をカスタマイズし、クライアント名を右クリックして、クライアントのログオンユーザー名と IP アドレスを表\示するように選択できます。

次のオプションを使用できます：



リボンを表\示または非表\示にします。



現在の構成の設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンを使用すると、選択したファイルまたはフォルダーで作業するときに、すべてのタスクとツールにアクセスできます。

リボンの[ホーム]タブには、次のセクションがあります：

- **クライアント**
選択したクライアント上のファイルの送信先フォルダーを選択し、ローカルフォルダーを変更したときにクライアントフォルダーが自動的に更新されないようにすることができます。
- **フォルダー**
コピー、削除、名前の変更など、フォルダーを操作するためのオプションにアクセスできます。
- **ファイル**
コピー、削除、名前の変更など、個々のファイルを操作するためのオプションにアクセスできます。このセクションは、作業するファイルを選択した場合にのみ表示されます。
- **選択**
転送するファイルとフォルダーをリストビューで選択できます。
- **全般**
選択したフォルダーまたはファイルリストのコンテンツを印刷し、最近のファイルのリストにアクセスしてクライアントに送信できます。
- **お気に入り**
現在選択されているフォルダをツリービューのお気に入りフォルダに追加または削除します。

ファイルまたはフォルダーを選択すると、そのプロパティを示す新しいタブが表示されます。次のセクションを使用できます：

- **属性**
選択したファイルまたはフォルダーの属性を表すおよび設定します。

- **情報**

選択したファイルまたはフォルダーの概要を提供します。

- **アクション**

ここから、開く、コピー、削除、名前の変更などのアクションを実行できます。

ローカル

ローカルペインは左側にコントロールのフォルダツリー、右側にフォルダの内容のリストを表示します。

ファイル情報エリア

ファイル情報エリアは、ローカルペインの上部に表示されます。矢印を使用して、ツリービューの前、次、または親フォルダーに移動します。クリックして、以前に選択したフォルダーのリストから選択します。現在のフォルダーパスが表示されます。ここにパス名を入力するとフォルダーに直接移動できます。リストビューのコンテンツを表示する方法をフィルタ、並べ替え、選択にできます。

リモートペイン

リモートペインはファイルを配布するクライアントを表示します。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

ファイルを配布する

次の配布先を指定できます:

- 接続中のすべてのクライアント
- 選択したクライアント
- 設定したグループのクライアント

注意: ファイルを配布する際のパフォーマンスを向上させるために、NetSupport Manager のブロードキャストファイル配布機能がデフォルトで有効になっています。これにより、ファイルがすべてのマシンに同時に送信されるため、転送速度が向上します。この機能がオフになっている場合、ファイルは各クライアントマシンに順番に送信されます。

NetSupport Manager で作成されたネットワークトラフィックは減りますが、あなたにブロードキャストパケットを作成します。この機能を使用する場合は、必ずネットワーク管理所に確認することをオススメします。

ファイル配布は、マルチキャストを使用してクライアントに送信することができます。指定された IP のマルチキャストアドレスに含まれるマシンに一斉送信されます。

グループのクライアントにファイルを配布する

1. ツリービューの全てのコンピュータフォルダからファイルを配布したいクライアントグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、**ファイルの配布**をクリックします。
3. ファイル配布ウィンドウが表示されます。
4. ツリービューから、クライアントにコピーするアイテムを選択します。
5. クライアントPCにファイルやフォルダをコピーする場所を配布先フォルダと呼びます。指定しない場合は、クライアントの配布先フォルダはコントロールPCと同じ場所になります。クライアントに同じフォルダがない場合は、デフォルトではCDドライブにコピーされ、フォルダを自動的に作成します。

または

クライアントPCの特定の配布先フォルダを設定するには、リモートペインのクライアントアイコンを右クリックして配布先設定を選択します。配布先を指定したらOKをクリックします。

注意: グループ内のすべてのクライアントの保存先フォルダーを設定するには、リボンの**保存先の設定**アイコンをクリックします。**フォルダーのロック**をクリックすると、クライアント側での保存先フォルダーをロックできません。

6. **ファイルのコピー**をクリックします。

アドホックグループのクライアントにファイルを配布する

1. ツリービューで全てのコンピュータ、検索、アクティブフォルダを開きます。
2. リボンでツールタブを選択し、**ファイルの配布**をクリックします。
3. ファイル配布ウィンドウが表示されます。
4. リモート ペインで、クライアント名の横に緑色のチェックマークが表示されていることを確認して、ファイルをコピーするクライアントを指定します（これをクリックして、ファイル配布からクライアントを削除します）。
5. ツリービューから、クライアントにコピーするアイテムを選択します。
6. クライアントPCにファイルやフォルダをコピーする場所を配布先フォルダと呼びます。指定しない場合は、クライアントの配布先フォルダはコントロールPCと同じ場所になります。クライアントに同じフォルダがない場合は、デフォルトではCDドライブにコピーされ、フォルダを自動的に作成します。

または

クライアントPCの特定のフォルダを設定するにはリモートペインのクライアントアイコンを右クリックして配布先設定を選択します。配布先をしていしてOKをクリックします。

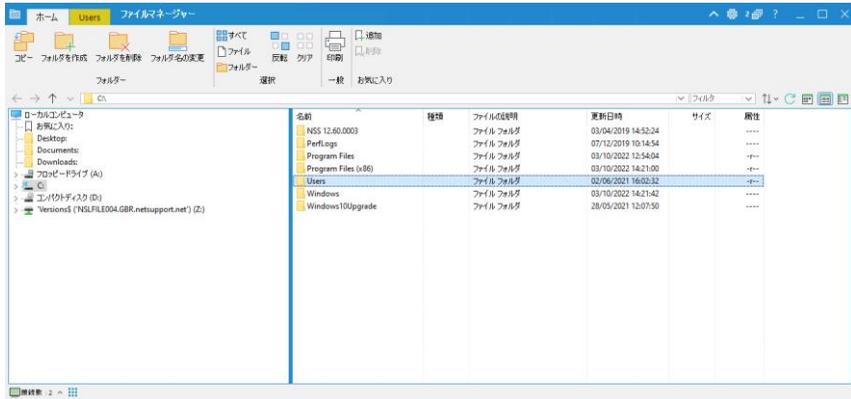
注意: グループ内のすべてのクライアントの保存先フォルダーを設定するには、リボンの**保存先の設定**アイコンをクリックします。**フォルダーのロック**をクリックすると、クライアント側での保存先フォルダーをロックできます。

7. **ファイルのコピー**をクリックします。

ファイル管理

ファイル管理ウィンドウ

ファイル管理は、マイクロソフト社のエクスプローラと同じ役割をします。NetSupportを終了せずに、そこからファイルの管理ができます。



ファイルマネージャウィンドウは、次のセクションに分³かれています。

キャプションバー

キャプションバーは、ファイル管理ウィンドウが表⁴示されていることを示しています。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表⁴示され、ここから、クライアントの詳細を表⁴示して、さまざまな機能を実行できます。

注意: デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス(SSL / TLS または暗号化が有効かどうかを示します)がキャプションバーに表⁴示されます。表⁴示内容をカスタマイズし、クライアント名を右クリックして、クライアントのログオンユーザー名と IP アドレスを表⁴示するように選択できます。

次のオプションを使用できます:



リボンを表⁴示または非表⁴示にします。



現在の構成の設定にアクセスします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート情報 [n](#) にアクセスします。

リボン

リボンを使用すると、選択したファイルまたはフォルダーで作業するときに、すべてのタスクとツールにアクセスできます。

リボンの[ホーム]タブには、次のセクションがあります：

- **フォルダー**
コピー、削除、名前の変更など、フォルダーを操作するためのオプションにアクセスできます。
- **ファイル**
コピー、削除、名前の変更など、個々のファイルを操作するためのオプションにアクセスできます。このセクションは、作業するファイルを選択した場合にのみ表示されます。
- **選択**
リストビューでファイルとフォルダーを選択できます。
- **全般**
選択したフォルダーまたはファイルリストのコンテンツを印刷し、最近のファイルのリストにアクセスしてクライアントに送信できます。
- **お気に入り**
現在選択されているフォルダをツリービューのお気に入りフォルダに追加または削除します。

ファイルまたはフォルダーを選択すると、そのプロパティを示す新しいタブが表示されます。次のセクションを使用できます：

- **属性**
選択したファイルまたはフォルダーの属性を表示および設定します。
- **情報 [n](#)**
選択したファイルまたはフォルダーの概要を提供します。
- **アクション**
ここから、開く、コピー、削除、名前の変更などのアクションを実行できます。

ローカルペイン

ローカルペインは左部”分”にコントロールのフォルダのツリービューを表示します。左部”分”にフォルダの内容のリストビューが表示されます。

ファイル情報エリア

ファイル情報エリアは、ローカルペインの上部”に”に表示されます。矢印を使用して、ツリービューの前、次、または親フォルダーに移動します。クリックして、以前に選択したフォルダーのリストから選択します。現在のフォルダーパスが表示されます。ここにパス名を入力するとフォルダーに直接移動できます。リストビューのコンテンツを表示する方法をフィルタ、並べ替え、選択にできます。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのファイル転送ウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

コントロールのコンピュータのファイルを管理する

ファイル管理ウィンドウを使ってコントロールのコンピュータのファイルを管理できます。ファイル転送ウィンドウに似ていますが、コントロールコンピュータの内容だけ表示します。

ファイルマネージャーウィンドウを表示するには、リボンのツールタブを選択し、**ファイル マネージャー**をクリックします。

ツリービュー

- ツリービュー内のドライブやフォルダを選択するには、単純にそれ羅をクリックします。選択した内容がリストビューに表示されます。
- 選択したドライブやフォルダに表示されていないサブフォルダが含まれている場合、項目の左側に次のアイコンが表示されます。
- ドライブやフォルダの内容を展開してサブフォルダをツリービューに表示させるには、ドライブまたはフォルダをダブルクリックするか、ドライブまたはフォルダの左側の+マークをクリックします。

リストビュー

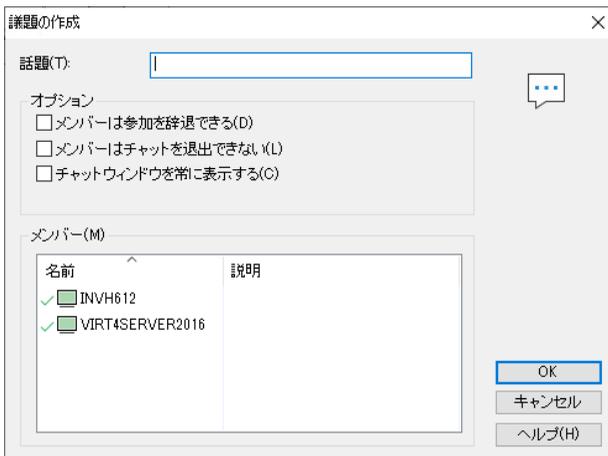
- リストビュー内のファイルを選択するには、単純にファイルをクリックします。
- リストビュー内の複数のファイルを選択するには：
 - ファイル同士が隣あっている場合は、最初のファイルを選択してシフトキーを押しながら最後のファイルを選択します。
 - ファイル同士が隣あっていない場合は、最初のファイルを選択してコントロールキーを押しながらそれぞれのファイルを選択します。
 - すべてのファイルやフォルダーが必要な場合は、リボンの**すべて**をクリックします。すべてのファイルを選択するには、**ファイル**をクリックし、すべてのフォルダーを選択するには、**フォルダー**をクリックします。
- ファイルまたはフォルダーを選択すると、リボンのアイコンがアクティブになり、開く、コピー、削除、名前の変更などのアクションを実行できるようになります。リボンにも新しいタブが表示され、そのプロパティが表示されます。ここから、属性を表示および編集し、ファイルまたはフォルダーを操作できます。

コントロール/クライアントチャットセッション

NetSupport は、スクロール形式のテキストウィンドウ上で接続中の複数のクライアントと同時にチャットができます。

チャットを開始するには

1. リストビューでチャットをしたいクライアントまたはグループを選択します。クライアントアイコンを選択しなかった場合は、すべてのクライアントが対象となります。
2. リボンのリモートタブを選択し、**チャット**をクリックします。
または
各クライアントを右クリックして[チャット]を選択します。
または
クライアントのグループとチャットしたい場合は、ツリービューで必要なグループを選択し、リボンのグループタブで**チャット**をクリックするか、グループを右クリックして**チャット**を選択します。
3. 議題の作成ダイアログが表示されます。



ダイアログには次のオプションがあります：

話題

チャットで議論する話題または説明を入力します。クライアントのコンピュータのチャットウィンドウに表示されるタイトルバーに表記されます。入力しなければ、コントロール名が表示されます。

オプション

メンバーは参加を辞退できる

有効にすると、チャットへの招待メッセージがクライアントコンピュータに表示されます。参加または不参加を選択できます。

メンバーはチャットから退出不可

有効にすると、クライアントの選択項目 [チャットから退出する] が削除されます。

チャットウィンドウを常に表示

有効にすると、チャットウィンドウは、クライアントのデスクトップ上にチャットウィンドウが表示され続けます。メンバーはウィンドウを最小化することができません。

メンバー

クライアントをチャットセッションから除外するには、クライアントの名前の横にある緑色のチェックマークを外します。

チャットセッションに含めるクライアントを確認し(クライアント名の横にある緑色のチェックマークをクリックしてクライアントを除外できます)、適用する必 K 要のある追加のプロパティを選択します。OK をクリックしてチャットを開始します。

4. コントロールとクライアントのコンピュータにチャットウィンドウが表示されます。

チャットウィンドウ

このウィンドウは参加している各メンバーに表示されます。そしてチャットの進行をリスト表示します。

チャットプロパティ ダイアログでオプションを無効にしない限り、クライアントはチャットを退出できます

チャットウィンドウには次のオプションが使用可能です:

チャットメニュー

チャットの内容は保存することができます。[保存] を選択してテキストファイルを作成するか[コピー] をクリックして別のアプリケーションやファイルにチャット内容を貼り付けます。

チャットメンバーが応答しない場合、[ビープを送信する] を選択して各コンピュータにビープ音を送信できます。(クライアントもチャットウィンドウから実行できます。) クライアントとコントロールが PC の内蔵スピーカーまたはサウンドカードからビープ音を再生するように設定できます。 クライアント設定 - クライアントを設定する or コントロール設定 - 設定を選択します。

ウィンドウメニュー

コントロールのチャットウィンドウのみドロップダウンメニューがあります。開いてる画面を入れ替えたり、並べたりできます。

チャット進行

チャットウィンドウのメインボディはチャットの進行を記録するために使用しています。メンバーによって送信されたメッセージだけでなく、参加者、退出者の詳細が表示されます。

メッセージ

ここに文章を入力します。メッセージを入力して、**送信**をクリックします。

自動送信

各メッセージは、最大 128 文字に制限されています。有効にすると、制限に到達するとメッセージを自動的に送信します。

閉じる

チャットセッションを終了します。

メンバー

チャットに現在参加しているメンバーがここにリストされます。コントロールはチャットからクライアントを追加または削除できます。無効にしない限り、クライアントはチャットを退出するオプションがあります。

招待

チャットプロパティダイアログはクライアントをチャットの対象/対象外の選択をする際に使用します。チャット進行中にクライアントを追加するには、招待をクリックします。メンバー追加ダイアログが表示され、クライアントを選択して追加をクリックします。**チャット履歴送信** ボックスをクリックすれば新しいメンバーにチャット進行の コピーを送信できます。

注意: 退出させたクライアントまたはチャットを自ら退出したクライアントを再びチャットに招待することができます。

退出

チャットからクライアントを削除するには、メンバーリストのクライアントを選択して退出をクリックします。退出させたクライアントは再び招待することが可能です。

注意: クライアントのメインウィンドウを開いて{コマンド}{チャット}を選択すればクライアントがコントロールとのチャットを開始することができます。

チャットを禁止する

クライアント設定でチャット機能を無効化することができます。コントロールもしくはクライアントがチャットを開始することを防ぎます。

コントロールがチャットを開始することを禁止するには

1. 対象となるクライアント PC で、NetSupport プログラムグループから NetSupport **クライアント設定**を選択します。NetSupport クライアント設定が表示されます。
2. **上級**を選択し、修正するプロファイルを選択します。
3. **セキュリティ-アクセス権限**を選択します。
4. チャット禁止オプションにチェックをします。
5. [OK] をクリックします。
6. プロファイルを保存して、クライアントを再起動します

コントロールがチャットセッションを開始しようとする時、そのクライアントに対してタスクを実行するためのアクセス権を持っていないことを通知されます。

注意: コントロールから全てのクライアントにチャットを防止するには、コントロール設定で機能を禁止する必要があります。キャプションバーの**プロファイル**アイコンをクリックし、必要な構成を選択して**設定**を選択します。構成の設定ダイアログで、**コントロールインターフェイス-機能**を選択し、**チャットを無効にする**オプションをオンにします。

クライアントからのチャットを防止するには

1. 対象のクライアント PC で NetSupport プログラムグループから NetSupport クライアント設定を選択します。NetSupport クライアント設定が表示されます。
2. **上級**を選択し、修正するプロファイルを選択します。
3. **クライアントインターフェイス-クライアント設定**を選択します。
4. チャット禁止オプションにチェックをします。
5. OK をクリックします。
6. プロファイルを保存してクライアントを再起動します。

クライアントでのチャットオプションは使用できなくなります。

クライアントにメッセージを送信する

NetSupport では、クライアント個別、クライアントのグループ、ネットワーク上の全てのクライアントにメッセージを送信することができます。

メッセージを送信するには

1. 一覧表¥示で必K要なクライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**メッセージを送信**をクリックします。
または
クライアントの名前が表¥示されているリボンのタブを選択し、**メッセージを送信**をクリックします。
または
3. 右クリックしてメッセージを選択します。
4. メッセージダイアログが表示されます。全てのクライアント、接続中の全てのクライアント、選択中のクライアントのいずれかを選択します。メッセージを入力して、クライアント PC にメッセージを表示する時間を決定します。
5. 送信をクリックします。

メッセージの送信

メッセージの送信先:

すべてのクライアント(B)

接続されているすべてのクライアント(A)

現在の選択されているクライアント(C)

メッセージの表示時間(S): (秒)

送信 キャンセル ヘルプ(H)

メッセージはクライアント画面のダイアログに表¥示されます。ユーザーがダイアログを閉Åじるか特定のタイムリミットが切れるまで表¥示されます。キャプションバーの**現在の構成の設定を交I更する**  アイコンをクリックし、全般を選択します。

ヘルプ要求に対応する

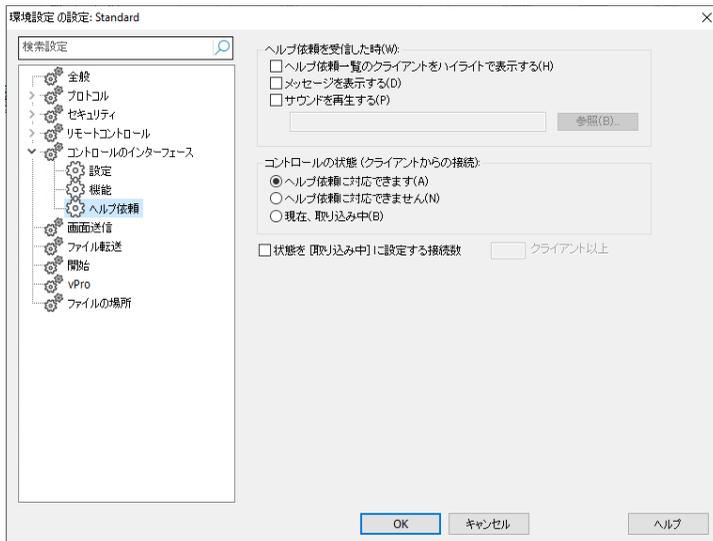
NetSupport Manager ではクライアントユーザが特定のコントロールに対してヘルプ要求を送ることができるようになっています。

コントロールのリストビューが詳細表\示に設定され、ヘルプメッセージを表\示するようにカスタマイズされている場合、クライアントのヘルプ要求メッセージはすぐにリストビューに表\示されます。ツリービューのヘルプ要求フォルダが緑色に変わります。

NetSupport Manager では、コントロールのヘルプリクエストの警告設定と可用性を設定することもできます。

コントロールヘルプ要求の警告設定の調整

1. キャプションバーの**現在の構成の設定を変更** アイコンをクリックします。
2. **コントロールインターフェース - ヘルプリクエスト**を選択します。
3. 「ヘルプ要求が到着したとき」セクションには、クライアントがヘルプ要求を送信したときにコントロールが受信するように選択できる 3 つの追加の警告がありません：
 - リストビュー内のクライアントをハイライト表示させる。
 - コントロール画面上に独立したヘルプ要求メッセージを表示させる。
 - ヘルプ要求メッセージ受信時に音声を使用する。



クライアントのヘルプ要求を受信する際、コントロールは3つのステータスのどれかを選択することもできます。

コントロールのヘルプ要求の対応を調整する

1. キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**アイコンをクリックします。
2. **コントロールインターフェース - ヘルプリクエスト**を選択します。
3. コントロールステータスのセクションで、コントロールは次の 3 つの設定から選択できます：
 - 全てのヘルプ要求を受信可能
 - ヘルプ要求を一切受け付けない。
 - 只今ビジー中(これを有効にするには接続クライアント数を設定します。)

注意： クライアントをブラウズ時、コントロールはヘルプ要求をしたクライアントだけブラウズするオプションがあります

ヘルプ依頼をクリアするには

ヘルプ依頼が処理されたら、それをクリアすることができます。クライアントはヘルプ依頼ダイアログから以前のヘルプ依頼をクリアすることもできます。

1. ツリービュー内のヘルプ依頼フォルダを選択します。
2. 目的のクライアントのヘルプ依頼を右クリックして**ヘルプのクリア**を選択します。

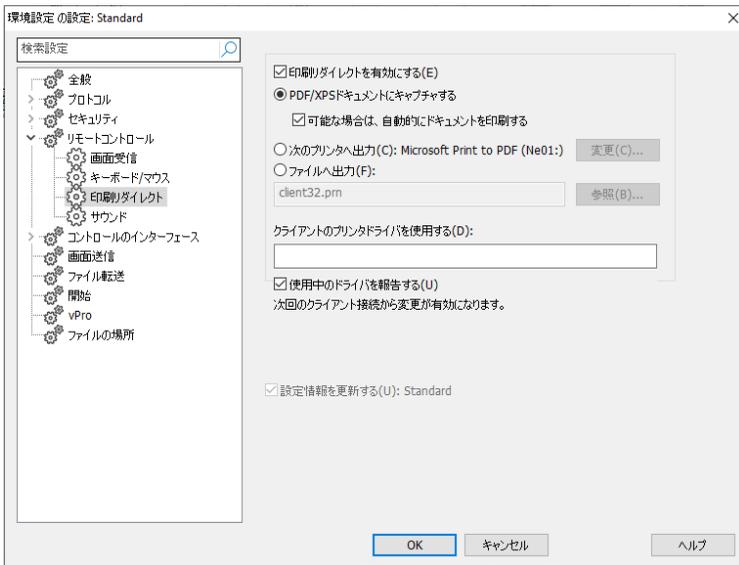
クライアントの印刷出力をキャプチャする

プリントキャプチャはクライアントのローカルプリンタからコントロールのプリンタまたはファイルに印刷出力をリダイレクトするものです。クライアントでアプリケーションを実行している時にこの機能を使用し印刷出力をあなたのローカルプリンタにリダイレクトします。

注意: 現在、プリンター出力はクライアント側のネットワークプリンターにはキャプチャーできません。

クライアントの印刷出力をリダイレクトするには

1. キャプションバーの**プロファイル** アイコンをクリックします。
2. 該当するコンフィグ設定を選択します。
3. 設定をクリックします。
4. リモートコントロール - プリントキャプチャーを選択します。



5. プリントキャプチャを有効にチェックをします。
6. クライアントの印刷出力を PDF/XPS ドキュメントに送信し、これを自動的に印刷するかを選択します。

または

クライアント出力をリダイレクトするプリンターを選択します。現在でデフォルトで仕様しているプリンタを確認するか、別のオプションを選択する場合は変更をクリックします。

または

プリントファイルをファイルにキャプチャーを選択します。

7. クライアントに接続すると、使用しているプリンタドライバの情報をダイアログで表示します。

注意

- コントロール側でこのオプションを有効にしたら、クライアント設定でもプリントキャプチャが有効になっていることを確認してください。権限はデフォルトで禁止されています。クライアント側で拡張クライアント設定を起動して**セキュリティ - アクセス権限**を選択し**プリントキャプチャ**オプションのチェックを外してください。
 - デフォルトのプリンタが接続しているポートからのみ印刷出力をキャプチャできます。プリントキャプチャが有効になると上記で説明したようにクライアントがこれを変更するので注意してください
 - Windows NT クライアントはデフォルトプリンタが接続されているポートからDOS プログラムの印刷出力をキャプチャします。
-

リモートクリップボード

ビュー中にコントロールとクライアント PC 間でクリップボードの内容をコピーできます。

画面表示ウィンドウのリボンのホームタブにあるクリップボードセクションには、次のオプションがあります：

送信

コントロールからクライアントにコピーする時に使用し、メニューオプションで[編集][切り取り/コピー]を使用します。

受信

クライアントからコントロールにコピーする時に使用し、メニューオプションで[編集][切り取り/コピー]を使用します。

自動クリップボード

有効時は、速い方法でデータコピーを行いません。Useショートカットキー(Ctrl+C & Ctrl+V)を使ってコントロールとクライアントパソコン間で切り取り、貼り付けを自動的に行いません。

コントロールからクライアントパソコンにクリップボードの内容を送信するには

1. クライアントをビューします。
2. クライアントとコントロールでアプリケーションを開きます。
3. コントロール側のアプリケーションからデータをコピーします。
オートが有効になっている場合、Ctrl+C を使って職説クリップボードにデータをコピーします。
または
[編集][切り取り/コピー]を使用した場合は、クライアントの画面表示ウィンドウに戻り、リボンの[送信]アイコンをクリックします。
4. クライアントのアプリケーションのドロップダウンメニューから編集を選択して、貼り付けを選択します。
または
ショートカットキー(Ctrl+V)を使ってデータを貼り付けます。

クライアントからコントロールパソコンへクリップボードの内容を送信するには

1. クライアントをビューします。
2. コントロールとクライアントでアプリケーションを開きます。
3. 上記のようにクライアントのアプリケーションから必要なデータをコピーしますが、ショートカットキーではなくメニューオプションを使用する場合は、リボンの[取得]アイコンをクリックします。
4. コントロールのアプリケーションに戻り、メニューオプションかショートカットキー(Ctrl+V)を使ってデータを貼り付けます。

エクスプローラとの統合

NetSupport Manager は、Windows エクスプローラとダイレクトに統合します。NetSupport コントロールを最初に起動せずにシステムから直接主な機能を実行することができます。

ネットワークプレース/近くのコンピュータの PC アイコンを選択して、リモートセッションを確立して、使用頻度の高いタスクを実行できます。

注意:

- NetSupport コントロールコンポーネントがインストールされている場合だけこの機能をお使いいただけます。
 - NetSupport クライアントがインストールされている、かつクライアント名がデフォルトのコンピュータ名の場合に限り、リモートコントロールセッションを確立できます。
-

エクスプローラで NetSupport の機能を使用するには

1. デスクトップからエクスプローラを開きます。ネットワークプレースまたは近くのコンピュータを使って PC の一覧を探します。
2. 対象となる PC を右クリックします。
3. NetSupport の機能を選択します。選択できる機能:
 - リモートコントロール 選択したクライアントの画面を表示します。
 - チャット 選択したクライアントとチャットを開始します。
 - インベントリ ハードウェア/ソフトウェア情報を取得します。

NetSupport 機能を禁止するには

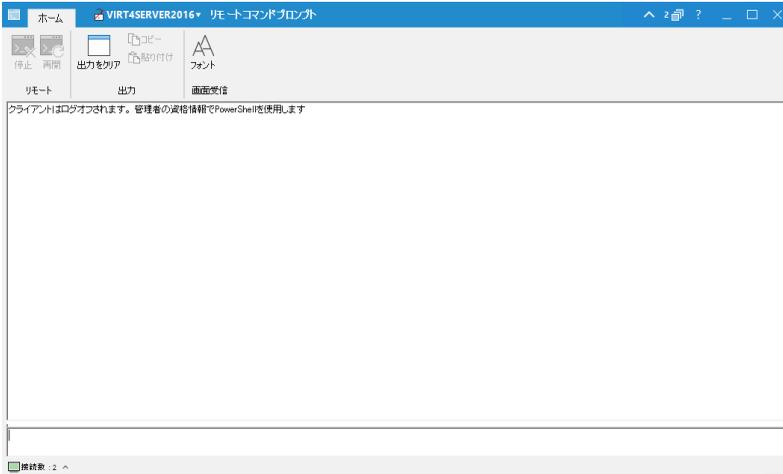
必要ならば、NetSupport エクスプローラ機能をコントロール設定で禁止することができます

1. キャプションバーの**プロフィール**  アイコンをクリックします。
2. 変更を適用するプロフィールを選択します。
3. [設定] を選択します。
4. 構成の設定ダイアログで、**コントロールインターフェイス-設定**を選択します。
5. [シエルの拡張を無効化する] にチェックをします。

リモートコマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを起動することでコントロールは接続中のクライアント側にコマンドライン命令をリモートで実行できます。

1. 必要なクライアントに接続します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**リモートコマンド**をクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックし、リモートコマンドプロンプトを選択します。
または
リボンでクライアントの名前が表示されているタブを選択し、**リモート コマンド**をクリックします。
3. リモートコマンドウィンドウが表示されます。



ウィンドウは次のセクションに分かれています：

キャプションバー

キャプションバーには、リモートコマンドプロンプトウィンドウが開いているクライアントの名前が表示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLSまたは暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、

オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表¥示するように選択できます。

注意: ここでクライアントの表¥示オプションを変¥更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変¥更されます。

次のオプションを使用できます:



リボンを表¥示または非表¥示にします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンを介してさまざまなツールを使用できます。たとえば、出力ウィンドウをクリックしたり、表¥示されるフォントを変¥更したりできます。

出力/結果ペイン

クライアントで実行されたコマンドの結果を表¥示します。

入力ペイン

ここにクライアントで実行するコマンドを入力します。必要に応じてサイズを変¥更できます。ウィンドウを開いている間は、既に行った内容を再度呼び出せるようにコントロールに各コマンドがストックされます。エントリーを上下の矢印キーを使ってスクロールさせて該当するコマンドが表¥示されたらエンターキーを押すかF7を押してウィンドウに全てのコマンドを表¥示します。該当するコマンドをクリックしてEnterキーを押します。

最大50コマンドがストアされます。F8を押すと履歴を消去します。コントロールがリモートコマンドウィンドウを閉¥じると履歴は自動的に消去されます。

ステータスバー

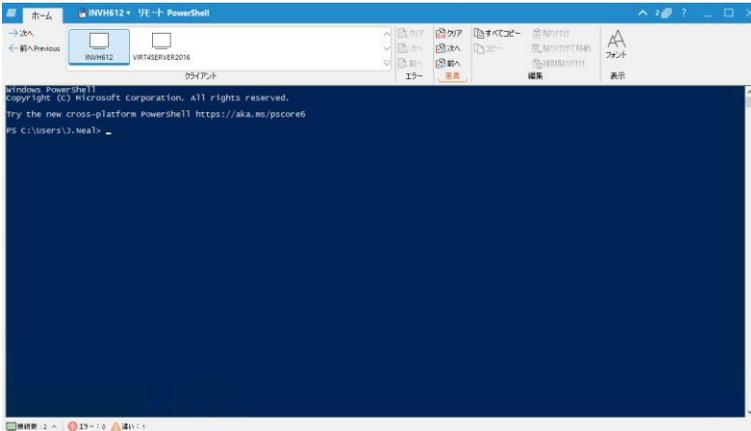
ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表¥示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表¥示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのリモートコマンドプロンプトウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表¥示方法を選択します。

PowerShell ウィンドウ

PowerShell ウィンドウを起動して、コントロールがクライアントで PowerShell コマンドを実行できるようになります。

注意: NetSupport Manager 12.50 より以前のバージョンを実行しているクライアントでは PowerShell を使用できません。

1. 必K要なクライアントに接続します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**PowerShell**をクリックします。
または
個々のクライアントで PowerShell を起動する場合は、クライアント アイコンを右クリックして**PowerShell**を選択するか、リボンにクライアントの名前が表示されているタブを選択して**PowerShell**をクリックします。
または
クライアントのグループで PowerShell を起動する場合は、ツリービューで必K要なグループを選択し、リボンのグループタブで **PowerShell**をクリックするか、グループを右クリックして**PowerShell**を選択します。
3. PowerShellウィンドウが表示されます。



ウィンドウは次のセクションに分^aかれています:

キャプションバー

キャプションバーには、PowerShellウィンドウが開いているクライアントの名前が表示されます (PowerShellが複数のクライアント用の場合は現在選択されているクライアント)。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLSまたは暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意：ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

次のオプションを使用できます：



リボンを表示または非表示にします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンを介してさまざまなツールを使用でき、たとえば、表示されるフォントを変更できます。PowerShellが複数のクライアントで起動されている場合、それらはクライアントペインに一覧表示されるため、必要なクライアントセッションに簡単にアクセスできます。

PowerShellが複数のクライアントで起動されたときに、いずれかのセッションでエラーが報告された場合、またはセッション間に違いがある場合は、リボンのエラーと違いセクションで通知されます。エラーや違いがいくつあるかを示すインジケータが表示され、必要に応じてこれらをスクロールしてクリアできます。

出力/結果ペイン

ここで、クライアントで実行するコマンドを入力すると、結果が表示されます。

ウィンドウを開いている間は、既に行った内容を再度呼び出せるようにコントロールに各コマンドがストックされます。エントリーを上下の矢印キーを使ってスクロールさせて該当するコマンドが表示されたらエンターキーを押すかF7を押してウィンドウに全てのコマンドを表示します。該当するコマンドをクリックしてEnterキーを押します。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数と、複数数のクライアントセッション間のエラーまたは差異が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントの PowerShell ウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

クライアントを使用する

この章では ...

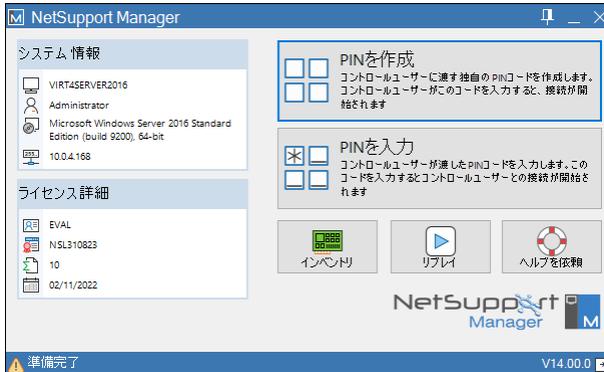
接続しているコントロールとリモートユーザーの応答方法を説明します。

クライアント情報ウィンドウ

クライアントがタスクトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックすると、クライアント情報ウィンドウが表示されます。

クライアント情報ウィンドウには 3 つのモードがあります: 全画面、簡易画面、接続。

全画面



クライアントは、システムの概要、ユーザーの詳細そして NetSupport Manager ライセンスの詳細が提供されます。ここからクライアントは以下のことを実行できます：

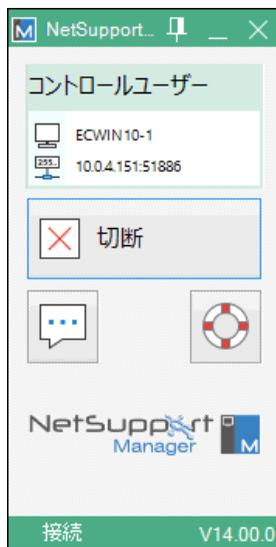
- PIN コードを作成または入力
- クライアントコンピュータに保存されているリプレイファイルを表示
- クライアントのインベントリを表示
- コントロールからのヘルプを依頼。

簡易画面



クライアントが自分のシステム情報とライセンス詳細を表示しない場合は、ウィンドウ下部の  アイコンをクリックすると簡易画面モードに切り替わります。クライアントは、PIN コードの作成および入力、リプレイファイルとインベントリの表示、コントロールからのヘルプを依頼することもできます。 アイコンをクリックして全画面モードに切り替えます。

接続



このモードは、コントロールがクライアントに接続すると表示されます。ここから、クライアントは接続しているコントロールの詳細を確認することができます。コントロールから切断したり、コントロールとチャットするオプションもあります。

注意： NetSupport Manager クライアント設定のクライアント設定セクション内のクライアント情報ウィンドウで表示する項目を設定することができます。

コントロールから切断する

コントロールがクライアントに接続すると、クライアントは切断を選択することができます。

注意: このオプションは、NetSupport Manager クライアント設定のクライアント設定セクション内でクライアント側で無効にすることができます。

コントロールから切断するには

1. システムトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックします。
2. クライアント情報ウィンドウが表示されます。
3. 切断アイコンをクリックします。
4. ダイアログボックスが表示され、現在接続中のコントロールを一覧表示します。
5. 切断したいコントロールを選択します。
6. 選択したコントロールから切断するには、[OK] をクリックします。

ヘルプを要請する

NetSupport Manager はクライアントのコンピュータ側のユーザーが特定のコントロールのコンピュータにヘルプを求めることができます。

クライアントでヘルプを依頼するには

1. タスクトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックしてヘルプ依頼をクリックします。
または
クライアントはホットキーを押します。通常は ALT+L シフト+R シフトです。
2. クライアントが名前とヘルプ依頼メッセージを入力するヘルプ依頼ダイアログが開きます。
3. クライアントは[前回の要求取消し] ボタンをクリックすることによって、前回の要求を取り消すことができます。
4. [OK] をクリックします。

クライアントがヘルプ依頼を送信するとき、コントロールが接続されている場合、ヘルプ依頼は強調されコントロールに通知します。コントロールが接続されていない場合は、コントロールが次回そのクライアントに接続するときヘルプ依頼フォルダは強調されます。

コントロールとチャットをする

クライアントがコントロールに接続されると、チャットセッションを開始します。

チャットを開始するには

1. システムトレイ内の NetSupport Manager クライアントアイコンをダブルクリックします。
2. クライアント情報ウィンドウが表示されます。
3. チャットアイコンをクリックします。
4. チャットウィンドウが表示されます。
5. メッセージを入力し、エンターを押すか [送信] をクリックします。
6. コントロールユーザーにチャットの開始を通知したい場合は、メニューで {チャット} {ビープ送信} を選択します。

コントロールのコンピュータからメッセージを受信する

クライアントのコンピュータは、コントロールのコンピュータからのメッセージを受信することができます。メッセージはクライアントの画面に自動的にメッセージボックス表示されます。

メッセージボックスのタイトルバーにはメッセージ発信元のコントロール名、送信日と時間が表示されます。

コントロールからのメッセージを読み終えたら、[OK] をクリックしてメッセージを削除します。

クライアントを設定する

この章では ...

クライアント設定の使い方を紹介します。

不正な接続に対してクライアントを守ったり、コントロールが選択したクライアントで特定の操作を行なうことを禁止したりできます。NetSupport Manager には個々のクライアントのレベルに応じて設定できる様々な設定オプションがあります。

クライアントを設定する

NetSupport クライアントは NetSupport クライアント設定で設定できます。初期化時の設定と必要なすべての項目を変更できます。

クライアント設定は NetSupport Manager のプログラムグループ内の NetSupport クライアント設定アイコンから起動します。クライアント設定ダイアログが表示されます。

パラメーターを入力してコマンドラインからクライアント設定を起動することもできます。
例: "c:¥program files¥netsupport manager¥pcicfgui.exe"

注意: カスタムインストールを行った場合は、このオプションが使用できるようにクライアント設定コンポーネントを選択してください。

クライアント設定はクライアントで可能な全てのオプションを設定できます。また、ネットワークをテストして、クライアントに設定したネットワークのスタックがインストールされ、正常に動作していることを確認することもできます**基本**または**拡張**の 2 つのモードでクライアント設定を実行できます。オプションの一部は両モード共通です。

基本クライアント設定

基本設定はクライアント名、使用プロトコル、クライアントに接続する時に要求するパスワードといった簡単なセキュリティを設定できます。

注意: クライアントの基本設定は NetSupport のインストールプロセスの一環として設定できます。

このオプションを選択する場合:

- 初めてクライアント設定を使用する時。
- シンプルなセキュリティや設定オプションを設定したい時
- クライアントコンピュータに接続する異なるコントロールユーザーに対して複数のプロファイルを作成する必要がない時

注意: 拡張オプションを使って封数のプロファイルを設定した場合は、基本オプションを使用しないでください。拡張設定のマスタープロファイルが変更されてしまいます。

拡張設定

拡張オプションは、NetSupport の豊富な設定やセキュリティオプションにアクセスできます。クライアントのコンピュータに接続してくる複数のコントロールのユーザごとに、使用環境に合わせて異なる対応を設定できます。また、Windows のセキュリティにリンクすることもできます。

注意: カスタムインストールを実行した場合は、このオプションが使用できるようにクライアント設定コンポーネントを必ず選択してください。

このオプションを選択する場合:

- NetSupport Manager とシステム管理をよく知っている。
- 接続するコントロールユーザごとに、クライアントが異なる応答をする必要がある。
- 個々の機能を有効化/無効化したい。
- NT セキュリティとリンクさせたい。
- 特定のドライブ、フォルダやファイルへのコントロールユーザへのアクセスを制限したい場合。

注意: [拡張] オプションのマスタープロファイルで変更した内容は、基本オプションで設定した内容を上書きします。

クライアント設定ファイルを編集または作成する

クライアント設定の拡張オプションを選択して設定ファイルを作成します。拡張クライアント設定ウィンドウに表示されます。

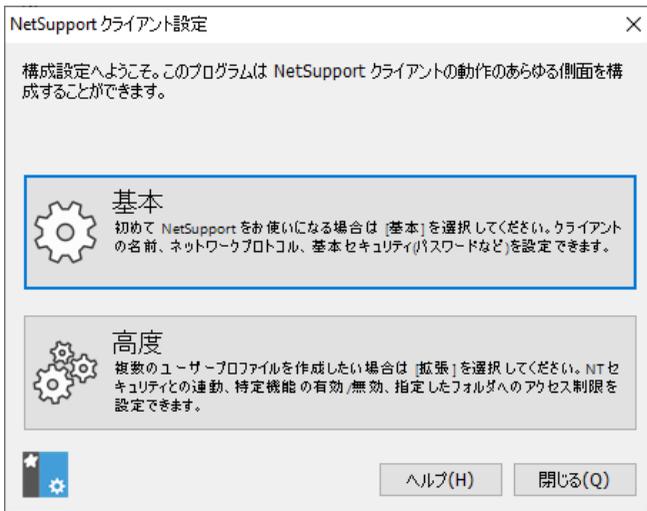
デフォルト設定ファイルは CLIENT32U.INI とい、クライアントパソコの NSM インストールディレクトリに保存されています。このファイルがクライアントがアクセスできるサーバ上の違うファイルを使用することができます。

注意:

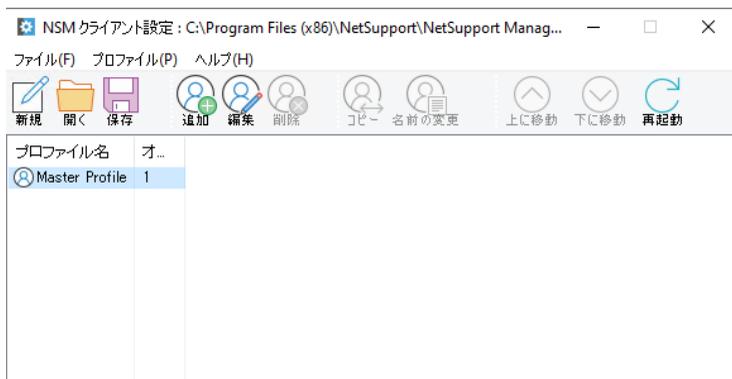
- v12.50 以前のクライアントのデフォルト構成ファイルは、CLIENT32.INI とい、います。
- 設定ファイルを一度作成すれば、NetSupport デプロイユーティリティを使って同時に複数のコンピュータに配布することもできます。

新しい設定ファイルを作成するには

1. NetSupportプログラムグループから **NetSupport クライアント設定** を選択します。NetSupport クライアント設定が表示されます。



2. [拡張] を選択します。NSM クライアント設定ダイアログが表示されます。



3. 拡張クライアント設定ウィンドウのメニューから{ファイル}{新規} を選択します。
4. 初期設定のマスタープロフィールを継承した新しいファイルが作成されます。

デフォルトまたは既存の設定ファイルを開くには

1. 拡張クライアント設定ウィンドウのドロップダウンメニューから{ファイル}{開く} を選択します。
2. 設定ファイルを選択して、[開く] をクリック。

クライアントが使用するクライアント設定ファイルを設定するには

初期化時にクライアントが使用する設定ファイルは、そのコンピュータ、別のコンピュータまたはアクセス可能なサーバー上にあります。、管理し易くするために複数のクライアントで同じ設定ファイルを共有することができます。拡張クライアント設定のドロップダウンメニューから{プロフィール}{クライアントパラメータ}を選択して使用する設定ファイルを設定します。

クライアント名を設定するには

1. {プロフィール}{クライアントのパラメータ} を選択し、クライアント名を入力します。

注意: 設定ファイルとは別にクライアント名はローカルのコンピュータに保存されません。別のコンピュータで使用しているクライアント名を選択しないよう注意してください。クライアント名をアスタリスクとすると、コンピュータ名と同じになるため便利です。

新しいプロフィールを作成するには

1. 使用したい設定ファイルを開くか作成します。
2. 拡張クライアント設定ウィンドウのドロップダウンメニューから{プロフィール}{追加}を選択します。
3. プロフィール名を入力します。

注意: "ファイルを含む" オプションを選択して別の設定ファイルからプロファイルを1つにさせることができます。ローカルコンピュータで設定ファイルを使用していて、サーバのメイン設定ファイルの内容を含めたい場合、またはその逆の場合などに使用すると便利です。例えば、ローカルのコンピュータが違う NetBIOS アダプタ番号を使用している。それぞれのプロファイルは実際のパラメーターが設定されているプロパティシートを含んでいます。

既存のプロファイルを編集するには

1. クライアントが使用するクライアント設定を開くか作成します。
 2. 編集したいプロファイルを選択します。
 3. 拡張設定ウィンドウのメニューから{プロファイル}{編集}を選択します。
 4. プロファイルを編集します。
-

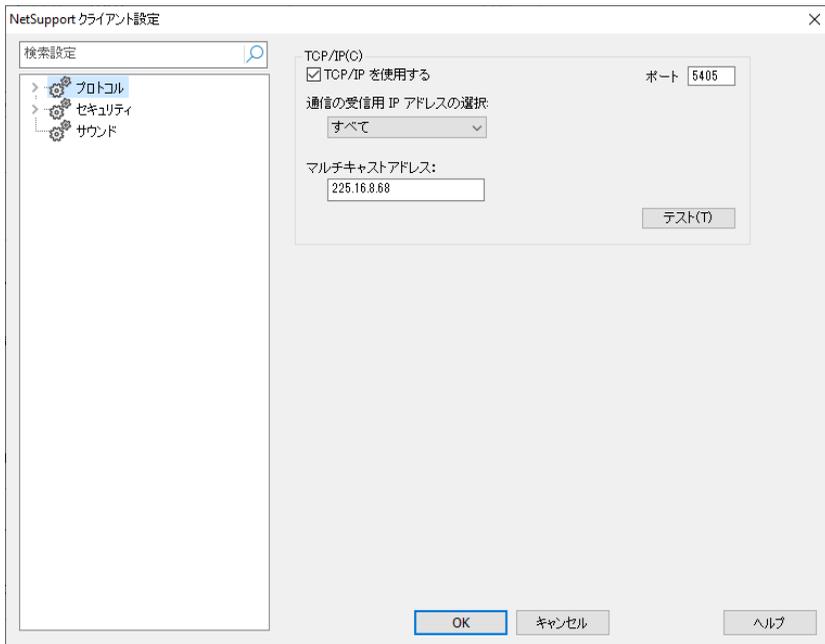
注意: ボックスにチェックをしない場合、マスタープロファイルからの設定が使用されます。

基本クライアント設定

接続するコントロールのユーザーによってクライアントが異なる対応をする必要がないシンプルな環境の場合や各機能の有効化/無効化をする必要がない場合に使用します。

基本クライアント設定を開くには

1. OS のメニューから{スタート}{プログラム}{NetSupport}{NetSupport クライアント設定}を選択します。
または
NetSupport グループ内のクライアント設定アイコンをダブルクリックします。
2. [基本] を選択します。基本クライアント設定は、3 項目の設定が可能です：
 - プロトコル
 - セキュリティ
 - サウンド



拡張クライアント設定

NetSupport Manager クライアントは非常に簡単に設定でき、接続しているコントロールユーザの身元により異なるレベルのセキュリティやレスポンスを設定できるように対応しています。コントロールユーザに対しての適切なアクセスレベルを設定するクライアント側の設定ファイルを使用することで実現しています。

クライアント設定ファイルとプロファイルのコンセプトを、あらかじめ十分理解しておいてください

クライアント設定ファイル

クライアント設定ファイルは、プロフィールと呼ばれる項目で構成されたテキストファイルです。

クライアントが初期化時に使用する設定ファイルを指定できます。設定ファイルそのものは通常 Client32u.INI というチェックサムファイルで保存されます。

注意: v12.50 以前のクライアントは、Client32.INI という構成ファイルを使用します。

このファイルはクライアントのコンピュータ、もしくはクライアントがアクセス可能なサーバなどの別のコンピュータに保存することができます。サーバが利用できない場合に、ロールバックするクライアント設定を使用するようにクライアントを設定することもできます。

プロファイル

プロファイルは、クライアントが特定のコントロールユーザーに対してどのように応答し、どんな機能をそのコントロールユーザーに許可するか決めるパラメーターの集まりです。

例えば、あるコントロールユーザーはウォッチモードのみでしかクライアントを表示できず、別のコントロールユーザーはファイル転送を含むフル機能を使用できる。コントロールユーザーのファイルアクセス権を決めたプロファイルを設定することもできます。

クライアントで設定したプロファイルは、コントロールのプロファイルより優先されます。したがってセキュリティは確保されます。

プロファイル化されたクライアントに接続する場合、コントロールのユーザーはユーザーID とパスワードを要求されます。その後、NetSupport クライアントは、どの機能レベルが、そのコントロールユーザーに割当てられているか決定するために現在の設定ファイルで最初に一致するプロファイルを問い合わせます。

マスタープロファイル

各設定ファイルは必ずマスタープロファイルを付属させなくてはなりません。これは標準プロファイルで基本設定だけに使用します。デフォルトでここで設定したものは、作成した他の全プロファイルに適用されます。

プロフィールの設定と一致するユーザ ID とパスワードのコントロールユーザに対して、特定の機能を有効もしくは無効にするためにプロフィールを修正することができます。

マスタープロファイルは、クライアントがチェックする最初のプロフィールなので、セキュリティのバックドアを開いたままにしないために、ここで常に最大限のセキュリティ機能を設定します。

マスタープロフィールは、すべてのプロファイルに適用されるグローバルパラメーターを設定するために使用されます。

個々のプロファイル

個々のプロファイルは特定のコントロールユーザやコントロールユーザーのグループに対して個々の機能を有効/無効にすることができます。接続すると、クライアントはユーザー名とパスワードを要求します。一致するプロファイルを検索し、その後のコントロールセッションに設定が適用されます。

注意: プロファイルの作成と適用の詳細については、[ここをクリックしてください](#)。

拡張クライアント設定は 7 つのエリアをカバーしています:

- プロトコル
- セキュリティ
- リモートコントロール
- クライアントインターフェイス
- プロファイルオプション
- ターミナルサービス設定
- 拡張

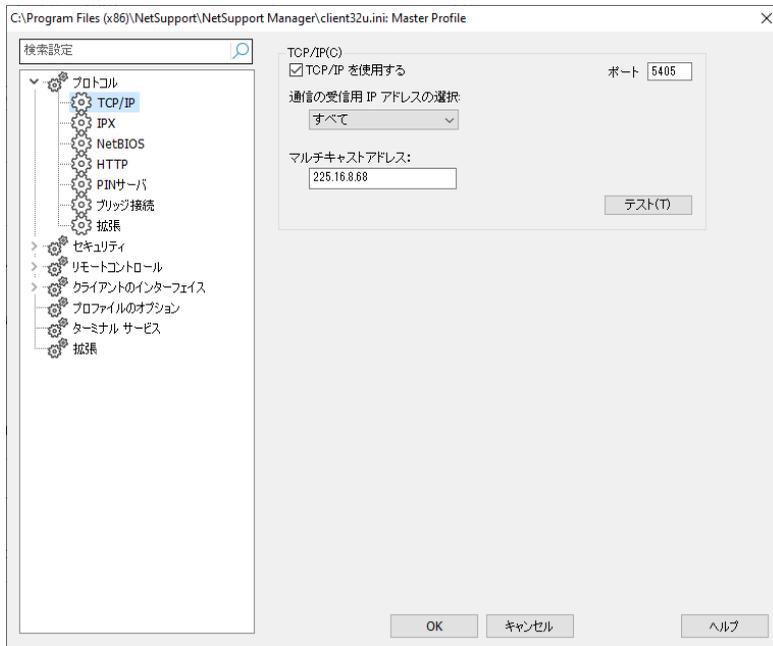
注意: ウィンドウの上部に検索バーがあり、探している設定を見つけることができます。検索バーに入力して(用語の全部または一部を入力できます)、をクリックします。検索語を含むセクションが強調表示されます。をクリックして検索を閉じます。

プロトコルオプション

コントロールの接続プロトコルを設定できます。NetSupport クライアントはマルチプロトコルに対応しています。これは、TCP/IP、IPX、NetBIOS をコントロールが使用していても可能です。また NetSupport ゲートウェイやモデムを経由しての接続設定ができます。ゲートウェイでは http 接続で行われウェブベースの接続を提供します。そのために既存のファイアウォール設定を変更する必要はありません。PIN 接続機能を使用しているクライアントに接続できる「PIN サーバを使用するクライアント」を設定することもできます。

注意: IPX および NetBIOS は、高度なクライアント設定を使用しているときにだけ利用可能です。

TCP/IP 接続を設定する



TCP/IP を使用する

TCP/IP でクライアントと通信を行う場合に、このボックスにチェックします。

ポート

TCP/IP プロトコルでは、アプリケーションが通信できるようにポート番号を割り当てる必要があります。初期設定の NetSupport 用の登録ポートは 5405 です。

受信する IP アドレスを選択:

このオプションは、クライアントが複数のネットワークカードをインストールしている場合、不正な接続を防止するのに役立てることができます。例えば、公衆ネットワークとプライベートネットワークの両方を使用している場合。クライアントがインカミングのコントロール接続を受信するために使用している IP アドレスを指定することで強制的に要求したネットワークに接続するようにします。

マルチキャストアドレス

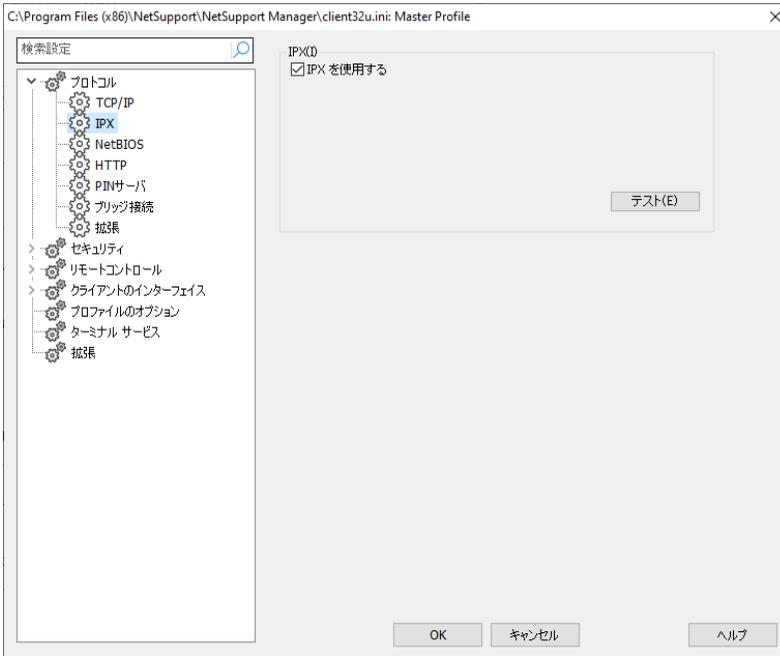
これは、クライアント が受信する IP マルチキャストアドレスです。

このコンピュータにプロトコルが正常にインストールされているか確認するには、[テスト] を押します。

注意

- ポートの変更は他の TCP/IP アプリケーションに影響する場合があります。
- ルータを使用している場合は、このポートを使用してデータが送られるように設定されているか確認してください。
- クライアントがコントロールに接続するすることができます。初期設定の登録ポートは 5421 です。

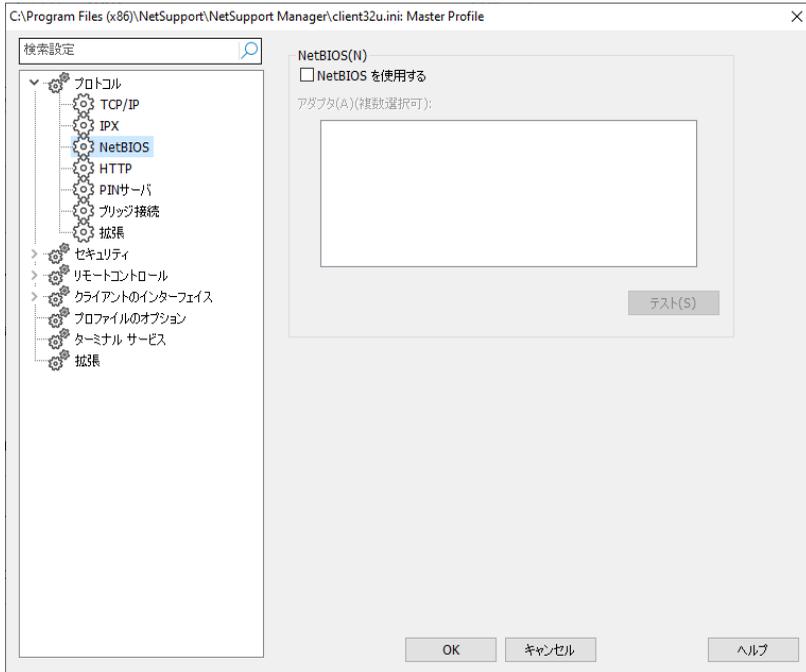
IPX 接続を設定する



IPX を使用する

IPX/SPX で通信を行う場合は、このボックスにチェックをします。このコンピュータにプロトコルが正しくインストールされているかを確認するには、[テスト] を押します。

NetBIOS 接続を設定する



NetBIOS を使用する

NetBIOS/NetBEUI でクライアントが、通信できるようにするにはこのボックスにチェックをします。NetBIOS をお使いの場合は、NetBIOS アダプタ番号も選択してください。このコンピュータにプロトコルが正しくインストールされているかを確認するには、[テスト] を押します。

アダプタ (複数選択可)

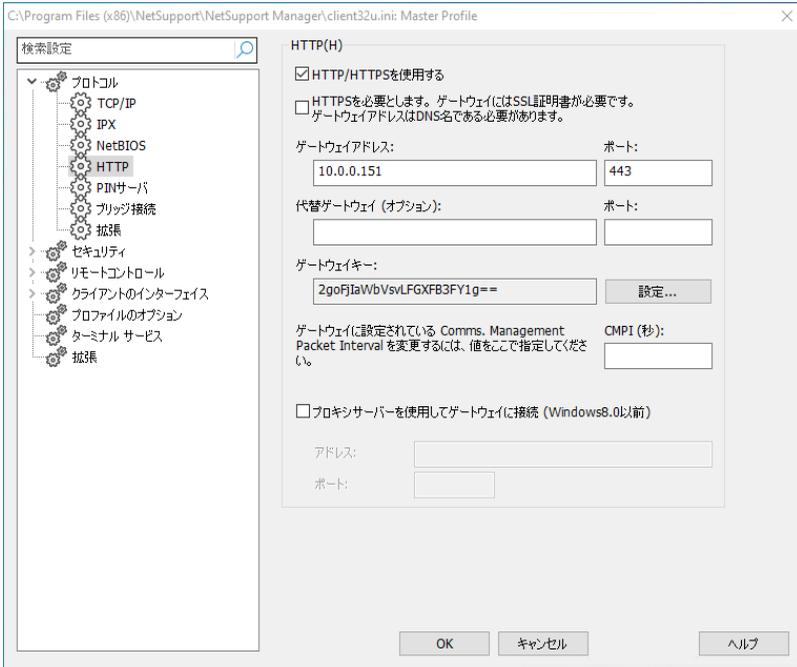
複数の NetBIOS スタックを読みめるため、Windows はアダプタ番号の概念を使用します。各スタックはオペレーティングシステムによりアダプタ番号が割り当てられています。NetBEUI はアダプタ 1, NetBIOS オーバー-TCP はアダプタ 2 といった感じで割り当てられます。

初期設定では、クライアントはアダプタ番号 0 を使用します。お使いのネットワークの設定によっては、この番号がコンピュータのアダプタ番号ではない場合があります。リストから正しいスタックを選択してください。

注意: NetSupport は、複数の NetBIOS アダプタを選択することができます。選択したアダプタを変更する場合は、既存または初期設定のアダプタ番号が選択されていないことを確認してください。

HTTP/HTTPS 接続を設定する

このプロパティシートで NetSupport ゲートウェイを経由して接続設定することが可能です。(詳しくは、本マニュアルの「ゲートウェイを経由してクライアント/コントロールに接続する」を参照してください。)



HTTP/HTTPS を使用する:

HTTP/HTTPS での通信を有効化する場合は、このボックスにチェックをします。

HTTPSを要求

HTTPSを介した安全な接続が必要な場合は、このオプションを選択します。ゲートウェイには、SSL/TLS証明書とパブリックDNS名が必要です。

注意: NetSupport 接続サーバーユーティリティーの「セキュリティー」タブでゲートウェイの SSL/TLS 証明書を適用できます。

ゲートウェイアドレス:

ゲートウェイコンポーネントがインストールされているコンピュータの IP アドレスを入力します。

セカンダリゲートウェイ (オプション)

必要な場合は、セカンダリゲートウェイの IP アドレスを入力します

ポート:

HTTP 通信用の NetSupport の初期設定のポートは 443 です。

注意: バージョン 9.10 では、HTTP 通信のデフォルトとしてポート 443 が導入されました。それ以前は 3085 が使用されていました。NetSupport 接続サーバー設定は、今後アップグレード予定の既存のお客様のために保 0 持され、引き続き 3085 を使用できるようになっていますがアップグレードしたコントロールとクライアントの操作性を確保 0 するために、HTTP ポートを手動で再構成が必 K 要になる場合があります。

ゲートウェイキー:

ここで設定したキーをコントロール側にも必ず設定してください。ゲートウェイで設定したキーと完全に一致する必要があります。クライアント側で設定されたキーを持つコントロール側のユーザーだけが接続できるようにセキュリティを強化します。

CMPI (秒)

ここに値を入力してゲートウェイ側で設定されている CMPI を上書きすることができます。ゲートウェイの初期設定値では、CMPI は 60 秒に設定されています。

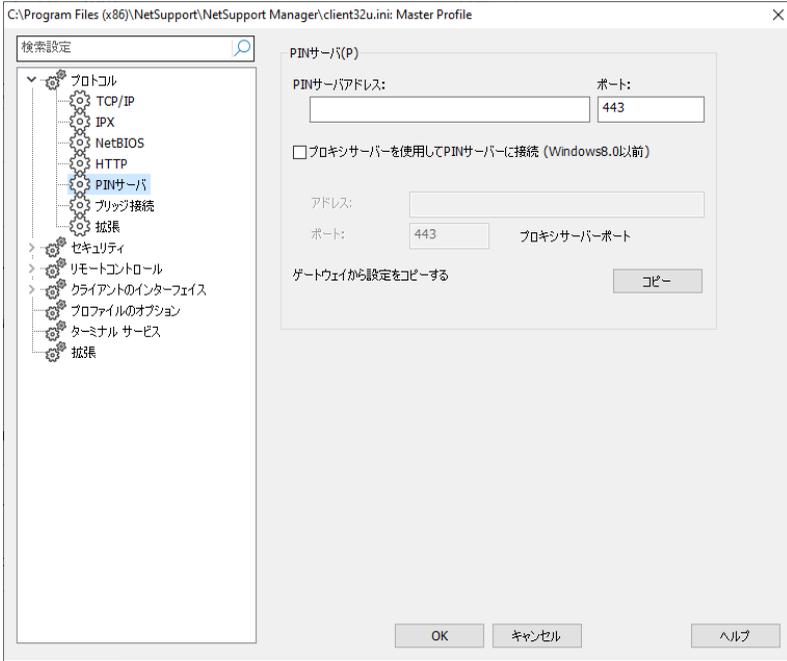
プロキシサーバ

NetSupport Manager はプロキシサーバを経由して通信をルートさせるように設定することができます。サーバのアドレスとポート番号を入力します。推奨ポートは 8080 です。

注意: このオプションは、Windows8 以前のマシンにのみ適用されます。
Windows 8.1 以降のマシンは、Windows の設定で設定された自動プロキシを使用します。

PIN サーバ

クライアントが PIN 接続機能を使って接続できるように PIN サーバを設定します。



PIN サーバ

PIN サーバアドレス

PIN サーバがインストールされているワークステーションの IP アドレスを入力します。

ポート

PIN サーバのデフォルトのポート番号は 443 です。

PIN サーバの接続にはプロキシサーバを使用する

PIN サーバへの接続にプロキシサーバを使用する場合は、このオプションを選びます。プロキシサーバのサーバアドレスとポート番号を入力します。

注意: このオプションは、Windows8 以前のマシンにのみ適用されます。

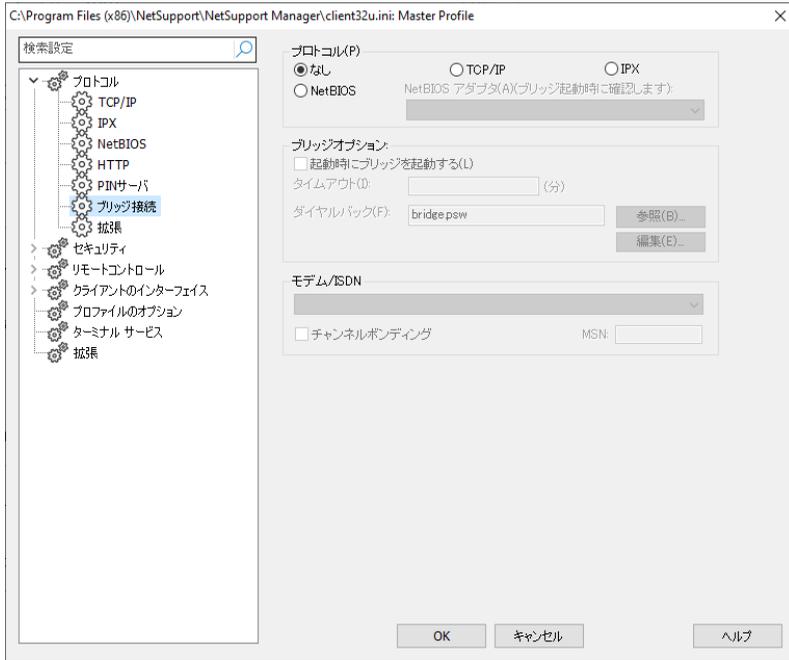
Windows 8.1 以降のマシンは、Windows の設定で設定された自動プロキシを使用します。

ゲートウェイからの設定をコピーする

NetSupport ゲートウェイを使用している場合は、PIN サーバに同じ設定を使用することができます。コピーを選び、ゲートウェイのアドレスとポートが使用されます。

ダイヤルインブリッジ設定

このプロパティシートは、このコンピュータまたは同一 LAN 内の NetSupport クライアントへのダイヤルイン 接続するための設定を行います。



プロトコル

初期設定では、NetSupport Manager は、ブリッジ用の通信プロトコルは何も選択されていません。NetSupport ブリッジ用に NetBIOS、IPX、TCP/IP プロトコルのどれかを一つを選択してください。

ブリッジオプション

起動時にブリッジを開始する

このオプションを設定すると、クライアントが読み込まれると同時に NetSupport ブリッジが初期化されるようになります。設定しない場合は、ダイヤルイン接続をする前に、クライアント側のユーザーが NSM クライアントのメニューから手動で起動する必要があります。

タイムアウト

コントロールが切断する以前に、ブリッジ側の最大タイムアウト期間を分単位で指定します。

ダイヤルバックファイル

パスワードごとに異なる電話番号に呼び出すための追加機能を持つパスワードとダイヤル接続に対応するブリッジを設定します。

モデム/ISDN

コンピュータのコントロールパネルでインストールされたモデムの一覧からブリッジ用のモデムを選択します。

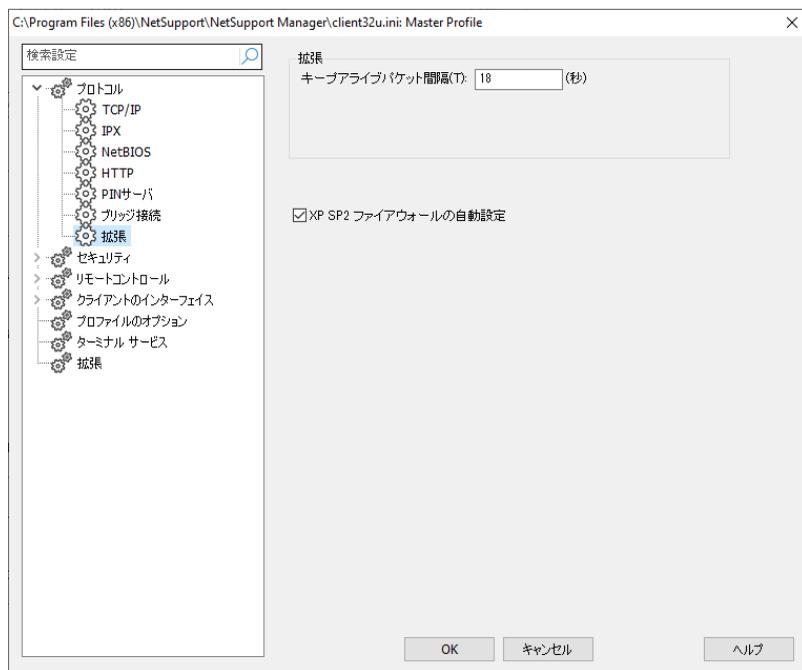
デュアルチャンネルボンディング

有効にすると、お使いの ISDN 回線の両チャンネルを1つに結束し、128k の使用帯域に増加させます。しかし、通信速度を増加させるため、2 回線で通話していることになります。

MSN (Multiple Subscriber Number)

ブリッジがインカミング接続を許可する番号を指定します。使用しているチャンネルによっては、0181-123456 と 0181-123457 のような ISDN 回線の場合、最後の桁の 6 または 7 だけを指定します。

拡張設定



チェックパケット

コントロールが接続している間、クライアントはコントロールに対して定期的にチェックパケットを送信して接続が維持されていることを通知します。ISDN 回線でチェックパケットを禁止する場合は、不意にコントロールが切断してもクライアントは検出しないので注意してください。

チェックパケット間の通常の間隔は約 18 秒です。値を変更することが可能です。0 で完全にチェックパケットは無効となります。

XP SP2 ファイアウォールを自動的に設定する

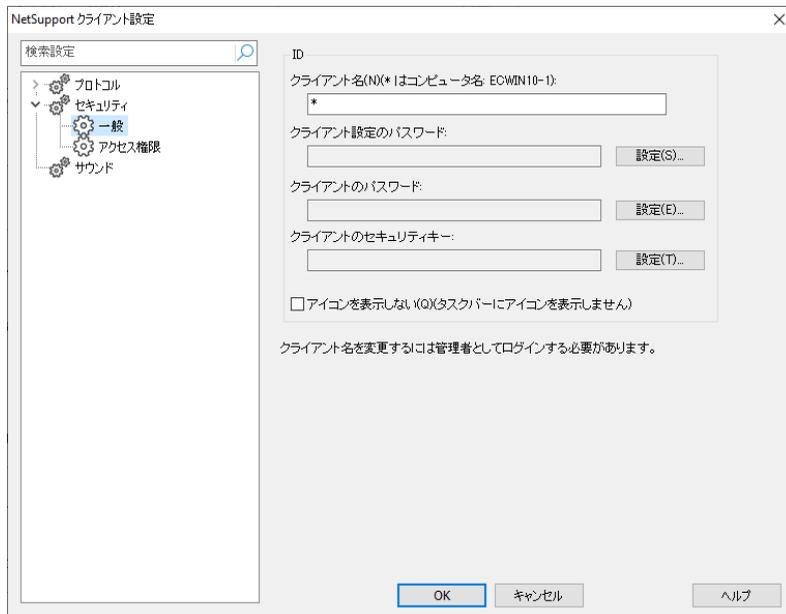
初期設定では、有効になっています。XP Service Pack 2 にアップグレードしたユーザーの NSM コントロールとクライアント機能が継続して動作するように設定します。

セキュリティオプション

クライアント側のセキュリティを設定する時は、このプロパティシートを使用します。

一般設定

クライアント設定を保護、または不正アクセスからクライアントを守るためのパスワードを設定します。



ID

クライアント名

ネットワーク上の各 NetSupport クライアントは独特な名前が必要です。好きな名前を選択するかアスタリスクを使用してコンピュータ名と同じ初期設定のクライアント名を選択します。

クライアント名を変更する際は、必ず管理者権限でログインしてください。

注意

- 拡張クライアント設定でクライアント名を設定している場合、拡張クライアント設定ウィンドウのメニューバーから {プロファイル} {クライアントの設定} を選択します。
- NetSupport のエクスペローラ連動機能を機能させるためには、クライアント名を初期設定のコンピュータ名のままに設定してください。

クライアント設定のパスワード

セキュリティのエクストラレベルとして、設定ファイルにパスワードを付加させることができます。このクライアントの設定の不正改ざんを防止します。次回から設定が起動すると時、ユーザーは設定ファイルのクライアントパラメーターを変更する前にパスワードを入力しなくてはなりません。パスワードを設定するには設定を選択します。

クライアントのパスワード

NetSupport コントロールからの不正アクセスからクライアントを保護します。コントロールユーザーがクライアントにアクセスするには、パスワードの入力が必要になります。

クライアントのセキュリティキー

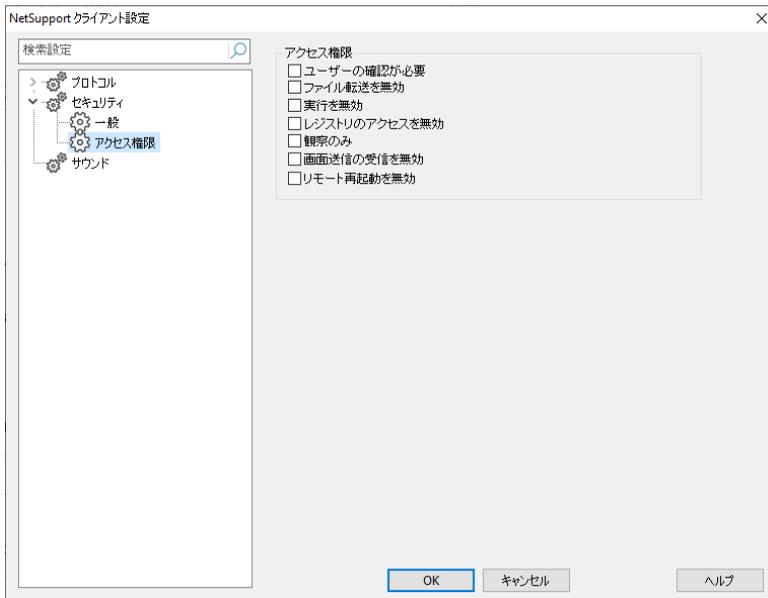
クライアントで設定した同じセキュリティキーを持つコントロールユーザーだけが接続できるようにセキュリティを強化できます。シリアル番号を設定することもできます。セキュリティキーは両サイドで設定する必要があります。

クワイエットモード(タスクバーにクライアントを表示しない)

タスクバーのクライアントアイコンを隠すには、このボックスにチェックをします。

アクセス権限 (基本)

コントロールのユーザーが利用できるリモートコントロール機能を制限する場合は、このプロパティシートを使用します。



ユーザー認証要求

ユーザーが在籍している以外はクライアントへのアクセスを禁止します。クライアント側のユーザーは、アクセス権を与える前に接続要求を許可しなくてはなりません。

注意: セキュリティを強化するために、NetSupport Manager バージョン 14.02 以降、すべての新規インストールでユーザー承認がデフォルトで有効になっています。バージョン 14.02 にアップグレードしている場合は、以前の設定が適用されます。

ファイル転送禁止

コントロールユーザーはクライアントからもしくはクライアントへ)ファイルの転送が禁止されます。コントロールユーザーはコピー、閲覧、さらにNetSupport Managerファイル転送オプションを使用して、クライアント上のファイルを操作するといった行為ができません。

リモートプログラム実行禁止

コントロールユーザーがコントロールプログラムでクライアントのアプリケーションをリモートで実行することを禁止します。クライアントをリモートコントロール中はアプリケーションを起動することはできません。

リモートレジストリアクセス禁止

コントロールユーザーがクライアントのレジストリをリモートで管理および編集することを禁止します。

ウォッチのみ

コントロールユーザーはクライアントパソコンの画面をビューすることはできますが、キー入力やマウス操作ができません。

ショー受信禁止

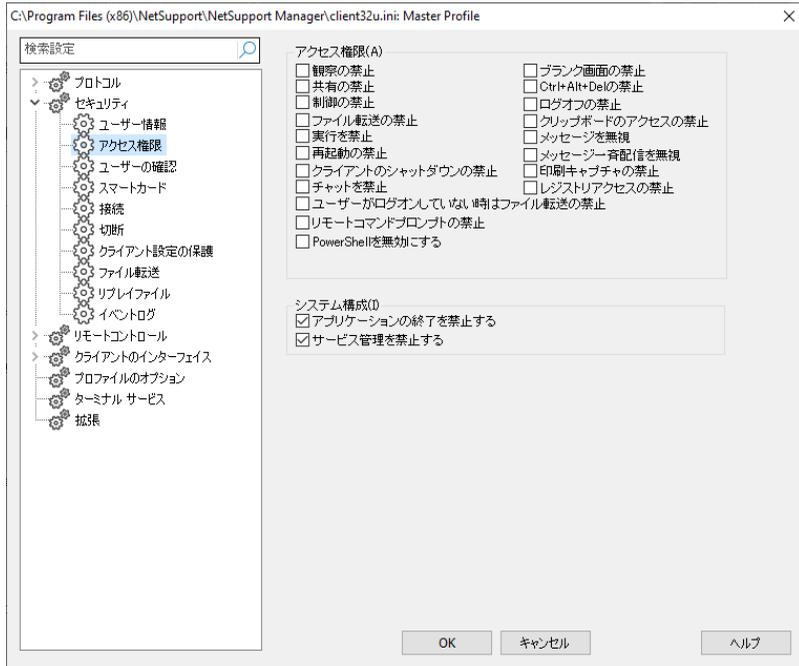
クライアントパソコンは、NetSupport Manager コントロールが送るショーを表¥示することができなくなります。

リモートリブート禁止

これにより、コントロールユーザーがクライアントをリモートで再起動できなくなります。

アクセス権限 (拡張)

コントロールのユーザーが利用できるリモートコントロール機能を制限する場合は、このプロパティシートを使用します。



ウォッチ禁止

コントロールは全くクライアントをビューできなくなります。ファイル転送、スクリプトその他の機能は使用できます。

シェア禁止

コントロールはウォッチモードでのみクライアントをビューできます。

コントロール禁止

コントロールはクライアントのキーボードとマウス操作できなくなります。

ファイル転送禁止

全ての状況でクライアントへまたはクライアントからファイルの転送を禁止します。

プログラム実行禁止

コントロールユーザーがコントロールプログラムでクライアントのアプリケーションをリモートで実行することを禁止します。標準のリモートコントロール機能を使ってアプリケーションを起動することはできます。

再起動禁止

コントロールユーザーがコントロールウィンドウ内からクライアントワークステーションを再起動する機能を無効にします。リモートコントロール中には再起動できます。

クライアントシャットダウン禁止

コントロールユーザーがスクリプトからクライアントプログラムをシャットダウンすることを禁止します。

チャット禁止

コントロールがクライアントとチャットをすることを禁止します。しかし、クライアントはクライアントメニューからコントロールとチャットを開始することができます。

ユーザーがログオンしていない時はファイル転送を禁止する

コンピュータで誰もログオンしていない場合だけ、ファイル転送を禁止します。コントロールユーザーは、このコンピュータに対して有効なユーザー ID とパスワードを持っている場合は、自分のユーザー ID でログオンできます。

リモートコマンドプロンプトを禁止する

コントロールはクライアント側でコマンドラインを実行することができません。

PowerShell を無効にする

コントロールがクライアントの PowerShell セッションを開くことができないようにします。

ブランク画面を禁止する

コントロールユーザーがクライアントの画面を黒抜けにすることができません。

注意:この機能は、Windows 10 v2004 以降を実行しているクライアントでのみ使用できます (Windows 8 以前を実行しているクライアントにはレガシーサポートが提供されます)。

Ctrl+Alt+Del 送信を禁止

コントロールインターフェイスのメニューから送信された Ctrl+Alt+Delete を無視します。

ログオフ禁止

コントロールユーザーが、コントロールウィンドウの**ログアウト**オプションを使用してクライアントワークステーションからログオフできないようにします。リモートコントロール中にログオフすることは可能です。

クリップボードアクセス禁止

コントロールユーザーはリモートクリップボードを使用することはできません。

メッセージ無視

接続中のコントロールからの送信されたメッセージを無視します。

ブロードキャストメッセージ無視

接続有無にかかわらずコントロールからのブロードキャストメッセージを無視します。

印刷キャプチャを禁止する

コントロールユーザーは NetSupport のプリントリダイレクト機能を使用できなくなります。デフォルトでは禁止になっています。

レジストリアクセス禁止

スクリプト機能と最新バージョンの NetSupport Manager にはコントロールユーザーが NetSupport クライアントのレジストリをリモートで管理し編集することが可能な機能が搭載されています。このオプションを設定するとこの機能は禁止となります。

タスクマネージャー

これらのオプションはデフォルトで無効になっています。チェックボックスをオフにして有効にします。有効にすると、選択したクライアントに対してタスクマネージャーが開いているときに、次のタスクを実行できます。

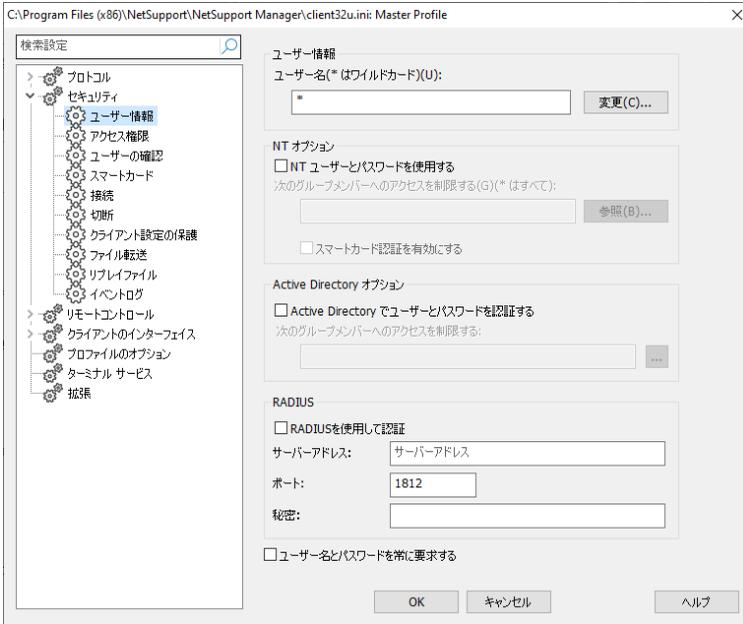
アプリケーションの終了を禁止する

チェックが付いている場合、コントロールは現在の動作しているアプリケーションまたはプロセスを終了できなくなります。

サービス管理を禁止する

チェックが付いている場合、コントロールはクライアントのコンピュータ側のサービスを開始または停止できなくなります。

ユーザ情報



ユーザー名

コントロールのユーザーが、クライアントに接続する際の有効なユーザー名とパスワードを設定する時に使用します。ユーザー ID は、どのクライアントプロフィールを適用するかを決定する時にも使用します。

複数のユーザー名と対応するパスワードを入力できます。[変更] をクリックして、個別のユーザー名とパスワードを追加します。

特定のユーザー名とパスワードを入力すると、接続時に一致するユーザー名とパスワードを入力するコントロールだけにアクセスを制限できます。

注意

- NT コンピュータで、なおかつコントロールユーザーを ID とパスワードで認証するように NT セキュリティオプションを選択している場合は、ユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。ただし、NetSupport セキュリティ認証を使って特定の NT ユーザーへのアクセスを制限し、使用できるクライアントプロフィールを決定させる際のフィルタしたい場合は、このオプションを設定することができます。
- コントロールユーザーが毎回ユーザー名を入力しなくてもいいように、コントロール設定 - 全般設定で初期設定の ID を設定することができます。

NT オプション

NT のユーザー名とパスワードで認証する

NT クライアントだけに適用されます。このオプションが設定されている場合、コントロール側で入力されたユーザー ID とパスワードは、クライアントのコンピュータまたはその既定のドメインで有効な NT の ID である必要があります。

次のグループメンバーへのアクセスを制限する

グループを指定してさらにアクセスを制限することができます。グループを追加するには、[参照] をクリックします。

Active Directory オプション

Active Directory でユーザーとパスワードを認証する

Active Directory を使用している場合、そこで設定したグループメンバーに対してユーザー接続を認証するようにクライアントを設定することができます。接続には、コントロールは Active Directory に対して認証される自分のユーザー ID とパスワードの入力を要求されます。

次のグループメンバーへのアクセスを制限する:

セキュリティの強化として、指定したグループメンバーへのアクセスを制限することができます。

RADIUS

RADIUSを使用したユーザー接続を検証するようにクライアントを構成できます。有効にすると、コントロールがクライアントに接続するときに、RADIUSで設定された方法を使用して接続が検証されます。

注意: RADIUS 認証は、TCP/IP および HTTP/HTTPS 通信で使用できます。

RADIUSを使用して認証

RADIUS 認証を有効にします。

サーバーアドレス

お使いのRADIUSサーバーの完全適格ドメイン名 (FQDN) またはIPアドレスを入力します。

ポート

RADIUSのデフォルトポートは1812です。

シークレット

RADIUSのシークレットキーを入力します。

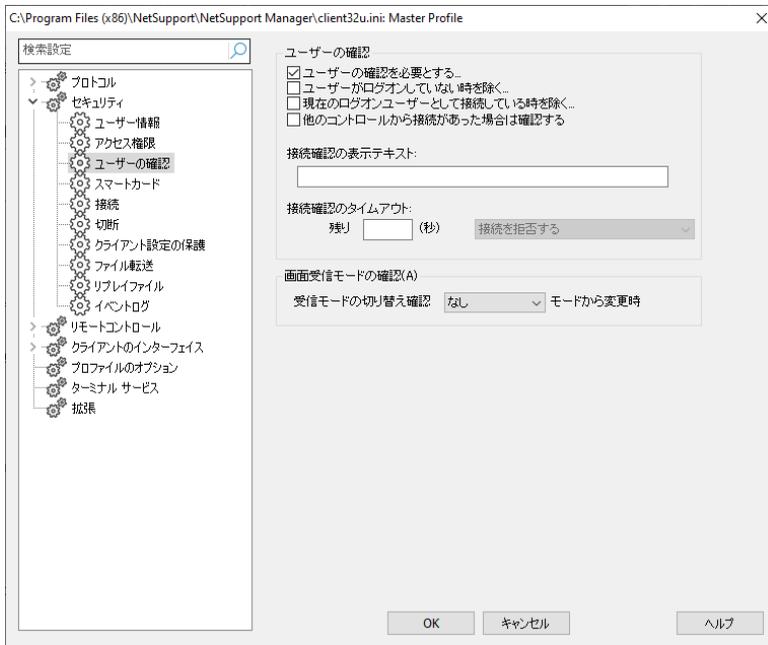
ユーザー名とパスワードを常に要求する

チェックが付いている場合、コントロールがクライアントに接続しようとする時、毎回コントロールユーザーは、ユーザー名とパスワードの入力を要求されます。

ユーザー認証オプション

これらのセキュリティオプションは、クライアントマシンにコントロールユーザーがリモート接続を試みていることを通知するプロンプトを表示します。リモートコントロールを実行する前にクライアントは必ず承認しなくてはなりません。

注意: セキュリティを強化するために、NetSupport Manager バージョン 14.02 以降、すべての新規インストールでユーザー承認がデフォルトで有効になっています。バージョン 14.02 にアップグレードしている場合は、以前の設定が適用されます。



ユーザー認証

ユーザー認証を必要とする

コントロールのユーザーが接続しようすると、クライアント側にメッセージが表示されます。クライアント側のユーザーがリクエストを許可しない場合は、接続はできません。

ユーザーがログオンしていない場合を除く

ユーザー認証が設定されている場合だけ適用されます。つまり、コンピュータのログイン画面でリモートコントロールを許可するようにクライアントを設定します。コントロールユーザーが、ログインするには有効な ID とパスワードが必要になります。

現在のログオンユーザーとして接続している場合を除く

現在のログオンユーザーのユーザー名/パスワードを使ってリモート接続をしている場合、ユーザー認証を省略させることができます。例えば、ユーザーがオフィスのコンピュータをロックし帰宅しても、リモートコンピュータ側で接続を物理的に認証しなくても自宅から接続できます。接続を許可するには、ユーザー認証は設定されなくてはなりません。

他のコントロールから接続があった場合は確認する

他のコントロールが接続しようとすると、クライアントはメッセージを受信します。

注意: クライアント側でメッセージを表示するには、クライアント環境設定 - セキュリティ接続で複数のコントロール接続オプションが有効にする必要があります。

接続認証のテキストを表示:

クライアントのコンピュータに表示される認証メッセージをカスタマイズすることができます。クライアントに通知するコントロールユーザー名などのデフォルト設定を含めることができます。4 種類の構文を用意しています:

\$loginname\$	コントロール側にログオンしているユーザー名を表示します。
\$fullname\$	コントロール側にログオンしているユーザーのフルネームを表示します。
\$computername\$	コントロールのコンピュータ名を表示します。
\$userdomain\$	コントロールのコンピュータにログオンしているユーザーのドメインを表示します

注意: クライアントコンピュータの製品インストールディレクトリに helpdesk.ico というアイコンファイルを設置することでユーザ承認ダイアログの標準 NetSupport 画像をカスタマイズした画像に置き換えることができます。

接続認証のタイムアウト:

ユーザー認証画面の表示時間を 0-255 秒の間で指定し、制限時間が経過してもユーザーが接続を認証しなかった場合に実行するアクションを決定します。接続リクエストを取り消すには、[接続を拒否する]、またはコントロールの接続を許可するには [接続を許可する] を選択します。

コントロールにとっては緊急の接続が必要でも、リモートユーザーにファイルを閉じたり、タスクを完了したりする時間を与えたい場合にお役立ていただけます。

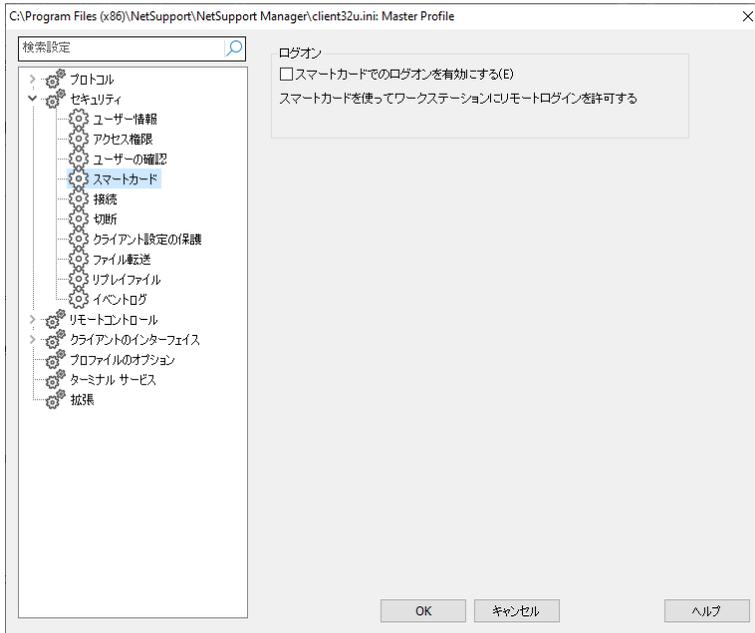
ビューモードの確認

ビューモードを xxxxx に切り替える時は確認する

ビュー中にコントロールのユーザーがビューモードを切り替えようとする、クライアントのコンピュータに通知画面を表示します。ビューレベルが [コントロール] に設定されていて、[シェア] または [ウォッチ] にモードを変更しようすると、確認画面が表示されます。クライアントは、その変更に対して許可または拒否できます。

スマートカードのログオンを有効にする

クライアント側でこのオプションを有効にすると、コントロールはスマートカード認証を使用しているクライアントのコンピュータにログオンできるようになります。



スマートカードは、自動的に対応するにで追加インストールは発生しません。コントロール接続が実行されるとクライアント側で対応が読み込まれます。読み込まれると、NSL Pseudo スマートカードリーダーという追加ハードウェアデバイスが利用可能になります。

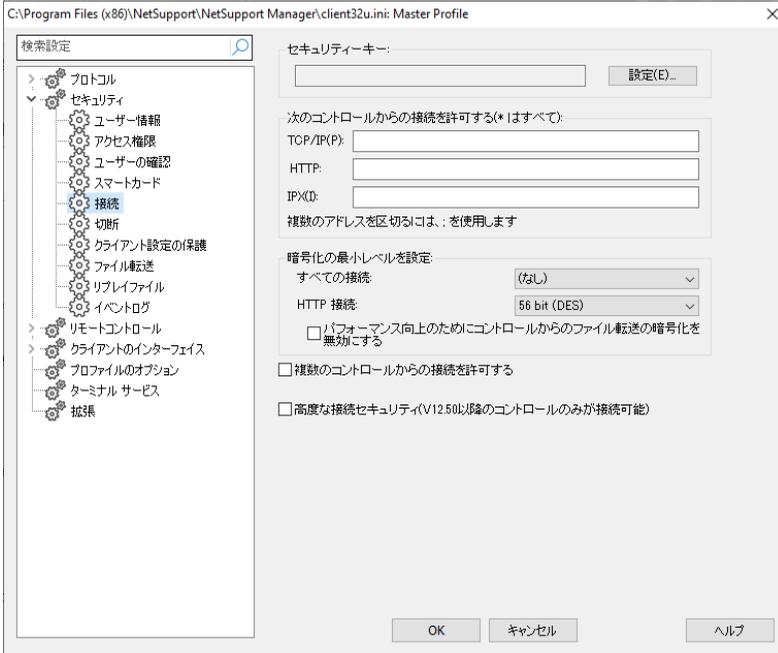
コントロールが接続しているクライアントのビューウィンドウを開く時は、コントロール側に搭載されているリーダーに自分達のスマートカードを挿入し、リモートユーザーのコンピュータにログインするためのクライアントの PIN を入力する必要があります。

コントロール側で複数のクライアントのビューウィンドウを開いている場合、スマートカードの取り付けと取り外しイベントは、アクティブ状態のクライアントに送信されます。

注意: Active Directory 環境では、NetSupport ADM テンプレートを使ってスマートカードの対応を有効にできます。

接続オプション

このプロパティシートは、どのコントロールのユーザーまたはコントロールのコンピュータがこのクライアントに接続するかを管理します。使用する暗号化のレベルも設定できます。



セキュリティキー

コントロールにクライアントと同一のセキュリティキーが設定されている場合だけ、コントロールのユーザーが接続できるセキュリティを追加できます。NetSupport ライセンスファイルのシリアルナンバーを使用することもできます。両サイドでセキュリティキーを設定してください。

次のコントロールからの接続を許可します

これにより、IPX または TCP/IP ネットワークまたは HTTP で実行されているコントロールへのアクセスを制限することができます。この機能は、特定のアドレスを持つコントロールのコンピュータへのアクセスを制限する時に使用します。アドレスフィールドには、ワイルドカードを使用できます。

例:

194.182.*.* TCP/IP サブネット 194, 182 のすべてのコンピュータ
00000001-* IPX ネットワーク 1 のすべてのコンピュータ

注意: 指定した IP 範囲にアクセスを制限することができます。例えば、10.0.0.1-24 の場合、10.0.0.1 から 10.0.0.24 までのアクセスを許可します。

最小レベルの暗号化処理を設定する

暗号化を有効にすると、コントロールとクライアント間で通信されるすべての情報は外部にはわからないようになります。セキュリティとパフォーマンスのバランスを調整できるように、NetSupport では 56 Bit DES から 256 Bit AES までの暗号化オプションを用意しています。暗号化レベルが高いほど、パフォーマンス低下の可能性が高くなります。

コントロール接続時に使用する暗号化処理レベルを選択します。デフォルトでは、暗号化はすべての接続では「なし」、HTTP 接続では「56 ビット DES」に設定されています。

パフォーマンス向上のためにコントロールからのファイル転送の暗号化を無効にする
デフォルトでは、NetSupport Manager はコントロールからクライアントへのファイル転送を暗号化します。このオプションを選択すると、暗号化が無効になり、パフォーマンスが向上します。

複数のコントロールからの接続を許可する

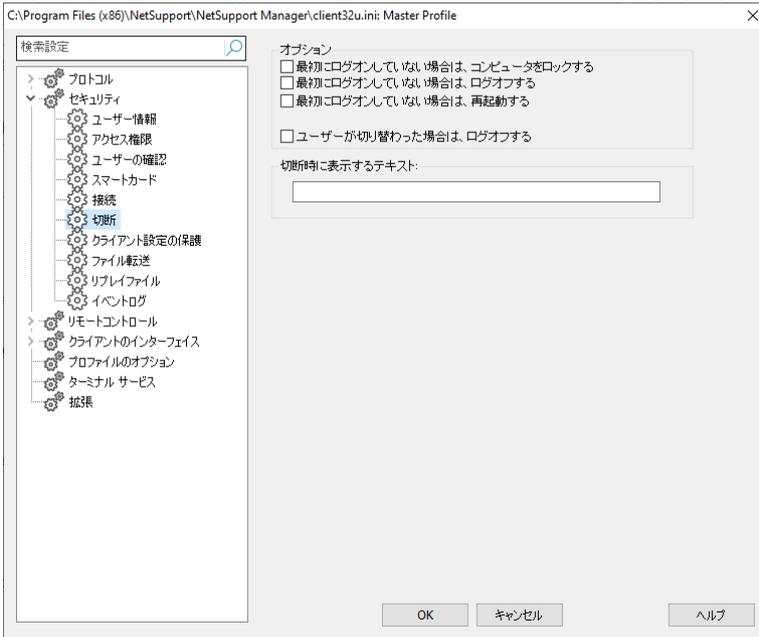
NetSupport は、複数のコントロールが同時に同じクライアントに接続し、ビューすることが可能です。グループ作業にお役立いただけます。このオプションにチェックをすると、この機能を有効にできます。

高度な接続セキュリティ(V12.50 以降のコントロールのみが接続可能)

バージョン 12.50 から追加されたセキュリティ対策として、クライアントは、接続を試みるコントロールを確認し、バージョン 12.50 以降を実行しているコントロールだけが接続できます。このオプションを選択すると、旧バージョンの NetSupport Manager を実行しているコントロールからの接続が拒否します。

切断オプション

このプロパティシートのオプションは、コントロールのユーザーがクライアントのコンピュータから切断した時の追加セキュリティを設定します。予期せずクライアント接続が切れてしまった場合などにお役立いただけます。



ログオンしていない時はコンピュータをロック - NT のみ

コントロールのユーザーが切断すると、コンピュータをロックします。コントロールのユーザーは再接続し、コンピュータのロックを解除することができます。コントロールが不意に接続をロストしてしまった時に非常に有効です。コンピュータのユーザーがコントロールユーザーの権限(管理者としてログオンしていると想定した場合)を引継いでしまうことから防ぎます。コントロールが接続した時、コンピュータがログオフしていた場合だけ適用されます。

ログオンしていない時はログオフ

コントロールのユーザーが切断すると、コンピュータを自動的にログオフします。コントロールが接続した時、コンピュータがログオフしていた場合だけ適用されます。

ログオンしていない時は再起動

コントロールのユーザーが切断すると、コンピュータを自動的に再起動します。コントロールが接続した時、コンピュータがログオフしていた場合だけ適用されます。

ユーザーを変更した場合はログオフ

コントロールが、管理者などの別の名前でクライアントのコンピュータにログオンする必要がある場合、コントロールユーザーの権限をユーザーが引継がないようにします。予期せず接続が失われた場合も同様です。

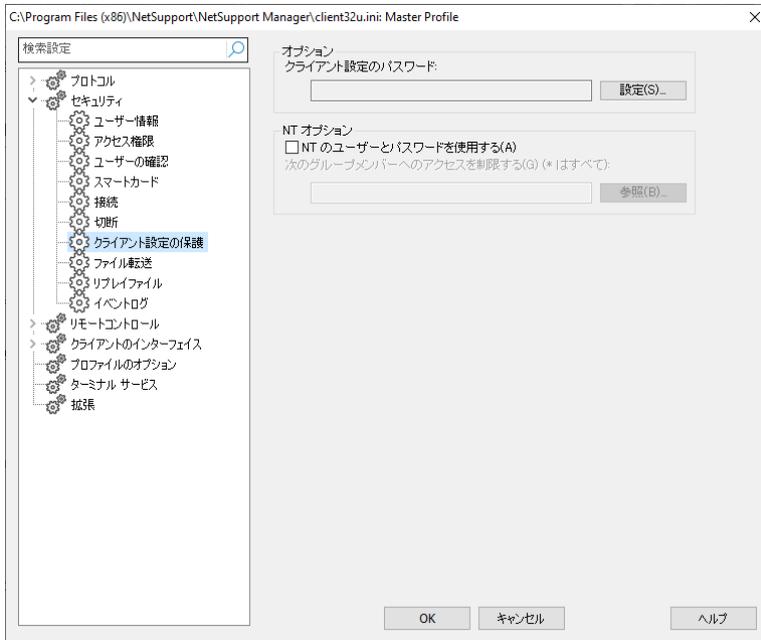
切断時に表示するテキスト

コントロールが切断する時に、クライアントのコンピュータに表示されるメッセージをカスタマイズできます。テキストは、クライアントに通知したいコントロールユーザ名などの初期設定のパラメータの選択して取り込むこともできます。次のオプションが使用可能です：

\$loginname\$	コントロール側のユーザーのログオンユーザー名を表示します
\$fullname\$	コントロール側のユーザーのフルネーム名を表示します
\$computername\$	コントロール側のコンピュータ名を表示します
\$userdomain\$	コントロール側のコンピュータのログオンユーザーのドメインを表示します

クライアント設定を保護する

このプロパティシートはクライアント設定の保護が可能です。



クライアント設定のパスワード

クライアントプロファイル用のパスワードを指定します。

NT のユーザーとパスワードで認証する

NT クライアントだけに適用されます。そのため、NT 搭載のコンピュータのクライアント設定情報を保護します。このオプションが設定されていると、コントロール側で入力されたユーザー ID とパスワードは、クライアントのコンピュータまたはそのデフォルトのドメインで有効な NT の ID [オペレーティング システムの一部として機能] である必要があります。このユーザー権限は初期設定では許可されていません。

このユーザのアクセス権を取得するには

1. {プログラム}{管理ツール}{ユーザー管理}を実行します。
2. ドロップダウンメニューから{ポリシー}{ユーザー権限}を選択します。
3. “高度なユーザ権限の表示” チェックボックスにチェックをします。
4. [権限]を選択します。
5. [追加]をクリックします。
6. この権限を許可するユーザーまたはグループを選択します。
7. [OK]をクリックします。
8. このユーザー権限を認識させるには、コンピュータに再ログインする必要があります。

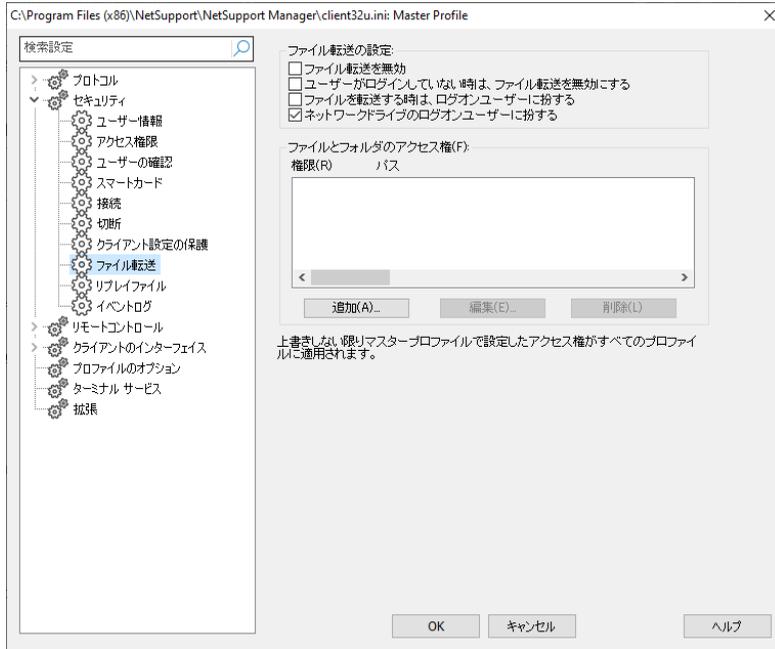
注意: 別のドメインの ID を認証するようにクライアントを設定することもできます。

次のグループメンバーへのアクセスを制限する

グループを指定してアクセスをさらに制限することができます。グループを選択するには、[参照]をクリックします。

ファイル転送設定

このプロパティシートでファイルアクセスの制御を行ないます。



ファイル転送を禁止する

すべての場合において、クライアントとのファイル転送を禁止します。

ユーザーがログインしていない時はファイル転送を禁止

ユーザーがログオンしていない場合、ファイル転送を無効にします。つまり、このコンピュータに対して有効な ID とパスワードを持っている場合は、コントロールのユーザーはそれぞれログオンする必要があります。

ログオンしているユーザーでファイルを転送する

NetSupport ファイル転送を使うときは、コントロールのユーザーがログオンユーザーとして同様のファイルのアクセス権を持ちます。

ネットワークドライブのログオンユーザーになりかわる

コントロールユーザーはログオンユーザーとしてネットワークドライブへの同じアクセス権を持ちます。

ファイルとフォルダのアクセス権

個々のドライブ、フォルダそしてファイルへのアクセスを許可または拒否を明確にする際に使用します。NetSupport Manager のファイル転送機能だけに適用されるだけです。ご注意ください。

階層構造になっているため、全体的に C:¥ へのアクセスを禁止し、サブフォルダへのアクセスを許可することができます。

注意: マスタープロファイルで設定したアクセス権限は上書きしない限り、全てのプロファイルに適用されます。

リプレイファイル設定

リプレイファイル機能は、コントロールがリモートコントロール/ビュー中のクライアントのコンピュータで実行した画面操作を録画して再生することができます。



リプレイファイルを録画する

このオプションにチェックを付けると、リプレイファイルの録画を有効化します。コントロールがクライアント PC の画面を表示するたびに、リプレイファイルを作成します。

ファイル名にはクライアント名を使用する

それぞれのリプレイファイルを識別するために、クライアント名と録画日時をファイルに使用することができます。またオプションにチェックが付いていない場合は、0000001.rpf などの連続した形式のファイル名になります。

フォルダ

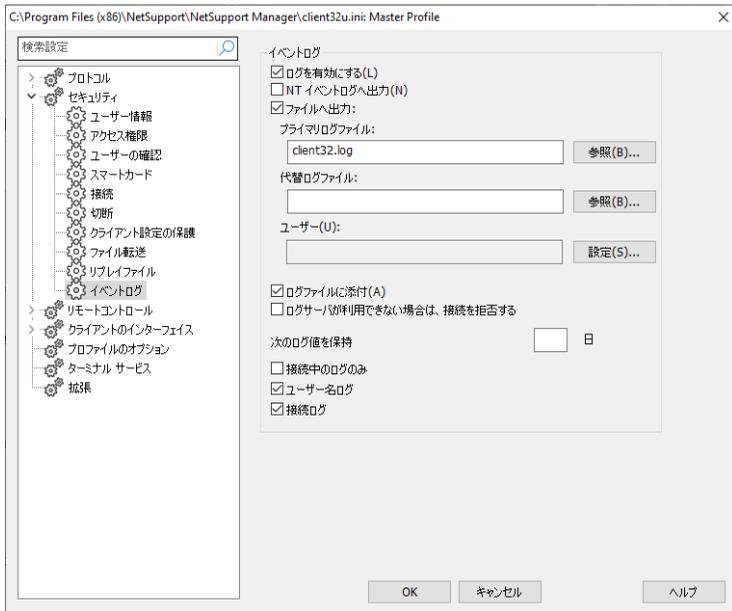
リプレイファイルを保存する場所を指定します。ネットワーク共有に保存する場合、それぞれのクライアント別のフォルダにファイルを保存するオプションがあります。

ユーザー

ログファイルの書き込むために使用するユーザー名とパスワードを指定します。

イベントログ

リモートコントロール中に行われた操作をログファイルに記録します。必 K 要に応じて、接続を開始したコントロールの名前、セッションの開始と終了の日時などの情報 ñ を記録できます。この機能を使用してクライアントセキュリティを強化することが可能です。



ログを有効にする

ログを有効にするには、このボックスにチェックを付けます。

NT のイベントログに出力

NT のイベントログで管理するようにログを設定します。

ファイルに出力

テキストファイルで管理するようにログを設定します。このファイルはローカルコンピュータまたはサーバ上に保存することができます。複数のクライアントが同じログファイルに書き込むことができます。

プライマリログファイル

ログファイルを保存するパスとファイル名(*.log)を指定します。

セカンダリログファイル

セカンダリログファイル用のパスを指定します。プライマリのパスが見つからない場合(例えばサーバーがダウンした時)に、ここにファイルを保存します。

注意

- ログファイルの追跡が簡単にできるように、複数のクライアントのログファイルを同じサーバに保存している場合、上の設定で指定したファイル名に、例えば `\\Logserver1\logfiles\%computername%$$$mm$$yy$.log` のようなクライアントのコンピュータ名とログの作成日時を含めることができます。この場合、特定のクライアントのコンピュータの操作の日誌を構築することができます。

日付フォーマット:

`dmy` 2021年12月7日の場合は171221で表¥示

`ddmmyy` 1071221で表¥示

`dddmmmyyy` 1TueDec2021で表¥示

`dddddmmmyyy$` 1Tue07Dec2021で表¥示

`dddddmmmyyyy$` 1Tuesday07December2021 で表¥示

- Windows XP またはそれ以降 の場合、ログインしない限りドライブのマッピングができないので、このファイルは UNC パス名でなくてはなりません。

ユーザー

ログファイルユーザーは、指定したパスが UNC パスの時に、ログファイルに書き込むために使用するユーザー名とパスワードです。

ファイルに追加

このボックスにチェックを付けると、NetSupport は、継続して既存のログファイルのエントリに追加します。チェックがない場合は、既存のアイテムは上書きされます。

ログサーバーが存在しない場合は接続を拒否する

このオプションを有効にすると、追加セキュリティを適用することができます。ログを有効にした状態で、コントロールが接続しようとしてログファイルが見つからなかった場合は、接続リクエストを拒否します。サーバがダウンしている間は、操作ログを記録しないようにできます。

ログ値を保持する

ログファイルにエントリを保持する日数を指定します。古いエントリは、指定された日数が経過すると(新しいログエントリが受信されると)クリアされます。これを空白のままにすると、すべてのエントリが無期限に保持されます。

接続中のログのみ

このオプションは、コントロールが物理的に接続している間の操作だけを記録します。ログが有効になっていると、例えばクライアント設定のデータなど無視したい追加情報も記録します。

注意: もう一つの記録を残す上で便利な項目は、コントロールがクライアントに接続する理由です。クライアントのコンピュータで [ユーザー認証] が有効になっていて、コントロールのセキュリティ設定オプションで [接続時に追加情報を入力する] が設定されている場合、この設定が有効になります。

ユーザー名をログに記録する

デフォルトでは、接続を開始したコントロールユーザーのユーザー名がログファイルに記録されます。この情報を記録しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

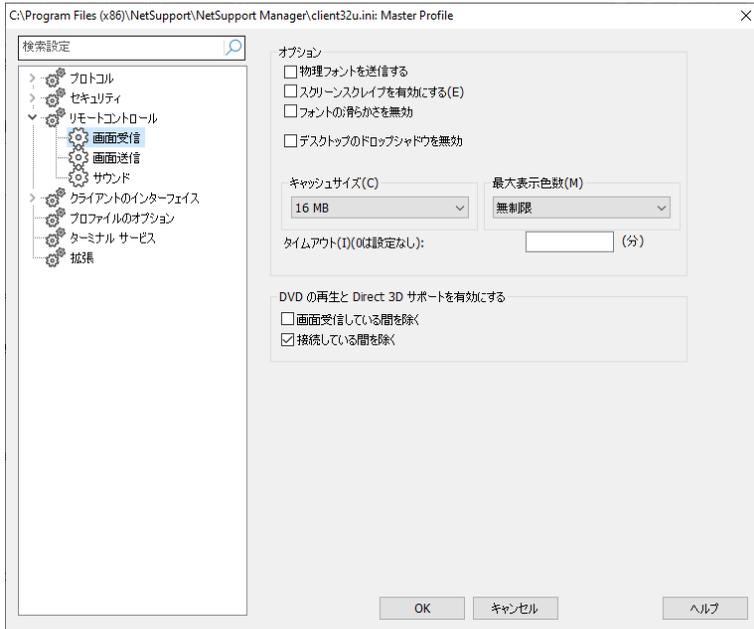
接続をログに記録する

デフォルトでは、接続と切断のエントリはログファイルに記録されます。

リモートコントロールオプション

次のリモートコントロール設定が調整可能です：

ビュー設定



オプション

物理フォントを送信

Windows クライアントがコントロールに画面を送信する時、データ送信量を減らすために参照用のフォント情報を同時に送信します。

コントロールは、内部のフォントマップを参照し、クライアント側で表示されているフォントに一番近いものを使用します。ほとんどの場合、同じフォントがコントロールとクライアント側で利用できるため画面に表示されているものはほぼ同一のものです。

しかし、近いフォントが見つからない時がある場合があります。そのような場合、同じフォントを表示するために必要なデータをクライアントがコントロールに送信しなくてはなりません。

このオプションを設定すると TrueType テキストは強制的に文字コードではなくグリフ(文字の形状)として送信されます。これによりコントロールで忠実に再現することができます。

ただし、特にダイヤルアップ回線のパフォーマンスに影響するため、なるべく使用しないようにしてください。

スクリーンスクレepを有効にする

NetSupport では効率的に画面情報をキャプチャする方法として、画面を表示させるコンピュータのビデオドライバにフッキングする技術を採用しています。

しかし、アプリケーションによっては、ドライバを経由しないものもあるのでこの方法が全く機能しない場合があります。このような状況では、画面のスナップショットを撮影して再生させる [スクリーンスクレep] モードを有効にします。このモードは、クライアントの画面を正確に再生させることはできますが、ネットワークに多大な負荷を与えることとなります。

フォントスムージングを無効にする

このオプションは、クライアントを表示するときにフォントのスムージングを無効にします。

デスクトップのドロップシャドウを無効にする

このオプションは、クライアント画面の表示時にアプリケーションのドロップシャドウを無効にします。

キャッシュサイズ

クライアントによってコントロールに直前に送信された画面データは、パフォーマンスを向上させるためにキャッシュされます。キャッシュサイズが大きいほど、クライアントとコントロール側で大量のメモリーを消費することになりますが、パフォーマンスが向上します。

このオプションを設定することで、最大パフォーマンスに使用するキャッシュサイズを調整することができます。クライアントとコントロール側で設定された最小のキャッシュサイズが使用されるので、これが有効になるように両サイドに設定する必要があります。

キャプション バーの  をクリックし、コントロールのクライアントビューウィンドウから **バージョン情報 - キャッシュ** を選択すると、キャッシュがどの程度効率的に機能しているかを確認できます。この画面は、ヒット数などの統計を表示します。

最大色数

クライアント側の色数が高いほど、各画面の更新のためにコントロールに送信されるデータ量も増加します。色数を制限することで、遅い回線でもパフォーマンスが向上する場合があります。

注意: ここでの設定は、コントロール設定で設定している最大色数よりも優先され
ます。

タイムアウト

[複数の接続を許可する] オプションが設定されている場合を除いて、コントロールがクライアントに接続すると、他のコントロールは同じクライアントには接続できません。

コントロール側のユーザーが切断し忘れてしまった場合、接続しなくてはならない別のコントロールのユーザーが接続できない状態が発生してしまいます。

このオプションを設定することで、接続しているコントロールが、何もマウス、キーボード、またはファイル転送の操作を一定時間しなかった場合、クライアントは接続の必要性はないと判断し、自動的に切断します。これにより、別のコントロールが接続できるようになります。

DVD の再生と Direct 3D の対応を有効にする

NetSupport は、ビューセッションの画面データをキャプチャするために MicroSoft 社のミラードライバを使用します。ミラードライバに N フッキングしている間は、DVD の再生ができません。したがって、DVD を再生するための互換性が必要な場合、NetSupport は、必要に応じてミラードライバをロードまたはアンロードするオプションを用意しています。

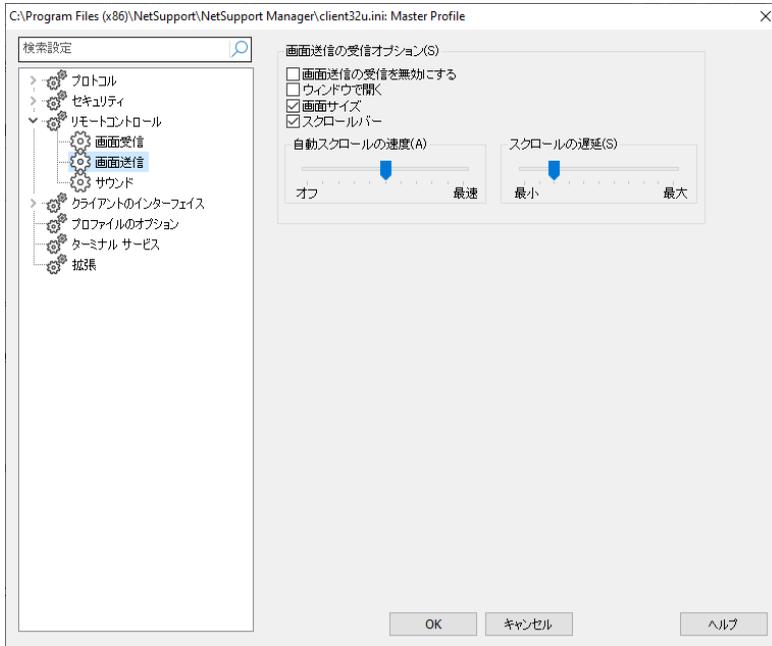
クライアント画面を表示中は除く

チェックが付いている場合、DVD サポートが有効になります。しかし、ビューセッションの間は、ミラードライバが読み込まれてしまうため無効化されます。

クライアントに接続中は除く

チェックが付いている場合、クライアントに接続している間は、DVD サポートが一時停止されます。

ショー設定



ショー受信オプション

ショーの受信を無効

コントロールはクライアントにショーできなくなります。

ウィンドウで開く

クライアントは、全画面表示ではなくウィンドウモードでショーを受信します。

画面サイズ

受信したショーウィンドウのサイズを自動的に表示可能な領域の画面のサイズに合わせます。

スクロールバー

受信したショーウィンドウにナビゲーション用のスクロールバーを表示させるかどうかを決定します。

オートスクロール速度

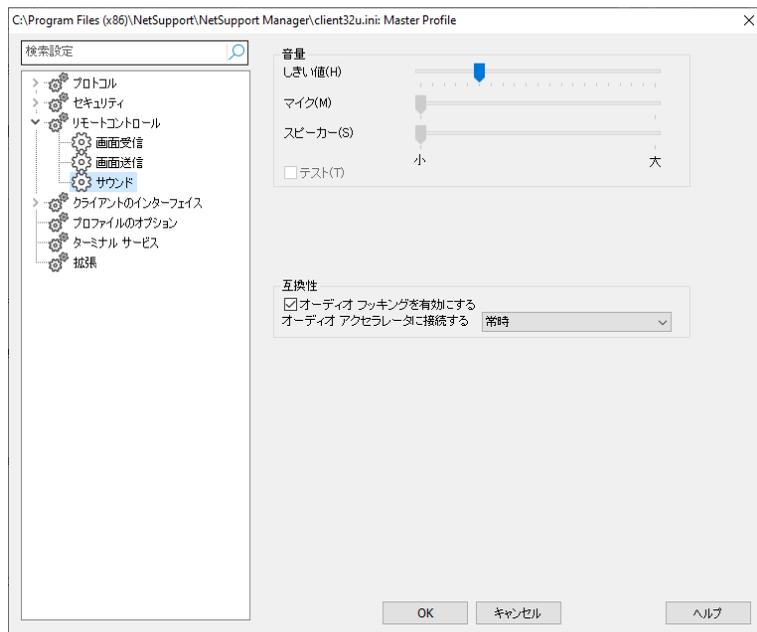
クライアント画面にウィンドウモードでショーを表示している場合、ウィンドウの端にマウスを移動させると、クライアントは、自動的に内容をスクロールさせることができます。スライドコントローラーを調整して、ビュースクロールの速度を設定します。

スクロール遅延

オートスクロールを有効にする際、スクロールが有効になる前の遅延を変更することができます。マウスを画面の端に移動させた瞬間にスクロールさせたい場合は、[最小]の方にスライドさせます。オートスクロールが有効になる前の遅延を長めにした場合は、[最大]の方にスライドさせます。

サウンド設定

このプロパティシートは、クライアント側のサウンド機能を使用するための設定オプションを用意しています。



音量

しきい値 - マイクの感度

マイク- マイクの音量

スピーカー- スピーカーの音量

テスト

上記の設定をすべてテストするには、このボックスにチェックを付けます。

オーディオアクセラレータにフッキングする

クライアントのハードウェアアクセラレータのレベルを設定します。

互換性

オーディオ フックングを有効にする

オーディオ フックングを有効または無効にします。

注意: 設定を有効にするには再起動が必要です。

なし

アクセラレーションレベルをフルのままにします。

接続している間

接続している間は、アクセラレーションレベルが基本になります。

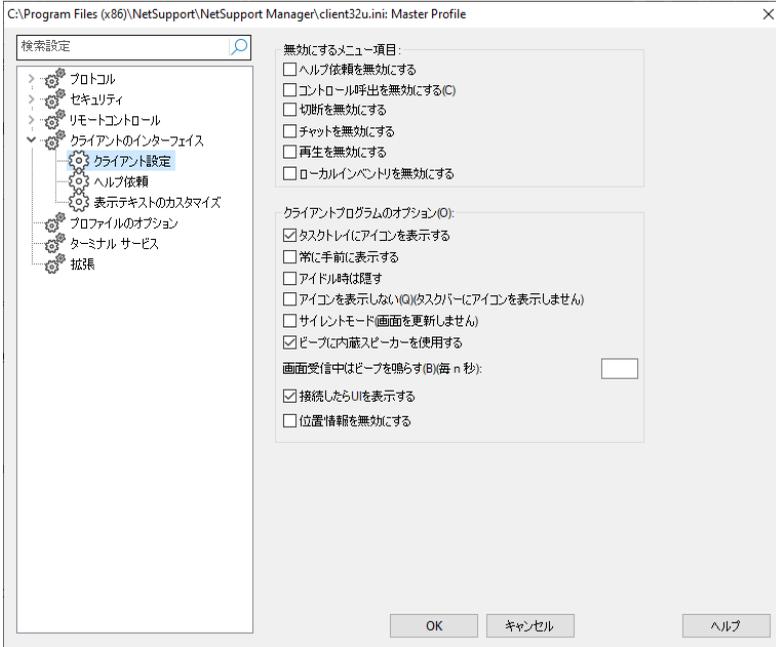
常時

アクセラレーションレベルが基本になります。

クライアントインターフェイスオプション

このプロパティシートは、クライアントとコントロールのインターフェイスをカスタマイズするために使用します。

クライアント設定



クライアントメニューの無効

ヘルプ要請を無効にする

クライアントのユーザーは、ヘルプ要請機能が使用できなくなります。

コントロール呼出を無効にする

クライアント側のコントロール呼び出しオプションを無効にします。

切断を無効にする

クライアントのユーザーは、無理やりコントロールのユーザーを切断できなくなります。

チャットを無効にする

クライアントは、コントロールとのチャットセッションを開始できなくなります。しかし、コントロールがクライアントとチャットを開始することはできます。

再生を無効にする

クライアントは、リプレイファイルを開くことができなくなります。

ローカルのシステム構成を無効にする

クライアントがローカルインベントリを実行できないようにします。

クライアントプログラムのオプション

タスクバーにアイコン表示

NetSupport Manager クライアントアイコンは、タスクバーのアクティブなアプリケーションとしてではなく(これをクリックすると、クライアント機能にアクセスできるドロップダウンメニューのあるウィンドウが開きます)、システムトレイに表示されます (これをクリックすると、クライアント情報ウィンドウが開きます)。

常に手前に表示

NetSupport Manager クライアントウィンドウは、他のウィンドウの後ろに隠れる場合があります。このオプションを設定すると、常に手前に表示され、クライアント側のユーザーは誰かがビューしていることが常にわかるようになります。

アイドル時は隠す

コントロールが接続またはビューしない限り、NetSupport クライアントアイコンは、表示されません。

アイコンを表示しない (タスクバーにアイコンを表示しません)

システムトレイのクライアント アイコンを非表示にするには、このオプションを選択します。

サイレンモード (更新しません)

クライアントに気付かれずに、コントロールがクライアントに接続し、ビューできます。サイレントモードが選択されていない場合、クライアントの画面とマウスアイコンは一瞬点滅し、クライアントに接続が確立され、画面を見られていることを通知します。

ビーブに内蔵スピーカーを使用する

初期設定では、チャットやビュー機能でコンピュータ間に送信される警告ビーブは、PC の内蔵スピーカーから聞こえてきます。コンピュータのサウンドカードを使ってスピーカーからビーブを鳴らす場合は、このボックスのチェックを外します。

ビュー中はビーブを鳴らす(毎 n 秒)

コントロールがクライアントの画面を表示している間は、ビーブを鳴らします。

接続するときに UI を表示する

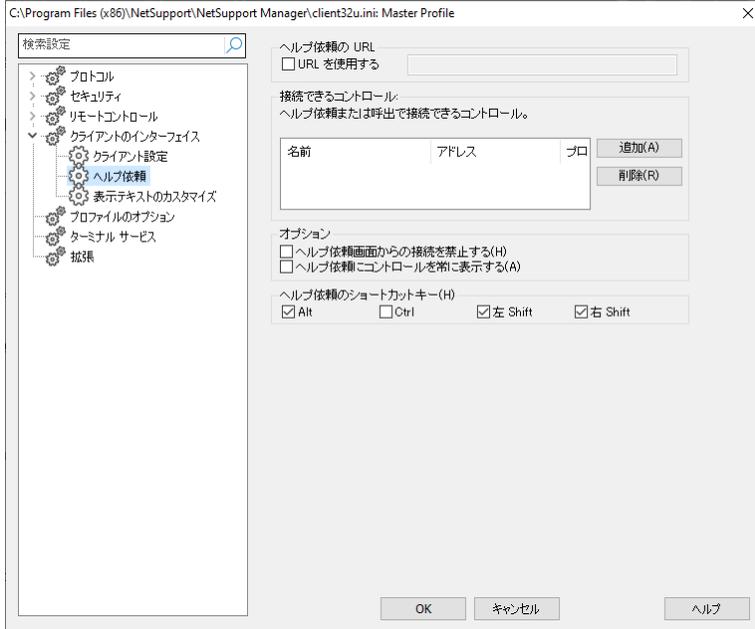
コントロールがクライアントに接続すると、クライアント情報ウィンドウが表示されます。これにより、クライアントは接続しているコントロールの詳細を確認することができます。コントロールから切断したり、コントロールとチャットするオプションもあります。

位置情報を無効にする

コントロールにクライアントの位置が表示されます。このオプションを選択すると、クライアント側の位置情報機能を無効にします。

ヘルプ要請設定

このプロパティシートは、クライアントのヘルプ要請のアクセスを設定するために使用します。クライアントがヘルプ要請を送信するコントロールを指定、またはサードパーティー製の Web ベースのヘルプデスクシステムとリンクすることができます。



ヘルプ要請の URL の選択

サードパーティー製の Web ベースのヘルプデスクアプリケーションを使用している場合、NetSupport のヘルプ要請機能を使用せずに、そちらにクライアントを誘導することができます。有効にするには、[URL を使用する] にチェックをして URL を入力します。

接続できるコントロール

ヘルプ要求またはコントロール呼出しダイアログから接続できるコントロールを一覧表示します。

オプション

ヘルプ要請ダイアログからの接続を禁止する

ヘルプ要請ダイアログのクライアントがヘルプ要請を送信したいコントロールを選択するオプションを禁止するには、このボックスにチェックをします。

ヘルプ要請にコントロールを常に表示する

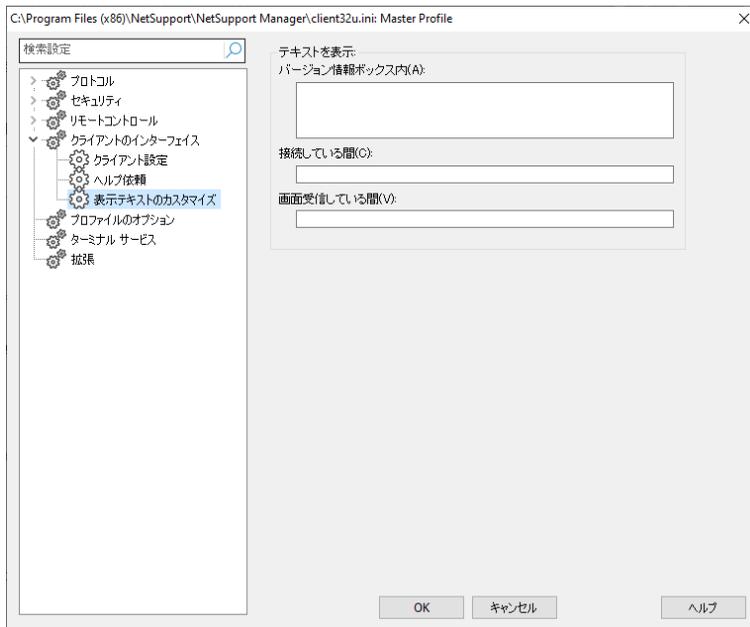
ヘルプ要請ダイアログにクライアントがヘルプ要請を送信できるコントロールをすべて表示するには、このボックスにチェックをします。

ヘルプ要請のショートカットキー

ここで、クライアント側のユーザーがヘルプ要請を送信する時に押す H ソーとカットキーを設定します。コントロールがクライアントに接続すると、通知が表示されます。お使いのキーボードが 3 コードに対応していない場合は、2 個のキーを使用するようにクライアントを設定してください。

テキストのカスタマイズ

このプロパティシートは、クライアントのコンピュータ側に表示させるカスタマイズ可能なメッセージを追加することができます。



テキストを表示

バージョン情報ボックス

クライアントのバージョン情報ボックスに表示するメッセージを設定します。

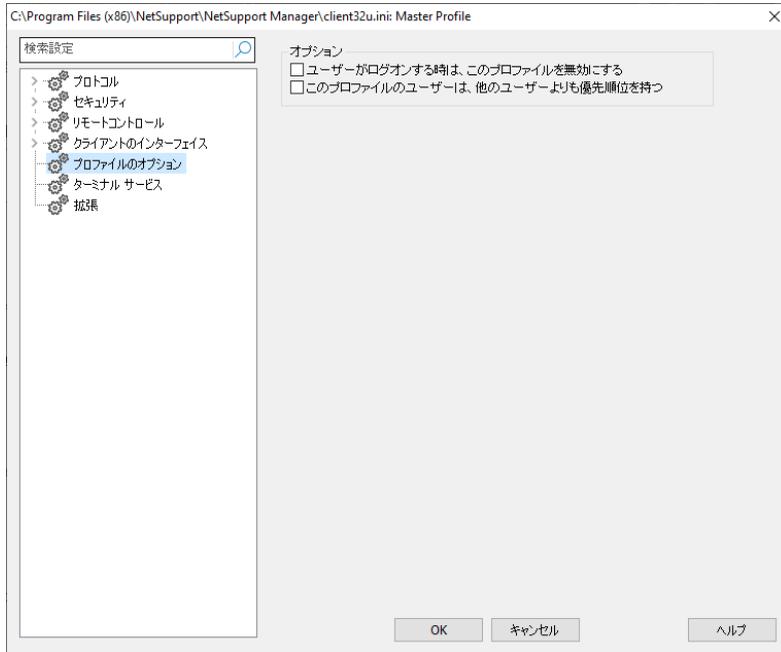
接続時

コントロールが接続した時にクライアント側に表示させるメッセージを設定します。何もメッセージを表示させたくない場合は、何も入力しないでください。

ビュー時

コントロールがビューした時にクライアント側に表示させるメッセージを設定します。何もメッセージを表示させたくない場合は、何も入力しないでください。

プロフィール設定



ユーザーがログオンしている時は、このプロフィールを無効化する

クライアント側に誰かログインしている場合は、このプロフィールは起動されず、コントロールのユーザーは利用できません。コントロールユーザーが本来持てないはずのコンピュータの権限を引継いでしまうことを防止するためです。

注意: コントロールが接続した時にクライアントユーザーがログオンしているかどうかによって異なる権限の同じユーザ ID の 2 つのプロフィールを用意できます。この設定のプロフィールを最初検索するように設定しておけば、クライアントユーザーがログインしている場合、2 番目のプロフィールを使用します。

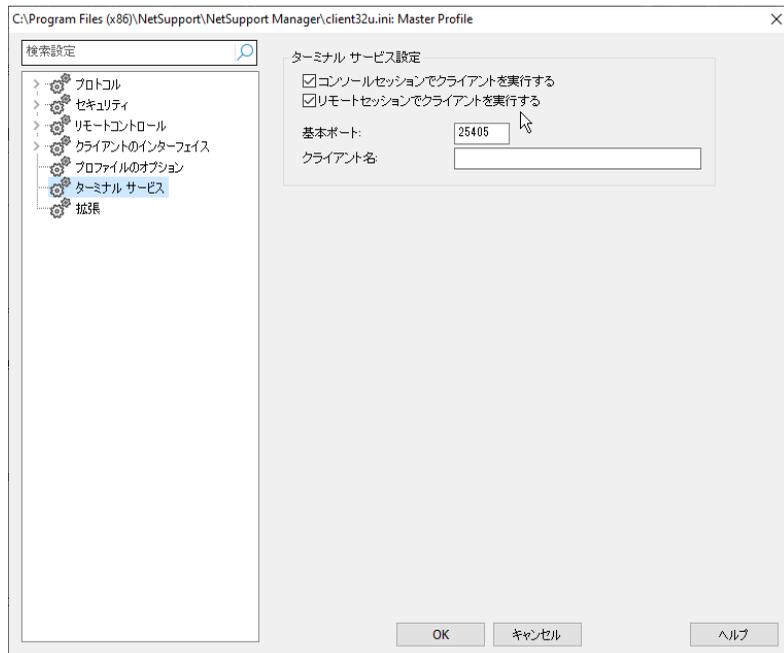
このプロフィールユーザーは他のユーザーよりも最優先順位を持つ(複数接続時)

複数のコントロールからの接続を許可と連携して機能します。この設定のあるプロフィールと無いプロフィールとでは後者が自動的に切断されます。

ターミナルサービス設定

ここで、生徒のターミナルサーバ用の設定を設定できます。

注意: ターミナルサーバと他のシンクライアントは、NetSupport ネームサーバを使って設定できません。



ターミナルサービス設定 s

コンソールセッションで生徒を実行する

このオプションのチェックをオフにすると、コンソールセッションでクライアントを実行しません。

リモートセッションで生徒を実行する

このオプションのチェックをオフにするとリモートセッションでクライアントを実行しません。

基本ポート

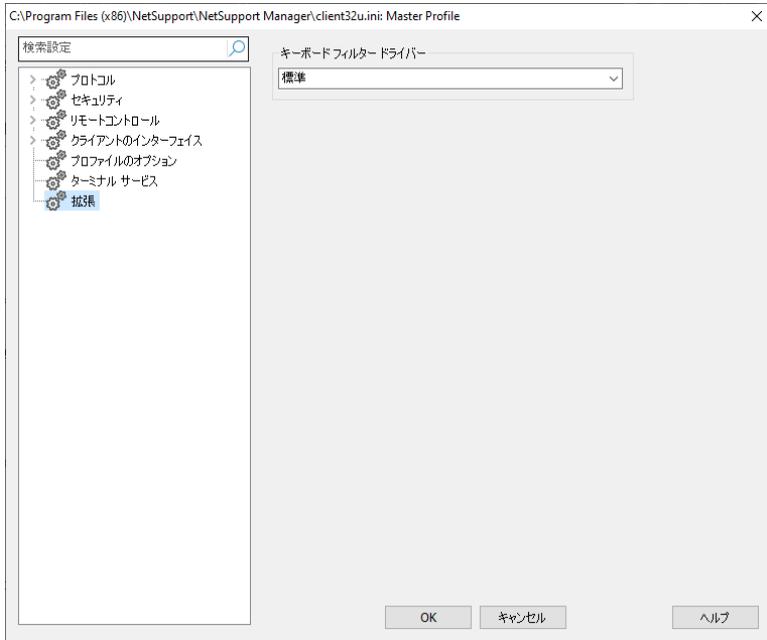
基本ポート番号を入力します。既定値は 25405 です。

生徒名

生徒の名前を入力します。空欄の場合は、固有の ID が表示されます。生徒名を入力するときは、最低1つの環境定数を含めてください。例 %computername%

注意: ターミナルサーバーサポートの詳細については、[ナレッジベースにアクセスし](#)、製品記事「**Setting Up NetSupport Manager to run in a Microsoft Terminal Server Environment**」を参照してください。

詳細オプション



キーボードフィルタードライバー

キーボードフィルタードライバーで問題が発生した場合は、切り替えるドライバーを選択できます。ドロップダウンメニューから必要なドライバーを選択します。

コントロールを設定する

この章では ...

コントロールの設定方法を紹介します。

個別のプロファイルを作成し、各コントロールユーザーがクライアント PC 側で特定の操作だけ実行できるようにします。

コントロールを設定する

NetSupportでは、コントロールプログラムの動作を完全に設定することができます。柔軟性を最大限に引き出すために、NetSupportでは、アクセスや機能レベルごとに異なるコントロールのユーザー用に複数のプロファイルを設定できます。詳細は、コントロールのプロファイリングを参照してください。

コントロールを設定するには

1. キャプションバーの**現在の構成の設定を変更**  アイコンをクリックします。
2. 現在のプロファイルの構成の設定ダイアログが表示されます。

注意: 別のコントロールプロファイルの設定を変更する場合は、キャプションバーの**プロファイル**  アイコンをクリックし、構成したいプロファイルを選択して、**設定**をクリックします。

コントロール設定オプションは次のカテゴリ分けされています:

一般

コントロールのID情報を設定します。

プロトコル

コントロールがネットワーク上で使用する通信プロトコルを指定します。

セキュリティ

NetSupport Managerは各コントロールプロファイルに適用できる豊富なセキュリティ機能を提供します。

リモートコントロール

各コントロールプロファイルに適用するリモートコントロール機能を調整します。

コントロールインターフェイス

コントロールウィンドウのインターフェイスからコントロールが利用可能な様々なコンポーネントを設定できます。

画面送信設定

画面送信の設定をすることができます。

ファイル転送

ファイル転送に関する設定を行います。情報の表示方法を変更したり、危険な操作の前に確認のメッセージを表示するといった保護機能を設定したりできます。

スタートアップ

スタートアップ時のNetSupport Manager動作を設定します。

vPro

vPro 管理の設定を構成できます。

ファイルの場所

クライアント、グループ、リモートネットワーク、ツール、スクリプトの名前付 t 機設定の保 0 存を指定します。

注意: ウィンドウの上部”に検索バーがあり、探している設定を見つけることができます。検索バーに入力して(用語の全部”または一部”を入力できます)、 をクリックします。検索語を含むセクションが強調表示\示されます。 をクリックして検索を閉 Å じます。

複数のコントロールプロファイル

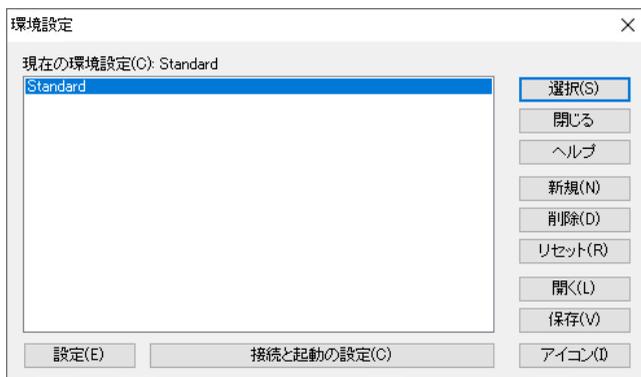
NetSupport では、アクセスや機能レベルごとに異なるコントロールのユーザー用の複数のプロファイルを設定できます。

各設定は、パスワードで保護され、特定の名前付き設定でコントロールを起動するためのアイコンをデスクトップに作成できます。

コントロール設定のプロファイルを作成または変更するには、NetSupport の管理者権限が必要になります。

プロファイルを作成する

1. キャプションバーの**プロファイル** アイコンをクリックします。
2. コントロール設定ダイアログが表示されます。



3. 変更したい設定情報を選択するか、新しく作成する場合は、[新規] を選択します。初期設定では、NetSupport には、プロファイル名 [Standard] がインストールされます。これは、全機能が設定されています。
4. このプロファイルの全般的な機能を設定するには、[設定] をクリックします。または
基本的な機能を設定するには、[プロトコルとスタートアップの設定] をクリックします。

デスクトップアイコンを作成するには

プロファイルを保存したら、その設定を読み込むためのパラメーターを含んだデスクトップアイコンを作成できます。

1. 設定ダイアログで [アイコン] をクリックします。
2. アイコンのメンテナンスダイアログが表示されます。
3. ダイアログ内のどこかをクリックしてマウスをデスクトップにドラッグします。
4. アイコンの作成/編集ダイアログが表示されます。
5. 必要な設定の詳細を入力し、アイコンを作成するには、[OK] をクリックします。

コントロールセッションのクライアント設定を調整する

複数のクライアントをリモートコントロール中に、コントロールは各クライアントの応答方法をクライアントに応じて変更できます。例えば、あるクライアントは接続に使用する回線が低速なので圧縮を使用し、別のクライアントでは圧縮を使用しないように設定できます。個別のクライアントに対するコントロールの設定情報を変更すると、使用中のコントロールのプロファイルの設定情報が一時的に修正されます。

リモートコントロール設定を調整するには

1. クライアントをビュー します。
2. 画面表示ウィンドウのキャプションバーの[設定]をクリックします。
3. リモートコントロール設定が表示されます。
4. ビューを開始時に有効にするオプションを設定します。

注意: クライアント設定を編集する場合は、変更は、現在のコントロールセッション中のクライアントだけに適用されます。その後も変更した設定を使用する場合は、[設定情報を更新する] にチェックをします。

一般設定

コントロールに特定の名前を付けるには、このプロパティシートを使用します。何も入力しなければ、コンピュータ名を使用します。

ID

コントロール名

クライアントに接続した時に識別する、NetSupport コントロールプログラムが使用する名前。NetBIOS では、NetBIOS プロトコルに登録されている名前になります。

説明

このコントロール設定用の説明を入力します。

ユーザー ID

クライアントに接続する前にユーザー認証が必要な場合、コントロールのユーザーは、有効なユーザー名とパスワードでログオンする必要があります。ユーザー名を毎回入力する代わりに、デフォルトの ID をここに設定します。現在の接続中のユーザー名をデフォルトにするために、%userdomain%\%username% という値が使用できます。

メッセージ送信

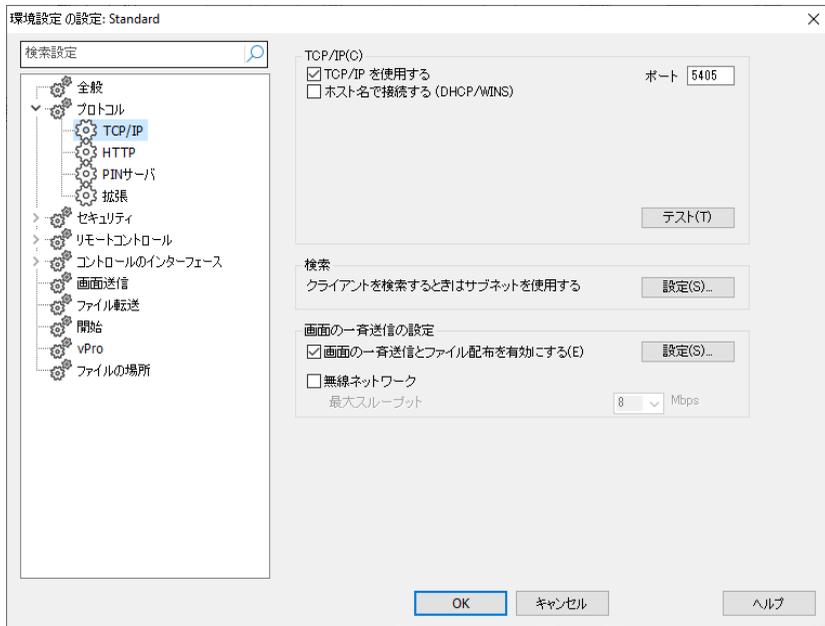
題名

メッセージ送信ダイアログにカスタマイズした題名を追加することができます。

プロトコルオプション

ネットワーク上のクライアントに接続する前に、必ず使用する通信プロトコルを選択し、設定してください。通信プロトコルを使用する前に、オペレーティングシステムで通信プロトコルを必ず設定してください。

TCP/IP 接続設定



TCP/IP

TCP/IP を使用する

コントロールが TCP/IP プロトコルを使用するようにするには、このボタンにチェックをします。このプロトコルはインターネット、LAN、WAN で使用されます。TCP/IP クライアントに接続するには、クライアントが受信するポート番号を指定しなくてはなりません。

ポート

この値は、TCP/IP クライアントとのすべての通信に使用します。NetSupport の初期設定で登録されているポートは 5405 です。必要に応じて、異なるポート番号で動作するように、お使いのネットワーク上のクライアントを設定できます。他の NetSupport コントロールユーザーがどのポートにクライアントが設定されているか知らなくてはならないので付加セキュリティにもなります。クライアント作成時または接続時にポート番号を指定することもできます

注意: クライアントがコントロールに接続するための初期設定で登録しているポートは 5421 です。

ホスト名で接続する (DHCP/WINS)

通常、コントロールは名前によってではなく IP アドレスでクライアントに接続します。DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)を使用している環境では、クライアントコンピュータが再起動するたびにアドレスが変更されるので望ましくありません。このオプションにチェックをすると、コントロールはホスト名で接続するようになります。

テスト

インストールされている TCP/IP スタックのバージョンと設定を確認するには、このボタンを押します。現在の状態と一緒に Winsock のバージョンが返信されます。

検索

クライアント検索時はサブネットを使用する

複数のサブネットまたはアドレスでネットワークを運用している場合は、有効なネットワークごとにブロードキャストアドレスを設定する必要があります。検索を実行すると、それらのアドレスにブロードキャストメッセージを送信します。

画面の一斉送信の設定

一斉画面送信とファイル配布を有効にする

クライアントに画面送信やファイル配布を実行する時は、画面情報/ファイルは各クライアントマシンに順番に送信されます。画面送信とファイル配布の一斉送信を有効にすると、画面情報とファイルはすべてのマシンに同時に送信されるようになります。ネットワーク帯域限られたネットワーク環境または大多数のマシンに一斉配信するとき、これはパフォーマンスの向上を提供します。

NetSupport Manager で作成されたネットワークトラフィックは減りますがあらたにブロードキャストパケットを作成します。この機能を使用する場合は、必ずネットワーク管理所に確認することをオススメします。

注意: 画面送信とファイル配布は、UDP /ブロードキャストの代わりにマルチキャストを使用して送信することができます。マルチパケットだけが、指定した IP のマルチキャストアドレスに含まれるマシンに送信されます。マルチキャストアドレスを指定するには「設定」をクリックします。

設定

一斉画面送信とファイル配布オプションが有効の場合、ブロードキャストアドレスを設定するにはこのオプションを選びます。ブロードキャストダイアログが表示されます。

ワイヤレスネットワーク

ワイヤレスネットワーク越しのショーパフォーマンスを最適化するには、このオプションをクリックします。

注意: NetSupport Manager は、自動的にすべての無線のクライアントを検出し、パフォーマンスを向上させるために、このオプションを有効にします。

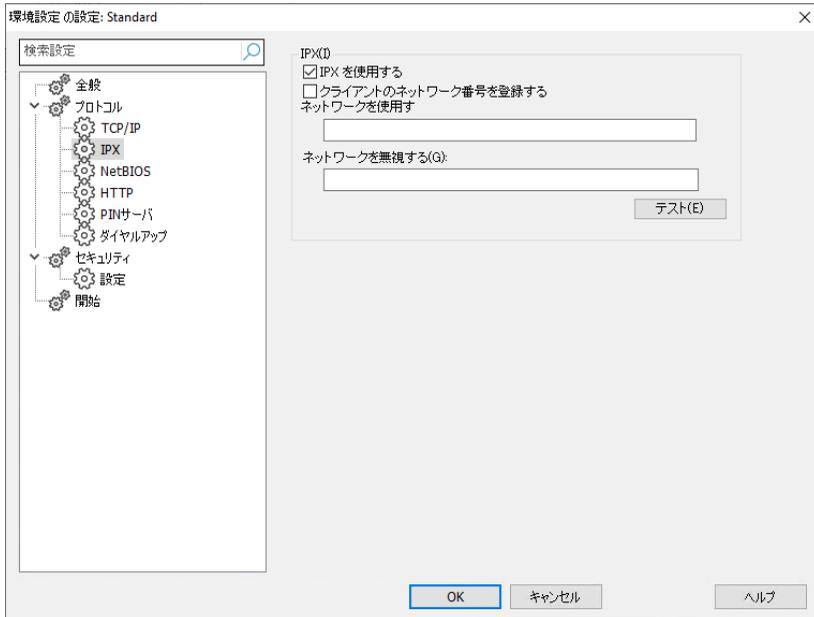
最大スループット

ネットワーク経由でお使いの無線アクセスポイントに送信されるデータのレベルを制御します。デフォルトのデータレートは 8Mbps です。必要であれば、ルータの速度を反映するように変更することができます。

注意: コントロールが無線のクライアントを検出またはそれ自身が無線で接続されている場合、無線ネットワークのチェックボックスが選択されていても、最大スループット設定の設定に関わらず自動的に最大データ出力を低減します。この動作は、オフにすることはできません。

IPX 接続設定

注意: このオプションは、コントロールの構成ダイアログから開いた場合にのみ、コントロールの構成で使用できます。キャプションバーの **プロファイル** アイコンをクリックし、必要な構成を選択して、**接続と起動設定** をクリックします。



IPX

IPX を使用する

IPX 通信プロトコルを有効にするには、このボックスにチェックをします。このプロトコルはローカルまたはワイドエリアネットワークで使用されます。

クライアントのネットワーク番号を記録する

クライアントの IPX アドレスが記録されると、クライアントがコントロールと同じ IPX ネットワーク上にある場合はネットワーク番号は通常 0 に設定されます。(ファイルサーバがダウンしたときに発生する問題を防ぐためです。)この設定は、接続が確立するとネットワーク番号を登録し、使用するよう強制します。

ネットワークを使用する

通常、コントロールは、一番近い NetWare サーバやブリッジからネットワーク番号の一覧を取得します。ネットワークによっては NetWare サーバが存在しなかったり、生成したリストの信頼性が低い場合があります。通常の検索メカニズムに置き換わる、使用するネットワーク番号を 1 つ以上入力します。“0x1,0x2, 0x34db1d69”のように番号は 10 進数または 16 進数で指定し、カンマで区切ります。[テスト] 機能を使用して、これらの値を自動的に決定することもできます。

ネットワークを無視する

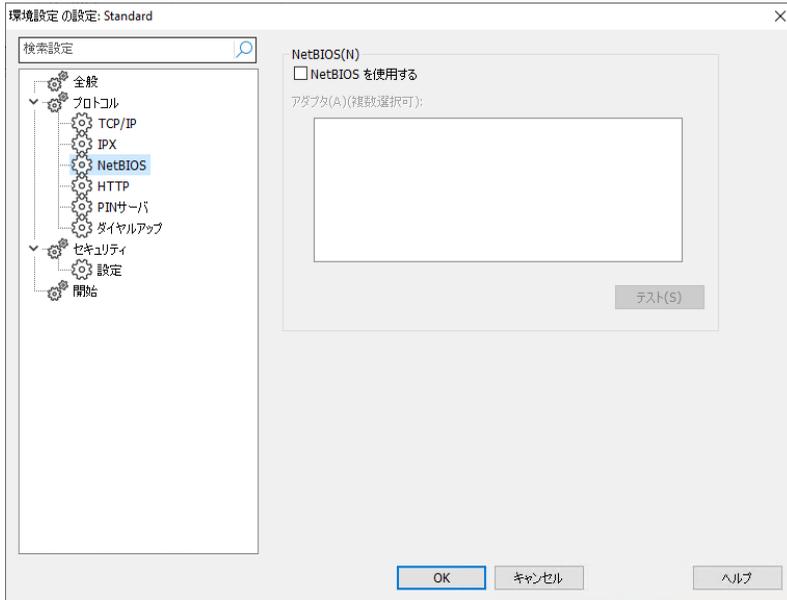
[ネットワークを使用する] と同じ方法で生成されたネットワーク番号の一覧は、検索時を除いて無視されます。[テスト] 機能を使用して、これらの値を自動的に決定することもできます。

テスト

IPX ネットワークの設定を確認するには、このボタンを押します。これは、IPX ネットワークスタックが利用可能で正しく設定されているかどうかを測定します。応答の有り、無しにかかわらずネットワーク上のネットワーク番号を取得することもできます。

NetBIOS 接続設定

注意: このオプションは、コントロールの構成ダイアログから開いた場合にのみ、コントロールの構成で使用できます。キャプションバーの**プロファイル**アイコンをクリックし、必要な構成を選択して、**接続と起動設定**をクリックします。



NetBIOS

NetBIOS を使用する

NetBIOS 通信プロトコルを使用するには、このボックスにチェックをします。NetBIOS は、ルーティング機能がないプロトコルで LAN のみに使用されています。NetBIOS を使用するには、アダプタを1つ以上選択する必要があります。下記のアダプタを参照してください。

アダプタ

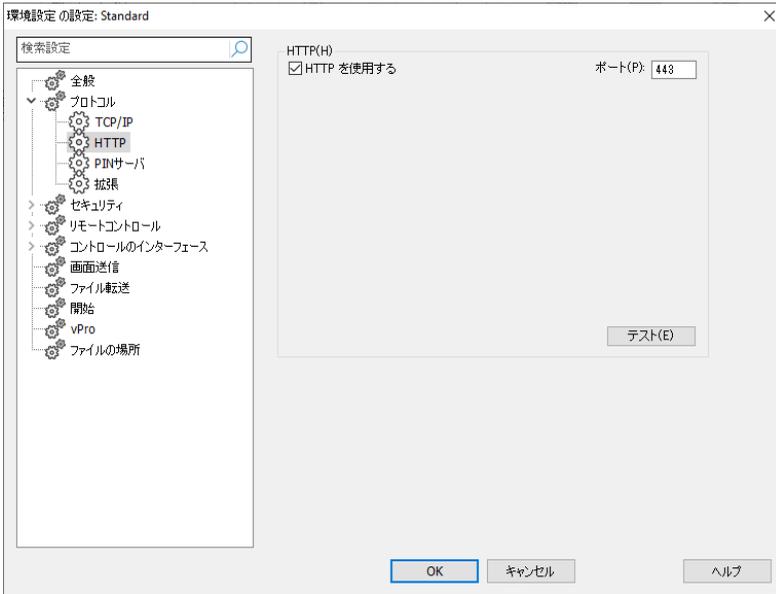
この一覧ボックスは、お使いのコンピュータで検出された NetBIOS アダプタを表示します。コントロールで使用するアダプタを1つ以上選択します。NetBEUI は一番一般的なアダプタで、元々は Windows のシステムで使用されています。アダプタ番号はコンピュータによって異なりますが、アダプタ名は変わりません。

テスト

NetBIOS スタックをテストし、アダプタが利用可能かどうかを測定するには、このボタンを押します。見つかった各アダプタの詳細情報を表示することもできます。

HTTP 接続設定

このプロパティシートは、コントロールが HTTP 経由で通信するように設定できます。詳しくは、本マニュアルの「NetSupport ゲートウェイでクライアント/コントロールを接続する」を参照してください。



HTTP を使用する

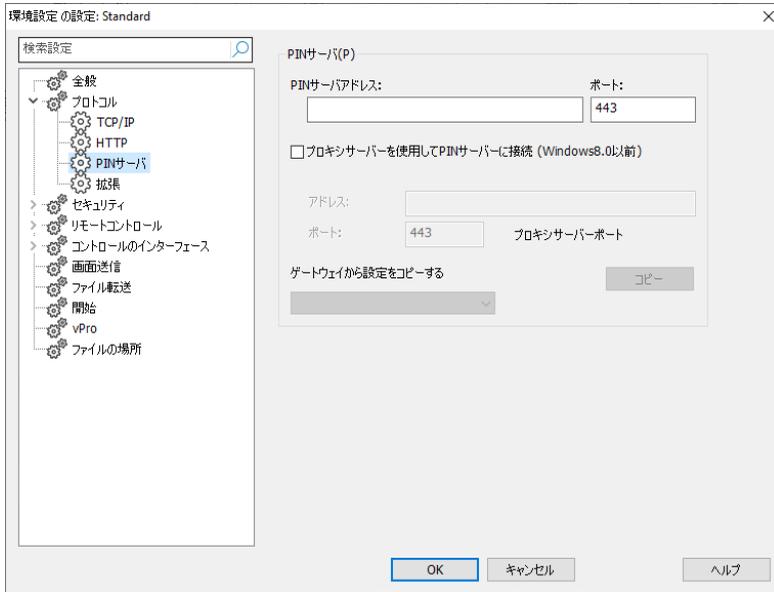
HTTP 経由でクライアントと通信をするには、このボックスにチェックをします。

ポート:

HTTP 通信用の初期設定の NetSupport のは 443 です。

注意: バージョン 9.10 で、以前使用していた 3085 に替わりポート 443 が HTTP 通信用の初期設定値として採用されました。今後アップグレードする予定の既存のお客様用にゲートウェイ設定で保持しています。3085 を引き続きお使いいただけますが、アップグレード時にコントロールとクライアントの互換性を確実にするために、手動で HTTP ポートの再設定が必要な場合があります。

PIN サーバ



PIN サーバ

PIN サーバアドレス

PIN サーバがインストールされているワークステーションの IP アドレスを入力します。

ポート

PIN サーバのデフォルトのポート番号は 443 です。

PIN サーバの接続にはプロキシサーバを使用する

PIN サーバへの接続にプロキシサーバを使用する場合は、このオプションを選びます。プロキシサーバのサーバアドレスとポート番号を入力します。

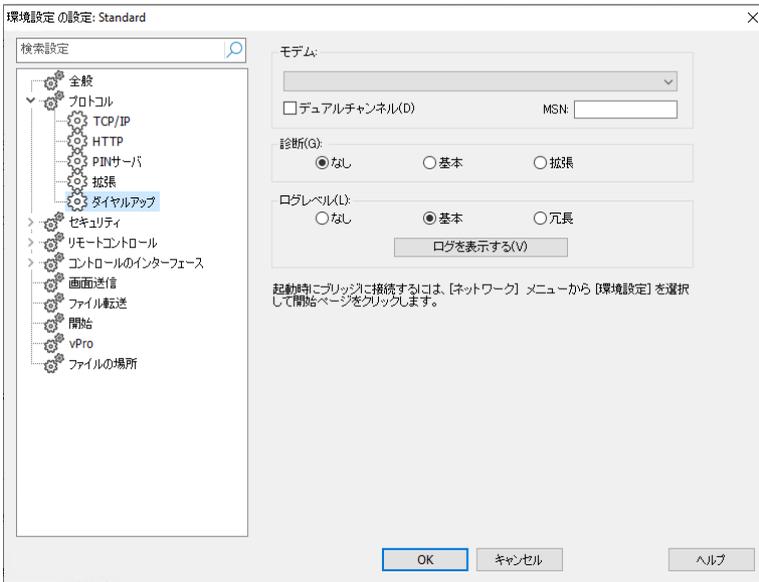
ゲートウェイから設定をコピーする

NetSupport ゲートウェイを設定している場合、PIN サーバに同じ設定を使用することができます。ドロップダウンリストから設定をコピーするゲートウェイを選び、コピーを選択します。選択したゲートウェイからゲートウェイアドレスとポートが使用されます。

リモートダイヤルアップ設定

リモートネットワークへのダイヤルアップ接続に関する設定を行います。リモートネットワークにダイヤルする前に、モデムのハードウェア情報 **ñ** を設定しておかなくてはなりません。起動時にリモート ネットワークにダイヤルするには、キャプション バーの現在の構成の設定を **ñ** 更新するアイコンをクリックし、**起動** を選択します。

注意: このオプションはデフォルトでは非表示になっています。これを表示するには、キャプションバーの現在の構成の設定を **ñ** 更新  アイコンをクリックします。コントロールインターフェイス 設定を選択し、ダイヤルディレクトリを非表示  チェックボックスをオフにします。



モデム

NetSupport が利用できるすべてのモデムをここに表示します。使用するモデムを選択してください。

デュアルチャンネルボンディング

有効にすると、ISDN の両チャンネルを結束して使用可能帯域を 128k に増加させます。通信速度は向上しますが、2 回線分の通話をしていることになります。

MSN (Multiple Subscriber Number)

コントロールがクライアントブリッジからのインカミングのダイヤルバックに応答する番号を指定します。

診断

なし

モデムで診断を行わない場合は、このオプションを選択します。

基本

モデムが接続すると、コントロールは以下を確認します：
フローコントロールが正しく設定されているかどうか。(XON/OFF の禁止等)
リモートナンバーに NetSupport ブリッジがあるかどうか。
データ転送に過度な遅延がないかどうか。

拡張

拡張設定は基本と同じ確認を行い、以下が含まれます：
回線信頼度
スルーブット

ログレベル

なし

画面に進行メッセージだけを表示する場合はこのオプションを選択します。

基本

基本を選択すると MODEM.LOG に下記の情報のログをとります：
使用しているモデム名
ダイヤルした番号
診断テストの結果
接続速度

冗長

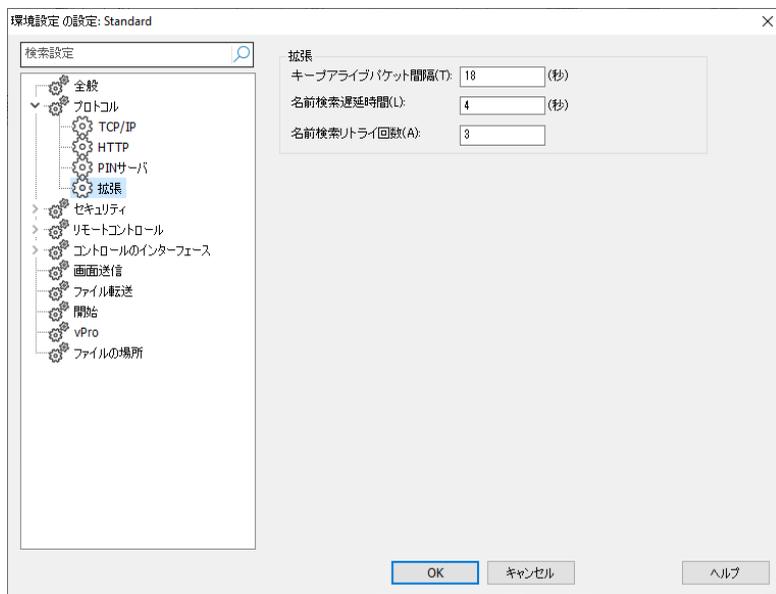
冗長を選択すると基本と同じ情報を記録し、タイムスタンプも行います。

ダイヤルアップリンクの確立に問題がある場合は、このオプションを使用してください。

ログを表示する

ウィンドウが開き、[拡張] や [冗長] 診断やログ設定で作成された MODEM.LOG ファイルを表示します。

拡張設定



ティックル周期

クライアントに送信されるチェックパケット間の周期を秒単位で設定します。これらのパケットは、接続しているクライアントがアクティブかどうかを確認します。クライアントが応答しない場合、コントロールはクライアントが存在しないと判断し、接続を終了します。

名前検索遅延

ブロードキャストパケット間の遅延を秒単位で設定します。[名前検索リトライ] とこの値を併用すると検索時間を短縮できます。この値が小さすぎると、検索時にクライアントを見逃し易くなります。[名前検索リトライ] の値をかけて 4 秒以下になる値を設定しないでください。

名前検索リトライ

検索時にコントロールがブロードキャスト送信する名前検索パケットの数を指定します。送信するブロードキャスト数が少なければ、ネットワークトラフィックは少なくなり、早く検索を完了します。

セキュリティオプション

コントロール設定には、次に分類されるセキュリティ機能を用意しています：

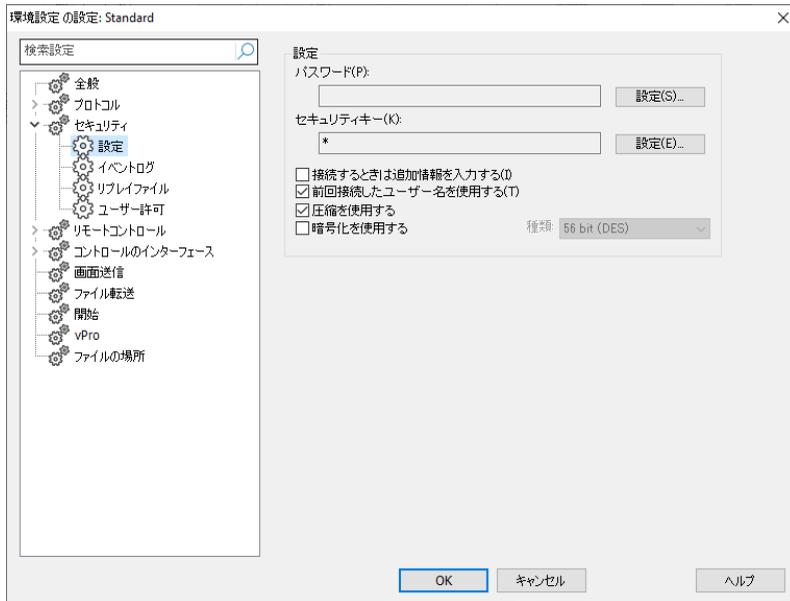
設定

イベントログ

リプレイファイル

ユーザー許可

セキュリティ設定



パスワード

この設定情報を使ってコントロールを起動する際に入力する **セキュリティパスワード** を入力します。コントロールにパスワードを設定するには、[設定] ボタンをクリックしてください。

セキュリティキー

セキュリティキーは、クライアントに接続する際に必ず使用します。ここで入力したキーが、クライアントで設定されているのセキュリティキーと一致しない限り、クライアントのコンピュータへのアクセスは拒否されます。キーを変更するには、[設定] ボタンを押します。NetSupport ライセンスファイルのシリアル番号を設定することもできます。

接続時に追加情報を入力する

このボックスにチェックを付けると、クライアントのコンピュータへの接続理由を入力する必要があります。送信された理由がクライアント側に表示されます。ユーザー認証が有効になっているクライアントのユーザーは、接続理由を知ることができます。

前回接続したユーザー名を使用する

名前付き設定で設定されているユーザー名とパスワードを記憶し、この情報を使ってログインします。

圧縮を使用する

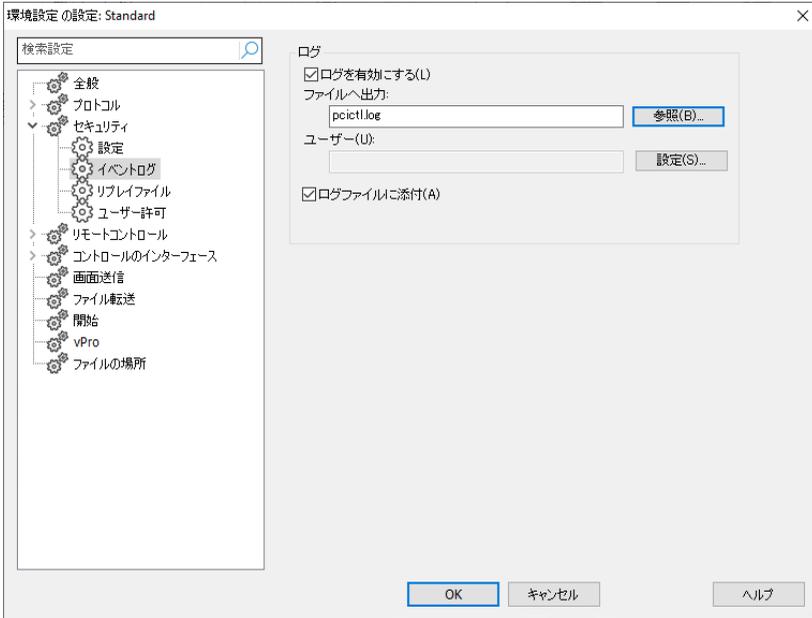
圧縮を使用する場合は、このボックスにチェックを付けます。クライアントと通信時は、(ファイル転送、ビューやチャットなど)送受信されるデータは圧縮されます。データは暗号化されるので、これはセキュリティとしても使用できます。

暗号化を使用する

暗号化を有効にすると、コントロールとクライアント間で送受信されるすべての情報は他からは見ることはできません。NetSupport は、56 Bit DES から 256 Bit AES までの広範囲な暗号化オプションを用意し、セキュリティとパフォーマンスのバランスを調整できます。暗号化のレベルが高いほど、パフォーマンスが低下する可能性が高くなります。

イベントログ

このプロパティシートは、NetSupport コントロールがクライアントをリモートコントロールしている間に実行した操作をテキストファイルに記録することができます。特定のクライアントがどんな目的でどれくらいの頻度で接続されているのかの履歴を管理するためにお役に立ていただけます。



ログを有効にする

このボックスをチェックすると、[ファイルに出力] オプションが選択できるようになります。ログを残すように設定すると、その後コントロールがどれかのクライアントに接続するたびに、そのセッションの動作が記録されます。

ファイルに出力

ログファイル用のパスとファイル名を指定します。NetSupport の初期設定のファイル名は、PCICTL.log です。このファイルは、ローカルコンピュータまたはサーバに保存されます。複数のコントロールが同じログファイルに書き込むことができます。

ユーザー

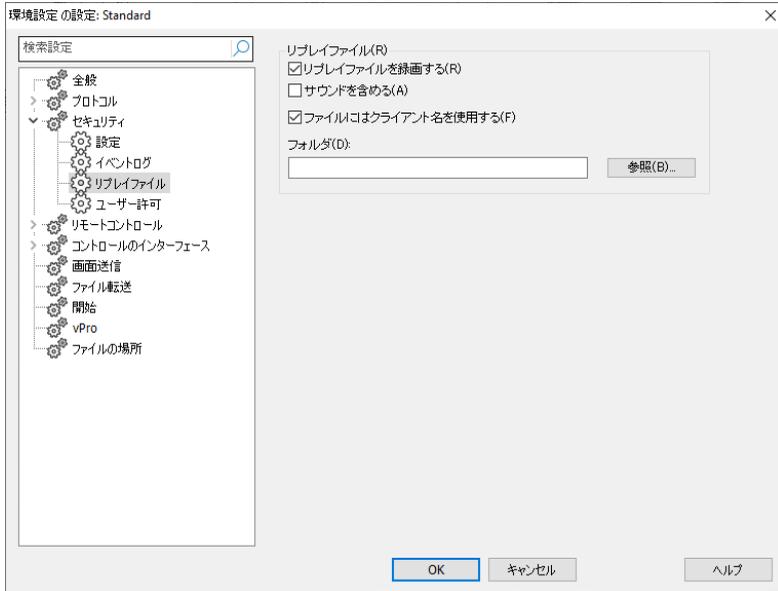
指定したパスが UNC パスの時、ログファイルユーザーがログファイルに書き込むことができるユーザー名とパスワードを設定します。

ログファイルに追加する

このボックスにチェックをすると、NetSupport は、ログファイルの既存のエントリーに継続して追加します。チェックを外した場合は、既存の項目は上書きされます。

リプレイファイル

リプレイファイル機能はコントロールがリモートコントロール/ビュー中のクライアント側で実行した画面操作を録画し、再生することができます。



リプレイファイルを録画する

リプレイファイルを録画できるようにするには、このオプションにチェックをします。コントロールがクライアント PC をビューするたびに、リプレイファイルが作成されます。

サウンドを収録する

画面、マウスとキーボードの操作を録画するだけでなく、クライアントのコンピュータがサウンド機能を設定している場合、ナレーションを収録することができます。

ファイルにはクライアント名を使用する

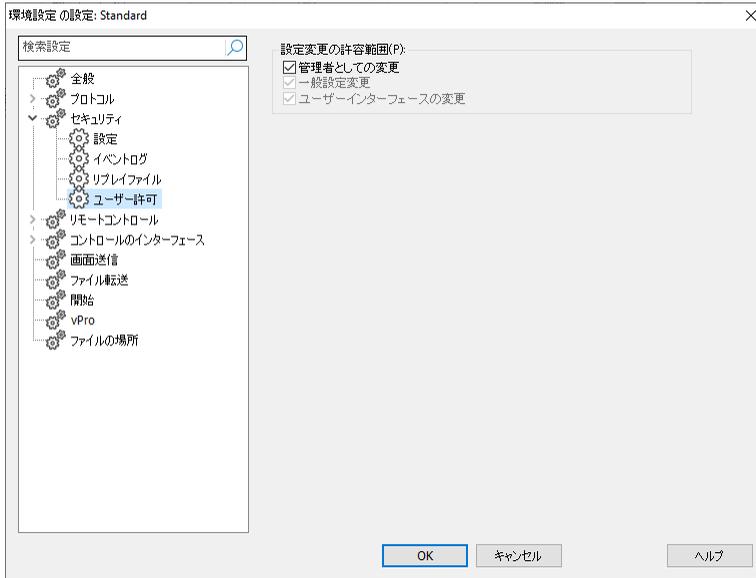
各リプレイファイルを識別するために、クライアント名と録画日時をファイルに使用することができます。またこのボックスのチェックを外すと、0000001.rpf などの連番のファイル名になります。

フォルダ

リプレイファイルの保存場所を指定します。

ユーザー許可

これらの設定は、設定を実行しているユーザーが変更できる項目を制限します。NSM の管理者としてこの設定を実行している場合に限り、他のユーザーの権限を制限することができます。



設定変更の許容範囲

管理者としての変更

このボックスにチェックが付いていると、この設定のユーザーには何も制限は適用されません。他の設定を変更できるようにするには、最低 1 個のアカウントに対して有効にしてください。

設定の変更

このボックスは、管理者として設定を実行していない場合に限り、利用可能です。この設定情報を実行しているユーザーがユーザーインターフェースからどんな設定も変更できなくするには、このボックスにチェックをしてください。

ユーザーインターフェースの変更

このボックスは、管理者として設定を起動していない場合かつ[設定の変更] にチェックが付いている場合に限り、利用可能です。設定情報のユーザーがユーザーインターフェースに影響するどんな設定も変更できなくするには、このボックスにチェックをしてください。

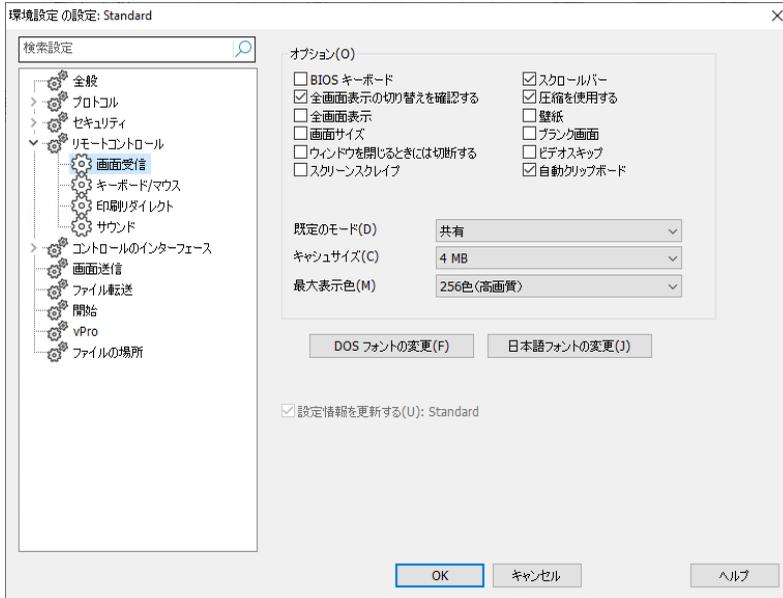
リモートコントロール設定

次のプロパティシートは、クライアントのコンピュータをビューした時のリモートコントロールオプションの動作を設定できます。

ビュー
 キーボード/マウス
 印刷キャプチャ
 サウンド

ビュー設定

このプロパティシートは、クライアントのコンピュータを表示するための設定オプションを用意しています。クライアント設定を編集している場合は、そのクライアントに接続している間だけ変更内容が適用されます。変更した内容をコントロールの既定値にしたい場合は、[設定情報を更新する] にチェックをします。



オプション

BIOS キーボード

このオプションをチェックすると、コントロールはハードウェアレベルでなく BIOS レベルでクライアント上のキーストロークをエミュレートします。クライアントのアプリケーションがコントロールからのキーストロークを正確に表示しない場合に使用します。低レベルのキーボードオプションで問題が生じている場合だけ、このオプションを使用してください。

全画面表示の切り替え確認

このボックスにチェックを付けると、全画面表示モードに切り替える時に確認ダイアログが表示されます。

全画面表示

このオプションにチェックをすると、コントロールが、ウィンドウモードではなく全画面表示モードでクライアント画面をビューするように強制します。

画面サイズ

ビューウィンドウの内容を表示フレームのサイズに合わせたい場合は、このオプションにチェックをします。

終了時に切断する

ビューウィンドウを閉じたらクライアントから切断するには、このオプションにチェックをします。

スクリーンスクレープ

NetSupport では効率的に画面情報をキャプチャする方法として、画面を表示させるコンピュータのビデオドライバにフッキングする技術を採用しています。しかし、アプリケーションによっては、ドライバを経由しないものもあるのでこの方法が全く機能しない場合があります。このような状況では、画面のスナップショットを撮影して再生させる [スクリーンスクレープ] モードを有効にします。このモードは、クライアントの画面を正確に再生させることはできませんが、ネットワークに多大な負荷を与えることになりません。

スクロールバー

このオプションのチェックを外すと、ビューウィンドウのスクロールバーを表示しないことができます。わずかな作業スペースが得られるのでオートスクロールを使用時には便利です。

圧縮を使用する

チェック時は、クライアント画面をビュー時に圧縮を行います。このチェックボックスのステータスは一般設定でも反映されます。

壁紙

ビュー時もクライアントの壁紙を表示したい場合は、このボックスにチェックをします。パフォーマンスを向上させるために通常は表示しません。そのため、このオプションを選択すること、画面情報の更新スピードに影響します。

ブランク画面

ビューモードのどのモードでもコントロールのユーザーは、クライアント側のモニタを黒抜けにすることができます。

注意:

- この機能は、Windows 10 v2004 以降を実行しているクライアントでのみ使用できます (Windows 8 以前を実行しているクライアントにはレガシーサポートが提供されません)。
 - ブランク画面の設定にチェックが付いている別のコントロールが、ブランク画面モードで既にリモートコントロールされているクライアントに接続しようとすると、最初のコントロールは切断されます。これはを権限の低いユーザーが権限の高いユーザーのバックグラウンドで接続できないようにするためです。
-

ビデオスキッピング

コントロールのビューパフォーマンスのコンフィグ設定が可能です。クライアント画面が連続的に更新しない限り、コントロールに表示中の画面を更新しません。ボックスのチェックを外すとコントロールで表示中のクライアント画面を更新するようになります。

オートクリップボード

有効にすると場合、データをコピーする手軽な方法を提供します。コントロールとクライアントのコンピュータの両サイドでクリップボードを自動的にコピーするには、ショートカットキー (Ctrl-C と Ctrl-V) を使用します。

デフォルトモード

初期設定では、クライアントをビューすると、シェアモードで開始します。別の方法でビューを開始したい場合は、一覧からモードを変更してください。

キャッシュサイズ

NetSupport コントロールはパフォーマンス全体を向上させるためキャッシュを含んでいます。キャッシュサイズの範囲は 256K から 16Mb までで、各クライアント接続ごとに別々のキャッシュを割り当てられます。クライアントで実行しているアプリケーションがビットマップ等を多様する場合は、キャッシュサイズを増やしてパフォーマンスを向上させます。

最大色数

クライアントに接続すると、送信される表示色の数を制限することができます。これによりクライアントとコントロール間の通信量が減らします。標準の 16 色パレットしか使用しないアプリケーションを使用する場合は、表示色数を **16 色** に減らしてください。

注意: ここで設定した表示色は、高解像度に表示色を変更できなくするためクライアント設定で設定したものに上書きされます。クライアント側でこれらの設定を変更するには、拡張クライアント設定を起動して、[リモートコントロール - ビュー] を選択し [最大色数] で必要な色数を選択します。

DOS フォント変更

DOS 画面を表示する時に使用するフォントを選択するには、このダイアログを使用します。全画面表示で DOS ボックスを実行している DOS クライアントまたは Windows クライアントで適用されます。Windows は、DOS 画面を表示するためにグラフィックフォントを使用します。Windows が高解像度なほど、DOS 画面を忠実に再現するためにフォントサイズを大きく設定する必要があります。

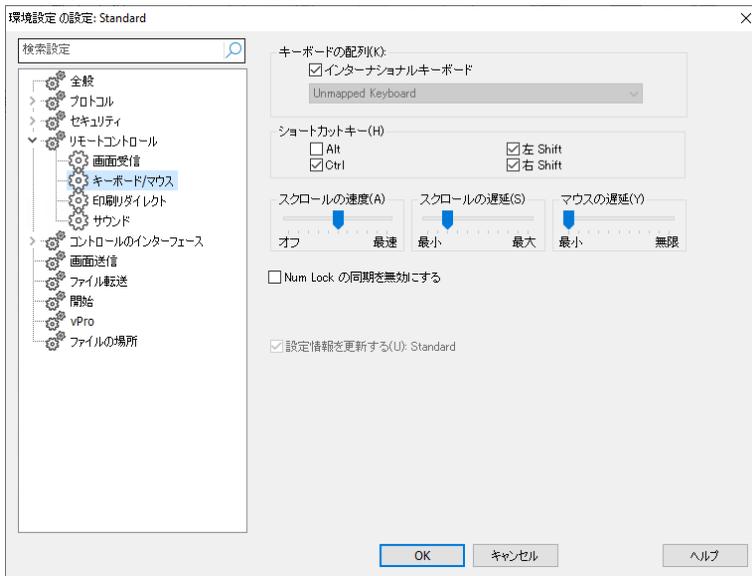
日本語フォント変更

日本語 DOS 画面を表示する時に使用するフォントを選択するにはこのダイアログを使用します。

設定情報を更新する

現在の選択している設定情報を更新するには、このボックスにチェックをします。

キーボード/マウス設定



キーボードの配列

インターナショナルキーボード

インターナショナルキーボードのレイアウトは、ビューセッション中にコントロールで使用されます。

表示中にコントロールで使用する別のキーボードレイアウトを指定するには、ドロップダウンリストから必要なレイアウトを選択します。これらの配列は、コントロールのキーをクライアントのコンピュータのキーにマップします。クライアントとコントロールが同じ

キーボードの配列を使用している場合は、[Unmapped Keyboard] を選択してください。

ショートカットキー

全画面表示モードでクライアントをビューする場合、ホットキーを使って隠れているユーザーインターフェイスに戻ります。クライアント側の解像度がコントロール側の解像度よりも低い場合は、ビューを停止して再びビューウィンドウを表示させるには、ビューウィンドウの外側にマウスを移動させてクリックします。ショートカットキーとして使用するキーを設定するには、このボックスにチェックをします。

お使いのキーボードが 3 コードのキーに対応していない場合は、2 個のキーでショートカットキーを作成してください。

スクロールの速度

クライアント画面をビュー時に、マウスをウィンドウの端まで移動させると、コントロールは、表示内容を自動的にスクロールします。スライドコントローラーを調節してあまり速くなり過ぎないようにスクロール速度を設定します。

スクロールの遅延

スクロールの速度が有効化されている場合、スクロールが発動するまでの遅延時間を変更できます。マウスを画面の端まで移動させたら、すぐにスクロールさせたい場合は、スライダーを最小の方向に動かします。自動スクロールが有効になるまでに十分な時間が必要な場合は、スライダーを最大の方向に動かします。

マウスの遅延

マウスの遅延を調整することで、コントロールまたはシェア時に、コントロールからクライアントに送信されるマウスの更新レートを減らすことができます。レートを減らし、帯域を節約するには、スライダーコントロールを無限の方向に動かすか、最適なマウス反応を得るには最小の方向に動かします。これらは、ダイヤルアップ接続や遅いネットワークで大変役に立ちます。

Num Lock の同期を無効にする

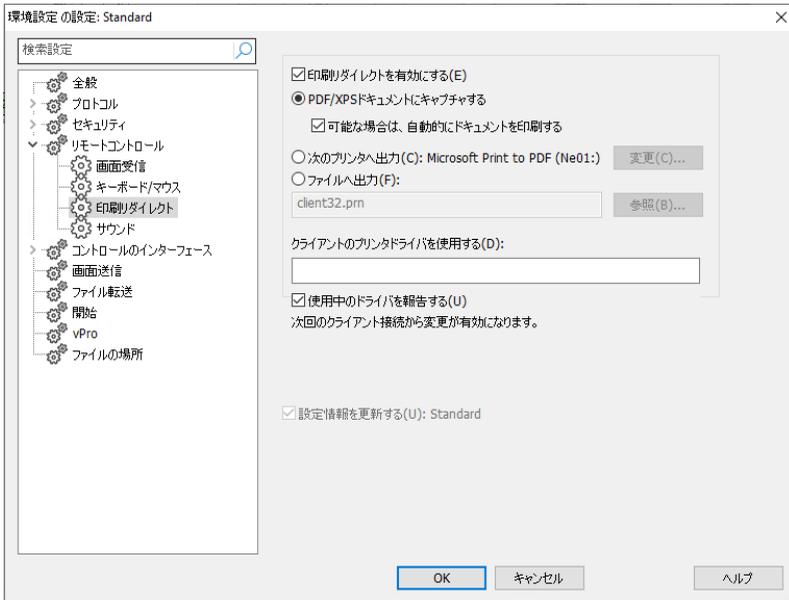
コントロールとしてノートパソコンを使う場合は、キーボードの挙動が標準のデスクトップコンピュータに対応するように、このオプションにチェックをします。

設定情報を更新する

現在の選択している設定情報を更新するには、このボックスにチェックをします。

印刷キャプチャ設定

印刷キャプチャは、クライアント側のローカルプリンタからの印刷出力をコントロール側のプリンタまたはファイルにリダイレクトします。クライアントでアプリケーションを実行していて、自分のローカルプリンタに印刷出力をリダイレクトさせたい時に、この機能を使用します。



印刷キャプチャを有効にする

印刷キャプチャ機能を有効にするには、このボックスにチェックをします。このボックスのチェックをしない場合は、印刷出力は、クライアント側で印刷されます。

注意:

- このオプションはビュー中に有効にすることもできます。表¥示ウィンドウのステータスバーで**印刷キャプチャ**をクリックし、**有効にする**を選択します。オプションを選択して全てのプリント設定を設定することも可能です。
- コントロールがわでこのオプションを有効にするだけでなく、クライアント設定内で印刷キャプチャが有効になっているかどうかを確認してください。初期設定では、権限が有効になっています。

これらのオプションは、コントロールのどこに印刷出力をリダイレクトするのかを指定する必要があります。これは、ローカルまたはネットワークプリンタ、PDF / XPSドキュメント、またはファイルです。

PDF/XPS ドキュメントにキャプチャする

クライアント印刷を PDF / XPS ドキュメントにリダイレクトできます。XPS ドライバまたは PDF プリンタがインストールされている場合、これがデフォルトのプリンタとして使用されます。どちらも使用可能な場合は、PDF プリンタが優先されます。

可能な場合は、自動的にドキュメントを印刷する

印刷が利用可能な場合、このオプションは、ドキュメントをコントロール側に自動的に印刷することができます。

プリンターに出力する

ローカルまたはネットワークプリンタにクライアントの印刷物をリダイレクトするには、このラジオボタンを選択します。現在の設定されている規定のプリンタの名前が表示されます。

変更

ローカルコンピュータに設定されているすべてのプリンタをウィンドウで表示するには、このボタンを押します。

ファイルに出力する

このボタンを選択すると、あとで印刷できるようにクライアントの印刷内容をファイルにリダイレクトができます。ローカルまたはネットワークバスを指定します。

参照

このボタンを押すと、ファイルをキャプチャする場所を参照できるように、ファイルの参照ウィンドウが表示されます。

クライアントのプリンタドライバを使用する

プリントキャプチャを有効にしてクライアントに接続すると、コントロールのローカルプリンタと一致するプリンタが自動的にクライアントに作成されます。いくつかの場合、例えばコントロールとクライアントが異なるオペレーティングシステムである場合など、プリンタドライバが自動的にインストールされない場合があります。この場合は、手動でクライアントにプリンタドライバをインストールする必要があります。

詳細については、当社サポートチームまでお問い合わせください(英語):

www.netsupportsoftware.com/support.

使用中のドライバを報告

クライアントに接続すると、使用するプリンタドライバを通知するダイアログが表示されます。該当するドライバが何も見つからなかった場合は、このボックスにチェックが付いているいないにかかわらず、メッセージが表示されます。

注意: 印刷出力はデフォルトプリンタドライバが接続されているポートからキャプチャされます。上記で説明したように、プリントキャプチャ有効時にクライアントはこれを変更する可能性がありますので注意してください。

Windows クライアントで問題が発生する場合は、次の方法をお試しください:

- クライアント側で'プリンタに直接データを送る'を無効にする。
- クライアント側でネットワークプリンタの接続を削除する。
- クライアント側で**プリントマネージャ、オプション、バックグラウンド印刷**の印刷優先度を小に変更する。

設定情報を更新する

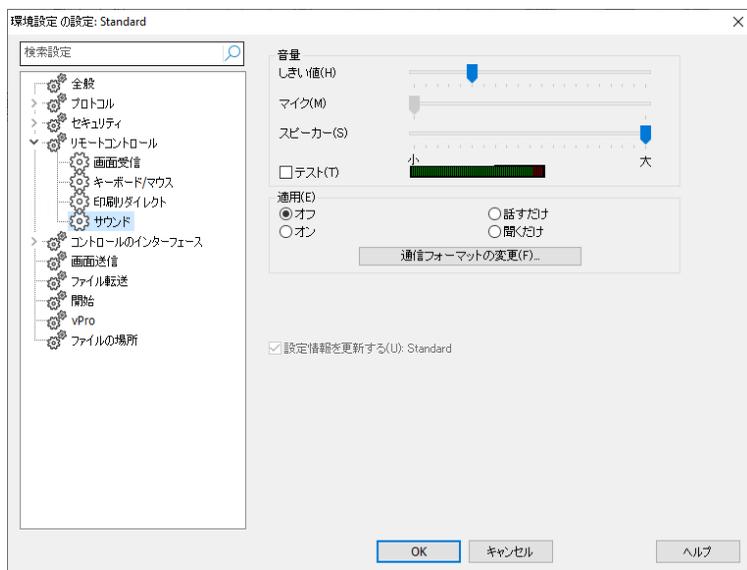
現在の選択している設定情報を更新するには、このボックスにチェックをします。

注意: クライアント設定を編集している場合は、このプロパティシートで変更した内容は、そのクライアントに接続している時だけ適用されます。コントロールの既定値として変更したい場合は、[設定情報を更新する] ボックスにチェックをしてください。

サウンド設定

このプロパティシートは、サウンド機能を使用するための設定オプションを用意しています。

クライアント設定を編集している場合は、このプロパティシートで変更した内容は、そのクライアントに接続している時だけ適用されます。コントロールの既定値として変更したい場合は、[設定情報を更新する] ボックスにチェックをしてください。



ボリューム

しきい値 - マイクの感度

マイク - マイクの音量

スピーカー - スピーカーの音量

テスト - ボリューム設定の調整をテストします。

有効

オン - サウンドオン

オフ - サウンドオフ

話す - コントロールのサウンドは話すだけとなります。

聞く - コントロールのサウンドは聞くだけとなります。

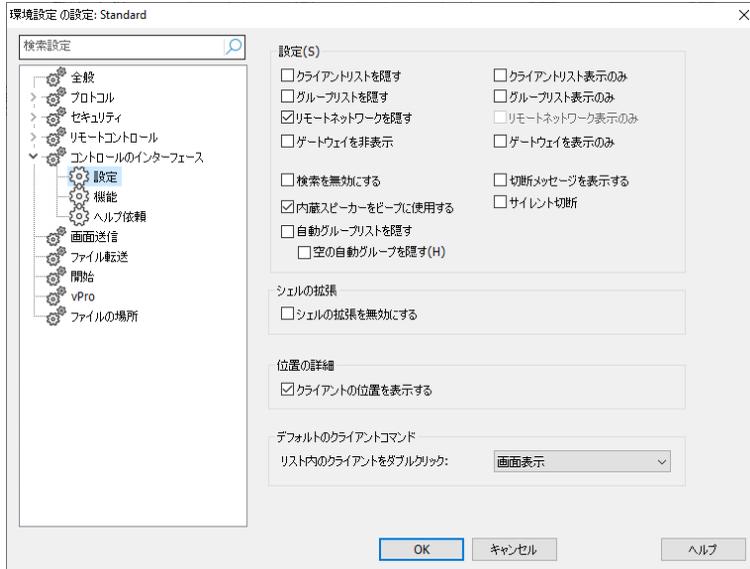
音声通信フォーマットボタンを選択すると通信フォーマットを変更することができます。一定レベルの品質が必要な場合だけ使用してください。高品質に設定すると画面の更新パフォーマンスに影響します。リモート通信リンクの場合、2 kb/sec 以下の通信フォーマット使用をお勧めします。

コントロールインターフェイス設定

このプロパティシートは、名前付き設定情報で利用できる異なるコンポーネントを設定できます。

インターフェイス設定

このプロパティシートは、名前付き設定情報で利用できる異なるコンポーネントを設定できます。



設定

クライアントリスト非表示

このオプションをクリックするとセキュリティの理由でクライアントリストの表~~示~~を禁止します。ツリービューでは、**すべてのコンピューターフォルダ**は非表示~~示~~になっています。

グループリスト非表示

このボックスをチェックするとセキュリティの理由で全てのグループの表~~示~~を禁止します。すべてのコンピューターフォルダに作成されたグループはすべて非表示~~示~~になります。

ダイアルディレクトリ非表示

このボックスをチェックすると全てのリモートネットワーク機能を禁止します。**リモートネットワークフォルダ**は、ツリービューでは非表示~~示~~になっています。

注意: このオプションはデフォルトで有効になっています。

ゲートウェイ非表示

このボックスをチェックするとゲートウェイ機能を禁止します。**インターネットゲートウェイ**フォルダーは、ツリービューでは非表示になっています。

ブラウザ無効

このボックスをチェックすとブラウザ機能を禁止します。**ブラウザ**フォルダーは、ツリービューでは非表示になっています。

切断時にメッセージ

チェックをすると、切断時にコントロールユーザーはクライアントにメッセージを入力するように要求されます。コントロールユーザーがパソコンの使用が終了したときや、行なった作業内容をクライアントユーザーに説明する時に便利です。

ピープ音に内蔵スピーカーを使用

デフォルトでは、チャットやビューなどの機能はクライアント間のPCの内蔵スピーカーから警告音を鳴らします。スピーカーを通してサウンドカードを使用したほうがいい場合があります。そんな場合は、このボックスのチェックを外してください。

自動グループリストを隠す

ツリー表示から自動グループ機能を削除することができます。

空の自動グループを隠す

関連するクライアントが存在しない自動グループを隠すことができます。

クライアントリスト読み取り専用

このボックスにチェックをするとクライアントリストを変更する能力を削除します。クライアントは引き続きツリービューで使用できますが、新しいクライアントを変更または作成することはできません。

グループリスト読み取り専用

このボックスにチェックをするとグループリストを変更する能力を削除します。グループは引き続きツリービューで使用できますが、新しいグループを変更または作成することはできません。

ダイアルディレクトリ読み取り専用

このボックスにチェックをするとリモートネットワークリストを変更する能力を削除します。**リモートネットワーク**フォルダーは引き続きツリービューで使用できますが、新しいアイテムを変更または作成することはできません。

ゲートウェイ読み取り専用

このボックスにチェックをするとゲートウェイリストを変更する能力を削除します。**インターネットゲートウェイフォルダー**は引き続きツリービューで使用できますが、新しいアイテムを変更または作成することはできません。

シェル拡張

NetSupport ManagerはWindowsエクスプローラと連動しNetSupport Managerを最初に起動させることなくシステムからダイレクトにキーファンクションの起動が可能です。

シェル拡張を禁止

このボックスにチェックをするとエクスプローラからNetSupportの機能を削除します。

サムネイル

サムネイルまたはモニターモードにより、コントロールは複数のクライアント画面を同時にビューすることが可能です。お好みに合わせてサムネイルのサイズや表示内容のリフレッシュ間隔を変更できます。ドロップダウンリストから設定項目を選択します。

位置の詳細(位置情報)

クライアントの位置を表示する

このオプションはコントロールにクライアントの位置を表示します。NetSupport Managerは、だいたいの各クライアント(町、州、国の支援フラッグ付きで)の位置を表示します。クライアントは自動グループ化昨日で国/場所ごとにグループ化されます。

デフォルトのクライアントコマンド

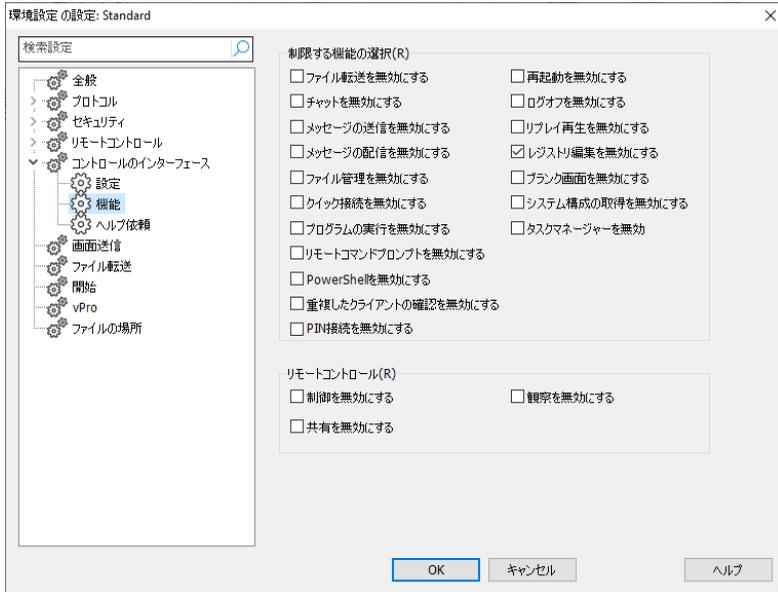
デフォルトでは、リストビューでクライアントをダブルクリックすると、表示ウィンドウが開きます。ここでは、実行するアクションを変更できます。

リスト内のクライアントをダブルクリック

クライアントがダブルクリックされたときの動作をドロップダウンリストから選択します。画面表示、ファイル転送、レジストリの編集、インベントリ、タスクマネージャー、リモートコマンドプロンプト、またはリモート PowerShell ウィンドウを開くことを選択できます。

機能

このプロパティシートは、コントロールで利用できる機能を制限することができます。



制限する機能の選択

該当するボックスにチェックをすることで、以下の機能がコントロールプロファイルに表示されないようになります：

- ファイル転送禁止
- チャット禁止
- メッセージ送信禁止
- ブロードキャストメッセージ禁止
- 実行を禁止
- ファイル管理禁止
- PowerShell 禁止
- 重複クライアントチェック禁止*
- PIN 接続禁止
- クイック接続禁止
- リモートコマンドプロンプト禁止
- リポート禁止
- ログオフ禁止
- リプレー禁止
- 実行禁止
- レジストリ編集禁止(このオプションはデフォルトで禁止になっています。)

- ブランクスクリーン禁止
- インベントリ禁止
- タスクマネージャーを無効

* クライアントを検索すると、NetSupport は、クライアントの詳細が重複していないかどうかを確認し、特定のアドレスの最初に見つかったクライアントだけ接続します。お使いのネットワーク構成によっては、重複した ID を使用している場合があるので、このオプションを使って確認を無効にできます。

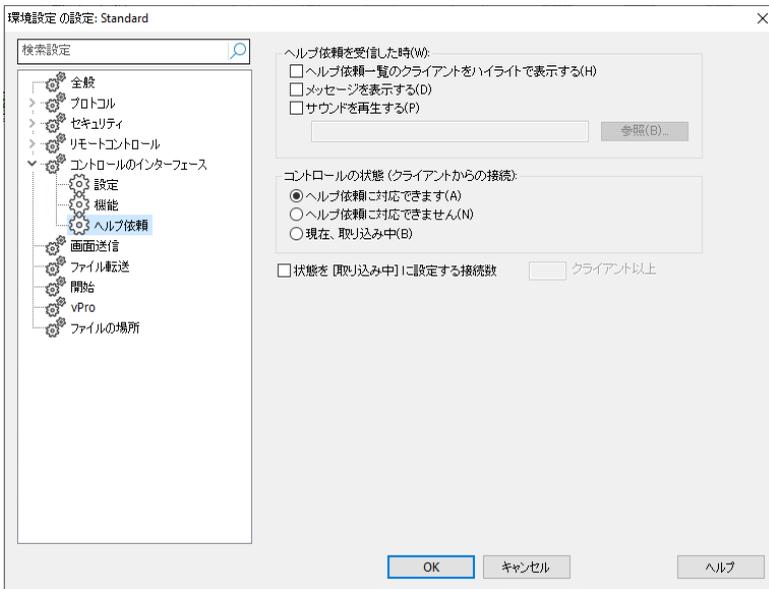
リモートコントロール

次の項目は、NetSupport Manager のコントロールの異なるビュー機能を無効にします。

- コントロール
- シェア
- ウォッチ

ヘルプ要請設定

このプロパティシートは、クライアントからのヘルプ要請を受信するための設定オプションを用意しています。



ヘルプ要請を受信した時:

ヘルプ要請一覧のクライアントをハイライトで表示する

ヘルプ要請が送信されたら、リストビューのクライアントアイコンをハイライトで表示させるには、このボックスにチェックをします。

メッセージを表示する

コントロールの画面にヘルプ要請メッセージを表示させるには、このボックスにチェックをします。

サウンド再生

クライアントがヘルプ要請を送信するとサウンドを再生させるには、このボックスにチェックをします。サウンドサウンドを指定するには、**参照**を選択します。

コントロールの状態 (クライアントからの接続)

ヘルプ要請に対応します

送られてくるすべてのヘルプメッセージを受信するように利用可能にするには、このボックスにチェックをします。

ヘルプ要請に対応できません

このボックスにチェックをするとヘルプメッセージを一切受信しません。

現在ビジーです

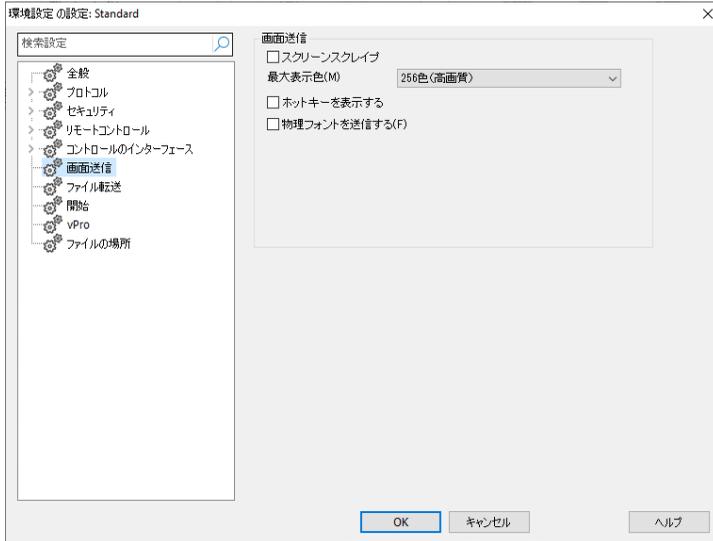
送られてくるすべてのヘルプメッセージを受信するにはこのボックスにチェックをします。ヘルプメッセージを受信しますが一定数のクライアントだけです。ビジーと判断するクライアントの数を指定します。

次の場合はビジー状態に設定する - xxx 台のクライアント以上

ビジー状態とするときの接続クライアント数を指定します。

画面送信設定

画面送信機能は、クライアント 全員、一部、1 人の画面にコントロールの画面を表示することができます。ここから、画面送信の設定をすることができます。



ショー中にインターネット制限を適用する

ショー中に不適切なウェブサイトがクライアントに表示されてしまうのを防止するために承認サイトリストのウェブサイトにしきアクセスできなくなります。

最大解像度

クライアントに画面を送信時の最大色数を選択することができます。デフォルトでは、256 色(高)に設定されています。

スクリーンスクレイプ

NetSupport では、ビデオドライバにフッキングして画面データをキャプチャリングするという非常に効率的な方法を採用しています。しかし、他アプリケーションがこのドライバをバイパスとしている場合、この方法が上手く動作しません。そのような場合は、スクリーンスクレイプモードを有効にします。このモードはネットワークへの負荷がかかりますが、クライアント画面を正確に表示させることができます。

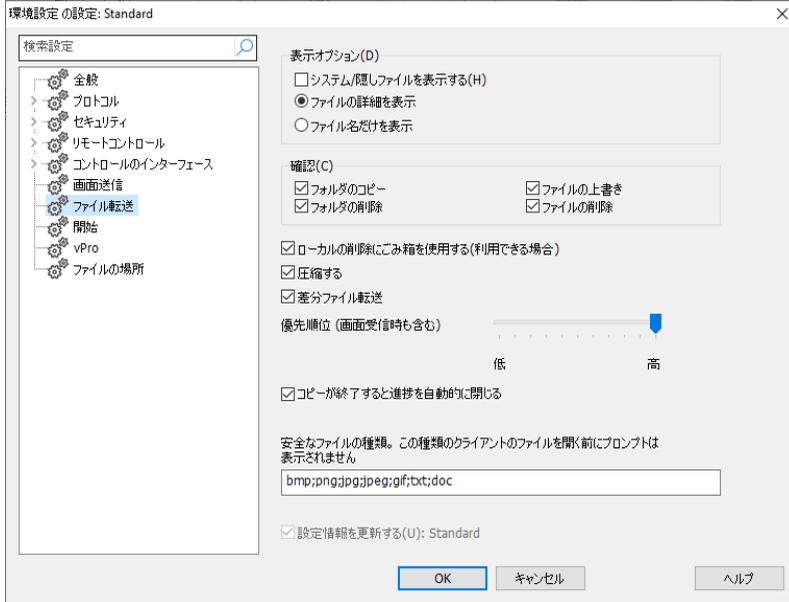
ホットキー表示

ショー中にコントロールが行った全ての操作をクライアントが確認できるようにするには、ホットキーの使用を有効にします。コントロールが使用したキーの組み合わせ(例: CTRL+V)がコントロール、クライアント両方の画面にバルーンで表示されます。

ファイル転送設定

このプロパティシートは、ファイルを転送するための設定オプションを用意しています。情報の表示方法を変更したり、危険な操作の前に確認のメッセージを表示するという保護機能を設定できます。

クライアント設定を編集している場合は、このプロパティシートで変更した内容は、そのクライアントに接続している時だけ適用されます。コントロールの既定値として変更したい場合は、[設定情報を更新する] ボックスにチェックをしてください。



表示オプション

システム/隠しファイルを表示

システムおよび隠しファイル属性のファイルをすべて表示するには、このボックスにチェックをします。初期設定では、このオプションにチェックは付いていません。

ファイルの詳細を表示

このオプションを選択するとリスト内のそれぞれのファイルに対し情報を複数のカラムで表示します。ファイルサイズ、更新日時、属性そしてショートファイル名を表示します。ファイル転送ユーザーインターフェイスのリストスタイルボタンを使って、この設定とファイル名のみを切替えることができます。

ファイル名だけ表示

このオプションを選択するとファイルリスト内のファイル名だけを表示します。ファイル詳細よりもより多くのファイルを同時に表示できます。ファイル転送ユーザーインターフェースのリストスタイルボタンを使って、この設定と詳細設定に切り替えることができます。

確認

フォルダやファイルの削除といった危険な操作を実行する際は、コントロールに確認ダイアログを表示させることができます。不意な事故によるデータの損失を回避できます。ユーザーインターフェースに十分慣れている場合、必要に応じてこれらのオプションを無効にすることができます。初期設定では、すべての確認項目が有効になっています。

フォルダのコピー

フォルダ構造をコピーする前にユーザー確認をします。

フォルダの削除

フォルダ構造を削除する前にユーザー確認をします。

ファイルの上書き

チェックが付いている場合、既存のファイルを上書きする前に確認ダイアログを表示します。チェックが付いていない場合でも、システム/隠しファイルを上書きしようとするとき確認メッセージが表示されます。

ファイルの削除

1 個またはそれ以上のファイルを削除する前に確認ダイアログを表示します。

ローカルの削除にはごみ箱を使用する（利用できる場合）

ローカルペインから削除されたすべてのファイルはゴミ箱へ送られます、これは既定で有効になっています。

圧縮する

圧縮を使用するようするには、このボックスにチェックをします。クライアントと通信をする時は、送受信されるデータはアシュクされます。データは暗号化されるのでセキュリティの1つとしてお使いいただけます。

デルタファイル転送

デルタファイル転送は、変更のない情報を転送しないことでパフォーマンスを向上させます。転送されるファイルが既に転送先のフォルダに存在する場合、ファイルの変更された部分だけを更新します。

初期設定では、デルタファイル転送が有効になっています。

優先順位(ビュー時も含む)

同時にファイル転送とクライアントの画面を表示している時に、各操作は互いにパフォーマンスに影響し合います。ファイル転送操作の優先順位を下げて、ビューの反応を上げます。またその反対も可能です。ファイル転送を優先させるには左に、クライアントの画面表示を優先させるには右にコントローラをスライドさせます。クライアントをビューしていない場合は、この設定は無視されます。

コピーが完了したら、進捗画面を自動的に閉じる

完了時にファイル転送の進捗ダイアログを自動的に閉じます。ファイル転送の結果を確認したい場合は、このオプションのチェックを外します。

安全なファイルの種類

リモートクライアントのファイルを開く時に、ファイルが安全でない場合に続行する前に確認を求める警告が表示されます。安全なファイルの種類のリストが提供され、これらのファイルの種類を開く前にプロンプトは表示されません。デフォルトでは、.bmp、.png、.jpg、.txt、および .doc ファイルの種類がリストに含まれています。必要に応じて、ファイルの種類を編集したり、リストに追加したりできます (各ファイルの種類をセミコロンで区切ります)。

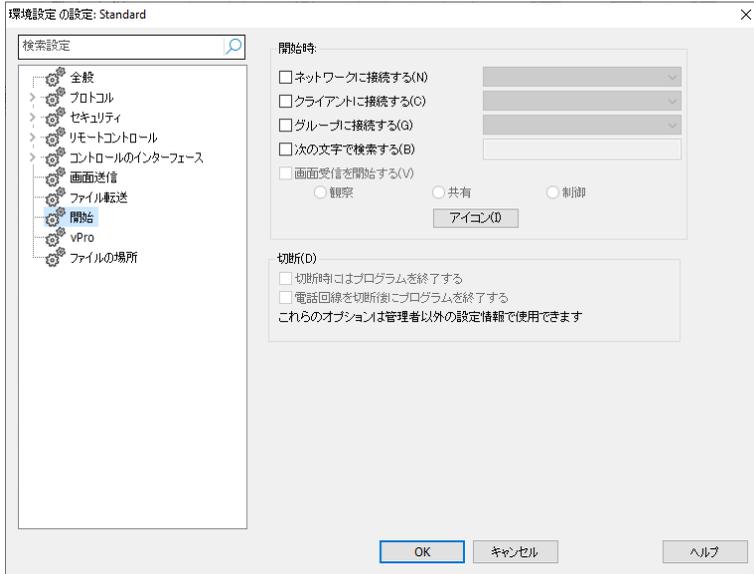
注意: .exe、.cmd、.bat ファイルなどの特定のファイルの種類は、リストに追加されている場合でもプロンプトを受け取ります。

設定情報を更新する

現在選択している設定情報を更新するには、このボックスにチェックをします。

スタートアップ設定

このセクションは、スタートアップ時の NetSupport Manager に影響するオプションを設定します。クライアント、グループリモートネットワークに接続したり、ブラウズを実行することができます。コントロール起動し、その次に実行する操作を実行できます。



スタートアップ

ネットワークに接続する

コントロール起動時に、リモートネットワークにダイヤルしたい場合は、このボックスにチェックをします。この項目にチェックを付けると、設定されているリモートネットワークの一覧が有効になります。一覧からネットワークを1つ選択します。

クライアントに接続する

コントロール起動時にクライアントに接続したい場合は、このボックスにチェックをします。クライアントリストのすべてのクライアントがここに、TEST1<TCP> のように名前とプロトコルが一緒に表示されます。

グループに接続する

コントロール起動時に、グループのクライアントに接続したい場合は、このボックスにチェックをします。この一覧に作成したすべてのグループが表示されます。

次のクライアントを検索する

コントロールを起動すると、与えられた情報を元に検索を実行します。接続可能なすべてのクライアントを見つけるには、クライアント名の一部を入力するか、何も入力し

ないでください。見つかったクライアントはツリービューの [検索] フォルダに表示されます。

ビューの開始

上記の接続ボックスのどれか1つにチェックをすると、コントロール起動時のビューオプションを設定できます。次の3つのボタンを有効にするには、このボックスにチェックをします。これにより、クライアント画面の表示方法を選択できるようになります。

ウォッチ

コントロールを起動すると、クライアントをウォッチモードで開始します。

シェア

コントロールを起動すると、クライアントをシェアモードで開始します。

コントロール

コントロールを起動すると、クライアントをコントロールモードで開始します。

アイコン

特定の名前付き設定情報で NetSupport コントロールを起動するアイコンをデスクトップ上に作成できます。つまり、起動すると 1 台または複数台のクライアントに自動的に接続するショートカットを複数用意することができます。

切断

管理者権限のない設定の場合に限り、次のオプションが使用できます。

切断するとプログラムを終了する

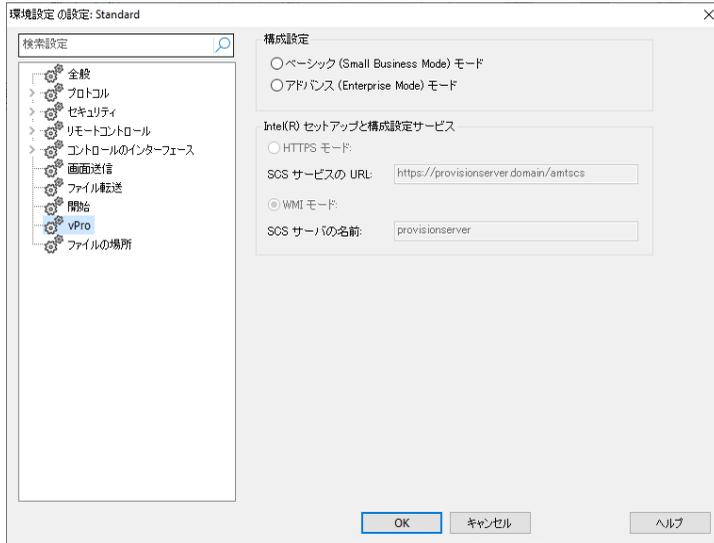
クライアントから切断したら、コントロールを強制的に終了するには、このボックスにチェックをします。このオプションは、上記のスタートアップ時の接続をオプションと併用して使用できます。

回線切断後にプログラムを終了する

このボックスにチェックをするとダイヤルアップセッションが完了するとコントロールを終了します。スタートアップ時にリモートネットワークにダイヤル接続するように設定している場合、大変便利な手段です。

コントロールの環境設定 - vPro

Intel vPro 搭載機の検索と接続に使用するモードを選択できます。



供給モード

ベーシック(小規模ビジネス) モード

IP アドレスの範囲を使ってお使いのネットワーク上の vPro 搭載機を検索するには、このオプションを選びます。接続を確立するには、ユーザー名とパスワードが必要です。

アドバンス(エンタープライズ) モード

SCS サーバから vPro 搭載機を検索するには、このオプションを選びます。接続を確立するには、証明証が必要です。

Intel® セットアップと構成設定サービス

アドバンスモードを使用するときだけ、これらのオプションが利用できます。

HTTPS モード:

SCS サービスの URL

SCS サービスの URL を入力します。

WMI モード:

SCS サーバの名前

SCS サーバの名前を入力します。

ファイルの場所設定

このプロパティシートは、クライアント、グループ、リモートコントロール、ツール、そしてスクリプトファイルの保存先の設定オプションを用意しています。どのコントロールコンピュータからでもコントロールユーザーがファイルにアクセスできるようにユニークなコントロールファイルをユーザに持たせることができます。

クライアント設定を編集している場合は、このプロパティシートで変更した内容は、そのクライアントに接続している時だけ適用されます。コントロールの既定値として変更したい場合は、[設定情報を更新する] ボックスにチェックをしてください。

環境設定 の設定: Standard

検索設定

- 全般
- プロトコル
- セキュリティ
- リモートコントロール
- コントロールのインターフェイス
- 画面送信
- ファイル転送
- 開始
- VPro
- ファイルの場所

クライアントファイル(F)
client.nsm 変更(C)...

グループファイル(G)
group.nsm 変更(H)...

リモートネットワークファイル(R)
remote.nsm 変更(A)...

ツールファイル(T)
tools.nsm 変更(N)...

スクリプトファイル(S)
scripts.nsm 変更(E)...

共有データファイルを使用する

OK キャンセル ヘルプ

クライアントファイル

すべてのコントロールのクライアント詳細の場所を指定するには、[変更] を使用します。ファイルを読み取り専用にするには、コントロール設定のユーザーインターフェイス設定で [クライアントリスト表示のみ] にチェックをします。

グループファイル

すべてのプロファイル化されたコントロールのグループ詳細の場所を指定するには、[変更] を使用します。ファイルを読み取り専用にするには、コントロール設定のユーザーインターフェイス設定で [グループリスト表示のみ] にチェックをします。

リモートネットワークファイル

すべてのプロファイル化されたコントロールのリモートネットワークの詳細の場所を指定するには、[変更] を使用します。ファイルを読み取り専用にするには、コントロール設定のユーザーインターフェイス設定で [リモートネットワーク表示のみ] にチェックをします。

ツールファイル

すべてのプロファイル化されたコントロールのツールの詳細の場所を指定するには、[変更] を使用します。このファイルを読み取り専用にする項目はありません。

スクリプトファイル

すべてのプロファイル化されたコントロールのスクリプトの詳細の場所を指定するには、[変更] を使用します。

共有データファイルを使用する

このオプションにチェックをすると、他のユーザーとデータファイルを共有することができます。

クライアントを管理及び構成する

この章では ...

クライアント PC のデータベースの管理、クライアントを部門や地域にグループ分け、クライアントのプロパティのカスタマイズ方法について説明します。

新しいクライアントを追加する

NetSupport Manager はすべての既知のクライアントのデータベースを維持します。これらは、ツリービュー内の [クライアント] フォルダに保存され、検索を実行せずにこれらのクライアントに接続できる手軽な方法です。

名前、連絡先などのクライアントに関する追加情報を確認することもできます。

クライアントリストデータベースを増やすには

1. ブラウズ機能を使って接続可能クライアントを検索し接続します。そのクライアントに関するすべての必要な情報はすべてのコンピュータフォルダに保存されます。
または
リボンのホームタブを選択し、**新規**をクリックして。
または
すべてのコンピューターフォルダを選択し、**新しいクライアント**をダブルクリックします。
2. 以下の情報を入力するように要求されます：
 - クライアントの名前
 - 使用しているネットワーク通信プロトコル
 - クライアントのネットワークアドレス

注意: 参照を実行するには「**参照一覧からクライアントを選択します**」を選択して、**参照一覧からクライアントを選択します**。

3. 次へをクリック
4. クライアントの詳細に保存する追加情報を入力するには、「はい、さらに情報を入力します」を選択、クライアントの追加を終了するには、「いいえ」を選択します。
追加で保存できる情報は：
 - コントロール側で表示させる別の名前
 - クライアントに関するテキスト説明文
 - 連絡先の名前
 - 連絡先の電話番号
5. 完了をクリックします。新しく作成されたクライアントは、[すべてのコンピュータ] フォルダに表示され、クライアントリストビューに表示されます。

クライアントを削除する

クライアントリストのデータベースを管理、維持する一部として、効率よく管理するには、コントロールのツリービュー内に累積される使わなくなったクライアントを削除する必要があります。

データベースからクライアントを削除するには

1. ツリービュー内のクライアントフォルダを開いてクライアントを選択します。
2. クライアントを右クリックし、**削除**をクリックします。
3. 確認を求めるメッセージが表示されます。

クライアントの名前を変更する

クライアントの物理的な名前を表示させるのではなく、NetSupport は、コントロール側に表示される別の名前を設定することができます。

例えば、クライアントが動作しているコンピュータに「Sales 2」という説明を割り当てます。このコンピュータが経理部に異動した場合、「Accounts 3」に名前を変更することができます。

クライアントの名前を変更するには

1. ツリービュー内の [すべてのコンピュータ] フォルダを開き、対象となるクライアントを選択します。
2. クライアントの名前が表示されているリボンのタブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
または
クライアントを右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
3. クライアント プロパティダイアログが表示されます。
4. 詳細タブを選択します。

これは、クライアントワークステーションに関するバックグラウンド情報を保存できる場所です。以下のオプションが利用可能です：

表示名

クライアントの表示名は、覚えやすい名前にしてください。デフォルトでは、クライアントの物理名になっています。

説明

ここでは、クライアントに関する有用な情報を入力できます。

連絡先

クライアントのパソコンのメンテナンス責任者の名前を入力します。

電話番号

上記で設定したクライアントのパソコンの責任者に連絡するときの電話番号を入力します。

Mac/Ethernet アドレス

クライアントのパソコンの Mac/Ethernet アドレス が表示されます。このアドレスは決して変更しないでください。

クライアントのプロパティの設定

クライアントのパソコンやそのユーザに関する追加情報 \tilde{n} を、そのクライアントのプロパティとして設定できます。この情報 \tilde{n} は、リストビューを詳細表\示して表\示できます。リボンの表\示タブを選択し、列をクリックして、リストビューに表\示する列を選択します。

クライアントのプロパティを変更するには

1. ツリービュー内の[すべてのコンピュータ] フォルダを開き、対象となるクライアントを選択します。
2. クライアントの名前が表\示されているリボンのタブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
または
クライアントを右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
3. クライアントのプロパティが表\示されます。以下のオプションが利用可能です：

一般

このタブには、クライアントの物理的な名前と場所、クライアントが使用しているトランスポート、およびクライアントのネットワークアドレスが表\示されます。クライアントが画面送信/巡回に含まれるかどうかも決定できます。

詳細

このタブでは、このクライアントのコントロールに表\示する名前、このクライアントに関連付けられる説明、連絡先の名前と電話番号、Mac/Ethernet アドレスなど、クライアントに関するバックグラウンド情報 \tilde{n} を保\存できます。

システム情報 \tilde{n}

クライアントに接続した後にだけ、このタブが表\示されます。クライアントに関する次のシステム情報 \tilde{n} を表\示します：

- マシンとログインユーザー名
- クライアントのIPアドレス
- 最終接続日時
- クライアントの場所
- クライアントが使用しているデバイスの種類
- クライアントで起動しているNetSupport Managerのバージョン
- インストールしているオペレーティングシステム

vPro

- vPro のマシン上でクライアントが動作している場合にだけ、このタブが表\示されます。vPro のバージョンを示します。

新しいグループを作成する

NetSupport は、簡単にアクセスや管理ができるようにクライアントをグループにまとめることができます。例えば、経理部のすべてのクライアントを「経理」という1つのグループにグループ化することができます。そのグループに所属するサブグループを作成することもできます。経理部が複数の営業所にある場合、東京営業所や大阪営業所のサブグループを作成することができます。

注意： クライアントは、ツリー表示の自動グループフォルダ内に予め指定した基準、プラットフォームやクライアントのバージョンでもグループ化されます。これらのグループは固定されていて、変更することはできません。

グループを作成するには

1. 対象となるクライアントと接続したことがあり、クライアントリストに保存されていてグループ化できる状態かどうかを確認します。
2. リボンのホームタブを選択し、**新規**アイコンのドロップダウン矢印をクリックして、**グループ**を選択します。
3. これにより、グループの追加ウィザードが表¥示され、新しいグループにクライアントを追加または削除するプロセスが案内されます。

サブグループを作成する

1. サブグループを所属させたいグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、**新規**をクリックします。
3. **新規**グループ作成ウィザードが表¥示されます。新規グループのクライアント追加/削除の手順をガイドします。

注意： サブグループに所属するクライアントはその上の階層のグループにも表示されます。

グループにクライアントを追加/削除する

NetSupport は、簡単に管理できるようにクライアントを一つのグループにすることが出来ます。

例えば、営業部の関連するコンピュータが数台あるとします。あらかじめ用意してグループに個々のクライアントを配置することで、そのグループに所属するすべてのメンバーに対して、ワンタッチで操作を実行することができます。

クライアントをグループに追加するには

1. 全てのコンピュータフォルダを開き、クライアントを追加するグループを強調表示し、右クリックします。
2. 右クリックして**プロパティ**を選択します。
または
リボンの**グループ**タブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
3. **メンバー**タブを選択します。
4. グループに追加するクライアントを選択します。

または

1. リストビューでクライアントを選択します。
2. 右クリックし、**グループ**に追加を選択します。
または
リボンに表で表示される**選択**タブを選択し、**グループに追加**をクリックします。

注意: このタブは、複数のクライアントが選択されている場合にのみ表示されます。

3. 目的のグループを選択し、**追加**をクリックします。

または

1. リストビューでクライアントを選択します。
2. 右クリックし、グループにクライアントをドラッグアンドドロップします。

クライアントをグループから削除するには

1. 全てのコンピュータフォルダを開き、クライアントを追加するグループを強調表示し、右クリックします。
2. 右クリックして**プロパティ**を選択します。
または
リボンの**グループ**タブを選択し、**プロパティ**をクリックします。
3. **メンバー**タブを選択します。
4. 削除するクライアントを選択して、**[削除]**をクリックします。
5. グループの編成が終了したら、**[OK]**をクリックします。

または

1. 全てのコンピュータフォルダを開き、クライアントを追加するグループを強調表示しクリックします。
2. グループから削除したいクライアントをリストビューで選択します。
3. リボンのグループタブを選択し、**グループから削除**をクリックします。

注意: 別のグループにクライアントを移動させる場合は、クライアントアイコンを右クリックして新しいグループにドラッグ & ドロップします。所属していたグループの全階層から、そのクライアントは削除されます。

グループのプロパティを設定する

グループを作成したら、グループ名、メンバーの説明を確認または変更する必要があるかもしれません。

グループプロパティを編集するには

1. ツリービューから対象となるグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、プロパティをクリックします。
または
グループを右クリックし、プロパティを選択します。
3. グループのプロパティダイアログが表示されます。2つのタブからなっています:

一般

グループの名前と説明を表示します。またクライアントの表示アイコンをカスタマイズすることもできます。

メンバー

グループ内のクライアントを一覧表示します。ここから、グループ内のクライアントを追加または削除できます。

NetSupport スクリプト

この章では ...

NetSupport のスクリプト言語と日常のタスクの自動化について説明します。

NetSupport スクリプトの概要

NetSupport は、普段 NetSupport コントロール内で繰り返し実行するタスクを自動化できる強力なスクリプト言語とスケジューラを用意しています。

例えば、複数の離れた NetSupport クライアントに接続してファイルをアップロードまたはダウンロードを無人で夜間に行うスクリプトを設定可能です。

クライアントの空きディスク容量、動作されているオペレーティングシステムなどの情報を取得できる豊富なデスクトップ管理機能を兼ね備えています。また、クライアントに問い合わせ、そのディスクの空き容量や実行中の OS の種類などの情報を取得するといったデスクトップ管理も、比較的簡単なスクリプトを使って行うことができます。

NetSupport スクリプトなら、ファイル転送とリモートアプリケーションの実行、レジストリの編集を組み合わせ、アプリケーションを配布することも可能です。

NetSupport Manager で手動で実行できるほとんどの内容は、NetSupport スクリプトで自動化できます。

スクリプトには、以下のような特長があります：

- 強力な言語構造
- 豊富なテキスト操作機能
- 接続中の複数のクライアントと作業する機能
- ローカルおよびリモート操作に対応
- 操作内容のログを記録
- システムログだけでなく、独自のログメッセージも用意されています。
- 32ビットのコントロールの全セキュリティ機能を利用できます。
- スクリプトを作成するのに必要なパスワードが、視認できる状態でスクリプトに含まれることはありません。

スクリプトエディタに関する詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

スクリプトエディタを起動する

スクリプトエディタは、NetSupport Manager スクリプトを編集および作成を可能にします。

スクリプトエディタの起動するには

1. {スタート}{プログラム}{NetSupport}{NetSupport スクリプトエディタ}を選択します。
2. スクリプトエディタのメインウィンドウが表示されます。

スクリプトエディタは4つのメインエリアから構成されています：

- メニューバーとツールバー
- コマンドウィンドウ
- 編集ダイアログウィンドウ
- スクリプト出力フレーム

簡単なスクリプトを作成する

NetSupport のスクリプトには多くの機能があるため、ここですべてを紹介することはできません。その代わりに、簡単なスクリプトの作成、テストおよび実行を順序立てて説明します。あとは、ご自身ですべての機能を試行錯誤してみてください。

スクリプトを作成するには

1. スクリプトのメニューバーから{ファイル}{新規}を選択します。
2. スクリプトを作成するための新しいテキストウィンドウが表示されます。
3. 関数フォルダをダブルクリックし、[クライアント] フォルダを続けてダブルクリックします。クライアントに関連する関数を一覧表示します。
4. 関数を選択して、マウスを押したまま、スクリプトダイアログウィンドウにドラッグ & ドロップします。
5. ダイアログボックスが表示されたら、必要な変数を入力します。
6. SetTransport 関数を選択し、スクリプトダイアログウィンドウまでドラッグ & ドロップしてスクリプトを実行させるための通信プロトコルを選択します。
7. ダイアログが表示されたら、通信プロトコルを設定します。
8. 使用する通信プロトコルを選択したら、[OK] をクリックします。スクリプトに正しい構文が自動的に挿入されます。
9. Connect 関数を選択し、スクリプトダイアログウィンドウまでドラッグ & ドロップします。
10. 接続してスクリプトを実行させるクライアントのコンピュータを入力します。
11. スクリプトが完成するまで、この手順を繰り返します。

注意

- 関数のヘルプを参照するには、関数を選択して右クリックで [ヘルプ表示: 関数名] を選択します。
 - メニューから {実行} {構文チェック} を選択して、お使いのスクリプトの構文を定期的にチェックすることを推奨します。スクリプトのチェックが済むと画面下部の出力フレームに結果が表示されます。
-

スクリプトをスケジュール化して実行する

NetSupport スクリプトエージェントを使って、実行するスクリプトをスケジュール化することができます。NetSupport プログラムグループから起動します。

スクリプトエージェントは、あなたのニーズに合ったスケジュールを実現するための多くの機能を用意しています。{スクリプト}{追加} を選択してスケジュールダイアログで詳細を選択または追加することでスクリプトを作成できます。

同じスケジュールにたくさんのスクリプトを設定できます。スクリプトの結果次第で特定のスクリプトを実行するように設定することもできます。

NetSupport スクリプトは非常に強力なツールなので、ほとんど無限と言っていいほどの用途が考えられます。以下にヒントを示します。

- 夜間にダイアルアップ接続で離れた場所のクライアントに接続し、その日の売上情報を取得する。
- ローカル LAN の各クライアントに接続し、ディスクの空き容量を取得する。特定の条件以下の場合には、警告する。
- ファイルサーバにログインするように各クライアントにコマンドを送信し、データベースをダウンロードする。
- すべてのクライアントにユーザーが朝一番に確認するメッセージを送信する。
- 夜間にアプリケーションをダウンロードし、実行コマンドを使ってアプリケーションをセットアップする。
- お使いの NetSupport クライアントを最新バージョンに更新する。

上記はほんの一例にすぎません。

テクニカルレファレンス

この章では ...

NetSupport の特性をより深く理解するためのテクニカル情報をご紹介します。

NetSupport クライアントを停止する

NetSupport クライアントプログラムの停止を許可します。

1. コマンドラインから Net Stop Client32 を実行します。

クライアントを再起動する

プロファイルの変更を保存するには、Client32u.InI を保存しなくてはなりません。変更を有効にするために、クライアント再起動させてください。クライアント構成設定ボックスからクライアントを停止/開始することができます。

プロファイルへの変更を保存するには

1. クライアント設定ドロップダウンメニューから{ファイル}{保存}を選択します。
または
ツールバーの保存ボタンをクリックします。

クライアント設定ダイアログからクライアントを再起動するには

1. ツールバーの [再起動] ボタンをクリックします。クライアント情報とライセンス詳細のダイアログが表示されます。

または

1. クライアント設定ドロップダウンメニューから{ファイル}{クライアントの再起動}を選択します。
2. Client32 サービスが開始されたことを通知するダイアログが表示されます。
3. クライアント情報とライセンス詳細のダイアログが表示されます。

圧縮を効率よく使用する

圧縮は、有効、無効または常時の 3 種類の異なった設定に設定できます。圧縮を有効にすると、画面データやファイル転送の操作は圧縮されます。しかし、転送されるファイルが既に圧縮されて保存されている (Zip ファイルや特定のグラフィックファイルなど) 場合、NetSupport は、64K バイト以降は圧縮しないようになっています。[圧縮を使用する] が有効になっている場合、ファイルの内部構造に関わらず圧縮します。これは、ファイルを暗号化する際に非常に役に立ちます。

情報の圧縮と非圧縮は、時間がかかります。ダイヤルアップ接続では、モデムの転送速度と比較すると、圧縮と非圧縮にかかる時間は最小限です。しかし、ローカル LAN 環境だと、コントロールまたはクライアントのどちらかが低スペックのコンピュータの場合、データの圧縮、転送そして非圧縮にかかる時間は、情報を直接送信するよりもはるかにかかります。このような場合は、圧縮しないほうがいいかもしれません。

ファイルや画面情報が効率よく圧縮されているか測定するには、ヘルプボックス内の [圧縮] タブを使うことができます。圧縮することで、クライアントとの接続がスピードアップしているかどうかを判断するには、サイズがはっきりしたファイルをコピーして時間を計測します。

キャッシュを効率よく使用する

NetSupport は、ローカルメモリ内にクライアント画面の領域を保存できます。コントロールは、クライアント (比較的遅い) もしくはローカルメモリ (速い) のどちらから領域を取得する必要があるのかを判断します。これは、一般的にキャッシュと呼ばれています。

クライアントとコントロールが同じキャッシュサイズを使用する場合、クライアントのキャッシュサイズはクライアント設定で設定し、コントロールのキャッシュサイズは [表示] 設定内で設定します。コントロールとクライアントの値が低い方が使用されます。

キャッシュが、現在どのくらい効率よく動作しているか測定するには、[ヘルプ] ボックスの [キャッシュ] タブを使います。ヒットレートが低い場合は、キャッシュからの要求は少ないことを意味します。(言い換えれば、リモートコントロール中のアプリケーションがそれほどメモリを多様しない。) キャッシュサイズを減らすことで、消費メモリを節約することができます。ヒットレートが高い場合は、キャッシュが非常に多く使われていることを意味します。この場合、リモートコントロールのスピードを上げるために、キャッシュサイズを増やす必要があります。

コントロールのキャッシュは、クライアントをビューするとクライアントごとに作成されま
す。複数のクライアントの画面を定期的に表示する場合は、このことをよく覚えておい
てください。4M バイトのキャッシュが各クライアントに設定されていて、6 台のクライ
アント画面を表示する場合、コントロールは、24M バイトのメモリーを割り当てます。
すべてのキャッシュの合計サイズが物理メモリのサイズを越えてしまう場合、オペレー
ティングシステムはディスクへメモリを呼び出し始めます。これは、キャッシュのパフォー
マンスに影響します。

異なるキャッシュサイズが設定されているクライアントが存在する場合、一番大きい値
が設定されているクライアントと同じ値でコントロールを設定します。こうすれば、コン
トロールは、クライアントが対応可能な最大キャッシュサイズを割り当てます。

リモートインベントリとシステム情報

サポートチームにとって、問題解決プロセスの重要な部分は、コンピュータに搭載されているオペレーティングシステムだけでなく、ハードウェアの仕様とコンピュータにインストールされているアプリケーションも知ることです。このような理由から、NetSupport Manager は、離れたコンピュータの完全なシステム構成を提供するためのツールを用意しています。

クライアント PC のハードウェアまたは環境に関する豊富な情報が収集される高度なハードウェア/ソフトウェアレポートに加え、インストールされている修正プログラムの詳細を取得し、タスクマネージャーを使用して現在実行中のアプリケーション、プロセスとサービスを表し示および管理できます。

リアルタイムの報告だけでなく、NetSupport Manager は、リモートでサービスを停止または開始、アプリケーションやその他を終了するためのツールやセキュリティ許可も用意しています。

選択したクライアントのインベントリを表し示する

1. コントロールウィンドウのリストビューでクライアントアイコンを選択します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**インベントリ**をクリックします。
または
リボンでクライアントの名前を表し示しているタブを選択し、**インベントリ**をクリックします。
または
クライアントアイコンを右クリックしてインベントリを選択します。
3. 選択したクライアントのインベントリウィンドウが表し示されます。

注意: 一度取得すると、様々なクライアントのシステム構成は、ローカルの NetSupport Manager のプログラムフォルダ内に保存されます。後日情報を参照するために目的の PC に接続する必要はありません。リストビューから目的のクライアントを選択して [システム構成] オプションを選択するだけです。システム構成を最新の情報に更新したい場合は、目的の PC に接続する必要があります。

システム構成ウィンドウ

システム構成ウィンドウは、NetSupport のシステム構成機能が提供する豊富な情報にアクセスするためのメインインターフェイスです。



ウィンドウは次の構成となっています：

キャプションバー

キャプションバーには、システムインベントリを表しているリモートクライアントPCの名前が表示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLS または暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意：ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変更されます。

次のオプションを使用できます：



リボンを表示または非表示にします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンはインベントリコンポーネントへのアクセスを提供し、ここから、現在のビューを更新、印刷、およびエクスポートできます。

次のインベントリレビューを使用できます：

● ハードウェア

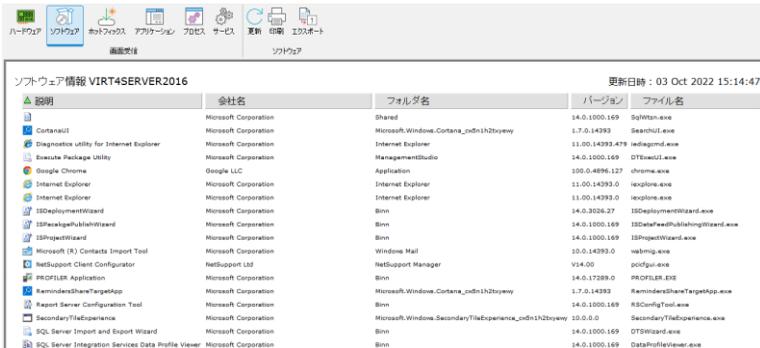
NetSupport Managerは、特にクライアントPCのハードウェアまたは環境に関するさまざまな情報 \bar{n} を収集し、問題の迅速な解決を支援するために必 \bar{n} 必要なすべての重要な情報 \bar{n} を提供します。



注意: インベントリ機能は TCP/IP 上で動くようにデザインされています。TCP/IP がインストールされていない場合はネットワークアダプターの詳細は表示されません。

● ソフトウェア

選択したクライアントPCのソフトウェアのインベントリ報告を提供します。各製品名、製造元、製品アイコン、バージョン番号、関連するセットアップファイルや関連するEXEファイルを含みます。



● ホットフィックス

NetSupport Manager スキャンは選択したクライアントPCにインストールされている'ホットフィックス'のステータスをスキャンしてチェックします。ホットフィックスIDがステータスと一緒にリストされます。ホットフィックスIDは該当するマイクロソフトのサポートページにリンクしています。そこで修正内容を確認できます。

それぞれのフィックスのステータスを確認する際に、NetSupport Manager は次のどれかを返します：



フィックスが存在し最新であることを確認します。



ファイルが存在しないもしくは最新バージョンではありません。フィックスを再度インストールすることをオススメします。



NetSupport Manager はステータスを確認するために必要な情報 ñ を集めることができません。

注意：一度収集すると、様々なクライアントインベントリは NetSupport Manager のプログラムフォルダに保存されます。情報 ñ 取得のため再度、ターゲット PC に接続する必要があるはありません。単にビューリストから対象クライアントを選んでインベントリオプションを選択します。しかし、定期的にインベントリを更新したい場合は、ターゲット PC に接続する必要があるあります。

ステータスバー

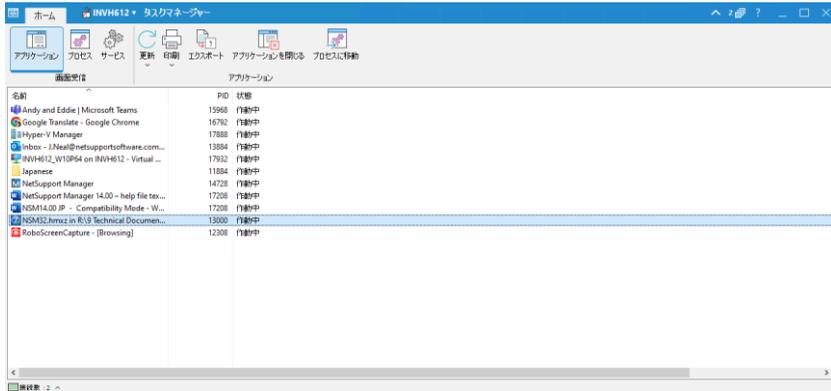
ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表示されます。**接続済み**をクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのインベントリウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

タスクマネージャを実行する

1. コントロールウィンドウのリストビューでクライアントアイコンを選択します。
2. リボンのホームまたはリモートタブを選択し、**タスク マネージャー**をクリックします。
または
リボンでクライアントの名前が表示されているタブを選択し、**タスク マネージャー**をクリックします。
または
右クリックして**タスク マネージャー**を選択します。
または
クライアント画面を表示しているときに、画面表示ウィンドウリボンのツールタブを選択し、**タスク マネージャー**アイコンをクリックします。
3. 選択したクライアントのタスクマネージャウィンドウが表示されます。

タスクマネージャーウィンドウ

NetSupport Manager を使用すると、タスクマネージャーをリモートで開き、クライアント上のアプリケーション、プロセス、およびサービスを管理できます。



ウィンドウは次の構成となっています：

キャプションバー

キャプションバーに、タスクマネージャを実行しているクライアントの名前が表\示されます。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表\示され、ここから、クライアントの詳細を表\示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ（該当する場合）、およびセキュリティステータス（TLS または暗号化が有効かどうかを示します）がキャプションバーに表\示されます。クライアント名を右クリックして、表\示内容をカスタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表\示するように選択できます。

注意： ここでクライアントの表\示オプションを変 Ĩ 更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時も変 Ĩ 更されます。

次のオプションを使用できます：



リボンを表\示または非表\示にします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンス、テクニカルサポート情報 ĩ にアクセスします。

リボン

リボンは、タスクマネージャーのタスクとツールへのアクセスを提供します。使用可能なオプションは、選択したビューによって異なります。すべてのビューからデータを更新、印刷、およびエクスポートできます。

次のビューを使用できます：

- **アプリケーション**

クライアントマシンで現在実行中のアプリケーションのリストを表示します。**アプリケーションを閉じる**のアイコンをクリックすると、リストから選択したアプリケーションを閉じることができます。

画面受信		アプリケーション	
名前	PID	状態	
Andy and Eddie Microsoft Teams	15968	作動中	
Google Translate - Google Chrome	16792	作動中	
Hyper-V Manager	17888	作動中	
Inbox - J.Neal@netsupportsoftware.com...	13884	作動中	
INVH612_W10P64 on INVH612 - Virtual ...	17932	作動中	
Japanese	11884	作動中	
NetSupport Manager	14728	作動中	
NetSupport Manager 14.00 - help file tex...	17208	作動中	
NSM14.00 JP - Compatibility Mode - W...	17208	作動中	
NSM32.hmcx in R19 Technical Documen...	13000	作動中	
RoboScreenCapture - [Browsing]	12308	作動中	

- **プロセス**

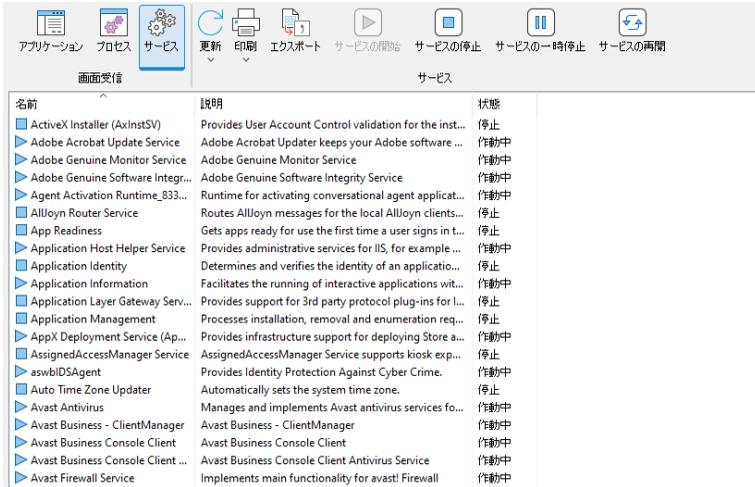
クライアントマシンで現在実行中のプロセスのリストを提供します。**プロセスの強制終了**のアイコンをクリックすると、リストから選択したプロセスを閉じることができます。

画面受信		プロセス					
名前	PID	メモリ使用率	セッションID	ユーザー名	ハンドル	ユーザーオブジェ...	GDIオブジェクト
fontdrvhost.exe	568	2,632 K	0		32	0	0
fontdrvhost.exe	8240	13,892 K	2	j.neal	32	0	0
GoogleCrashHandler64.exe	2292	972 K	0		156	0	0
GoogleCrashHandler.exe	2284	1,088 K	0		173	0	0
HELPMAN.EXE	13000	119,820 K	2	j.neal	647	265	778
HookApp64.exe	9116	3,932 K	2	j.neal	87	7	16
igfxCUIService.exe	1968	5,228 K	0		180	0	0
igfxEM.exe	9784	18,152 K	2	j.neal	1,644	82	16
IntelCpHDcSvc.exe	1600	3,728 K	0		147	0	0
IntelCpHeciSvc.exe	1940	3,540 K	0		130	0	0
LockApp.exe	15276	30,368 K	2	j.neal	593	23	6
Lsalsso.exe	888	2,904 K	0		51	0	0
lsass.exe	896	23,884 K	0		2,375	0	0
mdm.exe	4604	3,344 K	0		158	0	0
Microsoft.Photos.exe	8264	18,252 K	2	j.neal	714	10	0
Microsoft.SharePoint.exe	4048	22,808 K	2	j.neal	542	8	12
MicrosoftSearchInBing.exe	4652	8,716 K	0		500	0	0
mmc.exe	17888	37,388 K	2	j.neal	1,673	250	445
MsHqsCoreWorker.exe	8852	24,512 K	0		1,877	0	0
msedgeview2.exe	5768	6,692 K	2	j.neal	146	3	0
msedgeview2.exe	7508	13,548 K	2	j.neal	209	1	0

注意: リソースの監視をクリックして、実行中のプロセスの使用状況の違い(+/-)を確認します。

● サービス

ターゲットPCで現在実行しているサービスのリストを表で表示します。コントロールは、必K必要なサービスアイコンをクリックして、サービスを停止、開始、一時停止、および再開できます。



注意: デフォルトでは、プロセス/アプリケーションを閉じる機能とサービスの開始/停止機能は無効になっています。これらは、上級クライアント設定 - アクセス権限の設定で有効にできます。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数が表示されます。接続済みをクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのタスクマネージャーウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

レジストリ編集ウィンドウ

レジストリ編集合ウィンドウにて、クライアントやコントロールマシンのレジストリを編集合することが出来ます。

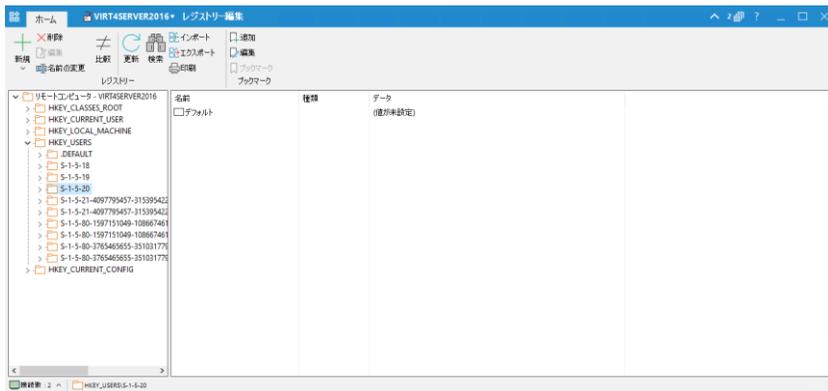
注意: これは、クライアント設定 - アクセス権限 (詳細) またはコントロール設定 - 機能設定でオンにできます。

クライアントワークステーションのレジストリを編集合するには

1. リストから対象クライアントを選択します。
2. リボンのリモートタブを選択し、**レジストリの編集合アイコン**をクリックします。
または
クライアントを右クリックし、**レジストリの編集合**を選択します。

コントロールマシンのレジストリを編集合するには

1. リボンのツールタブを選択し、**ローカルレジストリの編集合アイコン**をクリックします。



レジストリの編集合ウィンドウは、次のセクションに分かれています:

キャプションバー

キャプションバーには、レジストリを編集合しているクライアントが表示されます (コントロールマシンのレジストリを編集合する場合には表示されません)。クライアント名をクリックすると、リモート管理ペインが表示され、ここから、クライアントの詳細を表示して、さまざまな機能を実行できます。

デフォルトでは、クライアント名、ワイヤレスおよびバッテリーインジケータ (該当する場合)、およびセキュリティステータス (TLSまたは暗号化が有効かどうかを示します) がキャプションバーに表示されます。クライアント名を右クリックして、表示内容をカ

スタマイズし、クライアントのログオン ユーザー名、IP アドレス、オペレーティングシステム、筐体の種類、および場所を表示するように選択できます。

注意: ここでクライアントの表示オプションを変更すると、クイックアクセスバー、ステータスバーの接続済みクライアントリスト、およびサムネイルの拡大時にも変更されます。

次のオプションを使用できます:



リボンを表示または非表示にします。



開いているウィンドウの数を示します。ここからウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプとバージョン番号、ライセンスキー、テクニカルサポート情報にアクセスします。

リボン

リボンを使用すると、レジストリの編集に必要なすべてのタスクとツールにアクセスできます。

リボンの[ホーム]タブには、次のセクションがあります:

- **レジストリ**

値の新規作成、削除、比較、編集、キーの名前変更、または特定のデータの検索を行うことができます。キーまたは値をインポートおよびエクスポートして、レジストリツリーまたは値を印刷することもできます。

- **ブックマーク**

ブックマークを追加、編集、削除したり、前回使用したブックマークを表示します。

左側のペイン

レジストリデータのツリービューを表示します。

右側のペイン

ツリービューでアイテムを選択すると、ここに表示されます。アイテムを選択し、リボンのアイコン(または右クリック)を使用して編集します。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数と現在のレジストリパスが表示されます(をクリックしてコピーできます)。

接続済みをクリックすると、接続されているすべてのクライアントのリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのレジストリの編集ウィンドウが開きます)。右クリックして、リストでのクライアントの表示方法を選択します。

警告: レジストリにはシステムの重要な情報が保存されています。従って、レジストリの編集は十分注意してください。

NetSupport のセキュリティ機能を効率よく使用する

NetSupport には、コントロールとクライアントへのアクセスを制限する多数のセキュリティ機能があります。これらの相互作用と制限事項をしておく、セキュリティポリシーを計画する時に役立ちます。

最初に、クライアントへのアクセスを制限、または保護したい場合は、コントロール側ではなく、クライアント側で設定することを推奨します。

これには、いくつかの理由があります。保護したい機密情報がコンピュータにある場合、そのコンピュータには何かしらの物理的なセキュリティを用意するはずで、密室、立ち入り禁止の場所もしくは NTFS を使用して NT を実行するような何かしらのローカルのセキュリティが考えられます。

NetSupport クライアントのセキュリティがどんなに優れていても、誰かがそのコンピュータまで歩いていき、情報にアクセスできたら無意味です。

NetSupport クライアントを保護するためには、以下のセキュリティを使用することをお勧めします。安全性の高い順に並んでいます。詳細はクライアント設定のヘルプを参照してください。

- コンピュータへのアクセスを物理的に保護する。
- NT のような安全性に優れているオペレーティングシステムを使用し、そのセキュリティ機能を使ってローカルでコンピュータを保護する。例、NTFS や NT 用のユーザープロファイルを使用する。
- NT サーバのような安全な場所にクライアント設定ファイルを保管する。
- クライアントプロフィールを設定し、個々のコントロール・ユーザあるいはグループのユーザが、実際に必要とするものに対してアクセス権をもたせる。
- コントロールとクライアントの両サイドでセキュリティキーを設定する。これは同じキーを持つコントロールのみ、クライアントへの接続が許可されます。例、この機能を使ってある部署の間はその部署内のコンピュータにしかアクセスできなくする。
- 誰がいつ接続したかわかるように追跡ログ/イベントログを使用する。
- コントロールユーザーには必要のないクライアント側の機能を無効化する。例、画面の操作をさせたくない場合は、ファイル転送を無効化したリウォッチモードに設定する。
- NT クライアントのコンピュータには、ユーザー ID 認証などの NT のセキュリティ機能を使用する。
- クライアント設定にパスワードを設定し、実行できる人のアクセスを制限する。
- コントロールをパスワードで保護し、ユーザーごとにコントロール用プロファイルを設定する。

- ファイル転送、ビュー、ショーなどの特定の機能へのアクセスをコントロールプロファイルで制限する。

IP アドレスを理解する

IP アドレスは 4 バイトから成り立っています。1 バイトは 8 ビットから成り立っていて、1 ビットは 1 か 0 の値を持っています。これにより、IP アドレスは 0.0.0.0 から 255.255.255.255 までとなっています。

ネットそれぞれの IP アドレスはワークデバイスを確認するネットワークポーションとデバイスを確認するローカルもしくはホストポーションの二つのポーションに分かれています。

サブネットマスクはアドレスに関連しているアドレスのネットワークとホストポーションとの間を分けるポジションを定義します。サブネットマスクは 4 バイトの数値でもあります。1 に設定されているサブネットマスク内の各ビットは IP アドレスに対応するビットはネットワークポーションの一部を寄与します。

IP アドレス 10.10.2.21 とサブネットマスク 255.255.255.0 を持っている場合。

IP アドレス	10	.10	.2	.21
サブネットマスク	255	.255	.255	.0
IP アドレスバイナリ	00001010.00001010.00000010.00010101			
サブネットマスクバイナリ	11111111.11111111.11111111.00000000			
IP アドレスのネットワークポーション	00001010.00001010.00000010.00000000			
IP アドレスのホストポーション	00000000.00000000.00000000.00010101			
IP アドレスのネットワークポーション	10	.10	.2	.0
IP アドレスのホストポーション	0	.0	.0	21

IP パケットを 10.10.2.21 に送信するということは、実際にはネットワーク 10.10.2.0 のデバイス 21 にパケットを送信しているということになります。

上記の例では、ネットワーク 10.10.2.0 は 0 から 255 までの 256 のホストアドレスを持つことができます。ただし、IP ネットワークのホストアドレスの先頭と末尾の 2 つは予め使用されています。全てのビットが 0 に設定しているリザーブホストアドレスがネットワークアドレスです。そして 1 に設定されているものはブロードキャストアドレスです。

10.10.2.0 のネットワーク例

10.10.2.0 はネットワークアドレスです。

10.10.2.255 はブロードキャストアドレスです。

IP パケットをネットワークブロードキャストアドレスに送信すると、IP ネットワーク上のそれぞれのデバイスはこのパケットを受信します。

NetSupport IP サブネットをブラウズするように Manager コントロールを設定する時に使用される IP ネットワークブロードキャストアドレスです。

コマンドラインを使用する

NetSupport コントロールプログラム PCICTLUI.EXE はコマンドラインから呼び出すことが可能です。様々なパラメータが利用可能です。使用頻度の高い操作のショートカットを作成することができます。

例えば、これらのパラメーターを使って異なるコントロールのプロファイルを作成、特定のクライアントに接続することができます。デスクトップアイコンを作成して必要な時に自動的に命令を実行できます。

NetSupport コマンドラインオプション

コマンドラインにて NetSupport プログラムフォルダから`PCICTLUI.exe`を実行します。次のパラメータを使用します：

/N 特定のコントロール設定を読み込みます。(コントロールの構成で作成されます。キャプションバーのプロファイル  アイコンをクリックします。)

注意： コントロール設定プロファイルを使用する時は、設定をパスワードで保護することをお勧めします。コントロールからロックされることを回避するためスタンダード設定は変更せずに保存してください。

Syntax

PCICTLUI /NPROFILE NAME (*profile name* = 保存しているクライアント設定名)

/F /Nと一緒に使用して指定したプロファイルだけ使用するようにコントロールを制限します。このパラメータを含めることで、コントロールユーザが設定を変更もしくは追加するしてしまうことを防止します。

Syntax

PCICTLUI /N/FPROFILE NAME

/C 名前またはアドレスで特定のクライアントに接続します。

Syntax

IPアドレスで接続の場合：

PCICTLUI /CNN.NN.NN.NN (NN.NN.NN.NN = IP アドレスまたはクライアント名)

クライアント名で接続の場合：

PCICTLUI /CNNNNNN (Where NNNNNN = クライアント名)

/V /Cと一緒に使用します。接続したクライアントのビューウィンドウをシェアモードで開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /V

/VC コントロールモードで接続しているクライアントのビューウィンドウを開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VC

/VW ウォッチモードで接続しているクライアントのビューウィンドウを開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VW

/VS シェアモードで接続しているクライアントのビューウィンドウを開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VS

/E /V オプションと一緒に使用します。コントロールを起動せずにビューウィンドウを開きます。ビューウィンドウを閉じると、リモートコントロールを終了します。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /V /E

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VC /E

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VW /E

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /VS /E

/G スタートアップ時にクライアントの定義しているグループに接続します。

Syntax

PCICTLUI.EXE /GNNNNN (NNNNN = グループ名)

/D リモートネットワークにダイヤルインします。/Cと一緒に使用できます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /DNNNNN /Cxxxxx (NNNNN = リモートネットワーク名そして xxxxx = 接続するクライアント名)

/U 使用するプロトコルを指定します。IPX/SPX には IP, TCP/IP には TC, NETBIOS には NBn (n = スタック 0-7)を使用します。

Syntax

PCICTLUI.EXE /Unb1 (nb1 = netbios スタック 1)

/R NetSupport リプレイファイルを表示します。

Syntax

PCICTLUI.EXE /RNNNNN.rpf (NNNNN.rpf = ファイル名)

/A 選択したクライアントとチャットを開始します。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /A

/I 選択したクライアントのコンピュータからハードウェア/ソフトウェアのシステム構成を取得します

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /I

- /S** PIN を使用してクライアントに接続します。/V、/VC、/VW そして/V /EV と組み合わせて使用できます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /SNNNNN (NNNNN はクライアントの PIN になります)。

- /X** 選択したクライアントでファイル転送ウィンドウを開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /X

- /K** 選択したクライアントで PowerShell またはレジストリセッションを開きます。

Syntax

PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /Kpowershell
PCICTLUI.EXE /CNN.NN.NN.NN /Kregistry

Active Directory との統合

NetSupport Manager は Microsoft の Active Directory 構造と統合され、クライアントとコントロールの設定を一元管理することが可能になります。適切なグループポリシーを作成することで、個々のデスクトップを訪問して設定しなくても、標準化されたクライアント設定をクライアントのコンピュータに適用できます。

タスクを少し簡単にするために、NetSupport Manager は、設定可能なオプションを含む既製の管理用テンプレートを提供しています。NetSupport をインストールすると、テンプレートは NetSupport Manager のプログラムフォルダにコピーされます。

Active Directory を経由して設定変更を適用するには

1. ドメインコントローラーで、グループポリシー管理を実行します。
2. 目的のポリシーを選択して、NetSupport 設定を適用するか、または新しいポリシーを作成します。
3. ポリシーを右クリックして、「**編集**」を選択します。
4. NetSupport Manager テンプレートは以下にあります：
Computer Policies – Computer Configuration > Policies > Administrative Templates
User Policies – User Configuration > Policies > Administrative Templates
5. テンプレートは、NetSupport クライアント設定と NetSupport Manager コントロール設定と呼ばれます。
6. これらのテンプレート内には、グループポリシーを介して適用できる関連する NetSupport Manager の設定があります。

デフォルトでは、各 NetSupport ポリシーオプションは未設定に設定されています。

オプションへの変更をするたびに、グループ ポリシーの更新間隔は、いつクライアントのコンピュータに適用するかを決定します。リモートコントロールのセッションが現在実行中でない場合は、クライアントは、自分の管理用テンプレートへの変更を検出すると新しい設定を適用するために再起動します。リモートコントロールのセッションを実行中の場合は、クライアントは、次の機会がある時に再起動します。

設定オプションに関する説明は、本マニュアルの「クライアントを設定する」を参照してください。

注意: Active Directory ポリシーファイルの最新情報、旧バージョンからのアップグレードや Active Directory に NetSupport クライアントプロファイルを適用する方法については、NetSupport 社ウェブサイトのサポートページ: www.netsupportsoftware.com/support を参照してください。

NetSupport クライアントを Active Directory グループのメンバーに対してユーザー接続を認証するように設定できます。詳しくは、本マニュアルの「クライアント設定 - ユーザ認証」を参照してください。

スマートカード対応

NetSupport Manager では、スマートカード認証を使用するクライアントのコンピュータにコントロールがログオンすることができます。スマートカードの対応は自動的なので追加でインストールする必要はありません。コントロールが接続を確立すると、クライアント側でサポートが読み込まれます。読み込まれると、NSL Pseudo スマートカードリーダーという追加ハードウェアデバイスが利用可能になります。

コントロールが接続しているクライアントのビューウィンドウを開く時は、コントロール側に接続されているリーダー（読み取り機）に自分のスマートカードを挿入し、リモートユーザーのコンピュータにログオンするにはクライアントの PIN を入力する必要があります。

コントロール側で複数のクライアントのビューウィンドウを開いている場合は、スマートカードの取り付け/取り外しイベントは現在開いているクライアントに送信されます。

注意:

- リモートコントロールのセッションでのスマートカード認証は、クライアントが Windows XP かそれ以降が動作している、クライアント側でスマートカード認証オプションが有効になっている、クライアントが擬似的にスマートカードデバイスを正常に作成できた場合に限り、利用することが可能です。
 - Active Directory の環境では、NetSupport ADM テンプレートを使ってスマートカード対応を有効にすることが可能です。
-

スマートカード ログオンを有効にする

1. {スタート}{プログラム}{NetSupport}{NetSupport クライアント設定}を s 選択して、NetSupport Manager プログラム フォルダを開きます。
2. [拡張]クライアント設定オプションを選択し、[プロファイル] を選択して編集をします。
3. 設定オプションの一覧から [セキュリティ - スマートカード] を選択します。
4. [スマートカードログオンを有効] にチェックを付けます。
5. [OK] をクリックします。

インターネット経由で NetSupport を使用する

NetSupport Manager は、ダイヤルアップネットワーク接続と同じ方法でインターネット接続が可能です。静的な LAN 接続可能なコンピュータまたは ISP で接続可能なダイヤルアップアカウントに接続できます。

お使いのコンピュータが、NetSupport が動いているコンピュータを認識できる場合は、インターネット経由、リモートネットワーク経由、RAS ダイヤルアップ接続、もしくはローカルの LAN/WAN でも接続できます。

注意: 次の手順をお使いいただくこともできますが、NetSupport では、既存のファイアウォール設定を変更することなく Web ベースのリモートコンローラを運用できる便利なインターネットゲートウェイを用意しています。

インターネット経由でクライアントをリモートコントロールするには

1. コントロールとクライアント双方をインターネットに接続します。
2. リボンのホームタブに移動します。
3. クイック接続セクションで、接続先のクライアントの IP アドレスを入力します。
4. **IP アドレス別**アイコンを選択します。
5. **クイック接続**をクリックします。

IP アドレスを確認する

クライアントの IP アドレスを確認する最も簡単な方法は、コマンドライン "ipconfig" を使うことです。

DHCP

基本的に、ISP にモデム経由で接続しているコンピュータは、接続するたびに違う IP アドレスが割り当てられます。そのため、接続するたびにコンピュータのアドレスを確認する必要があります。コマンドライン "ipconfig" を使って確認します。

読者のコメント

本製品のデザイン、インストール、設定、操作に関してご意見ご要望がございましたら下記までご連絡ください。

全ての環境で本ソフトウェアの検証を行なうのは不可能なため、不具合などが発生する場合がございます。大変申し訳ございませんが、そのような問題が発見されましたら至急我々までご連絡ください。解決するために最大限の努力に努めます。

UK & インターナショナル

ホームページ: www.netsupportsoftware.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupportsoftware.com

北アメリカ

ホームページ: www.netsupport-inc.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupport-inc.com

カナダ

ホームページ: www.netsupport-canada.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupport-canada.com

ドイツ, オーストリア, スイス

ホームページ: www.pci-software.de

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@pci-software.de

日本

ホームページ: www.netsupportjapan.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupportjapan.com